平成30年度

研究集録

付 研究論文集

「大くすのひみつきち」
小川町立八和田小学校第４学年
金　子　泰　毅　さん

「私　の　友　達」
坂戸市立桜中学校第１学年
吉　村　玲　季　さん

ホームページ

埼玉県連合教育研究会

あ　い　さ　つ

埼玉県連合教育研究会
会長　鏑　木　　隆

日ごろ埼玉県連合教育研究会の活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、平成30年度埼玉連合教育研究会の『研究集録付研究論文集』が、教科等研究団体及び地域教育研究団体並びに研究論文入選者等の執筆者の方々のご協力により、年度内に発刊できますことに心より感謝申し上げます。

これもひとえに、各教育研究団体が、これまで長きにわたり築かれてきました研究の成果を基に、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、新たな教育課題に真摯に向き合い、弛まぬ研究活動を進めてこられた結果によるものと深く敬意を表します。

この『研究集録付研究論文集』は、各学校をはじめ各教育研究団体の今後の研究推進や教育実践に役立つ情報やヒントが多数集録されております。

教科等研究団体の研究につきましては、19の研究団体が平成30年度の研究主題に基づき推進された研究活動の概要や学習指導要領の改訂を見据えた研究成果研究成果を集録しております。

地域教育研究団体の研究につきましては、55団体の内の16団体の運営組織や各部会等の活動内容等を集録しており、他の地域教育研究団体の組織づくりや研究の推進方法など大変参考になるものと思います。また、教科等研究団体と地域教育研究団体の相互の情報交換の冊子としても有効活用いただけるものと思っております。

また、『研究論文集』には、本年度応募されたました８編の中から、審査を経て入賞されました研究論文２編を掲載いたしました。学習指導要領の改訂の時期に応募されました研究論文は、いずれも日々の着実な教育実践に裏打ちされた研究論文であり、課題解決に向けての継続的な取組内容の数々でありました。今後も会員の皆様の奮ってのご応募を期待いたします。

なお、この『研究集録付研究論文集』は、各学校等に１冊ずつの配付となりますが、本年度から開設しましたホームページ【URL　https://sairenkyou.jp】の「刊行物案内」からスマートフォン等でも気軽にアクセスすることができますので、奮ってご覧いただき、日々の研究活動をより一層充実したものにしていただけますことを期待しております。

結びに、本研究会のために常に温かいご指導、ご支援を賜りました県市町村教育委員会をはじめとする関係各位、研究団体並びに委員の皆様方に衷心より御礼申し上げ、刊行のあいさつといたします。

目　　次

あ い さ つ…… 埼玉県連合教育研究会会長　鏑木　隆

研 究 集 録

Ⅰ　教科等研究団体の研究

1　国語教育…… 埼玉県国語教育研究会…… 4
2　書写教育…… 埼玉県書写教育研究会…… 8
3　社会科教育…… 埼玉県社会科教育研究会…… 12
4　算数・数学教育…… 埼玉県算数数学教育研究会…… 16
5　理科教育…… 埼玉県理科教育研究会…… 20
6　音楽教育…… 埼玉県音楽教育連盟…… 24
7　図画工作・美術教育…… 埼玉県美術教育連盟…… 28
8　保健体育教育…… 埼玉県保健体育研究会…… 32
9　英語教育…… 埼玉県英語教育研究会…… 36
10　道徳教育…… 埼玉県道徳教育研究会…… 40
11　特別活動…… 埼玉県特別活動研究会…… 44
12　進路指導・キャリア教育…… 埼玉県進路指導・キャリア教育研究会…… 48
13　視聴覚教育…… 埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会…… 52
14　教育心理・教育相談…… 埼玉県教育心理・教育相談研究会…… 56
15　特別支援教育…… 埼玉県特別支援教育研究会…… 60
16　学校図書館教育…… 埼玉県学校図書館協議会…… 64
17　中学校技術・家庭科教育…… 埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会…… 68
18　小学校家庭科教育…… 埼玉県小学校家庭科教育研究会…… 72
19　生活科・総合的な学習の時間教育…… 埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会…… 76
20　本校の研究の取り組みについて…… 埼玉大学教育学部附属小学校…… 80
21　埼玉大学教育学部附属中学校…… 埼玉大学教育学部附属中学校…… 84

Ⅱ　全国・関東地区教育研究発表大会　埼玉大会の報告

1　第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会　埼玉大会 …… 90
2　第63回関東中学校保健体育研究大会　埼玉大会 …… 91
3　第42回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会　埼玉大会 …… 92

Ⅲ　地域教育研究団体の研究

1　さいたま市教育研究会…… 94
2　草加市教育研究会…… 96
3　新座市教育連合会…… 98
4　伊奈町教育研究会……100
5　飯能市教育研究会……102
6　日高市教育研究会……104
7　越生班教育研究会……106
8　玉川班教育研究会……108
9　川島教育研究会…… 110
10　秩父教育研究会…… 112
11　児玉郡本庄市教育研究会…… 114
12　熊谷市教育研究会…… 116
13　加須市教育研究会…… 118
14　春日部市教育研究会…… 120
15　八潮市教育研究会…… 122
16　宮代町教育研究会…… 124

研究論文集

Ⅰ　平成30年度研究論文応募者等一覧 …… 128
Ⅱ　2019年度研究論文募集要領 …… 129

＜　入　選　＞

児童の学びが持続し、生きて働く「言葉の力」を獲得するための国語単元の展開
～効果的な「カリキュラム・マネジメント」と「試行錯誤」過程の導入を図ることで～【国語】…… 130
グループ代表　新座市立大和田小学校　主幹教諭　石川　周

＜　佳　作　＞

自己肯定感と集団意識の改善を目指した体育授業　半年間の実践記録
～基礎の定着と学び合いの充実を両輪として～　【体育】…… 136
さいたま市立西浦和小学校　教諭　中村　直紀

記念講演会

「これからの学校教育について」　共栄大学教育学部　教授　濱本　一　氏 …… 144

◎　**平成30年度埼玉県連合教育研究会役員等名簿** …… 152

あ と が き……編集委員長　長島　庸夫 …… 157

○　**表　紙　絵**　「平成30年度身体障害者福祉のための第60回埼玉県児童生徒美術展覧会」
埼玉県連合教育研究会会長賞受賞
・「大くすのひみつきち」　小川町立八和田小学校　第４学年　金子　泰毅　さん
・「私の友達」　坂戸市立桜中学校　第１学年　吉村　玲季　さん

○　**表紙の題字**　埼玉県連合教育研究会　上亟　啓介　前会長

平成30年度

研究集録

Ⅰ　教科等研究団体の研究

1　埼玉県国語教育研究会 …… 4
2　埼玉県書写教育研究会 …… 8
3　埼玉県社会科教育研究会 …… 12
4　埼玉県算数数学教育研究会 …… 16
5　埼玉県理科教育研究会 …… 20
6　埼玉県音楽教育連盟 …… 24
7　埼玉県美術教育連盟 …… 28
8　埼玉県保健体育研究会 …… 32
9　埼玉県英語教育研究会 …… 36
10　埼玉県道徳教育研究会 …… 40
11　埼玉県特別活動研究会 …… 44
12　埼玉県進路指導・キャリア教育研究会 …… 48
13　埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会 …… 52
14　埼玉県教育心理・教育相談研究会 …… 56
15　埼玉県特別支援教育研究会 …… 60
16　埼玉県学校図書館協議会 …… 64
17　埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会 …… 68
18　埼玉県小学校家庭科教育研究会 …… 72
19　埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会 …… 76
20　埼玉大学教育学部附属小学校 …… 80
21　埼玉大学教育学部附属中学校 …… 84

1 国 語 教 育

埼玉県国語教育研究会

Ⅰ 研究主題と事業

1 研究主題

「生活に生きて働く国語の能力の育成をめざす授業の創造」

2 事業

・国語教育夏季研修大会
・国語教育研究発表大会
・常任理事・理事研修会
・研究委嘱校研究発表大会
・地区別国語科授業研究会
・中学校国語学力向上対策事業（学力調査）
・「平成30年度国語教育研究集録」の発刊

Ⅱ 活動状況

1 新旧合同理事研修会 6月8日㈮

⑴ 平成29年度会務報告
⑵ 平成29年度決算報告
⑶ 平成29年度監査報告
⑷ 新役員および常任理事の選出
⑸ 平成30年度研究主題案および研究方針案についての審議
⑹ 平成30年度事業内容案および事業計画案についての審議
⑺ 平成30年度予算案についての審議

2 国語教育夏季研修大会提案者・司会者打ち合わせ会 7月4日㈬

3 国語教育夏季研修大会 8月8日㈬

⑴ 分科会 小学校5 小・中連携1
中学校2分科会
⑵ 講 演
十文字学園女子大学
人間生活学部 児童教育学科
教授 冨山 哲也 先生
演 題「育成する資質・能力を明確にした国語科の授業づくり」
⑶ 参加者数 約250名

4 常任理事・理事研修会 10月9日㈫

⑴ 講 演
県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事 淺井 大貴 先生
演 題 「学力調査の結果を踏まえた授業改善」
⑵ 参加者数 約60名

5 地区別国語科授業研究会

⑴ 春日部市立武里小学校 11月20日㈫
⑵ 坂戸市立坂戸小学校 11月16日㈮
⑶ 川口市立領家小学校 1月25日㈮
⑷ 長瀞町立長瀞中学校 11月6日㈫

6 研究委嘱校研究発表会

・春日部市立備後小学校 11月16日㈮

7 国語教育研究発表大会発表者・司会者・指導者打ち合わせ会 12月12日㈬

8 国語教育研究発表大会 2月12日㈫

⑴ 会 場 春日部市教育センター（春日部市）
⑵ 分科会 小学校3 中学校1分科会
⑶ 講 演
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程調査官・学力調査官
菊池 英慈 先生
演 題 「育成すべき資質・能力を明確にした国語科授業づくり」

Ⅲ 研究内容

1 国語教育夏季研修大会

⑴ 提案者・提案主題名

○小低1 髙橋 智弥 朝霞市立朝霞第十小学校
・仲間とともに、生き生きと学び合う子
～聴き合う 伝え合う 学びの工夫～

○小低1 萩原 洋子 皆野町立皆野小学校
・学力向上をめざした学習指導の研究
～読解力・思考力・表現力の育成～

○小低1 居郷 直美 さいたま市立大宮別所小学校
・主体的に取り組み、学び合う児童の育成
～物語教材の指導を通して～

○小低2 阿部 慎一郎 春日部市立宮川小学校
・国語科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を働かせる学習指導
～学習用語の指導を通して読みの観点を獲得する「読むこと」の学習指導～

○小低2 茂木 美樹 入間市立藤沢東小学校
・主体的に学び合う児童の育成
～『じどう車くらべ』の実践を通して～

○小低2 小嶋 京三 鴻巣市立笠原小学校
・伝え合う力を高める指導法の工夫
～書くことで学びをひらく児童の育成～

○小中１　植原　亜莉紗　　深谷市立深谷西小学校
・自分の思いや考えを表現し、伝え合う児童の育成
～「知りたい」「伝えたい」「わかり合いたい」思いを大切にした指導の工夫～
○小中１　渡邉　優香　　さいたま市立上里小学校
・自分の思いや考えを豊かに表現し、生き生きと学び合える児童の育成
～話す・聞く能力を高める言語活動の充実～
○小中１　福田　彬道　　行田市立中央小学校
・主体的に学び、根拠を基に自分の言葉で説明できる児童の育成
～互いに教え合う国語科指導の工夫～
○小中２　萩原　恵理　　川越市立新宿小学校
・国語科を通した主体的・協働的な学び
○小中２　矢野　幸恵　　新座市立大和田小学校
・「単元を貫く言語活動」で創る主体的な学び
～主体的・対話的な言語活動による、深い学びをめざした授業～
○小中２　青木　大亮　　熊谷市立新堀小学校
・確かな言語能力を身に付けさせる指導方法の研究
～読むことの単元を通して～
○小高　菊地　悟恵　　さいたま市立大宮東小学校
・自分の思いや考えを豊かに表現し、生き生きと伝え合うことができる児童を求めて
～「書くこと」を主眼においた指導の工夫～
○小高　澁谷　大輔　　春日部市立備後小学校
・読書を通して、自分の考えを広げたり深めたりする力をつける指導法の工夫
～ミニビブリオバトルを取り入れた授業を通して～
○小高　深井　沙樹　　東松山市立新明小学校
・自分の考えをもち、高め合う児童の育成
～主体的に学び合い、伝え合う児童を育成する指導法の工夫～
○小中連　岡見　進之介
櫻井　彩乃　　朝霞市立朝霞第四小学校
・かかわり、読みを深めるための単元計画の工夫
～知識構成型ジグソー法を用いた、主体的で対話的な協調学習の実践～
○小中連　出浦　翔　　神川町立渡瀬小学校
・言語活動の充実を目指した学習指導の工夫改善
○小中連　瀬谷　郁江　　さいたま市立三室中学校
・系統性を意識した豊かな言語活動を通した授業実践
～子どもたちが「わかった」「できた」と達成感を味わえる授業を目指して～
○中１　春日　渚　　草加市立谷塚中学校
・人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う古典指導
～礎･基本の確実な定着と主体的な学びを通して～
○中１　今溝　愛子　　さいたま市立南浦和中学校
・豊かな関わり合いを通して、主体的に学ぶ生徒の育成
～アクティブ・ラーニングの工夫改善～
○中２　中山　里香　　宮代町立前原中学校
・言葉にこだわる鑑賞・創作活動の指導の工夫
～「書くこと」を通した主体的な学習を目指して～
○中２　五十嵐　晴彦　　坂戸市立浅羽野中学校
・古典に親しみをもって自分の心情を表現できる生徒の育成
～『枕草子』の実践～
○中２　金澤　幹子　　上尾市立上尾中学校
・自分の考えを広げ、深める読書
～書評を通じ自分の表現に生かす指導～

(2)　国語教育夏季研修大会講演要旨

○講　師　十文字学園女子大学
人間生活学部　児童教育学科
教授　冨山　哲也　氏

○演　題「育成する資質・能力を明確にした国語科の授業づくり」

「主体的・対話的で深い学び」について

アクティブ・ラーニングというのは、多くの学校で既にできているところが多いのであまり心配しないでいただきたい。一方で未だに教員がずっと喋ってしまう授業もある。ずっと喋るのはＡＩやテレビ等でいくらでもできる。このような授業については改善が必要である。一方、アクティブ・ラーニングの問題点として３点指摘したい。①アクティブ=元気・活発と取られてしまって、元気・活発でない場合はアクティブ・ラーニングではないと捉えてしまうという誤解がなかったか。②主体的な学習＝児童生徒に全て委ねることであると、放任的に捉えてしまう傾向になかったか。③常にアクティブ・ラーニングを構想しなくてはならないと考えて、いわゆる一斉指導のような形態を全面否定することがなかったか。これらは、アクティブ・ラーニングの行き過ぎ論であると思う。大切なことは、こんな学習が「主体的・対話的で深い学び」なのではないかということを皆さんが議論していくことだと思っている。暫定的な私の考えとしては、まず、主体的な学び=真面目に学習に取り組む姿ではない。児童や生徒が学習の見通しと学び方を理解して、進んで学んでいる様子が主体的な学びではないかと思っている。また、対話的=話し合い活動ではない。私は対話的な学びというのは子供たちが本気で伝えあっている様子が見られる学びだと思っている。また、適切なところで児童生徒と教師がちゃんと対話しないと駄目だ

と思う。それも対話的な学びとして視野に入れて授業を構想しないと深い学習にはならないと思う。だから、教師の関与、児童生徒との対話が必要だと思う。深い学びについては、教科の見方・考え方が働いている学び、児童生徒に変容が見られる学びなどではないかと考えている。何か特定のことをやれば「主体的・対話的で深い学び」ができるとは思っていない。単元あるいは一単位時間の初めから終わりに至るまで様々な工夫を先生方が行い、それらが効果的に絡み合った時に、結果的に「主体的・対話的で深い学び」が生まれるのではないかと思っている。

振り返りの充実について

今回の単元や授業で何ができるように分かるようになったのか、そして、小学校の高学年以降は、できれば、「どうしたからできたり分かったりするようになったのか」ということや、「次にどんな機会に今回身に付けた力を使ってみたいと思うのか」などの振り返りをさせてあげることが大事なのではないかと思っている。

国語科の学習指導要領について

各教科で育成すべき資質・能力が、今回は三つの柱で整理された。分かりにくいのは「学びに向かう力、人間性等」だと思う。私は、これは学ぶことの意義や価値を理解する力だと思っている。この三つの柱に対応して、今回の学習指導要領では、「特別の教科　道徳」を除く全ての教科領域の目標の書き方が、前書きと⑴⑵⑶という形で示されるようになった。

国語科の改訂も、三つの柱で整理したという捉え方がポイントとなる。

言葉による見方・考え方を働かせるとは、授業が終わった後に子供たちが言葉に着目し言葉に対して自覚的になるようにすることである。

内容についても三つの柱で整理された。「学びに向かう力、人間性等」は指導事項では示されていないので、目標や内容が、特に目標の中で示されている。

「思考力、判断力、表現力等」に関して考えると、「学習過程」が今回の改訂ではかなり意識されており、その順番で指導事項が並んでいる。例えば「読むこと」で言えば、一読して読みながら大体こんなことが書いてあるのだなという構造と内容の把握。そして、私にとって必要な情報って何だろうと思って、そこのところを詳しく読んでいく、これが精査・解釈。さらに、この本を読んで私はこういうことが分かり、こういうことを新たに考えることができたというのが自分の考えの形成。それを友達に伝えてうまく分かち合っていくことが共有。このように読むことの学習過程におよそ即している。そのように学習指導要領の指導事項ができているということを御理解いただけると、授業づくりのイメージが浮かびやすいと思っている。

評価について

資質・能力が身に付いたかどうかをしっかり見ることが大切である。それはつまり、評価をきちんとやるということ。今後の評価について今のところはっきりしているのは、小学校では2020年度、中学校では2021年度から、各教科の評価の観点が３観点で統一されるのだろうということ。「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点におそらくなる。今行われている目標に準拠した評価という考え方は継続するので、現在の実践を振り返って整理してみる必要があるのではないか。目標に準拠した評価とは次のような方法で進めたい。まず、評価する場面が来たら評価規準を頭に思い浮かべる。それを当てはめて子供たちの様子を見ていくとＣの子が見つかると思う。そうすると、その場ですぐに手立てを講ずることができる。Ｃの子さえ見つかれば残りの子は暫定的に全員Ｂであり、授業中の評価はそれでよいのではないかと思っている。その後、ワークシートを集めたりノートを回収したり授業中の様子を思い浮かべたりしながら暫定的に全員Ｂだったけれど、この子はＡといってもよいというのが、後から決まる。それでよいのではないだろうか。つまり、目標に準拠した評価というのは子供たちをＡＢＣにランク付けするのではなくて、Ｃの子を早めに見付けてできるだけ手立てを講ずる評価なのだということがわかる。そして、Ｃの子が多い授業というのは、簡単に言うとうまくいかなかった授業なのだから、指導の仕方を変えなければならないということに気付かせてくれる評価であることがわかる。そういう評価観をこの移行期間の間にもう１回確認をして、評価の観点が変わったとしてもあまり動揺せずに改訂を迎えることが大事なのではないかと思っている。

最後に、細かい理論的なことも大事ではあるが、まず目の前にいる子供たちに力が付くことを大事にしてほしい。私は楽しくて力が付く国語の授業というのを教員の時からずっと追い求めてきているつもりでいるが、そういった授業を、ここにお集まりの先生方でたくさん構築していただいて、私も一緒に勉強させていただけるとありがたいなと思っている。

２　中学校国語学力調査（第60回）

⑴　ねらい

中学生一人一人の国語学力の実態や問題点を把握し、学習指導の工夫改善に役立てる。

⑵　調査の分野・領域・資料文

①文学的文章の読解・鑑賞

１年『リマ・トウジュ・リマ・トウジュ・トゥジュ』　（こまつあやこ）

２年『疾風の女子マネ！』　（まはら三桃）

３年『風に恋う』　（額賀　澪）

◎文章中の登場人物の心情や展開を、表現に即して読み取る力を確かめる問題を出題した。

②説明的文章の読解

１年『パンの科学』　（吉野精一）

２年『生きものは円柱形』　（本川達雄）

３年『モノに心はあるのか』　（森山　徹）

◎文章内容や構成、要旨等を、正しく読み取る力を確かめる問題を出題した。

③放送による問題（会話を聞く）

１年　ボランティア活動についての確認の電話

２年　スマートフォンの使い方についてのパネルディスカッション

３年　アンケートの結果をもとにした委員会での話し合い

・話の概要を聞き取る問題
（話題の中心・意見の根拠　等）

・話の組み立て方の特徴や工夫をつかむ問題

④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関する問題

１年　言葉の単位を問う問題

２年　品詞の種類（連体詞）を問う問題

３年　助動詞の用法（自発・受け身）を問う問題

⑤漢字の読み書き

	読み取り	書き取り
１年	交易・恩恵 深刻・延びる 果物	祝福・実直 支持・預ける 裁く
２年	供える・恩恵 護衛・就く 河原	射る・容易 半熟・照明 率いる
３年	垂れる・恩恵 卓越・航海 小豆	大臣・梅雨 光沢・著す 退く

⑥作文

・事例や根拠を挙げて自分の考えを構成に注意して書く。

生徒にとって身近な話題や場面を設定し、資料から読み取ったこと等を踏まえて、自分の意見を述べる力について、その実態把握を目指した。

⑶　参加校状況

①参加校　14校（原稿作成時）

②地域別参加校数

さいたま…３　　南　　部…４

西　　部…２　　北　　部…１

東　　部…３　　国県私立…１

③参加生徒数　4,058名

④学年別参加生徒数

１年… 1,137名

２年… 1,759名

３年… 1,162名

⑷　改善点

○国の教育施策との関連

調査結果を国の教育施策（全国学力・学習状況調査）と関連させ、「知識」を問う問題と「知識を活用」する問題を作成した。考察結果を報告書に掲載した。

⑸　結果の報告

埼玉大学、県教育委員会の指導・助言を得て集計処理し、問題ごとの正答率、誤答分析、指導のための方策等を含めて、国語教育研究大会冬季研究大会において報告を行う。また、報告書（Ａ４判）を実施中学校宛に送付する。

２　書　写　教　育

埼玉県書写教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「文字文化の担い手を育てる書写教育」

２　主題設定の理由及び方針

昨年３月末に「学習指導要領」が告示され解説書も公表された。書写においては手本を模倣するだけの学習のみではなく、小学校では平仮名、片仮名、漢字の由来や、点画（止め、はね、払い等）、字形などの特質を理解して書くこと、中学校では文字文化の多様性や表現の豊かさを理解して書くこと、高等学校では文字文化について理解を深める指導が求められている。

特に注目すべき点は、小学校低学年において適切に運筆する能力を身に付ける目的として「水書用筆」を使用した運筆指導を授業に取り入れることが解説で示されたことである。それは、今までにない新しい指導であり、研修や指導の工夫が必要になっている。このことを踏まえて、本研究会では特に小学校低学年の指導方法と小学校・中学校の９年間で育てる書写教育の視点と見通しを持ち、更に高等学校の芸術科書道へと繋ぐことができる書写教育を目指し「文字文化の担い手を育てる書写教育」と研究主題を設定して、書写教育の推進を図った。

夏季実技研修会を８月３日㈮に松伏町立松伏小学校を会場に、午前中は書写授業の基本的な指導の仕方や授業展開など、午後は書きぞめの指導方法や課題の書き方について講師を招いて研修した。授業研究会を11月22日㈭に鴻巣市立笠原小学校を会場に、小学校１年生の硬筆「かん字、おれ・まがり・そり」を題材にした授業を公開し、その後、参加した先生同士の意見交換や講師の先生からの指導等研究協議を行った。今年度は８月20日㈪に文教大学において文部科学省後援「水書用筆等を活用した書写指導研修会」を行い、実際に「水書用筆」を使った書写指導を研修した。県内外120名を超える参加者があり、「水書用筆」を用いた指導等の普及と教師の指導力の向上が図られた。以上の事業を通して、児童生徒一人一人が主体的に学ぶ書写授業の創造に努め、確かな書写力の育成を図った。

Ⅱ　活動状況

１　役員会の概要

⑴　４月24日㈫　理事会　　県民活動総合センター
　○県硬筆展覧会開催要項・審査規程審議
⑵　５月25日㈮　総会・研究協議会・講演会
　　さいたま市民会館うらわ
　○総会（書写書道教育連盟・書写教育研究会）
　○研究協議会・講演会
⑶　６月６日㈬　常任理事会
　　草加市立高砂小学校
　○県硬筆展覧会本部・開催地区協議会
　○本部事務分担及び計画
　○県書きぞめ展覧会語句選定・開催要項案審議
⑷　６月20日㈬　理事会　　草加市立高砂小学校
　○県硬筆展覧会作品審査会
　○県書きぞめ展覧会開催要項案審議
　○会報（埼書教連）発行
⑸　10月12日㈮　理事会　　埼玉県県民活動センター
　○県書きぞめ展覧会開催要項・審査規程審議
⑹　11月６日㈫　常任理事会
　　狭山市立入間川東小学校
　○県書きぞめ展覧会本部・開催地区協議会
　○県硬筆展覧会語句選定・開催要項案作成
⑺　１月23日㈬　理事会
　　狭山市立入間川東小学校
　○県書きぞめ展覧会作品審査会
　○会報（埼書教連）発行

２　研究発表会の概要

⑴　小中高等学校書写書道教育研究協議会
　○期　日　　平成30年５月25日㈮
　○会　場　　さいたま市民会館うらわ
　○参加人数　75名
　○研究発表者・発表テーマ
　①「DVD映像を毛筆授業に生かして」
　　所沢市立北野小学校教諭　　平山　志穂　先生
　②「特別支援学級における書写指導
　　～個性にあった指導方法を考える～」
　　蓮田市立黒浜西小学校教諭　宮下　直子　先生
　○講　演
　・演題　「書写書道教育の今とこれから
　　～新学習指導要領を踏まえて～」
　・講師　横浜国立大学教授　　青山　浩之　先生

３　研修会の概要

⑴　実技研修会
　○期　日　　平成30年８月３日㈮

○会　場　　松伏町立松伏小学校
○参加人数　33名
○研修内容及び講師
「毛筆の基本・書きぞめ指導法」
・前埼書教連会長　荻田　哲男　先生
・元埼書教連会長　中山　幸男　先生

⑵ 埼玉県書写教育研究会委嘱授業研究会
［鴻巣地区］
○期　日　　平成30年11月22日㈭
○会　場　　鴻巣市立笠原小学校
○参加人数　47名
○単元名・授業者
かん字「おれ・まがり・そり」
鴻巣市立笠原小学校教諭　朝日　澄江　先生

⑶ 各地区書写実技研修会・授業研究会

4　展覧会の概要

⑴ 第57回記念硬筆展覧会
○会　期　平成30年６月23日㈯・24日㈰
○会　場　草加市立高砂小学校
○出品点数

・推薦賞	小学校	281点
	中学校	128点
・特選賞	小学校	844点
	中学校	383点
・優良賞	小学校	1,688点
	中学校	766点
	合　計	4,090点

○課　題　11頁参照

⑵ 第71回書きぞめ展覧会
○会　期　平成31年１月26日㈯・27日㈰
○会　場　狭山市立入間川東小学校
○出品点数

・推薦賞	小学校	125点
	中学校	76点
・特選賞	小学校	504点
	中学校	312点
・優良賞	小学校	630点
	中学校	389点
	合　計	2,036点

○課　題　11頁参照

⑶ 平成30年度教職員書道展覧会
○会　期　平成31年１月26日㈯・27日㈰
○会　場　狭山市立入間川東小学校
○出品点数　５点

5　研究刊行物

⑴ 「研究集録」第56号の発行

※平成30年度硬筆展覧会参考手本揮毫者

小一　さいたま市立泰平小学校　齊藤　祐子　先生
小二　加須市立大越小学校　大澤美和子　先生
小三　幸手市立上高野小学校　中島奈緒子　先生
小四　嵐山町立志賀小学校　福田　英正　先生
小五　さいたま市立泰平小学校　齊藤　裕子　先生
小六　所沢市立泉小学校　三上　陽照　先生
中一　県立伊奈学園中学校　矢島　洋子　先生
中二　松伏町立松伏中学校　関根　祐介　先生
中三　所沢市立泉小学校　三上　陽照　先生

※平成31年度書きぞめ展覧会参考手本揮毫者

小三　熊谷市立江南南小学校　鯨井　佳恵　先生
小四　さいたま市立泰平小学校　齊藤　祐子　先生
小五　さいたま市立泰平小学校　齊藤　祐子　先生
小六　北本市立西小学校　熊切　優子　先生
中一　県立川口青陵高校　新井　和徳　先生
中二　嵐山町立玉ノ岡中学校　福田　英正　先生
中三　県立越谷東中学校　野末　有紀　先生

Ⅲ　研究内容

鴻巣支部研究発表

1　発表者

鴻巣市立笠原小学校教諭　朝日　澄江　先生

2　研究テーマ

「主体的に学び、生活に生かす書写指導」

鴻巣支部では、「生活に生かす書写教育」をテーマに実践を積み重ねてきた。今回の学習指導要領の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」が授業改善の視点として挙げられている。そこで、児童生徒が主体的に学び合う授業を実践することで書写の力を高め、日常生活に生かすことができると考え、本テーマを設定した。

3　発表内容

◎県書写教育研究会委嘱「授業研究会」より

⑴ はじめに

鴻巣支部として今回の授業を行うに当たり、学習指導要領の改訂で低学年での使用が明記された水書用筆を使用した授業を行うことにした。水書用筆には様々な形があり、持ち手の太さや穂先の長さ等、取り寄せて試しながら、児童が扱いやすいものを選び使用した。

⑵ 単元名・教材名

かん字・「おれ」「まがり」「そり」

⑶ 実施学年学級　笠原小学校　１年１組

⑷ 児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、新しい文字を習うことを楽しみにしており、初めて習う漢字も書写の授業や漢字学習で大変興味をもち丁寧に書くが、日常のノートや連絡帳等では「子」や「手」の「反り」の部分をまっすぐに書いたり、「九」の「曲がり」の部分を

「反り」のように書いたりする等、終筆や送筆に課題のある児童もいる。

指導に当たっては、終筆や送筆の筆使いを捉えるために、生活の中でその動きに出会う場面を探させたり、体を使って動きを表現させたりする。終筆の「止め」「はね」「払い」を「ぴたっ」「ぴょん」「すうっ」などの声を出しながら空書きや指書きをする。「水書用筆」を使用し、適切な運筆指導につながる工夫を実践する。

送筆はモールを折り曲げて表現することで、「折れ」「曲がり」「反り」のイメージや形の違いに気付かせるようにし、「かくっ」「ぐるん」「ぐうっ」等と声を出しながら水書用筆と鉛筆で書くことで送筆の書き方に気を付けさせたい。また、自分で気を付けたことを友達と話し合うことでより確かな学びとなるようにしたい。

⑸ 単元の目標

○漢字の画の終筆と送筆に気を付けて、正しく書くことができる。

⑹ 単元の指導計画

第１時　「止め」と「はね」の筆使いを、水書用筆と鉛筆を用いて理解する。

第２時　「払い」の筆使いを、水書用筆と鉛筆を用いて理解する。

第３時　「折れ」「曲がり」「反り」の筆使いを、水書用筆と鉛筆を用いて理解する。

第４時　「折れ」「曲がり」「反り」の筆使いの違いに気を付けて言葉や文を書く。

⑺ 本時の学習指導（３／４時）

①目標

○漢字の画の送筆（「折れ」「曲がり」「反り」）の書き方に気を付けて書くことができる。

②展開

㋐ 「日」「七」「子」の試し書きをする。

㋑ 教科書の文字と比べて学習課題をつかむ。

㋒ 「日」「七」「子」を指でなぞり、「折れ」「曲がり」「反り」の形や送筆の違いを捉える。

㋓ 書き方の違いや速さに気を付けながら一緒に空書きする。（基準の確認）

㋔ 「折れ」「曲がり」「反り」を含む線や漢字を、水書用筆や鉛筆で書く。

㋕ まとめ書きをする。

㋖ 書いた漢字を友だちと見合う。（相互評価）

㋗ 本時を振り返り、次時の確認をする。

⑻ 「授業研究会」を終えて

①成果と課題

○成果

・児童が集中して学習に臨んでいた。
・鉛筆の持ち方や姿勢など、基礎基本が徹底されており、上達につながっていた。
・まとめ書きの際に学習したことを生かして文字が書けていた。
・評価の際に、自分のことも相手のことも言えていた。
・モールで色を変えて視覚的にポイントを捉えることができていた。
・「かくっ」のように、動きの分かる言葉を使って繰り返しポイントを指導していた。
・あらかじめ気付いてほしい視点を与えることで、児童の学びが深まっていた。

○課題

・水書用筆を取り入れる際に、用具の種類や扱い方、費用など、現場が戸惑わないよう準備が必要である。

②指導講評（抜粋）

指導者　文教大学講師　　荻田　哲男　先生

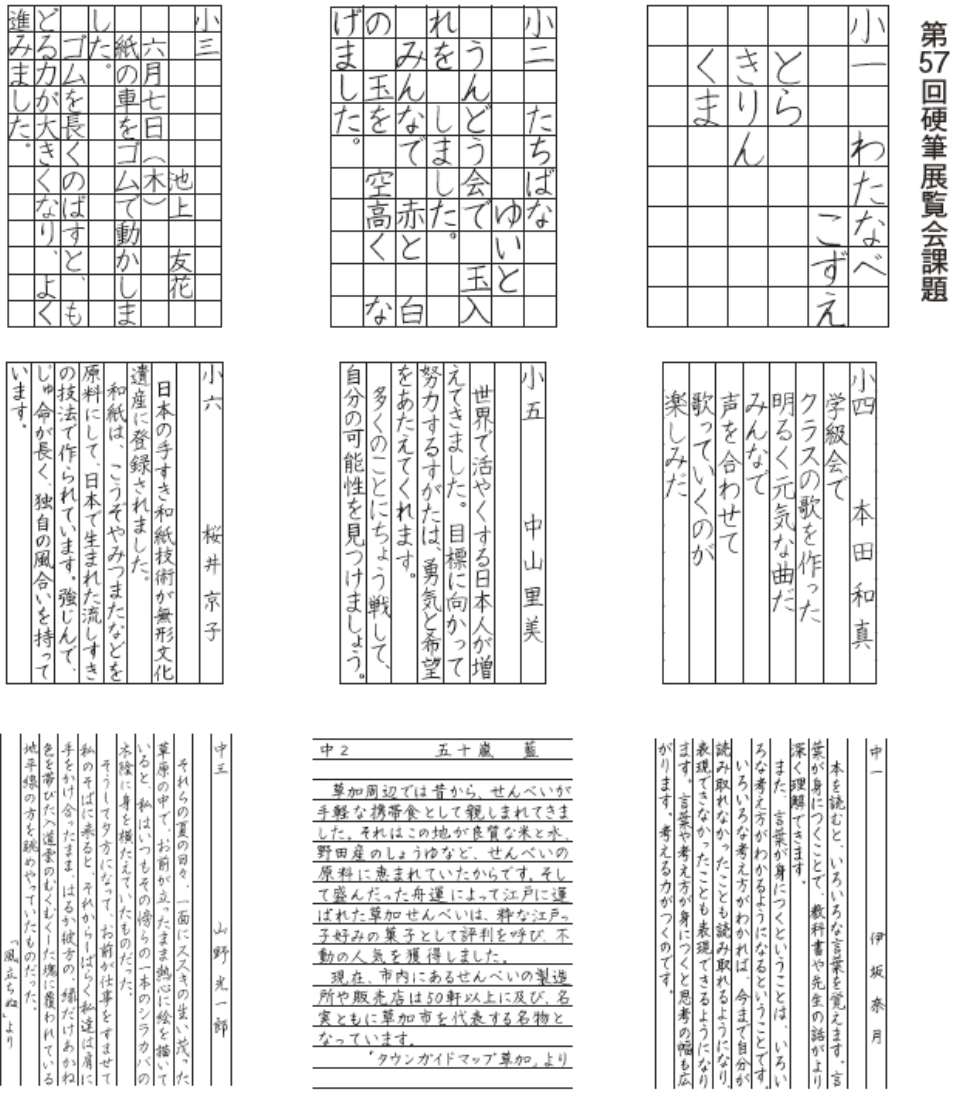
○細かい点を繰り返し指導している。
○日付や名前の中央線など、学習の基本が詰まった授業だった。
○学習する内容を音や行動化することで学びが深まっていた。
○始筆、送筆、終筆について、用語を使わずに１年生に指導していた。
○参加者の姿勢として、「もらう・まねる・広げる」を行ってほしい。
○ゴシック体などは児童が文字を図形として覚えてしまう可能性があるため、教室の掲示物や賞状の名前等は書体に気を付けるか教師の手書きが望ましい。
○板書の文字の大きさや、ポイントをゆっくり大きく書くことに気を付けるとよい。
○小学校・中学校のみで考えるのではなく、幼・小・中のつながりを考えた指導を行っていく必要がある。
○えんぴつ筆は、鉛筆と同じ持ち方でよい。
○今回の学習指導要領の改訂は、筆圧、弾力性、上下運動など、児童に足りないものを身に付けさせるものである。

Ⅳ　今後の課題

今後は、実技研修会や授業研究会、各市町村の書写研修会等で「水書用筆」を用いた指導等の普及を図っていく。また、授業での実践を推進し、教員の指導力を高め、児童生徒の書写力の向上を目指した確かな書写力の育成を図っていく。

平成30年度　硬筆・書きぞめ展覧会参考手本

第57回硬筆展覧会課題



第71回書きぞめ展覧会課題

３　社　会　科　教　育

埼玉県社会科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

○小学校「社会がわかり、
社会にかかわる子供を育てる社会科学習」

○中学校「追究する力を育てる社会科学習～主体的・
協働的に学ぶ学習の充実～」

社会科教育の今日的課題は、社会における自分の在り方を確かにしていく能力をいかに身に付けるかである。また、社会科の本質は、社会的事象のもつ社会的意味を追究することによって社会認識を深め、自らの生活の在り方を確かなものにすることである。

本県の社会科教育は、戦後まもなく全国に先駆けて発表された川口プランに始まり、その精力的な実践研究は今日に受け継がれ、数多くの成果を挙げてきた。本研究会は、社会科教育の今日的課題と本質的課題に対して、これまでの研究成果を生かして、研究・実践を行っている。

小学校では平成12年度に、研究主題を「人・夢・・・21世紀」と掲げ、「全国小学校社会科研究協議会」を開催した。平成17年度には研究主題を「ゆたかな社会をつくりだす、生きてはたらく力を育てる社会科学習」と掲げた「関東地区小学校社会科研究協議会」を開催し、それぞれ成果を挙げた。これらの研究を踏まえ、本年度は、新学習指導要領の趣旨を取り入れるべく、小学校は「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」を主題とし、10月25日㈭、26日㈮に川口市の４会場で、「第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会」を開催した。

中学校では、平成13年度に研究主題を「生徒がつくり自ら学ぶ社会科学習の在り方」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」を、平成21年度には研究主題を「学ぶ楽しさを味わい、わかる喜びを体感できる社会科学習」と掲げた「関東ブロック中学校社会科教育研究大会」をそれぞれ開催し、成果を挙げた。これらの研究を踏まえ、平成29年11月17日㈮に川越市を会場に「第35回関東ブロック中学校社会科教育研究大会」を開催した。

Ⅱ　活動状況

１　理事研修会

⑴　第１回理事研修会

○期日　平成30年６月19日㈫

○会場　別所沼会館ヘリテイジ浦和

○講師　文部科学省　教科調査官　小倉　勝登　先生

○演台　新学習指導要領とこれからの授業づくり

⑵　第２回理事研修会

○期日　平成31年２月15日㈮

○会場　さいたま市立与野東中学校

○内容　平成30年度事業のまとめと平成31年度事業計画

２　現地研修会

○期日　平成31年２月15日㈮

○会場　造幣局さいたま博物館

○内容　造幣局さいたま博物館の見学等

３　第52回小・中学校地域学習研修会

⑴　主催　埼玉県社会科教育研究会
　　後援　埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会

⑵　期日　平成30年７月31日㈫

⑶　会場　さいたま市立大成小学校・鉄道博物館

⑷　研修内容及び講師

○講義：小学校社会科での地域学習の指導法について
　県教育局義務教育指導課指導主事
　　清水　利浩　先生

○講話：学習指導要領改訂の趣旨を生かした「地域学習」を目指して
　　埼玉大学教授　大澤　利彦　先生

○鉄道博物館見学

本年度はさいたま市立大成小学校と鉄道博物館を会場に開催した。清水先生には、小学校社会科における地域学習の指導法について、具体的な実践事例を基にご講義いただいた。大澤先生には、次期学習指導要領改訂のポイントを丁寧に解説していただき、それを生かした実践についてご講義いただいた。鉄道博物館では、鉄道システムの変遷・鉄道の原理・最新の鉄道技術の実物展示などを博物館ガイドの方に説明していただいた。

４　ブロック別授業研究会

＜小学校＞

⑴　東部ブロック

○期日　平成30年９月27日㈭

○会場　行田市立中央小学校

○授業者と小単元名　長谷川拓也　６年
　「世界に歩み出した日本」

○研究の概要

全小社研埼玉大会の研究主題に迫るために、『問

題意識をもたせる場』『学び合う場』『振り返る場』の3つの視点で授業を組み立てた。問題解決に迫るために①電灯が灯る足袋工場と②手作業で作る足袋の様子の資料を比較させ、相違点を手がかりとして文書資料を基に調べる活動を取り入れた。児童は地元の足袋作りという社会的事象について身近に捉え考えることができたが、根拠を確かめ合う話し合い活動の場を設けることができなかったために児童同士の学びの深まりが足りなかったことが課題であった。

⑵ 西部ブロック

○期日　平成30年９月19日㈬
○会場　鶴ヶ島市立新町小学校
○授業者と単元名　吉井大輔　５年
「社会を変える情報～インターネットショッピングが暮らしを変える～」
○研究の概要

全小社研埼玉大会の研究主題を受け、「社会がわかる」に焦点を当てるとともに、次期学習指導要領における新単元・新教材の開発についても併せて行った授業実践である。本実践では、児童が日常の消費活動と結び付けて考えることができ、関心をもちやすいAmazonを事例として産業における情報活用について学習を進めた。Amazonが大量の情報や情報通信技術を活用し、顧客の満足度や売り上げを伸ばしていること、さらに国民生活の向上について、「インターネットショッピングをなぜ利用しているのか」の問いについて、資料を基に話し合った。

⑶ 南部ブロック

○期日　平成30年９月12日㈬
○会場　川口市立本町・戸塚北・鳩ヶ谷小学校
○授業者と単元名
平塚久美子　４年「くらしと水」
大矢　真悟　６年「明治の国づくりを進めた人々」
鈴木　祐介　５年「日本の水産業」
樋田　慎一　６年「３人の武将と天下統一」
中山　美奈　３年「事故や事件を防ぐ」
千守　泰貴　４年「見沼代用水を引く」
堀　　祥子　５年「水産業のさかんな地域」
入江　直人　６年「私たちのくらしと日本国憲法」
○研究の概要

授業会場校の3校は、全小社研埼玉大会の会場校。小倉勝登教科調査官より指導･講話をいただいた。
◇本町小学校研究主題「社会的事象の見方・考え方を働かせた思考力の育成」
◇戸塚北小学校研究主題「自ら問いをもち、学び合う授業を通して」
◇鳩ヶ谷小学校研究主題「社会とのつながりを考え続ける児童の育成」

⑷ 北部ブロック

○期日　平成30年９月28日㈮
○会場　熊谷市立吉見小学校
○授業者と単元名　風間　歩　５年
「くらしをかえる情報」
○研究の概要

「つかむ」段階では、おにぎりの１日の発注回数から、売れ筋の商品と売れていない商品発注数の違いを話し合い、「なぜコンビニでは、ほしい物をほしい時に買うことができるのか」という疑問をもたせ、問題意識を高めた。「調べる」段階では、コンビニの売り上げが伸びているのは、大量の情報を活用して販売に活かしているからであることに気付かせ、このことがコンビニと消費者の両者にとって、機会ロスと食品ロスをなくすための取組であることを理解させた。「まとめる」段階では、情報を活かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、これからの産業と情報との関わりについて話し合うことができた。

⑸ さいたま市ブロック

○期日　平成30年６月26日㈫
○会場　さいたま市立春野小学校
○授業者と単元名　小林孝太郎　５年
「米づくりのさかんな地域」
○研究の概要

全小社研埼玉大会の研究主題を受け、本実践を行った。子供が「問い」をもつために、例えば、日本と世界の米づくりが盛んな地域を比較して、自然条件に対する問題意識を醸成した。「社会がわかる」ために、専業農家の今井さんと、兼業農家の小林さんの生産に対する考え方を比較したり、研究者、国等さまざまな立場から生産に対する工夫や努力を捉えたりすることで、多角的に考え理解を深めた。「社会にかかわる」ために、消費量の減少や従事者の減少、外国産との競争といった社会に見られる課題を把握し、新聞等から最先端の取組について調べ、これからの日本の米づくりについて考えた。

⑹ 指導者

文部科学省初等中等教育局教科調査官	小倉　勝登　氏
埼玉大学教育学部教授	桐谷　正信　氏
県教育局東部教育事務所指導主事	橋上　　威　氏
県教育局西部教育事務所指導主事	宮澤　　忍　氏
県教育局北部教育事務所指導主事	篠田かなえ　氏
さいたま市教育委員会指導主事	塩野　光洋　氏
さいたま市立つばさ小学校長	髙田信太郎　氏
さいたま市立博物館主任指導主事	武久　浩之　氏

熊谷市立石原小学校長　　飯田　明彦　氏
埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

＜中学校＞

⑴　東部ブロック

○期日　平成30年11月１日㈭
○会場　吉川市立中央中学校
○授業者と単元名　石高　吉記　２年
「日本の諸地域～関東地方～」
○研究の概要

本授業では関東地方の特色を理解するに当たって、2020年東京オリンピック・パラリンピックを教材として活用し、生徒が主体的に取り組むことができるように進めた。まず、開催都市に求められていることを表す資料と、1000万人の来場者が予想されていることを表す資料から、生徒は開催地の条件について考えた。すると、他地域との結び付きが強く、交通機関の発達やインフラ整備の充実が必要だと読み取ることができた。そこで、「関東地方にはどのような特色があるのだろう」を単元を貫く学習問題として、オリンピック・パラリンピックが開催できる東京のよさを追究する学習として展開した。

⑵　西部ブロック

○期日　平成30年11月28日㈬
○会場　ふじみ野市立福岡中学校
○授業者と単元名　林　遼平　２年
「日本の諸地域　近畿地方」
○研究の概要

本授業では、近畿地方の単元の導入として、単元を貫く課題を「近畿地方にはなぜ外国人が訪れるのか」と設定した。具体的には、「外国人が訪れたい日本の建物ランキング」「外国人が訪れた都道府県」などを示し、生徒から疑問や予想を引き出させた。その際に、個人や班で課題に対しての予想を立てさせた。課題の追究の際には、知識構成型ジグソー法を取り入れ、互いに教え合いながら、資料から読み取ったことを適切に表現する力を身に付けさせることをねらいとした。

⑶　南部ブロック

○期日　平成30年12月７日㈮
○会場　戸田市立笹目中学校
○授業者と単元名　小松　裕人　１年
「中世の日本～武士の台頭と鎌倉幕府～」
○研究の概要

特色に関わる視点である「相違」や事象相互の関連に関わる視点である「背景」「結果」「影響」などの見方・考え方を働かせて知識を価値化させる授業の予定であったが、研究授業は行うことができず、大澤教授に講話をいただいた。

・講話：大澤利彦先生（埼玉大学教育学部教授）

「主体的・協働的に学ぶ学習の充実」の前提として、新学習指導要領の基本的な考え方、改訂の趣旨の十分な理解の重要性について話をしていただいた。続いて、社会科改訂のポイントと小松教諭の作成した指導案を照らし合わせて、主体的・協働的に学ぶ学習の充実に向けた授業づくりについて御指導をいただいた。

⑷　北部ブロック

○期日　平成30年12月11日㈫
○会場　本庄市立本庄西中学校
○授業者と単元名　塚越　清香　１年
「世界の諸地域」
○研究の概要

単元を貫く課題として「なぜアジア州は急成長したのだろう。また急成長することで起きた課題はどのように解決すべきだろう。」を設定した。特に、主体的・協働的な学習の工夫として、知識構成型ジグソー法を取り入れ、分担して調べさせる活動を行い、互いに調べたことを教え合う活動を取り入れた。本時では、単元のまとめに当たり、アジア州で起きている課題の解決策を、個人で検討した後、４人班に分かれて検討し、考えを深めて提案する。そして、アジアで起きている課題を自分事として捉え、解決していこうとする意欲につなげた。

⑸　さいたま市ブロック

○期日　平成30年10月31日㈬
○会場　さいたま市立大谷場中学校
○授業者と単元名　泉　多恵子　３年
「国の政治のしくみ」
○研究の概要

司法権に関わる学習では、生徒たち自身が裁判員として刑事裁判に参加する可能性をふまえ、切実感をもたせてより深い学びにつなげるよう工夫した。具体的には、さいたま地方検察庁に資料協力を得て、「自分が選ばれたことを想定して模擬裁判にチャレンジしよう」という課題を設定して生徒を配役し、法廷での審理を再現した。そして、全員を裁判員として評議を部分的に体験し、検察官の出した資料が有罪の証拠となりうるか否かについてグループ内で意見を出し合った。配役された生徒は、慣れない法廷用語に戸惑いながらも、当事者の立場に立って台本を読み上げた。また、裁判員役の生徒は法廷での発言をよく聞いてメモを取り、実体験に即しながら証拠の真偽について活発に意見を交わしていた。

⑹ **指導者**

埼玉大学教育学部教授	大澤　利彦　氏
県教育局義務教育指導課指導主事	清水　利浩　氏
県教育局南部教育事務所指導主事	伊藤　敏郎　氏
県教育局西部教育事務所指導主事	宮澤　　忍　氏
県教育局北部教育事務所指導主事	篠田かなえ　氏
さいたま市教育委員会指導主事	田原　佑介　氏
ふじみ野市教育委員会指導主事	鈴木　達也　氏
ふじみ野市立大井西中学校長	山﨑　祐一　氏
本庄市教育委員会指導主事	市川　宝生　氏
吉川市教育委員会指導主事	白幡　貴弘　氏

埼玉県社会科教育研究会長、副会長、役員

5　第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会 埼玉大会

第56回全国小学校社会科研究協議会埼玉大会を川口市総合文化センターリリアで第１日目全体会を、川口市立本町小学校・戸塚北小学校・鳩ケ谷小学校で第２日目公開授業を行い、全国各地から、２日間で延べ1500名を超える参会者の皆様に、埼玉県から最新の研究を発信することができた。全体指導者を文科省教科調査官　小倉勝登先生、記念講演を国士舘大学教授　澤井陽介先生、第１会場校指導者を総合初等教育研究所参与　北　俊夫先生、第２会場校指導者を國學院大學教授　安野　功先生、第３会場校指導者を埼玉大学教授　桐谷正信先生をお招きし、御指導いただいた。

6　中学校基礎学力調査

生徒の基礎学力調査の実態を調査し、社会科指導の改善・推進の資料にすることを目的として実施し、48回目を迎えた。

⑴ **基礎学力問作委員会**

○期日　平成30年6月26日㈫･7月26日㈭･8月7日㈫

⑵ **基礎学力分析委員会**

○期日　平成30年11月27日㈫・12月11日㈫

○会場　埼玉大学教育学部附属中学校

7　関東ブロック中学校社会科教育研究大会研究部会研究推進委員会

本事業は、2023年度に開催が決定した「第41回関東ブロック中学校社会科教育研究大会埼玉大会」に向け、平成30年度から社会科の授業理論及び実践の研究を主なねらいとして組織された。

○期日　平成30年８月２日㈭・12月25日㈫

○会場　埼玉大学教育学部附属中学校

8　研究刊行物：会誌40号

主な内容を、講演会記録、全小社研埼玉大会要旨、基礎学力問題、教室の声、一年間のあゆみ（活動報告）として編集した。会誌は県内教育関係機関に送付し、同時に本研究会の理事を通じて、県内の全公立小・中学校に配付した。

9　その他

⑴ **全国大会・関東ブロック大会**

＜小学校＞

平成30年度全国小学校社会科研究協議会研究大会大分大会

○期日　平成30年６月21日㈭・22日㈮

○主題「子どもが生きる社会科学習～人に学び、自分の生き方を創りつづける子どもが育つ教材と学習　　展開の構想～」

○会場　大分市立西の台小学校・大道小学校

＜中学校＞

第51回全国中学校社会科教育研究大会徳島大会

○期日　平成30年11月８日㈭・９日㈮

○主題「未来を拓く力を育てる社会科学習－目標・指導・評価を一体化させた社会認識力・判断力の育成―」

○会場　あわぎんホール・アスティとくしま

第36回関ブロ中学校社会科教育研究大会栃木大会

○期日　平成30年11月16日㈮

○主題「社会を見つめ､社会と関わる力を育む社会学習の創造～深い学びの実現を目指して～」

○会場　宇都宮市立文化会館、宇都宮市立陽東中学校・姿川中学校・一条中学校

⑵ **役員一覧**

会　長	笹原　秀之（さいたま市立南浦和小学校長）
副会長	針谷　重輝（久喜市立本町小学校長）
	森川　哲治（ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校長）
	清水　健治（川口市立鳩ヶ谷小学校長）
	斉藤　　実（深谷市立桜ヶ丘小学校長）
	井山　直之（さいたま市立桜山中学校長）
幹　事	矢島　弘一・岩田　信之・及川　恒平（埼玉大学教育学部附属小学校）
	二瓶　剛・齊藤耕太郎・内藤　圭介（埼玉大学教育学部附属中学校）

Ⅲ　今後の課題

過去の研究大会の成果と課題を活かし､研究の裾野が若手教員を中心に広がってきていることが収穫である。

また、諸研修等をこれからも継続して実施し、研究に取り組んでいきたい。特に、今後も施設見学やワークショップ形式を取り入れた地域学習研修会や、公開授業研究会を工夫改善を加えながら計画的・組織的に進めていくことで、これからの社会科教育を担う先生方の研修の充実に貢献できるようにしていきたい。

今後、開催される関東大会・全国大会に、これまでの課題が生かせるように研究を引き継いでいきたい。

４　算数・数学教育

埼玉県算数数学教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

学ぶ楽しさを味わう算数数学の学習をめざして、学習指導要領の趣旨を踏まえ、教材研究を深め、指導内容の系統を明らかにし、算数（数学）的活動を重視した学習指導が展開できるようにする。そのとき、児童生徒の学習意欲を喚起し、数理的な処理のよさや数学的な見方や考え方のよさに気付き、活用できるよう学習過程や指導の工夫に努め、指導と評価の一体化を図る。

Ⅱ　活動状況

1　小学校（主なもの）

⑴　総務部活動状況

①埼玉県算数数学教育研究会役員研修会

・平成30年６月１日㈮埼玉大学附属中学校

・平成29年度事業報告、同決算報告

・平成30年度役員について

・平成30年度事業計画、同予算案　審議

・研究発表

「算数をつくる児童を育てる算数的活動に関する研究」

東松山市立新宿小学校　　稲葉　昌弘　氏

②第100回全国算数・数学教育研究（東京）大会

第73回関東甲信静数学教育研究東京大会

・７月31日㈫、８月１日㈬、２日㈭、３日㈮、４日㈯、５日㈰

③日本数学教育学会総会（春期研究大会）

・平成30年６月10日㈰

会場　千葉大学西千葉キャンパス

④研究集録の発行

平成30年度の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。今年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各小学校に１部ずつ配付した。

⑤算数教育研究発表会

・平成31年２月５日㈫

会場　浦和コミュニティセンター

・講演

埼玉大学　　松嵜　昭雄　氏

・研究発表

「数学的に考える資質・能力」を育成する授業の在り方～図形領域に視点をあてて～」

発表者　上尾市立東町小学校　　濁川　　究　氏

司会者　上尾市立平方北小学校　小田木香純　氏

「思考力・表現力の育成～アクティブ・ラーニングの実践を通して～」

発表者　さいたま市立つばさ小学校

湯沢　太一　氏

司会者　さいたま市立つばさ小学校

小泉　佑太　氏

「自主的に算数を創造する児童の育成を目指して」

発表者　川島町立つばさ北小学校

町田　裕樹　氏

司会者　川島町立伊草小学校　　武川裕己子　氏

「少人数学級の特性を生かした算数指導

～ＩＣＴ機器を効果的に活用して～」

発表者　小鹿野町立三田川小学校

荒舩　康伸　氏

司会者　小鹿野町立小鹿野小学校

黒澤　亜希　氏

「自ら考え学び合い高め合う児童の育成をめざして

～算数科における活用する力を育てる指導の工夫～」

発表者　加須市立花崎北小学校　奥　　秀聡　氏

司会者　加須市立花崎北小学校　田島　直樹　氏

⑵　研修部活動状況

①小学校算数教育研究協議会

テキスト第51集を中心に県下10地区で研究協議会を開催した。各地区の会場校等は次のとおりである。

北足立南部	12月６日㈭	草加市立長栄小学校
北足立北部	11月28日㈬	桶川市立朝日小学校
さいたま市	11月９日㈮	さいたま市立与野南小学校
入　　間	10月30日㈫	狭山市立狭山台小学校
比　　企	10月31日㈬	ときがわ町立玉川小学校
秩　　父	11月22日㈭	秩父市立尾田蒔小学校
児　　玉	11月30日㈮	神川町立渡瀬小学校
大　　里	12月４日㈫	熊谷市立石原小学校
北　埼　玉	11月28日㈬	加須市立加須小学校
埼　　葛	11月29日㈭	春日部市立豊春小学校

②算数教育夏季研修会

・平成30年８月３日㈮

会場　東大宮コミュニティセンター

・講演

「学力・学習状況調査を活用した学力向上」

県教育局市町村支援部義務教育指導課

松永　哲　氏

「『主体的・対話的で深い学び』を具体化する算数授業」

都留文科大学　特任教授　滝井　章　氏

・研究発表

「算数をつくる児童を育てる算数的活動に関する研究」

平成29年度　埼玉県長期研修教員

東松山市立新宿小学校　稲葉　昌弘　氏

「楽しさを実感し、自ら学び、考え、学習に取り組もうとする児童の育成

～基礎・基本を身に付け、主体的に取り組める算数科の授業・活動を通して～

平成29･30年度　研究委嘱校 上尾市立原市小学校

⑶　編集部活動状況

○算数教育研究協議会用テキスト第51集作成

「数学的な見方・考え方を働かせる算数指導」をテーマに掲げ編集を行った。

第１章では、理論編を埼玉大学教育学部教授の二宮裕之先生に御執筆いただいた。主な概要としては、以下に示したとおりである。

また、第２章では、各学年３編ずつ指導例を載せた。資料編では、付録として「新学習指導要領移行内容の指導ポイント」を載せ、新学習指導要領におけるキーワード、領域の変化や内容の移行についてまとめた。

〔テキストの内容〕

第１章　数学的な見方・考え方を働かせる算数指導

１　はじめに

⑴　新しい時代に求められる資質・能力

⑵　思考力・判断力・表現力等の育成

⑶　数学的活動

２　「数学的な見方・考え方」とは

⑴　算数科の学習における「数学的な見方・考え方」

⑵　数学的に考える資質・能力の育成との関連

３　各内容に即して働かせるべき「数学的な見方・考え方」

４　「思考力・判断力・表現力等」に含まれる「数学的な見方・考え方」

５　数学的活動における「数学的な見方･考え方」

６　「数学的な見方・考え方」を働かせる手立て（試案）

７　おわりに

第２章　学習指導の実際

第１学年　おおきい　かず

かさ　くらべ

たしざんと　ひきざん

第２学年　かけ算

長い　ものの　長さの　たんい

はこの　形

第３学年　あまりのあるわり算

時刻と時間

三角形と角

第４学年　およその数

角の大きさ

変わり方調べ

第５学年　分数のたし算とひき算

単位量当たりの大きさ

図形の角

第６学年　角柱と円柱の体積

拡大図と縮図

比例と反比例

資料編

「新学習指導要領　移行内容の指導ポイント」

⑷　調査研究部活動状況

◯教員の意識調査

授業改善に向けた取組の一環として、教員の意識調査を行った。調査項目については以下のとおりである。

・年齢、経験年数、役職について

・「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編」を持っていますか。

・「小学校学習指導要領解説　算数編」を授業などで使ったことがありますか。

・今回の改訂で、算数科の領域が変わったことを知っていますか。

・小学校算数科の内容が一部移行されたことを知っていますか。

・今回の改訂から、従来の「算数的活動」が「数学的活動」に変わったことを知っていますか。

・今回の学習指導要領改訂を受けて算数の授業で変えていこう、または変えていきたいと思うことを御記入ください。

⑸　研究委嘱校発表

委嘱校　上尾市立原市小学校

主題　「楽しさを実感し、自ら学び、考え、学習に取り組もうとする児童の育成

～基礎・基本を身に付け、主体的に取り組める算数科の授業・活動を通して～」

期日　平成31年２月14日㈭

①研究仮説

仮説１　自らの考えを深め、実感を伴った算数的活動の場を充実させることによって、児童

は学ぶ楽しさを知り、主体的に学習することができるだろう。

仮説２　算数科における基礎的・基本的事項を明確にし、習熟の機会を確保すれば、確かな学力を身に付けることができるだろう。

仮説３　学習したことを効果的に活用できる場を設定することで、「わかった」、「できた」を実感することができ、意欲的に学習することができるだろう。

②研究の内容

○原市小授業スタイルの確立
○さんさんタイムの実施
○わかりやすい授業展開の実施
○適用・適応問題の工夫
○業前活動の充実
○わくわく算数の実施

③研究授業

２年１組　「図をつかって考えよう」
授業者　細田　祐枝　氏

４年３組　「分数をくわしく調べよう」
授業者　中尾　美鈴　氏

５年１組　「分数のかけ算とわり算を考えよう」
授業者　玉造　勇輝　氏

２　中学校（主なもの）

⑴　理事研修会

平成30年６月１日㈮

・平成29年度事業報告、会計報告、監査報告
・平成30年度役員、事業計画、予算案審議
・算数数学教育研究協議会について
・研修報告

平成29年度長期研修教員
戸田市立戸田東中学校　岩﨑　貴紘　氏
朝霞市立朝霞第四中学校　親松　慶　氏

⑵　研究委嘱校

平成30･31年度　小鹿野町立小鹿野中学校
主題『学習意欲を高め、自ら学ぶ生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びの授業の実践～』

⑶　数学教育研究協議会用テキスト第49集作成

「主体的に問題解決する力を育む数学学習指導
－数と式／全国学力・学習状況調査を基にした授業アイディア例－」
という主題を設定し、理論と実践の結び付きを図るように編集したものである。

【理論編】

○知識ベースから資質・能力ベースへ
－中学校数学科次期学習指導要領の目指すところ－
埼玉大学教育学部教授　二宮　裕之　氏

【実践編】

「理論編」で述べた考え方を基に、各学年の＜数と式＞領域の授業実践例を載せている。各学年で６編の実践例をまとめ、主体的に問題解決する力を育むための数学的活動の具体を示し、その活動によってどんな力を育成するのかを明示した。また、学習指導において適切に振り返る場面を位置づけ、学習活動と自己評価の一体化が図られていることを示した。

「題材について」は、主体的に問題解決する力を育む具体的な活動を学年と領域の内容に即して明確に示した。

「本時の計画」は、「学習活動」「指導上の留意点」「評価と具体的な手立て」の３項目で、本時のねらいに示した観点について具体的に評価する場面をしぼり、生徒の反応を評価し、どのようなフィードバックが目的達成に効果的かを明らかにした。

【特集編】

「全国学力・学習状況調査を基にした授業アイディア例」では、調査概要や調査問題作成の基本理念等を再度確認し、調査問題や調査の結果を踏まえた授業づくりについてまとめた。第３学年の学習内容に当たる調査問題を取り上げ、４事例の授業アイディア例を作成した。授業ですぐに活用できるように、場面設定を工夫し、授業に即した展開にした。

⑷　数学教育研究協議会

⑶のような内容で作成された数学教育研究協議会用テキスト第49集を基にして、県内10地区で、実践授業を通して研究協議会を実施した。

○南部地区

・２月６日㈬　蕨市立東中学校
授業者　東中　細矢　弦希　氏
〃　市川　仁子　氏

・10月19日㈮　桶川市立桶川西中学校
授業者　桶川西中　吉川みのり　氏
〃　栗原　暢将　氏
〃　藤井　幸生　氏

○さいたま市

・11月15日㈭　さいたま市立春里中学校
授業者　春里中　佐々木翔太　氏

○西部地区

・11月16日㈮　所沢市立上山口中学校
授業者　上山口中　平田修太郎　氏
〃　原田　康介　氏

・11月30日㈮　吉見町立吉見中学校
授業者　吉見中　柳　一成　氏

○北部地区

・11月20日㈫　長瀞町立長瀞中学校

授業者　長瀞中　　小泉　侑治　氏

・10月19日㈮　本庄市立本庄南中学校

授業者　本庄南中　　磐上　　渉　氏

・12月７日㈮　熊谷市立吉岡中学校

授業者　吉岡中　　小島　　直　氏

〃　　小林　亜美　氏

〃　　大塚　正貴　氏

○東部地区

・11月13日㈫　行田市立太田中学校

授業者　太田中　　吉澤　由貴　氏

・12月５日㈮　蓮田市立黒浜西中学校

授業者　黒浜西中　　金子　敬一　氏

〃　　小林　菜摘　氏

⑸　数学教育研究発表大会

○平成31年２月13日㈬

○浦和コミュニティセンター

３ヶ年任期による数学教育研究推進委員会の２年次の発表である。７つの分科会に分かれ研究主題、研究仮説、実践例、今後の課題などを発表した。

○講演会

「新学習指導要領の趣旨を踏まえた統計指導のあり方－確かで豊かな授業実践に向けて－」

静岡大学教育学部教授　　柗元新一郎　氏

○分科会

・領域　図　　形

主題　筋道立てて考え、説明する力を養う図形指導

・領域　関　　数

主題　深い学びを実現させる関数指導

・領域　問　題　解　決

主題　生徒が主体的に問題解決する授業

－知識構成型ジグソー法を取り入れた授業展開を通して－

・領域　データの活用

主題　データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断する力を育成する指導

－四分位範囲・箱ひげ図の指導を通して－

・領域　数学的な考え方

主題　数学的な考え方を深めることができる生徒の育成

・領域　活　用・表　現

主題　数学を活用する力の育成を目指して

－日常的な事象を数理的に考察し表現する活動を通して－

・領域　学習指導法

主題　生徒の深い学びを実現させる指導法の工夫

－可視化と対話によるストラテジーの獲得と活用－

⑹　数学教育会誌の発行

平成30年度における会員の研究成果を集約した研究集録として編集し発行した。今年度も日々の授業実践に活用できるよう、県内各中学校に１部ずつ配付した。

５　理　科　教　育

埼玉県理科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「自然を主体的・科学的に探究する
資質・能力の育成」

２　設定の理由及び方針

平成29年３月、新しい学習指導要領が告示され、同６月には小学校及び中学校学習指導要領解説理科編が示され、次期学習指導要領の目指すべき方向が明確になった。本研究会も新学習指導要領の方針を踏まえ、それらを具現化すべく、研究、授業の充実に邁進していく必要がある。

今回の改訂では、大きな改変があった。特に、次の２点について研究を進めていく必要がある。一つ目は、「資質・能力」が「個別の知識や技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に整理されたことである。これは、指導だけでなく評価も大きく変わると言える。また、その育成に向けて「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善が求められている。もう一つは、理科の目標が「科学的な見方や考え方を養う」ことから、「理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する」ことへと、見方・考え方についての捉え方の整理がされたことである。これについても、授業にどのように反映されていくのか、より具体的な指導法について研究が必要である。

そこで、本研究会では、これまで大切にしてきた「自然事象への主体的な関わり」「観察・実験を通した問題解決」を基盤とし、さらに新しい学習指導要領の方向性を踏まえ、その意向を具現化すべく、研究主題「自然を主体的・科学的に探究する資質・能力の育成」を設定した。本研究会が具体的な授業の在り方、児童の姿を明らかにし、全県に発信していくことが理科教育の発展につながると考える。

上記の方針を基に、以下の５事項について調査・研究を行った。

○思考力・判断力・表現力を育成する指導の工夫
○理科の見方・考え方を働かせる指導の工夫
○主体的・対話的で深い学びを実現させる授業改善
○理科における資質・能力の評価の方法
○ＩＣＴ機器の効果的な活用法の開発

Ⅱ　活動状況（委員会・研究会等）

１　事務局打ち合わせ会　平成30年３月26日㈪

会場：埼玉大学教育学部附属小学校

○年間事業計画・予算案の作成、及び総会準備

２　第１回常任理事研修会・総会

平成30年６月12日㈫　会場：別所沼会館

○平成29年度事業・決算報告
○平成30年度事業・予算案審議、役員の承認
○退任役員への感謝状贈呈
○講演会

演題「新学習指導要領の趣旨を踏まえた
理科の授業づくり」

文部科学省初等中等教育局教科調査官
鳴川　哲也　氏

３　理科教育研究発表会（教員の部）開催

平成30年８月22日㈬

会場：さいたま市青少年宇宙科学館

４　第２回常任理事研修会　平成30年８月31日㈮

会場：埼玉会館

○科学教育振興展覧会（中央展）の計画
○理科教育研究発表会（教員の部）の反省
○　〃　（児童生徒の部）の計画

５　科学教育振興展覧会（中央展）開催

平成30年10月26㈮・27日㈯・29日㈪

会場：加須市立北川辺西小学校

６　理科教育研究発表会（児童生徒の部）開催

平成31年２月15日㈮

会場：アスピアたまがわ

７　第３回常任理事研修会　平成31年２月27日㈬

会場：埼玉会館

○科学教育振興展覧会（中央展）の反省
○理科教育研究発表会（児童生徒の部）の反省
○平成31年度の活動計画について

Ⅲ　研究内容

１　小学校理科指導法研究委員会

今年度は、昨年度に引き続き、「理科における資質・能力を育成する指導の工夫～思考力、判断力、表現力等～」をテーマに研究を進めてきた。特に、思考力、判断力、表現力等の中でも問題解決の力の育成に重点を置き、今年度はさらに理科の見方・考え方を働かせて問題解決の力を育成するための手立てを、指導と評価の両面から追究し、実践を行った。また、グループ研究とすることで、単元毎に働かせる理科の見方・考え方を整理しながら、各自の実践を基に協議を行い、研究を深めていくことができた。委員の先生方に御執筆いただいた実践事例は、埼理研のホームページにて紹介している。

＜構成委員＞

顧　　問　関根　　努　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事

佐久間貴宏　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委員長　石田　耕一　さいたま市立大宮東小学校長
副委員長　秋元　敏行　熊谷市立成田小学校長
＜委員＞
川口　前川　浩二　　蕨　鈴木　圭
草加　高鹿　正太　　朝霞　高柳　新
鴻巣　三上　永　　鴻巣　須田　歩太
上尾　髙橋　恭之　　さいたま　新海　智哉
さいたま　吉野　朝子　　さいたま　田中　麗
入間　藤本　純平　　入間　村上　昌代
比企　權田　尚岳　　秩父　笠原　祐希
児玉　田島　弘達　　大里　明智　奨己
大里　木村　洋介　　北埼　田沼　渉
埼葛　塩野谷直充　　埼葛　上野　泰明
幹　事　塩盛　秀雄　肥田　幸則（埼大附小）

２　中学校指導法研究委員会

今年度は、物理・化学・生物・地学それぞれの分野毎に「見方・考え方」を働かせる学習場面を設定した指導案を作成し、その取組が「深い学び」につなげることができるかどうかを検討した。その後、各委員の学校で実践し、その成果と課題を明らかにした報告書を埼玉県理科教育研究会のホームページに掲載して、広く活用してもらうことを目指していく。

＜構成委員＞
顧　問　鮫島　弘樹　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
佐久間貴宏　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委員長　石田　耕一　さいたま市立大宮東小学校長
副委員長　安部　正幸　川口市立東中学校長
＜委員＞
川口　中田　智博　　入間　青柳　智之
蕨　廣瀬　梨沙　　比企　米山　祐樹
草加　本田　光平　　秩父　田之上大輔
朝霞　宮嶋　龍介　　児玉　設楽　俊一
鴻巣　西倉　雅樹　　大里　大澤　豪人
上尾　東迫　隼平　　大里　町田　典洋
さいたま　塚原　益夫　　北埼　野木村　祐
さいたま　大嶋　陽介　　埼葛　石原功太郎
埼葛　吉田　巧
幹　事　島田直也　山本孔紀　伊藤悠昭（埼大附中）

３　小学校理科ICT活用研究委員会

今年度は、昨年度に引き続き、「理科における資質・能力を育成する指導の工夫～思考力、判断力、表現力等～」をテーマに研究を進めてきた。特に、思考力、判断力、表現力等の中でも問題解決の力の育成に重点を置き、今年度はさらに理科の見方・考え方を働かせて問題解決の力を育成するための手立てを、ＩＣＴ機器を効果的に取り入れながら指導と評価の両面から追究し、実践を行った。また、グループ研究とすることで、単元毎に働かせる理科の見方・考え方を整理しながら、各自の実践を基に協議を行い、研究を深めていくことができた。委員の先生方に御執筆いただいた実践事例は、埼理研のホームページにて紹介している。

＜構成委員＞
顧　問　関根　努　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
佐久間貴宏　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委員長　石田　耕一　さいたま市立大宮東小学校長
副委員長　秋元　敏行　熊谷市立成田小学校長
＜委員＞
川口　石山　和之　　蕨　太田　啓輔
草加　美﨑翔太郎　　朝霞　櫛引　歩
鴻巣　内野　皓輝　　上尾　石川　雅之
さいたま　高野　智大　　さいたま　高澤　玲子
入間　髙橋　祐介　　比企　半田　北斗
秩父　黒沢　恵理　　児玉　野村　晃一
大里　平柗　美誠　　北埼　小林　敦
埼葛　山口　真一　　埼葛　前田　祥治
幹　事　塩盛秀雄　肥田幸則（埼大附小）

４　中学校理科基礎学力調査研究委員会

授業の改善に役立てることを目的とし、全国学力・学習状況調査を参考に、実生活の様々な場面において学習した知識や技能を活用できる力を評価する調査問題を作成した。問題の作成等は、県内の各支部からの先生方18名（幹事支部より５名）によって構成された中学校基礎学力調査研究委員会が行った。本年度は蕨支部が幹事支部として委員会の総括にあたる。なお、本委員会で作成した問題は、日頃の学習指導での評価問題や演習問題として活用できるよう、埼玉県理科教育研究会ホームページで一般公開を行っている。

＜委員構成＞
顧　問　鮫島　弘樹　県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事
佐久間貴宏　さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事
委員長　石田　耕一　さいたま市立大宮東小学校長
副委員長　安部　正幸　川口市立東中学校長
担当支部長　佐藤　哲浩　志木市立宗岡中学校長
＜委員＞
川口　高安　友梨　　蕨　貞野　健一
草加　宮崎　明彦　　朝霞　鈴木　雅也
朝霞　齋藤　宏佳　　朝霞　横堀　智
朝霞　松島　優子　　鴻巣　石井　暁生
上尾　樋口　裕大　　さいたま　加茂　誠大
さいたま　野口　祥太　　入間　田中　直哉
比企　須田　慶子　　秩父　長谷河健志
児玉　若林　佑　　大里　永島　大輔
北埼　多田　明彦　　埼葛　綱取　健太
幹　事　島田直也　山本孔紀　伊藤悠昭（埼大附中）

Ⅳ　研究委嘱校

1　春日部市立八木崎小学校（校長　福原　秀晴）

⑴　期　日
平成30年６月21日㈭、６月28日㈭
９月27日㈭、10月18日㈭
10月25日㈭、11月15日㈭

⑵　研究主題
『思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業方法の工夫～主体的・対話的な深い学びを通して～』

⑶　研究授業
第１学年「わたしのあさがお」
第２学年「わたしたちの野さいばたけ」
第３学年「明かりをつけよう」
第４学年「水の３つのすがた」
第５学年「電流のはたらき」
第６学年「植物の養分と水」

⑷　指導者
埼玉大学教育学部自然科学講座理科教育学教室准教授　中島　雅子
埼玉県教育局東部教育事務所学力向上推進担当指導主事　木村　優二
春日部市教育委員会学校教育部指導課指導主事　石川　和明
春日部市教育委員会学校教育部指導課指導主事　冨山　忍

2　さいたま市立大谷口小学校（校長　八木澤　龍馬）

⑴　期　日
平成30年６月４日㈪、７月５日㈭、７月９日㈪
９月20日㈭、10月18日㈭、11月５日㈪
11月20日㈫

⑵　研究主題
『気づき、考え、みがき合う　けやきっ子
～問題解決の力を育む理数教育の充実～』

⑶　研究授業
第６学年２組　「植物のからだのはたらき」
高山　愛子　教諭
第４学年３組　「電気のはたらき」
新倉多美子　教諭
第２学年４組　「大きくなあれわたしの野さい」
野村　唯　教諭
なかよし学級　「秋さがしをしよう」
溝口あずさ　教諭
第５学年３組　「流れる水の働き」
小川　卓也　教諭
第１学年４組　「たのしいあきいっぱい」
海老名　諒　教諭
第３学年３組　「明かりをつけよう」
飯塚　健太　教諭

⑷　指導者
さいたま市学校教育部指導１課主任指導主事　中村　誠
さいたま市学校教育部指導１課主任指導主事　佐久間貴宏
さいたま市学校教育部指導１課主任指導主事　新井　飛鳥
さいたま市学校教育部特別支援教育室指導主事　伊藤　ふみ

3　さいたま市立大宮東小学校（校長　石田　耕一）

⑴　期　日　平成31年２月22日㈮

⑵　研究主題
『自由な試行から児童が疑問を見出し、
自らの思考に沿って問題解決を図る授業づくり』

⑶　研究授業
第５学年　単元名「電流が生み出す力」
吉野　朝子　教諭

⑷　指導者
埼玉大学教育学部准教授　中島　雅子

Ⅴ　理科教育研究発表会

1　教員の部

⑴　日　時　平成30年８月22日㈬

⑵　会　場　さいたま市青少年宇宙科学館

⑶　指導者　埼玉大学　小倉　康
埼玉大学　中島　雅子
県教育局義務教育指導課　関根　努
さいたま市教育委員会　佐久間貴宏
県教育局南部教育事務所　山﨑　斉
さいたま市教育委員会　松井　健
埼玉県理科教育研究会
石田　耕一　松澤　忠明　安部　正幸

⑷　担　当　さいたま支部（支部長　引間　和彦）

⑸　発表テーマ・発表者一覧

ア　小学校教員の部

①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた問題解決を促す授業づくり～「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点に立った理科における授業改善～
さいたま市立東大成小学校　松本　真治

②主体的な学習を促し、学力向上につなげる指導の工夫～科学の順序に基づいた授業展開と日常生活への関連づけ～
川口市立芝富士小学校　鈴木　教子

③問題を主体的に解決する力を育む学習指導の工夫
春日部市立幸松小学校　佐藤　真晴

④伝え合い、学び合う子どもの育成～問題解決を通して～
川越市立上戸小学校　杉本健一郎

⑤授業効果を高める指導法
～学び合いを通して科学的思考を深める指導法～
飯能市立富士見小学校　設楽　雄貴

⑥理科好きな子どもを育てる指導法
さいたま市立大成小学校　神田　周愛

⑦キャリア教育の視点から理科を学ぶことの有用性を高める手法の研究
滑川町立月の輪小学校　贄田　亮

⑧「主体的・対話的で深い学び」のある理科指導の研究～インクルーシブ教育の見える化の実践を土台として～
熊谷市立熊谷西小学校　綿貫　祐介

⑨主体的に問題解決を行う児童の育成を目指した基礎研究
羽生市立手子林小学校　蛭川　千秋
⑩日常生活と理科の授業をつなぐ指導の工夫
本庄市立秋平小学校　田島　弘達
⑪授業改善サイクルを生かした理科授業の工夫
～一枚ポートフォリオ評価（OPPA）を通して～
秩父市立尾田蒔小学校　松本　尚樹

イ　中学校教員の部
①ルーブリックの提示の工夫が実験レポートに及ぼす効果
さいたま市立内谷中学校　猪俣　雄
渡井　智裕
②学力向上に繋がる話合い活動を活性化させるための授業の工夫
上尾市立上平中学校　髙栁　隆寿
③ダニエル電池の教材としての有用性
川越市立鯨井中学校　西川　一輝
入間市立野田中学校　浅見　浩佑
④すすんで学ぶ力を伸ばす授業の工夫
所沢市立三ヶ島中学校　宮﨑　理子
⑤わかりやすい理科の学習
～ユニバーサルデザインの視点から～
入間市立藤沢中学校　近藤　里奈
⑥“資質・能力の育成を目指した授業実践
～中学３年間を見通した学習指導～”
熊谷市立中条中学校　永島　大輔
⑦理科を学ぶことに対する関心・意欲や意義・有用性に対する認識の改善
上里町立上里中学校　前原　英統

２　児童生徒の部

⑴　期　日　平成31年２月15日㈮
⑵　会　場　ときがわ町文化センター
アスピアたまがわ
⑶　指導者　埼玉大学教員　他

Ⅵ　科学教育振興展覧会

１　地区展

⑴　期　間　９月29日㈯～10月16日㈫
会　場　県下10会場各３～４日間
⑵　出品数　1,779点（小・中）
⑶　優秀な作品（小・中・高　110点）中央展へ

２　中央展

⑴　期　間　10月26日㈮・27日㈯・29日㈪
会　場　加須市立北川辺西小学校
⑵　出品数　小・40点　中・40点　高・30点
⑶　審査員
埼玉大学教育学部
教授　金子　康子　小倉　康　冨岡　寛顕
岡本　和明　大向　隆三
准教授　日比野　拓
埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課指導主事　前田　雄太
埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事　関根　努
さいたま市教育委員会学校教育部指導１課主任指導主事　佐久間貴宏
埼玉県教育局東部教育事務所指導主事　須永　清司
加須市教育委員会学校教育課指導主事　大井　晋
埼玉県理科教育研究会副会長　秋元　敏行
埼玉県理科教育研究会副会長　安部　正幸
埼玉県高等学校理化研究会会長　関　俊秀
埼玉県高等学校生物研究会会長　磯貝　明宏
埼玉県高等学校文化連盟自然科学専門部会長　中村　篤
⑷　受賞作品
◎埼玉県知事賞
ビュンビュン回れ！！風力発電機
滑川町立月の輪小学校　落合　人士
滲むな！！墨汁Part2
越谷市立千間台中学校　押田　萌花
流体による制震構造
県立浦和第一女子高等学校　渡部　ゆう
◎埼玉県議会議長賞
タイヤの秘密を探れ！
越谷市立川柳小学校　川柳レーシングチーム
代表　千葉　朝陽　他９名
あさがおのふしぎ８　寝ない朝顔と起きない朝顔
小川町立欅台中学校　中村　啓美
多目的に活用できる抗生物質生産菌の選別
～トマトとランの病原菌及びアレルゲンになるカビの抑制～
県立松山高等学校　熊木　日向　他２名
◎埼玉県教育長賞
「カブトムシの大きさの研究」Ⅱ－大きさをコントロールすることへの挑戦―
久喜市立本町小学校　渡邉　良洋
食物連写の反逆者　食虫植物の生態に迫るPart3
～ムジナモ編～
羽生市立南中学校　石川　喜寛
音刺激を用いたゼブラフィッシュの学習
県立浦和第一女子高等学校　成田　咲耶

Ⅶ　今後の課題

次期学習指導要領完全実施に向けて、情報収集と具体的な指導法の研究が急務といえる。本研究会から新たな理科教育を発信できるよう、各種委員会で研究を深めたり、総会で教科調査官の先生の講演会を開催したりするなど、研究と発信の場をより確保していく必要がある。

また、昨今の働き方改革の流れも受けて、理科教育研究会の事業についても見直していく時期・段階に入ってきていると考えている。各事業について軽重をつけながら、運営面での見直しを行い、理科に携わる先生方、何よりも理科を学習する児童生徒にとって、よりよいものにしていく必要がある。

６　音　楽　教　育

埼玉県音楽教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「伝わる音楽」

～音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して～

２　研究主題について

⑴　「伝わる音楽」について

これまでの音楽科の授業の中で、表現領域において児童生徒が思いや意図をもって音楽表現を工夫する際に、その根拠が大切にされなかったり、思いや意図と音楽表現が適切に結び付いていなかったりする学習活動が見られた。また、鑑賞領域においては、「感じ取りましょう」「味わいましょう」と知覚・感受する視点が児童生徒まかせになってしまう授業や、知覚・感受をする活動が重視されずに、教師から児童生徒に一方的に知識として教え込むような授業が行われることもあった。つまり、音楽の様々な特性から音楽美を感得し合う「音楽の共有」が十分になされないままに、授業が展開されることが課題となっていた。

そこで、本研究では、協働的な学びを重視し、表現領域及び鑑賞領域で、児童生徒同士、教師と児童生徒が音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合うことを「伝わる」とし、「伝わる音楽」があふれて展開される授業の創造を目指すこととした。

表現領域において児童生徒が「伝わる音楽」を目指すとき、音や音楽に対するイメージを膨らませ自分なりの意図をもち、試行錯誤して表現することが大切であり、音楽表現と結び付け、そこに音楽に対する新しい価値を創造しようとする。その際、自分なりのイメージや表現意図を表すために、感性を敏感に働かせ、技能を高めながらよりよい音楽表現を求めていく。その過程は、思考・判断・表現を伴い、児童生徒の感性を豊かにしていく。

鑑賞領域においては、楽曲から音楽のよさや美しさなどについて、音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由を挙げながら言葉で表したり、その音楽が自分にとってどのような価値があるのかを明らかにしたりする活動をするとき、児童生徒は、音楽と言語を結び付けるために感性を働かせる。

こうした音楽を共有し、音楽がもつ価値を互いに認め合う「伝わる」活動が、児童生徒の感性を豊かにすると考え、本主題を設定した。

⑵　「音楽を共有し、感性を豊かにする学びを通して」について

音楽を共有し、音楽を多角的に捉えたり、自分の感じたことを改めて捉え直したりする中で、児童生徒の音楽的感受性は豊かになる。音楽的感受性を高めたとき、児童生徒は、明確な思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽のよさや魅力をより味わって聴いたりすることにつながる。音楽活動から感得した音楽の価値を明らかにしたり、再認識したりすることを通して、本研究で目指す児童生徒の姿とは、次のとおりである。

・思いや意図をもって音楽表現を工夫し、新しい価値を創造することができる児童生徒
・音楽のよさや魅力を味わい、自分にとっての価値を見いだすことができる児童生徒

音楽的感受性、すなわち音楽に対する感性を豊かにすることは、美しいものや崇高なものに感動する心を育む上で欠かすことができないものである。また、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考えたり、共感したり価値観の違いを認め合ったりすることのできる温かい心などを育むことにつながる。

以上の理由から、本研究の副主題とすることにした。

３　研究の方針

本連盟の研究推進に当たっては、役員研修会、音楽会、実技研修会、研究紀要（会報）のそれぞれの場において実施されるようにした。昨年に引き続き、組織及び活動内容の見直しについて、実践を行った上で、成果と課題を探った。それについては以下のとおりである。

⑴　役員研修会

役員研修会は、本連盟における研究内容や方法についての共通理解が図られる、研究推進において重要な研修会である。事業内容厳選にかかわる指導の下、年間３回（６月中旬、夏季休業中、２月中旬）役員研修会を開催している。

第１回役員研修会では全体会にて、昨年度の事業報告があった。また、本年度の活動内容について計画立案、報告があり、音教連の役員が一丸となって活動する方向を提示することができた。

第２回役員研修会では、各地区からの活動報告がなされた。また、各地区、中央大会に関する音楽会についての報告を行った。また、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程課調査官　文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官　志民　一成　先生を招いて講演会を開催した。その他、各部会の活動や研究委嘱に関する指導案検討や役割分担等が活発に行われた。

第３回の役員研修会では、今年度の活動の総括として各地区活動報告と来年度に向けて準備を行った。また、東京藝術大学音楽学部楽理科学長特命（社会連携担当）社会連携センター長　教授　佐野　靖　先生を招いて講演会を開催した。

⑵　音楽会

音楽会の実施状況は次のとおりである。

○地区音楽会を県内10地区で開催

○中央大会を県南・県北の２会場にて開催

⑶　実技研修会

現在、本連盟で実施している実技研修会は、次のとおりである。

○県内10地区ごとに行われる研修会
（実施計画、運営は各地区に一任）

○小学校管楽器指導に関する研修会

○合唱指導に関する研修会

これらの研修会は、児童生徒一人一人が豊かな音楽経験を積むことができ、そのことを通して「音楽性」「豊かな感性」を確実に育てていくために、音楽教育に携わる教師の資質向上を目的として実施されるものである。

このことの共通理解を図りながら、実施内容や方法について研究を進めていくようにした。

Ⅱ　活動状況

１　役員研修会

⑴　平成30年６月８日㈮

会場：さいたま市　プラザイースト

・平成29年度事業・決算及び監査報告
・平成30年度役員について
・平成30年度事業案・予算案審議　等

⑵　平成30年８月22日㈬

会場：さいたま市　プラザウエスト

・夏季地区研修会計画
・小・中学校音楽教育実技研修会計画
・地区音楽会の計画
・研究委嘱校研究発表大会について
・教育講演会

講師　国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程課調査官文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官
志民　一成　先生

⑶　平成31年２月13日㈬

会場：さいたま市　プラザウエスト

・夏季地区研修会　地区音楽会報告
・教育講演会

講師　東京藝術大学音楽学部楽理科
学長特命（社会連携担当）
社会連携センター長
教授　佐野　靖　先生

２　音楽会

⑴　地区大会：日程及び会場

地　区	期　日	会　場
さいたま市	11月９日㈮ 11月９日㈮	㈼ 彩の国さいたま芸術劇場 ㈶ さいたま市民会館おおみや
南部・南	11月16日㈮	戸田市文化会館
南部・北	11月９日㈮	鴻巣市文化センター
西部・南	11月16日㈮	ウエスタ川越
西部・北	11月20日㈫	東松山市民文化センター
秩　父	11月８日㈭	秩父宮記念市民会館
北部・西	11月７日㈬	本庄市民文化会館
北部・東	11月７日㈬	熊谷市文化創造館さくらめいと
東部・北	11月９日㈮	パストラルかぞ
東部・南	11月20日㈫	春日部市民文化会館

＜実施委員長＞

さいたま市：（器）監物　幸彦（さいたま・見沼小）
（歌）加藤　りさ（さいたま・美園中）
鈴木　　純（さいたま・宮原中）
髙山　裕子（さいたま・大宮東中）

南部・南　：　藤川　英子（川口・芦原小）
南部・北　：　吉野　徳子（鴻巣・鴻巣北小）
西部・南　：　尾澤　栄一（狭山・入間野中）
西部・北　：　中村　　孝（嵐山・七郷小）
秩　　父　：　島嵜　孝夫（横瀬・横瀬小）
北部・西　：　前田　芳江（神川・神泉小）
北部・東　：　小島　一代（熊谷・奈良小）
東部・北　：　小林　澄江（行田・須加小）
東部・南　：　横崎　剛志（越谷・大袋小）

＜指導助言者＞

さいたま市：（器）鈴木　　純（さいたま・宮原中）
（歌）髙山　裕子（さいたま・大宮東中）

南部・南　：　米原　大司（さいたま・上小小）
南部・北　：　岡島　一恵（富士見・水谷小）
西部・南　：　小暮　孝明（戸田・戸田東中）
西部・北　：　吉野　徳子（鴻巣・鴻巣北小）
秩　　父　：　横崎　剛志（越谷・大袋小）
北部・西　：　藤川　英子（戸田・芦原小）
北部・東　：　加藤　りさ（さいたま・美園中）
東部・北　：　吉原　敦子（日高・高根小）
東部・南　：　尾澤　栄一（狭山・入間野中）

地区音楽会については、各地区により事情は異なるが、学校数の多いさいたま市、南部・南地区、西部・南地区、東部・南地区については、参加校のローテーションや実施方法についての配慮が必要である。

⑵　中央大会：日程及び会場

○県南大会　11月30日㈮
会　　場　さいたま市民会館おおみや
実施委員長　藤澤　太郎（さいたま・上落合小）
指導助言者　田嶋　貴子（南部教育事務所）
望月　文恵（さいたま市立教育研究所）

○県北大会　11月28日㈬
会　　場　深谷市民文化会館
実施委員長　新井　麻起（熊谷・星宮小）
指導助言者　伊藤　　誠（埼玉大学教育学部）
齊藤　直美（埼玉県教育委員会）

３　夏季地区研修会日程、内容、会場

＜さいたま市＞

○期　日　８月20日㈪
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○講　師　若松　歓　先生（作曲家）
・音楽と豊かに関わる児童生徒を育む合唱指導法研修

＜南部・南（旧北足立南部地区）＞

【川口市】
○期　日　８月17日㈮
○会　場　蕨市立文化ホールくるる
○講　師　Percussion Performance Players
＜午前＞打楽器の基本的な奏法と指導法
＜午後＞音楽レクチャーコンサート

【草加市】
○期　日　８月23日㈭
○会　場　草加市立谷塚小学校
○講　師　山崎　朋子　先生
（東京都調布市立第五中学校　指導教諭）
・合唱指導について

【蕨市】
○期　日　８月７日㈫
○会　場　蕨市立南小学校
○講　師　羽生田　麻子　先生
（春日部市立上沖小学校　教諭）
・鑑賞の指導法と評価について

【戸田市】
○期　日　７月27日㈮
○会　場　埼玉栄高等学校
○講　師　島方　麻美　先生
（埼玉栄中学・高等学校　教諭）
・合唱指導、発声法や曲作りについて

【朝霞市・志木市・和光市】
○期　日　８月22日㈬
○会　場　和光市立下新倉小学校
○講　師　坪能　由紀子　先生
（開智国際大学　教授）
・創作の指導法研修

＜南部・北（旧北足立北部地区）＞

○期　日　８月３日㈮
○会　場　北本市立中丸小学校
○講　師　永井　基生　先生
（上尾市立東町小学校　主幹教諭）
・小・中学校における合唱指導について

○期　日　８月17日㈮
○会　場　上尾市立今泉小学校
○講　師　都木　雅之　先生
（上尾市立上尾中学校　主幹教諭）
・長唄の指導法について

＜西部・南（旧入間地区）＞

○期　日　７月24日㈫
○会　場　坂戸市勝呂公民館
＜午前＞○講　師　戸澤　悦子　先生
（熊谷市立妻沼小学校　教諭）
・歌唱指導の実際
＜午後＞○講　師　河﨑　秋彦　先生
（取手市立取手東小学校　教諭）
・音楽のよさや面白さを味わう鑑賞指導

＜西部・北（旧比企地区）＞

○期　日　８月10日㈮
○会　場　東松山市立唐子小学校
○講　師　岩井　智宏　先生
（桐蔭学園小学部　教諭）
・担任が行う音楽授業の実際

＜秩父地区＞

○期　日　11月30日㈮
○会　場　横瀬町立横瀬中学校
○講　師　眞鍋　淳一　先生
（東京都町田市立鶴川第二中学校　教諭）
・歌唱指導について

＜北部・西（旧児玉地区）＞

○期　日　８月９日㈭

○会　場　上里町立上里北中学校

○講　師　藤川　泰彰　先生　　（声楽家）

・合唱の指導と指揮法について

＜北部・東（旧大里地区）＞

○期　日　８月27日㈪

○会　場　深谷市川本公民館

○講　師　印東　公民　先生

（深谷市立幡羅中学校　教諭）

・音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽と豊かに関わろうとする児童生徒を育てる音楽科の授業づくり

＜東部・北（旧北埼玉地区）＞

○期　日　７月30日㈪

○会　場　パストラルかぞ

○講　師　粟飯原　喜男　先生

（音楽の授業をつくる会　代表）

・音楽を味わって聴く力を育成する鑑賞指導

＜東部・南（埼葛地区）＞

○期　日　７月27日㈮

○会　場　松伏町中央公民館　エローラ

＜午前＞○講　師　粟飯原　喜男　先生

（音楽の授業をつくる会　代表）

・子供の表現を引き出す指導の工夫

＜午後＞○講　師　田久保　裕一　先生

（東京指揮者研究会　代表）

・合唱指揮法（授業で使える合唱指導）

Ⅲ　研究

＜第60回関東音楽教育研究会千葉大会＞

平成30年11月16日㈮

大会主題「感じ取り　表現し　共に伝える音楽のよろこび」

○第１分科会　小学校２年＜音楽づくり＞

「ひょうしをかんじてリズムをつくろう」

授業者　松戸市立八ヶ崎第二小学校

阿部　恭子　教諭

○第２分科会　小学校４年＜音楽づくり＞

「日本の音楽に親しみ、日本の音階でせんりつをつくろう」

授業者　松戸市立馬橋小学校

八巻　こずえ　教諭

○第３分科会　小学校５年＜器楽＞

「曲想を感じ取り、楽器の特徴を生かして表現しよう」

授業者　松戸市立上本郷小学校

梅　　昌子　教諭

○第４分科会　小学校５年＜鑑賞＞

「日本歌曲を味わおう～山田耕筰の歌曲を通して～」

授業者　松戸市立殿平賀小学校

佐藤　悠香　教諭

○第５分科会　中学校２年＜創作＞

「音やリズムの重なりを工夫してヴォイスアンサンブルをつくろう」

授業者　松戸市立第一中学校

長谷川　清文　教諭

○第６分科会　中学校３年＜歌唱＞

「歌詞に込められた思いを歌で表現しよう」

授業者　松戸市立小金南中学校

栢木　幸宏　教諭

○第７分科会　中学校２年＜鑑賞＞

「長唄の表現の多様性を感じ取って日本の音楽に親しもう」

授業者　松戸市立栗ヶ沢中学校

今　奈己子　教諭

○第８分科会　中学校３年＜鑑賞＞

「作曲者の思いを感じ取って聴き音楽のよさや美しさを味わおう」

授業者　松戸市立第五中学校

上條　　薫　教諭

【研究演奏】

○松戸市立牧之原小学校

○松戸市立東松戸小学校

○松戸市立第一中学校

○松戸市立第四中学校

○松戸市立第六中学校

○松戸市立小金中学校

○松戸市立小金南中学校

【指導者】

文部科学省　　志民　一成　教科調査官

千葉大学教育学部　　本多　佐保美　教授

Ⅳ　今後の課題

今後も研究主題「伝わる音楽」の下、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、指導計画を作成し、実践を行っていくことが必要である。

音楽活動における児童生徒の姿に、より一層の表現する喜びや音楽と関わる楽しさが現れるような授業を県内全体に広げていくことが、本連盟における次年度以降の課題である。

7　図画工作・美術教育

埼玉県美術教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

埼玉県美術教育連盟は創立70年を迎えた。この長きにわたる歴史は埼玉の図工・美術教育の歩みでもある。また、造形教育研究大会も第60回を迎えた。大会を通じて研究の成果が県内各学校の図工・美術教育の進展に大きな役割を果たしてきた。

本年度の造形大会は、東部ブロックを中心に開催され、夏季休業中に１日半で実施した。創造体験研修会の各コースを県内５地区で担当することにより若手教員の育成と題材の発展を図ることをねらいとしており、大きな成果を挙げることができた。

今後も、先輩諸氏が長年にわたって築き上げてきた実践と研究が基盤となって本県の造形教育が発展してきたことを確認し合い、時代の流れを正確に見据えて改善を実施していくとともに、図画工作・美術がもつ可能性を広げていきたい。

１　研究主題

きらめく感性　つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求～
（１年次）

⑴　受け止めよう　子どもの心
- 子どもたち一人一人の心をしっかりと受け止め、励まし、豊かな心を培うこと
- 自分の心を見つめ、他者と心を通わせ合うことを大切にすること

⑵　育てよう　確かな力
- 「確かな力」を生きて働く力ととらえ、育てたい力を具体的に明らかにし、学びを深めていくこと。
- 造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること

⑶　深めよう　生き生き授業
- 子どもたちの実態に適した授業、子どもたちが生き生きと活動できる授業を構想すること
- 「主体的・対話的で深い学び」という視点も生かしながら、授業づくりのための手立てを豊かにすること

２　活動方針

⑴　研究テーマは、時代の要請を受けて設定する。

⑵　造形教育の広がりと発展を期すため、授業実践研究会と創造体験研修会を造形教育研究大会において年１回（１日半）夏季休業中に開催する。開催地は、県内５ブロックに分けて輪番にする。

⑶　時代や社会の変化を見据えてその要請に応える研究を推進する。

⑷　造形教育研究大会の諸準備に当たり、理事会等の期日や時間を活用し、必要に応じて大会スタッフや提案者等が連絡、相談し合う場を設ける。

Ⅱ　活動状況

会則に基づき、次の事業を行った。

５月11日㈮　役員研修会（常任理事会）
会場：埼玉大学教育学部附属小学校

６月15日㈮　総会
会場：埼玉大学教育学部附属中学校

６月23日㈯　関東甲信越静地区造形教育連合
都県代表者会議　参加
会場：新宿区立落合第四小学校

８月８日㈬～９日㈭　第60回埼玉県造形教育研究大会
会場：蓮田市総合文化会館
ハストピア

８月22日㈬　役員研修会（理事会）
会場：埼玉大学教育学部附属小学校

８月23日㈭　平成30年度身体障害者福祉のための
第60回埼玉県児童生徒美術展覧会
中央審査会
会場：埼玉県障害者交流センター

10月12日㈮　郷土を描く児童生徒美術展中央審査会
会場：川里農業研修センター

10月20日㈯～21日㈰　平成30年度身体障害者福祉のための第60回埼玉県児童生徒美術展覧会
会場：プラザノース

11月８日㈭～９日㈮　第58回関東甲信越静地区造形教育研究大会　東京大会参加

12月１日㈯～２日㈰　第53回郷土を描く児童生徒美術展
会場：県民活動総合センター

１月下旬～２月上旬　第59回埼玉県小・中学校児童生徒美術展　県下10会場で開催

２月15日㈮　役員研修会（理事会）
会場：埼玉県立近代美術館
２月16日㈯　第59回埼玉県小・中学校児童生徒
～17日㈰　美術展　第11回中央展

Ⅲ　研究内容

１　第60回埼玉県造形教育研究大会

⑴　大会主題

きらめく感性　つくりだす喜び
～未来をひらく授業づくり「深い学び」の探求～

⑵　趣旨

本連盟では、参加される先生方が研修会の主体となり、子供たちと同じ目線で、新しい授業提案や題材開発につながるような授業実践発表会や実技研修会を求めて、本大会を実施してきた。平成27年度より、それまでは年２回に分けて開催していた「授業実践研究会」と「創造体験研修会」を夏季休業期間に１日半で実施している。子供たちが、つくりだす喜びにあふれる授業を実現したいとの思いで、子供たちの喜びの声や輝く顔を実現するための授業提案や体験研修を企画し、後者では、様々な素材をもとにした題材の表現のあり方や可能性を追求する目標に加えて、題材開発という視点だけでなく創造的な技能と創造する心を学ぶことを重視している。分科会ごとのテーマを設定し、参加される先生方がそれぞれの希望に応じて多様なコースを選択できるようにしている。

⑶　主催　埼玉県美術教育連盟

⑷　後援　埼玉県教育委員会
さいたま市教育委員会
蓮田市教育委員会

⑸　期日　平成30年８月８日㈬
授業実践研究会
８月９日㈭
創造体験研修会

⑹　会場　蓮田市総合文化会館ハストピア

⑺　１日目　授業実践研究会
日程　受　付　９：15～９：45
全体会　９：45～10：05
提案①②　10：15～12：30

	分科会	分科会協議題
1	素材との対話	①地元の土で、土粘土や飾り砂をつくって材料に対する関心と愛着を高める工夫 1500万年前の粘土が蘇る！！ ②紙のよさを考えて使う表現活動 ～色々MYハット～（中３）～
2	自己との対話	①ピコリンランド ～楽しいなかまと遊ぼう～ ピコリン星　ゆめのステージ（２年） ②自己を見つめ新たな自分と出会う表現の活動 14歳の手　－思いを彫刻に－
3	生活との対話	①生活を豊かにする力を育む授業づくり ～ようこそ！秘密ステーションへ～ ②～自分らしさを表現しよう～ 自信の持てるデザイン　Cloth ～プロダクトデザインを考える～ （中２～中３）
4	作品等との対話	①～紙粘土のよさを発揮して表現しよう～ 「ようこそ、ぼく･私の白い世界へ」 （５年） ②「ART」に触れ、育つ力 豊かな感性を育む鑑賞活動 ～School Gallery in 三芳中学校～ （中２）

２日目　創造体験研修会

日程　受　付　９：15～９：45
コース説明　９：45～10：15
研修会　前半　10：15～12：00
後半　13：00～15：30
後片付け　15：30～16：00

コース		テーマ
Aコース	造形遊び	さわって　ためして　みつけよう！！ ～線から面、塊の造形～
		線の造形を綿棒で、面は絵の具や塊はスライムと、形状の違う素材を試しながらそれぞれに造形を楽しむコースです。
Bコース	絵に表す	いろがみバザール ～素材からイメージを広げて～
		すてきな色紙をつくってイメージを広げましょう。版画ローラー、水彩絵の具クレヨンなどを使った誰でも描ける基礎・基本を紹介します。特別付録つき！
Cコース	立体に表す	つくって　クレイ！
		粘土造形の基礎・基本から表現の可能性を一緒に探ってみませんか。発想から鑑賞まで、あなたの悩みを解決します！明日からの授業に活かせる情報満載のコースです。
Dコース	生活に生かす	Change！！ 美術の力で生活を豊かに楽しく！
		身近にあるものに美術の力を加えて、生活を楽しく豊かにする体験をします。キーワードは、“Change”で、うれしくなったり、くすっと笑ったり、便利になったり、ものの見方や考え方が変わったり…。図工美術の授業改善や教室経営に役立つ内容を提案したいと思います。
Eコース	鑑賞活動	環境と対話する鑑賞会 「蓮田の森の美術館」 ～私のオブジェを紹介～
		紙、粘土などの素材を使って制作したオブジェを会場周辺の実際の風景の中に配置し、デジカメで撮影します。 後半は、それらの映像を用いて様々な鑑賞活動を行います。

Ⅳ　関ブロ大会への参加

１　第58回関東甲信越静地区造形教育研究大会

東京大会

⑴　大会テーマ

「みつめる　つくりだす　つながる
～未来をひらく造形教育～」

⑵　期日　平成30年11月８日㈭・９日㈮

⑶　会場（全体会・各種会議・講演会・レセプション）
かつしかシンフォニーヒルズ
（公開保育・公開授業・分科会）
江東区立第三大島幼稚園
品川区立第三日野小学校
葛飾区立大道中学校

⑷　日程

１日目　・都県代表者会議
・基調提案　大会宣言
・講演会
・レセプション

２日目　・公開保育・授業
・分科会
・各県発表
・トークライブ
・全体会　指導・講評

⑸　埼玉県の発表者

発　表　者	分科会テーマ
西川　洋充 （東松山市立高坂小学校）	つくりだす
阿部　未希 （川口市立仲町中学校）	みつめる

Ⅴ　児童生徒美術展の開催

1　平成30年度身体障害者福祉のための第60回埼玉県児童生徒美術展覧会

⑴　主催・共催
　主催　社会福祉法人
　　埼玉県身体障害者福祉協会
　共催　埼玉県美術教育連盟

⑵　地区審査
　県下10会場で地区審査が行われ、入選・特選作品が選ばれた。

⑶　中央審査会
　平成30年８月23日㈭埼玉県障害者交流センターで、地区審査特選作品750点の中から、特別賞の作品68点が選ばれた。
　また、今年度も県内特別支援学校児童生徒の作品も出品されての審査会となった。

⑷　展覧会会期・会場
　会期　平成30年10月20日㈯～21日㈰
　会場　プラザノース

⑸　表彰式
　平成30年10月20日㈯実施
　プラザノース

2　第53回郷土を描く児童生徒美術展

⑴　主催・共催
　主催　埼玉県校外教育協会
　　埼玉県
　　埼玉県教育委員会
　　埼玉県芸術文化祭実行委員会
　共催　さいたま市教育委員会
　　埼玉県市町村教育委員会連合会
　　埼玉県美術教育連盟

⑵　地区審査
　県下10会場で地区審査が行われ、入選作品9,254点・特選作品1,009点が選出された。

⑶　中央審査会
　平成30年10月12日㈮川里農業研修センターにおいて地区審査で選ばれた特選作品1,009点の中から、埼玉県知事賞等120点が選ばれた。

⑷　展覧会会期・会場
　会期　平成30年12月１日㈯～２日㈰
　会場　県民活動総合センター

⑸　表彰式
　平成30年11月14日㈬実施
　埼玉会館

3　第59回埼玉県小・中学校児童生徒美術展

⑴　主催・共催
　主催　埼玉県教育委員会
　　さいたま市教育委員会
　　埼玉県美術教育連盟
　共催　埼玉県市町村教育委員会連合会

⑵　会期　１月26日㈯～２月３日㈰に実施

⑶　会場　県下10地区会場で開催

⑷　第11回中央展
　①会期　平成31年２月16日㈯・17日㈰
　②会場　埼玉県立近代美術館
　③内容　平面作品100点・立体作品100点
　④表彰　県知事賞
　　県議会議長賞
　　県教育委員会教育長賞
　　さいたま市教育委員会教育長賞
　⑤表彰式　平成31年２月17日㈰
　　13時30分～
　　埼玉県立近代美術館

Ⅵ　今後の課題

図画工作・美術科として、資質・能力を育成することを大切にし、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力・人間性等、そして造形的な見方・考え方を重視した研究を推進していく。

また、「子どもの心」「確かな力」「生き生き授業」という観点を生かしつつ、研究主題について、さらに「主体的・対話的で深い学び」を視点に研究を深めていく。

8 保健体育教育

埼玉県保健体育研究会

本研究会は、小学校部会と中学校部会から成り立ち、互いに連絡を取り合いながら活動をしている。

以下、本年度の両部会の研究方針や活動状況について概略を報告したい。

Ⅰ 小学校部会

本部会の主な活動の中心は「県小学校体育研究協議会」である。本研究協議会は、決められた研究テーマに基づき、個人あるいは共同で研究した結果を発表し合って研究協議を重ね、より優れた体育科教育の指導法や資料を得ようとするものである。

従って、研究については実践的で、日々の指導に直接役立つものが求められている。

1 研究主題の決定

理事会を年度当初に開催し、県教育委員会の指導をいただき、どの学校にも共通した課題として次のような研究主題と３つの領域を決定した。そして、領域毎に分科会を組織して研究協議を進めている。

2 研究主題

「各指導内容をバランスよく指導・評価し、運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫」

「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健学習の工夫」

⑴ ボール運動系

①ボールゲーム （１・２年）

②ベースボール型ゲーム （３・４年）

③ベースボール型 （５・６年）

⑵ 表現運動系

①表現リズム遊び （１・２年）

②表現運動 （３・４年）

③表現運動 （５・６年）

⑶ 保健 （３～６年）

3 研究主題と方針

生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくためには、小学校段階において運動に親しむ資質や能力の基礎を確実に育成することが重要となる。

運動に親しむ資質や能力とは、運動への関心や自ら運動をする意欲、仲間と仲よく運動をすること、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力、運動の技能などを指している。

これらを育てるためには、以下の３点が重要である。

⑴ 児童の発達の段階、運動の特性や魅力に応じて、各指導内容をバランスよく指導・評価し、運動の楽しさや喜びを味わわせることができるようにする。

⑵ 児童に身に付けさせたい具体的な内容を明確にし、指導内容の確実な定着を図ることができるよう指導と評価を的確に行い、できる喜びや達成感を味わわせる。

⑶ 学習規律の確立を図り、助け合い、励まし合い、教え合い、高め合う学習集団を育て、人間関係は温かく、安全で効率的な授業が行えるよう努める。

保健領域については、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を実践的に理解することを通して、自らの生活行動や身近な生活環境における学習課題を把握し、改善することができる資質や能力の基礎を培うことが重要となる。

以上のことから、平成30年度の研究主題を「各指導内容をバランスよく指導・評価し、運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫」及び「健康・安全に関する内容を実践的に理解させる保健学習の工夫」とした。そして、今年度の研究領域は、「ボール運動系」、「表現運動系」、「保健」とした。

4 活動状況

⑴ 資料交換会

研究協議会の参会者に他地区の研究資料を事前に配付することにより、研究を深め、よりよい協議ができるように行っている。

⑵ 指導者・司会助言者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

⑶ 研究協議会

協議会においては、意見交換や協議が充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（９分科会）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

⑷ 指導者

○県教育局県立学校部保健体育課指導主事

○県教育局教育事務所指導主事

○県総合教育センター指導主事

○さいたま市教育委員会指導主事

○市町村教育委員会指導主事

○県小学校体育連盟役員

５　研究の視点

本年度は、各運動領域の次のことに視点を当てて研究を進め、協議する。

⑴　ボール運動系

「ボールゲーム」は、勝敗を競い合う運動をしたいという欲求から成立した運動である。主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせて競争することに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

学習指導では、仲間と協力してゲームを楽しくすることの工夫や楽しいゲームを作り上げることが、児童にとって重要な課題である。

「ボール運動」は、ルールを工夫して、集団対集団の攻防によって競争することに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

「ベースボール型」は、攻守を規則的に交代し合い、一定の回数内で得点を競い合うことを課題としたゲームである。

「ゲーム」では、仲間と協力してゲームを楽しくすることの工夫や楽しいゲームを作り上げることが、児童にとって重要な課題でとなる。

集団で勝敗を競うゲームでは、規則を工夫したり作戦を選んだりすることを重視しながら、簡単な動きを身に付けて、ゲームを一層楽しくしていくことが学習の中心となる。

「ボール運動」では、互いに協力し、役割を分担して練習を行い、技能を身に付けてゲームをしたり、ルールを工夫したり作戦を選んだりすることが学習の中心になる。

⑵　表現運動系

「表現リズム遊び」は、身近な動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりして楽しむことができる運動遊びである。また、友達といろいろな動きを見付けて踊ったり、みんなで調子を合わせて踊ったりして楽しむ運動遊びである。

「表現運動」は、自己の心身を解き放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい恣意運動である。互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

学習指導では、「表現遊び」と「リズム遊び」の両方の遊びを豊かに体験する中で、中学年からの表現運動もつながる即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力などを培えるようにする。そのためには、児童の身近で関心が高く、具体的で特徴のある動きを多く含む題材や弾んで踊れるような軽快なリズムの音楽を取り上げることが必要である。１時間の学習の中に「表現遊び」と「リズム遊び」の２つの内容を組み合わせたり関連をもたせたりする。

「表現運動」では、児童一人一人がこれらの踊りの楽しさや喜びに十分に触れていくことがねらいとなる。そのためには、児童の今もっている力やその違いを生かせるような題材や音楽を選ぶことが必要である。

多様な活動や場を工夫して、一人一人の課題の解決に向けた創意工夫ができるようにしていくことが大切である。特に、中学年では、題材の特徴をとらえた多様な感じの表現と全身でリズムに乗って踊る学習を通して、仲間とかかわり合いながら、即興的に踊る体験が大切である。

高学年では、個人でグループの持ち味を生かした題材の選択や簡単なひとまとまりの表現への発展など、拡大する個の違いに対応した進め方をしていくことが大切である。

⑶　保健

保健については、自他の生命を尊重するとともに、健康的な生活行動や習慣を身に付け、生涯にわたって健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、小学校においては、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な事項で構成し、「毎日の生活と健康」「育ちゆく体とわたし」「心の健康」及び「けがの防止」「病気の予防」の５つの内容がある。

指導に当たっては、学習のねらいと内容を明確にするとともに、児童の発達の段階や生活体験等を十分に踏まえ、効果的な指導時期を設定したり、児童がより実践的に理解するために主体的・対話的で深い学びができるよう指導方法を工夫したりすることが重要である。

６　研究の推進

⑴　県小学校体育連盟各支部においては、必ず２領域（「ボール運動系」「表現運動系」）の研究に取り組む。なお、「保健」に取り組む支部は「ボール運動系」「表現運動系」のどちらかを合わせて２領域とすることができる。

⑵　学校内・地域のグループ、支部等で組織的に取り組むことが望ましい。

⑶　研究対象学年は、ボール運動系と表現運動系は全学年、保健は第３～６学年の中から選ぶ。

⑷　研究仮説をもとに具体的な単元の学習指導計画を作成し、授業を実践して結論を導くようにする。

⑸ 研究の結果については、単元の目標と評価規準に照らし合わせた指導の成果を踏まえ、児童の具体的な変容（数値等）を示して考察を進め、まとめるようにする。

７　今後の課題

○埼玉県やさいたま市の体力向上施策や課題となっている体力を踏まえたさらなる研究の推進。

○本研究協議会後、各地区で行われている報告会の確保と内容の充実。

Ⅱ　中学校部会

本部会の主な活動である「県中学校保健体育研究協議会」では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校における保健体育指導の充実と一層の進展を期するため、教科保健体育の指導及び学校における体育・健康に関する指導上の諸課題から研究主題を設定し、各校の実践を通して得られた成果を持ち寄って研究協議をする。このことにより、一層充実した研究実践を進め、心身共にたくましい生徒の育成を期すると共に、指導者の資質の向上を図ることをねらいとしている。

さらに、県の研究協議会に至るまでの各学校における実践、各地区での資料の作成など研究活動の充実を図る上からも重要な研究協議会である。

１　研究主題の決定

本年度の研究主題は、学習指導要領に基づく体育授業の実践を目指し、昨年度のアンケート調査の結果を参考にし、研究常任委員会で検討を加え、その話し合いでの問題点を県教育委員会・県中学校体育連盟・県保健体育研究会の三者で調整を図り、次に示すように決定された。

２　研究主題と方針

研究主題

「生徒一人一人を伸ばす保健体育指導の実践」

＜第１主題＞

陸上競技の特性に応じた効果的な学習指導の工夫

⑴ 研究の趣旨

学習指導要領は、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する基礎を培うことを重視し、心と体をより一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要であるとしている。また、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視し、学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化を図っている。

さらに、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てることを重視している。指導に当たっては、生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導の在り方が求められる。

このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価においては、観点毎の評価をバランスよく実施することが必要である。

学習評価の妥当性、信頼性等を高める取組が求められていることからも、これらを踏まえ、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定することや評価方法などの評価の計画を工夫する必要がある。

⑵ 研究の観点

生徒一人一人を伸ばす授業の実践に当たっては、個々の能力、適性、興味・関心等に応じた学習指導に努めるとともに、生徒の主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）の推進や、より安全に配慮した指導計画を立てることが大切である。

そのためには、生徒一人一人が自らの目標や課題を明確にし、課題を解決し目標を達成できるようにすることが重要である。

また、生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていくことが重要である。

これらを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、改めて各学校や生徒の実態を的確に把握し、客観的で信頼できる評価規準の設定や創意工夫した評価方法などの評価の計画について研究する。

⑶ 研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、学校や生徒の実態に応じた指導と評価の一体化について研究協議を行う。

＜第２主題＞

ダンスの特性に応じた効果的な学習指導の工夫

⑴ 研究の趣旨

ダンスは、イメージをとらえた表現や踊りを通した交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動であり、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

第１学年及び第２学年では、「イメージをとらえた表現や踊りを通した交流ができるようにする」ことをねらいとし、第３学年では、「感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通した交流や発表ができるようにする」ことを学習のねら

いとしている。

学習指導要領の趣旨に基づき、生徒一人一人の自発的・自主的な運動への取組を引き出し、体力と運動技能を高めるとともに、運動の特性や魅力にふれる楽しさや喜びを味わわせるための学習指導の工夫をする必要がある。

⑵ 研究の観点

生徒一人一人を伸ばす授業の実践に当たっては、個々の能力、適正、興味・関心等に応じた学習指導に努めるとともに、生徒の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点や、より安全に配慮した指導計画を立てることが大切である。

そのためには、生徒一人一人が自らの目標や課題を明確にし、課題を解決し目標を達成できるようにすることが重要である。教師が生徒の課題に対して適切な資料を準備したり、学習を支援する用具の工夫や適切な言葉かけ等を行ったりすることが求められる。

これらのことを踏まえて、これまでの取組を見直すとともに、あらためて各学校や生徒の実態を的確に把握し、生徒一人一人を伸ばす「ダンス」の学習指導について研究する。

⑶ 研究協議の方向

研究の観点に基づき、研究の柱を焦点化して研究を進め、生徒一人一人を伸ばす「ダンス」の学習指導について研究協議を行う。

＜第３主題＞

健康で安全な生活を営むための実践力を育てる保健学習の工夫

⑴ 研究の趣旨

「保健」については、個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることをねらいとしている。

中学校においては、主として個人生活における健康・安全について、科学的に思考し、理解できるようにすることを目指している。

このことは、発達の段階を踏まえて、心身の健康の保持増進に関する内容を、単に知識や記憶としてとどめるだけではなく、生徒が現在及び将来の生活において、健康・安全の課題に直面した場合に、科学的な思考と正しい判断の下に意志決定や行動選択を行い、自らの健康を適切に管理し改善していく思考力・判断力などの資質や能力の基礎を育成することを目指したものである。

⑵ 研究の観点

小・中・高等学校を通じて系統性のある指導ができるように、小学校における「身近な生活において実践的に理解する」という指導内容や学習状況を把握した上で、子供たちの発達の段階を踏まえて、指導内容を明確にすることが大切である。

このため、学習指導要領及び解説から学習内容、指導上の配慮事項、学習方法などを充分読み取る必要がある。

学習指導の展開では、基礎的・基本的な知識を習得した上で、思考力・判断力を育成するために知識を活用する学習活動を授業展開の中に取り入れていくことが重要である。例えば、事例などを用いたディスカッション、心肺蘇生法などの実習、実験、課題学習、また必要に応じてコンピュータ等を活用したり、専門性を有する教員の参加・協力を推進したりするなど、多様な指導方法の導入が効果的である。

このように、生徒の興味や関心を生かし、主体的に活動させ、思考や判断が働くような授業づくりが求められている。そのため、指導方法や評価方法を工夫した効果的な保健学習の在り方について研究する。

⑶ 研究協議の方向

研究の観点に基づき、学校や地域における授業実践を通して、実践力を育てる学習指導の在り方について研究協議を行う。

３ 活動状況

⑴ 資料交換会

研究協議会の参会者に他地区の研究資料を事前に配付することにより、研究を深め、よりよい協議ができるようにするために行っている。

⑵ 指導者・司会者打ち合わせ会

研究協議の内容を高めるため、また、運営を円滑にするために行っている。

⑶ 研究協議会

分科会においては、意見交換や協議することが充実できるように、分科会をそれぞれ小集団（各３グループ）に分けている。ここでは、研究協議が深められ、実り多い討議ができるように工夫している。

⑷ 指導者

○県教育局県立学校部保健体育課指導主事
○県教育局教育事務所指導主事
○県総合教育センター指導主事
○市町村教育委員会指導主事

４ 今後の課題

○県の体力向上施策や課題となっている体力を踏まえたさらなる研究の推進。
○小学校や高等学校の研究協議会と連携を図るなど研究協議会のさらなる充実。

９　英　語　教　育

埼玉県英語教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

１　研究主題

「21世紀を逞しく生き抜く日本人の育成を目指した英語教育　～コミュニケーションを大切にする生徒の育成～」

２　主題設定の理由及び方針

知識基盤社会化やグローバル化が加速度的に進展するこれからの社会において、子供たちが豊かに逞しく生きるために、語学を駆使し協力して課題を解決できるようコミュニケーション力の育成が求められている。また2020年度より、小学校高学年で外国語が必修教科となることから、小学校・中学校とも上級学校との連携を一層進めるとともに、上級学校での英語学習の土台作りを行い、学年が上がるごとに英語の学習意欲が向上するよう、コミュニケーションの必要性と楽しさを体得させる指導を計画的に進めることが求められている。

こうした背景を基に、学習指導要領における外国語科の目標に照らし、これまでの実践を基に、生徒一人ひとりが主体的にコミュニケーションを大切にする英語教育を進め、21世紀を逞しく生き抜く日本人の育成を目指すために本研究主題を設定した。

この手段に迫るために、３年間を通して育てたい生徒像の具現化に向け、①統合的な言語活動を通した表現力の育成、②学習形態などを工夫した発信力の育成、③小中高の連携を意識した英語学習の推進の３点を掲げ、研究を推進する方針である。

Ⅱ　活動状況および研究内容

１　行事計画

６月６日㈬　理事・幹事会
（年間の方針、総会提出議案等の審議）
於：行田市立西中学校

６月６日㈬　総会・授業研究会
（決算、予算、役員選出、事業報告、事業計画についての審議及び研究協議）
於：行田市立西中学校

６月12日㈫　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議①）
於：さいたま市民会館うらわ

６月27日㈬　関ブロ都県代表者会
（関中英協理事会研修会）
於：附属中学校集会室

８月８日㈬　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議②）
於：附属中学校学校図書館

８月17日㈮　学力調査問題作成委員研修会
（問題作成に当たっての研究協議③）
於：附属中学校集会室

10月２日㈫　英語弁論大会準備会
（大会実施に向けての準備・役割分担）
於：横瀬町町民会館

10月10日㈬　第70回高円宮杯英語弁論大会埼玉県予選
（生徒による英語弁論大会）
於：横瀬町町民会館

11月６日㈫　関ブロ実行委員会
（専門部研修会、研究発表会の準備）
於：鴻巣市文化センター

11月15日㈭　第42回関ブロ大会準備会
（専門部研修会、研究発表会の前日準備）
於：鴻巣市文化センター

11月16日㈮　第42回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会埼玉大会
（授業研究、研究成果発表、講義等）
於：鴻巣市文化センター

11月21日㈬　英語学力調査実施（全学年実施）
於：各参加校

３月４日㈪　埼英研だより発行（広報誌の発行）
英語学力調査結果分析速報の発行

３月５日㈫　常任理事会
（年度末反省及び次年度全体研究）
於：附属中学校集会室

３月29日㈮　研究紀要発行

２　役　員

６月６日㈬に行田市立西中学校で行われた総会において、本年度の役員が次のように選出された。

・会　長　　阿久津一浩（さいたま・大成中校長）
・副会長　　笠井　誠司（草加・新田中校長）
田部井康弘（鴻巣・広田小校長）
菅野　誠一（富士見・勝瀬中校長）
小林　美音（所沢・美原小校長）
新井　英和（熊谷・奈良中校長）

吉岡　　章（小鹿野・両神小校長）
小島　久和（越谷・越谷西中校長）
槇島　良治（久喜・鷲宮中校長）
柳澤登紀男（さいたま・大谷口中校長）
湯沢　保紀（さいたま・土合小校長）
・監　事　　坪井　政彦（さいたま・針ヶ谷小校長）
茂木　隆資（深谷・花園小校長）

・支部長
さいたま市　星野　　浩（さいたま・泰平中校長）
北足立南部　及川　祐一（草加・青柳中校長）
北足立北部　加藤　秀樹（北本・宮内中校長）
入　　間　新井　健一（日高・高萩中校長）
比　　企　関口　高広（ときがわ町・玉川中教頭）
秩　　父　二ノ宮辰雄（小鹿野・三田川小教頭）
児　　玉　川田　博樹（本庄・本庄東中教頭）
大　　里　西澤　　淳（熊谷・江南中教頭）
北 埼 玉　漆原　　亮（行田・長野中校長）
埼　　葛　槇島　良治（久喜・鷲宮中校長）

3　専門部組織

・行事部　総会、英語弁論大会を担当
部　長　深須　英昭（深谷・深谷中教諭）
副部長　川端　洋子（北本・宮内中教諭）
副部長　直井　海斗（上里・上里北中教諭）
・研修部　教員研究発表会を担当
部　長　笠原　俊（秩父・秩父第一中教諭）
副部長　髙橋　伸行（富士見・西中主幹教諭）
副部長　城　由美子（戸田・新曽中教諭）
・調査研究部　学力調査問題作成、結果分析担当
部　長　嶋村　淳（さいたま・春里中教諭）
副部長　小山　協子（狭山・堀兼中教諭）
副部長　栗原　雄三（春日部・豊野中教諭）
・広報部　研究紀要、広報誌の発行
部　長　三上　恭子（志木・宗岡中教諭）
副部長　松本　光正（東松山・松山第二小教諭）
副部長　田中　佑治（久喜・菖蒲南中教諭）
・庶務部　庶務、会計等を担当
部　長　髙橋　太一（埼大附属中教諭）
副部長　　蓬澤　守（埼大附属中教諭）

4　活動の状況

⑴　授業研究会、総会
・期日　　平成30年６月６日㈬
・会場　　行田市立西中学校
・日程　　12：30～13：00　役員打合せ
13：00～13：20　受付
13：25～14：10，14：15　公開授業
14：35～15：35　研究協議
15：50～16：35　総会
・指導者（敬称略）
東部教育事務所指導主事　　竹内　徳望
県立総合教育センター指導主事兼所員
賛田　　悠
・来　賓（敬称略）
行田市教育委員会教育長　　森　　郁子
・授業者（敬称略）
行田市立西中学校　　酒井　美季
佐藤　克己
行田市立西小学校　　賀山　由香
栗本　千鶴
・総会
①平成29年度事業報告および承認
②平成29年度決算報告
③監査報告および承認
④平成30年度役員の承認
⑤平成30年度活動方針案審議
⑥平成30年度事業計画案審議
⑦平成30年度予算案審議

⑵　英語学力調査
現行教育課程実施に伴う英語学力を調査して、その実態を把握し、学習活動の指針とするとともに、言語活動のあり方についての資料とすることを目的に実施しているものである。調査は県内全域の中学生を対象とし、学年ごとに実施している。本年度の参加校数は62校であった。実施に至る経過は以下のとおりである。
・６月13日㈫　学力調査問題作成委員研修会
（さいたま市民会館うらわ）
問題作成委員の委嘱、方針・計画・分担等についての研究協議
・７～８月　問題作成委員会　　（各地区）
担当組織ごとに開催（１年：さいたま市、２年：大里、３年：北足立南部、スピーキング：調査研究部）
・８月８日㈬・17日㈮
第１・２回問題作成委員会
（第１回、第２回：附属中学校学校図書館）
問題の検討及び完成
・８月25日㈯　実音テスト録音
（附属中学校）
・11月21日㈬～12月14日㈮
学力調査実施（各参加校）
・12月19日㈬　学力調査結果の分析
（各担当組織）
・１月10日㈭　分析結果速報の発送

⑶　英語弁論大会

・期日　平成30年10月10日㈬

・会場　横瀬町町民会館

・目的　県内中学生の英語を話す能力、聞く能力の向上を図るとともに、諸言語活動の発表の場とする。

・審査員（敬称略）

埼玉大学名誉教授　宇田　和子
大東文化大学教授　靜　哲人
埼玉大学教授　及川　賢
大東文化大学准教授　淡路　佳昌
埼玉大学英語教育開発センター准教授
Leander Hughes
東京理科大学講師　Debjani Ray
埼玉県県民生活部国際課国際交流員
Skookum Joshua
埼玉県教育局高校教育指導課国際交流員
Chris Craigo

・日程

９：20～９：35　受付
９：40～10：00　開会行事
10：10～12：30　予選の部発表
12：30～13：30　昼食・休憩
13：30～14：20　決勝の部発表
14：20～14：50　審査・休憩
14：50～15：30　閉会行事
15：30～16：00　諸連絡等

・入賞者

１位　杉田　凜　さいたま市立日進中学校
Hello! This is Me
２位　寺山　穂　白岡市立篠津中学校
Designer Baby
３位　クリバリー　カディージャ
春日部市立葛飾中学校
Worldwide Communication
４位　中村　泰征　白岡市立南中学校
If Not Me, Who
５位　柳原　沙彩　深谷市立花園中学校
The Bead of My Heart
６位　利根川蓉子　春日部市立大沼中学校
Peace is Precious
７位　笹谷ナオミ　鴻巣市立鴻巣北中学校
Be True to Who You Really Are!
８位　工藤　伸　川越市立霞ケ関東中学校
A Life in a Sentence

今年度も、質の高いスピーチの発表であった。なお、上位３名は、高円宮杯第70回全日本中学校英語弁論大会中央大会に出場した。

⑷　関東甲信地区中学校英語教育研究協議会

第42回を数えることとなった今年度は、本県、鴻巣市にて開催された。本研究会を主催とし、県内外を問わず多数の参加者を得ることができ、英語教育に対する各界からの質の高い提言がなされた。概要は以下のとおりである。

・研究主題

「21世紀を逞しく生き抜く日本人の育成を目指した英語教育」
～コミュニケーションを大切にする生徒の育成～

・期日

平成30年11月16日㈮

・会場

鴻巣市文化センター
桶川市立桶川西中学校
北本市立北本中学校
鴻巣市立吹上北中学校

・各分科会提案（敬称略）

＜第１分科会＞

「統合的な言語活動を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成」

①公開授業

『統合的な言語活動を通した表現力の育成』
埼玉県桶川市立桶川西中学校　佐々木有美子

②県内提案

『地域共通のプロジェクト成功に向けたバックワード・デザインと相手を意識した場面設定』
埼玉県美里町立美里中学校　岸本　えみ

③県外提案

『統合的な言語活動によって発信力を高め相互交流を楽しむ生徒の育成を目指して』
東京都葛飾区立四ツ木中学校　前田　宏美

④県外提案

『基礎的・基本的内容の定着を図り，表現力を育む指導の工夫』
山梨県南アルプス市立若草中学校　中村　大介

＜第２分科会＞

「学習形態などの工夫を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成」

①公開授業

『学習形態などの工夫を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成』
埼玉県北本市立北本中学校　玉神　順哉

②県内提案

『ROUND SYSTEMを通したコミュニケーション能力の育成』

埼玉県熊谷市立玉井中学校　　落合　千裕

③県外提案

『生徒の発信する力を育む指導の工夫』

茨城県神栖市立波崎第二中学校　　大槻　敏之

④県外提案

『英語話者とのコミュニケーションを目指した英語教育』

群馬県長野原町立西中学校　　箱田　　樹

⑤県外提案

『様々な学習形態でコミュニケーション活動を大切にする生徒の育成』

栃木県那須塩原市立西那須野中学校

藤田理一郎

＜第３分科会＞

「小・中・高の連携・接続を目指したコミュニケーションを大切にする生徒の育成」

①公開授業Ⅰ

『小・中英語の滑らかな接続を意識した入門期（１年１学期）の授業改善』

埼玉県鴻巣市立吹上北中学校　　髙橋　朋子

公開授業Ⅱ

『コミュニケーション活動を大切にした５領域の学習』

埼玉県鴻巣市立下忍小学校　　細田　英里

②県内提案

『英語が使える日本人の育成を目指した授業の創造』

埼玉県南埼玉郡宮代町立東小学校　　三浦　洋介

③県外提案

『CAN-DOリストを活かした段階的な取り組み』

千葉県茂原市立冨士見中学校　　鈴木　沙織

④県外提案

『小中のつながりを意識した指導・評価の工夫改善』

神奈川県横須賀市常葉中学校　　若林　完樹

⑤県外提案

『教科等横断的に単元を構想し、４技能を関連させて、思考力・判断力・表現力等を伴った書く力を高めていく英語学習』

長野県長野市立若穂中学校　　内田　昌宏

・大会の概要

午前中は、鴻巣市文化センターにて、大会主題提案に引き続き、埼玉大学教育学部教授　及川　賢先生にご講演いただいた。「小・中学校における英語指導のこれから」を演題に、新学習指導要領を踏まえた英語教育のこれからについて、実践を交えながらわかりやすくお話いただいた。

午後は、３つの分科会に分かれ、公開授業、実践提案および研究協議が行われた。それぞれの分科会において、県内外の先生方に発表していただいた。その後、指導者の先生より丁寧なご指導をいただき、今後の英語教育について活発な協議が行われた。

・成果と課題

それぞれの分科会で、活発な協議が行われた。新学習指導要領の移行期間に当たり、英語教育の大きな変化の中で、指導者の先生からの貴重なご指導をいただいた。今後も本大会の成果と課題を踏まえ、研究を深めていく。

⑸　研究紀要の発行

本年度の本会の活動の総括として以下のような内容の紀要を作成、発行するとともに、来年度以降の研究推進の基礎としたい。

○第42回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会埼玉大会報告書

○英語学力調査全問題、解答および全学年分析結果

○英語弁論大会結果と入賞者及び弁論原稿

○総会、授業研究会記録

○埼英研だより等

Ⅲ　今後の課題

関東甲信規模の研究大会に向けての研究や、当日の他都県の提案、教員同士の交流を通じて、研修を深める機会を多く得た。新学習指導要領で示された新たな英語教育において、コミュニケーションを大切にする児童生徒の育成ができるよう、県内英語科教員の資質・能力の向上を図っていきたい。

10 道 徳 教 育

埼玉県道徳教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「人としての生き方について考えを深め、
　よりよく生きる児童生徒を育てる
　　道徳教育の創造」
～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～

2　研究方針

昭和33年の「道徳の時間」の特設以来、私たちは道徳の時間を道徳教育の要とし、道徳教育を推進してきた。そもそも、我が国の教育は、教育基本法第１条に示されているとおり「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われる」ものである。その人格の完成及び国民の育成の基盤となるものが道徳性であり、その道徳性を養うことが道徳教育の使命である。

しかし、道徳教育を巡っては、歴史的経緯に影響されたり、道徳の授業に対しては「多忙であり、他の指導に時間をとられがちである」或いは「指導の仕方が難しい」等といった解決すべき課題のために十分な道徳の授業が行われにくかったりしていることも現実である。

そこで、学校教育法施行規則の改正に伴い、平成27年３月の一部改訂を経て、平成29年３月に告示された小・中学校の「学習指導要領」や同年９月に告示された小・中学校の「学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」及び、平成28年３月以降埼玉県教育委員会によって発行されている「埼玉県小・中学校教育課程編成要領（道徳）」、小・中学校の「埼玉県教育課程指導・評価資料（道徳）」から、これまでの道徳の授業を抜本的に見直していかなければならない。そして、問題解決的な指導方法等への工夫を通して、「考え、議論する道徳」へと質的転換を図ることを実現しなければならない。そのために、埼玉県道徳教育研究会として、これまでの蓄積を活かし、さらに研究を重ね、その成果等について、全県的に周知するとともに、関東・全国に発信していく必要があると考える。

また、今回の改正により、私たちが先ず取り組むべきは、いじめの防止や安全の確保である。児童生徒が、人としての生き方について考えを深め、自己への問いかけを通して、よりよく生きるための実践につながるような道徳教育を創造していかなければならない。かけがえのない児童生徒が、いじめ問題に起因して心身の発達に重大な支障を生じさせるような影響を受けたり、尊い生命まで危険にさらすような事態に陥ってしまったりすることは何としても避けなければならない。早い段階でその芽を摘み取り、すべての児童生徒を救うことこそが喫緊の課題であると捉える。

小学校では今年度から既に「特別の教科　道徳」（道徳科）の授業や評価が行われている。中学校でも来年度から始まることになる貴重なこのタイミングに、県内各地の素晴らしい取組を基にした研究を深めることにより、学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して、人としての生き方について考えを深め、よりよく生きる児童生徒を育てる道徳教育の創造へと向かいたいと考え、本主題を設定した。

3　組織・運営

⑴　理事会（総会）・専門部会・全体研究協議会

今年度当初の組織づくりと、活動方針、計画を確認・周知するとともに、全体研究協議会での道徳講話を通して、自己の研究活動を振り返り、今後を見つめる。

⑵　夏季研修会

道徳の時間の指導方法の充実を目指して、「埼玉県道徳教育教材資料集・彩の国の道徳」「教科書」に掲載されている教材を用い、低学年・中学年・高学年・中学校各分科会に分かれて、教材吟味及び指導案づくりの研修を実施している。また、若手教員を中心とした道徳教育の基礎・基本を学ぶ分科会を開設し、研修を深めている。さらに、中央講師を招聘し、全体講演会を実施することにより、道徳教育を理論と実践の双方から学ぶ貴重な機会となっている。

⑶　埼玉県道徳教育研究会研究大会・寄居大会

本研究会の研究の充実のため、毎年、授業研究を中心とした研究大会を実施している。大会運営に当たっては、各役員の資質向上も含めて、道徳教育の課題解決に向けた授業研究と文部科学省教科調査官等の中央講師を招聘し、道徳教育の重要性を県下に発信する。

⑷　『会報』『道徳教育研究集録』の発行・配付

本会研究活動と全県の教育委員会、各小・中学校との道徳教育研究の連携を深めるために、広報紙と

して会報を年１回発行する。また、道徳教育研究の充実と組織の強化、研究内容の普及のために年間の活動や研究内容、実践事例を一冊にまとめた研究活動集録を作成し、希望者に斡旋する。

⑸　各研究会への参加

小・中学校別に開催される関東大会・全国大会の本会への分担要請については、本会の威信にかけて担当者を選考の上、埼玉県道徳教育の情報発信、全国の道徳教育の発展に貢献するため、積極的に派遣する。

⑹　支部活動の推進

道徳教育について、埼玉県全体の振興を図るため本会と県内各道徳教育研究会との連携を深める。その際、会則第３章第５条の旧教育事務所や政令指定都市を単位とした９支部を基本に推進する。

Ⅱ　活動状況

１　平成30年度役員

会　長

鴻野　年伸　寄居町立寄居中学校長

副会長

藤澤由紀夫　越谷市立大沢小学校長

堀内　俊吾　久喜市立久喜中学校長

島方　勝弘　越谷市立南中学校長

顧　問

梓澤　恒夫　加須市立加須西中学校長

監　事

須山恵美子　川口市立飯仲小学校長

阿部泰次郎　白岡市立菁莪小学校長

総務部長

栗原　利夫　羽生市立東中学校長

総務部副部長

森田　昌孝　熊谷市立江南南小学校長

鈴木　和男　志木市立宗岡第二小学校教頭

久米　隆弘　日高市立高根小学校教頭

中野　　緑　さいたま市立常盤小学校教頭

菅野　麻衣　深谷市立川本北小学校教諭

藤原　祐介　幸手市立上高野小学校教諭

授業開発部長

島方　勝弘　越谷市立南中学校長

授業開発副部長

柿沢　英和　春日部市立桜川小学校教頭

鈴木　孝雄　富士見市立みずほ台小学校教頭

浅井　俊朗　春日部市立武里南小学校教頭

瀧澤　美雪　三郷市立新和小学校教諭

安部　仁美　伊奈町立小室小学校教諭

田中　彩子　桶川市立日出谷小学校教諭

田村　直美　上尾市立東町小学校教諭

風間　俊樹　越谷市立北陽中学校教諭

冨山めぐみ　久喜市立江南第一小学校教諭

企画推進部部長

嘉藤　　央　深谷市立藤沢小学校長

企画推進部副部長

須山恵美子　川口市立飯仲小学校長

内野多美子　さいたま市立神田小学校長

閑野　千鶴　桶川市立加納小学校長

寺井　次郎　加須市立田ケ谷小学校長

清水美津子　宮代町立百間中学校教諭

髙橋　伸治　川口市立中居小学校教諭

亀田　央葉　本庄市立本庄東小学校教諭

前田友美子　越谷市立大沢小学校教諭

事務局長

関本　由美　吉川市立関小学校長

事務局次長

阿部泰次郎　白岡市立菁莪小学校長

浅田　敦子　新座市立第四小学校教頭

野口　京子　三郷市立瑞木小学校教頭

渡邉　純子　加須市立三俣小学校教諭

山田　敦子　越谷市立蒲生第二小学校教諭

笹川　千洋　さいたま市立栄和小学校教諭

２　本年度の主な事業

⑴　平成30年度　総会・専門部会・全体研修会

会　長　挨　拶

①期　日　平成30年５月25日㈮

②会　場　さいたま市民会館うらわ

③内　容

ア　総会（理事会）

平成29年度事業報告、会計報告審議

平成30年度事業計画、予算案審議

イ　専門部会

各専門部会活動計画審議、情報交換

ウ　全体研究協議会

講　演　北陸大学　教授　東風　安生　先生

演　題

「学習指導要領が求める道徳授業のつくり方」

【　講演の概要　】

◆　はじめに

○　新学習指導要領の趣旨から

・「何ができるようになるか」

新しい時代に必要となる資質・能力

・「何を学ぶか」

新しい児童の道徳教育及び道徳科

道徳性を養うとは

・「どのように学ぶか」

アクティブラーニング

主体的・対話的で深い学び

○　新学習指導要領の趣旨を反映した道徳科の授業

＜前提＞

・学級経営の充実

多様な意見を受け止め、認め合える雰囲気をつくること。

・児童生徒の実態把握

教師が明確な意図をもって指導すること。

児童生徒に新たな気付きや変容がある。

＜手段＞

・学習指導過程や指導方法の工夫

主体的・対話的で深い学びにつなげるために、問題意識をもつ、多面的・多角的に考える、自己の（人間としての）生き方について考えを深めることが大切。

・質の高い多様な指導方法は、形骸化せず、柔軟に考える。

・これまでの道徳授業（読み取り道徳、押し付け道徳）から考え、議論する道徳へ

＜すべての教科等で考える＞

・主体的な学びの視点、対話的な学びの視点、深い学びの視点

⑵　夏季研修会

①期日　平成30年８月10日㈮

②会場　鴻巣市文化センター（クレアこうのす）

③内容　分科会協議及び全体会（記念講演）

基礎基本部会では、「家庭の道徳教育と学校の道徳教育」「道徳科への経緯」「道徳教育の歴史」に始まり、「道徳性発達に関する諸理論」についても押さえながら、「道徳科の学習指導」や「道徳科授業発問の理論・基本」について具体的な教材を使いながら、学びを深めていった。

小学校低・中・高・中学校分科会では、埼玉県道徳教育指導資料や教科書の教材を用い、教材吟味及び指導案作成をワークショップ形式で行った。それぞれの分科会で積極的な意見交換が行われ、実践的な指導により、今後の授業実践の推進につながる有意義な時間となった。

研　修　風　景

④記念講演

講　演　文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官　浅見　哲也　先生

演　題　「道徳科における

『主体的・対話的で深い学び』の創造」

【　講演の概要　】

◆　道徳科が始まり、教材としての教科書の使用や、評価について大きく変わったが、道徳教育の位置付けや求められている内容は、今までと変わらない。

○　よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育と、道徳科がそれぞれ機能していく必要がある。

○　主体的・対話的で深い学びを道徳科で進め、「考え、議論する道徳」の実現するためには、まず前提として学級経営の充実、児童生徒の実態把握が欠かせない。そこから、様々な手段を工夫していく。

○　質の高い多様な指導方法として３つの例が挙げられているが、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。道徳科における具体的な学習プロセスは、限りなく存在し得るものである。

◆　道徳科の授業をつくるとき、ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき、明確な考えを持つ「指導の明確な意図」が重要である。

○　「雨のバス停留所で」（規則の尊重）の指導例

教材を通して何を考え、主題についてどう考えを深めていくか。

・児童の実態把握、子供たちの問題点から

○　「二通の手紙」（規則の尊重）の指導例

思いやりと規則、どちらが大事か、自分の考えを明らかにすることにより、深い学びへ向かう。指導の明確な意図があることが重要。

・導入で規則の尊重についての自分の考え方を意思表示させ、授業後にもう一度意思表示させる。

◆　道徳科に求められる評価は、「成長を受け止めて認め、励ます個人内評価」である。

○　「ブランコ乗りとピエロ」（相互理解、寛容）の授業を通した評価の工夫と実際。

・道徳的価値の見える化

・道徳的行為に関する体験的な学習

○　道徳科の授業は、毎時間がメイク・ドラマである。深い学びにたどり着くための答えは、目の前の子供たちの中にある。だからこそ児童生徒のリアルな学びの姿を評価したい。

⑶　埼玉県道徳教育研究会研究大会・寄居大会

①期日　平成30年11月22日㈭

②会場　寄居町立寄居中学校

③内容　授業公開（全学級公開）

研究発表

④指導講評（全体会）

埼玉県教育局県立学校部義務教育指導課

指導主事　安元　信幸　先生

⑤記念講演

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官　澤田　浩一　先生

演題　「道徳科の授業と評価に向けて

大切にしたいこと」

澤田先生の御講演

【　講演の柱　】

◆　はじめに

○　平成31年４月中学校道徳科全面実施に向けて道徳教育の抜本的充実が求められる背景には深刻ないじめがある。道徳教育の特質、いじめがなくなるわけではないが「深刻」が避けられる。

◆　道徳科の目標の構造

○　「道徳的諸価値についての理解を基に」とは

○　「自己をみつめる」とは

○　「物事を多面的・多角的に考える」とは

○　「人間としての生き方についての考えを深める」とは

○　道徳性の諸様相（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度）の学校教育における捉え方

◆　実践的研修をめざして

○　道徳教材は人生へのルートであり、人生を味わう糧である。上手に料理し、スパイスを利かせよう。

○　授業は実践を重ねなければうまくならない。

○　一問一答の授業から対話のある授業に

○　感想を言い合う主観的研修からの脱却（授業記録を基に授業を客観的に分析する）

◆　道徳科の評価の基本的な考え方

○　先生の中に鏡となるものが必要である。その鏡の大きさは経験値による。

○　授業を担当する教師全員で協力して評価を行う体制を整える。

・協力体制の整備　ローテーション授業など

・言語活動が得意でない生徒の評価

・表面的には意欲が見えない生徒の評価

○　学習評価の種類

○　個人内評価を行うために

・生徒を愛する教師の姿を表現するものである。見取るためには、生徒の、ちょっとした成長も見逃さず喜ぶ心こそが大切。

Ⅲ　今後の課題

小学校の道徳科の実施に続き、平成31年度には中学校で道徳科が始まる。道徳科の授業、評価、推進教師としての役割はどうしたらいいのか等、それぞれの学校で課題は山積している。そんな中、県内の多くの教員が、文字通り「考え、議論して」道徳科や道徳教育について研修を深める機会を持つことができたのは大きな喜びである。

今後、真剣に児童生徒のよりよい成長を願い、日々研鑽を続ける教員をさらに育成すること、そして共に学ぶ場を提供することが本研究会の課題といえる。

11 特 別 活 動

埼玉県特別活動研究会

Ⅰ 研究主題と方針

1 研究主題

「新学習指導要領における特別活動の展開」

2 主題設定の理由

「“私たち”のクラス」「“私たち”の学校」そうやって自分の生活を語れる子供たちを育てたい――。その子供たちがやがて、集団や社会の形成者として、豊かな未来をつくっていくことを願っている。

これからの未来を展望する際に、急激な少子高齢化による生産年齢人口の減少、人工知能（ＡＩ）の飛躍的進化等の絶え間ない技術革新といった、不安ばかりが指摘されることが少なくない。しかし学校には、「できるようになった」「友達の新しいよさを見付けた」「ありがとうと言ってもらえた」といった言葉が溢れている。学校という社会の中で多様な経験を積み、豊かなかかわりの中で成長を遂げた子供たちは、不安に対峙し、他者と協働することで未来を切り拓くと信じている。

そのような子供たちを育てていくためには、子供たちの将来を見据え、身に付けさせたい力を明確にし、発達の段階を踏まえながら個に応じた指導や支援を行うことが欠かせない。新学習指導要領では、資質・能力ベースでの基本方針が示され、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、全ての教科・領域において具体的な目標や内容が示された。特別活動においては、これまでに引き続き実践活動や体験活動を通して学ぶことを重視しながら、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点に基づき、各活動及び学校行事を通して育成する資質・能力とその学習過程が明確化された。

また、新学習指導要領では、学校が、教育基本法や学校教育法に定められた目的・目標を目指して教育課程を編成しなければならないことが、前文によって強調されており、その中には次のような文面が示されている。（小学校学習指導要領p.15、中学校学習指導要領p.17より一部抜粋）

> 一人一人の児童（生徒）が，自分のよさや可能性を認識するとともに，あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。
>
> （下線は事務局）

ここに示されている内容は、特別活動が目指す目標そのものといっても過言ではない。この点において、学校教育の基盤としての特別活動への期待が大きく寄せられていることがわかる。

本会ではこれまでに、「なすことによって学ぶ」特別活動の方法原理に基づいて着実な実践を図り、研究を進めてきた。そのために、「望ましい人間関係づくり」「学級・学校文化」「共生社会」といった様々な視点から、継続的・発展的に研究に努めてきた。昨年度はそれを統括する形で「豊かなかかわりの中で自尊感情を高める特別活動」を主題に研究を進めた。また、副題に「基礎・基本を踏まえた集団活動を通して」と謳い、本会としての基礎・基本を「学習指導要領に示された目標をおさえた指導」という前提に、①望ましい集団活動であること、②合意形成、意思決定の機会があること、③自主的・実践的な活動であること、と捉え、その見直しに重点を置いた実践を展開した。

その結果、自尊感情を高めるためには、①個の力と集団の力の両方をバランスよく伸ばすことが大切であること、②教師間の連携や引き継ぎをより深めるための指導計画の在り方が大切であることが確認された。「自分も相手も大切な存在だ」「誰かの役に立っている」という自尊感情の高まりは、集団や社会の形成者としての意識を高めることに寄与し、それはまさに、今後の特別活動が目指すものに他ならない。今後も、自尊感情の高まりを意識することや、基礎・基本を押さえた実践の展開を続けていくことが重要である。

そして、新学習指導要領の先行実施となる今年度、改善された点や表現の変容はあっても、根本となる考えは不変であることを認識し、研究をさらに深めていくことが重要である。このような経緯を踏まえ、今年度は研究主題を「新学習指導要領における特別活動の展開」とし、新学習指導要領の内容を正確に捉えることに重点をおき、次に示す二つの内容を中心に研究を

進めていく。

一つ目は、「重点となる資質・能力を明確にした全体計画や年間指導計画、一単位時間等の指導計画」についてである。各活動及び学校行事の特質を踏まえ、これまでも意識してきた、系統的かつ子供の発達の段階をおさえた指導計画を作成していきたい。その際には、以下の点について留意する。

①各学校・学級等での子供の発達の段階をおさえ、育てたい資質・能力が明らかになるよう工夫する。
②「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点に立った指導計画を工夫する。
③学びのつながりを意識して教師間の連携を高め、系統性のある指導計画を工夫する。

そこで、自校における各種計画が、育てたい資質・能力を明らかにしているものになっているのかについて捉え直してみたい。また、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点が、道徳教育や生徒指導の機能とも強い関連があることにも意識をもって研究を進めていきたい。

二つ目は、「重点となる資質・能力をはぐくむ指導と評価の方法」についてである。実践の充実には指導と評価の一体化が欠かせない。育てたい資質・能力を明確にした活動の展開の在り方について考えていきたい。その際には以下の点について留意する。

①発達の段階や実態を踏まえ、実践を通して育てたい資質・能力が身に付いた子供の姿を設定する。
②自分もよくみんなもよい合意形成や意思決定の機会があり、実践につながる学習過程を工夫する。
③一人一人のわずかな伸びも見取ることができるような評価の方法について工夫する。
④集団の雰囲気や他者意識の深まり等を見取ることのできるような評価の方法について工夫する。

そこで、これまでの指導と評価に関わる研究の成果や課題を、新学習指導要領を通してどのように実践に生かしていくかについて考えてみたい。小学校における学級活動(3)、中学校における学級活動(1)の充実、学級経営との関連、キャリア教育の要の時間としての特別活動の在り方についても触れながら研究を進めていきたい。

これまでも本会では、個を生かす集団活動の展開を目指し「目指す子供像、学校像を明らかにすること」や「話合い活動における折り合いの付け方」等の研究を進めてきた。このことは新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」そのものである点からも、これまでの研究を発展的に継続できるものと確信している。また、特別活動と各教科等とが往還関係にあることが重要視されている今、カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、教科横断的な学習等の推進にも目を向けていきたい。

こういった特別活動の営みは、新学習指導要領によってこれからの学校教育が目指す、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現に大きく寄与するに違いない。さらに、特別活動の充実は、「“私たち”のクラス」「“私たち”の学校」という言葉を主語に自分の生活を語れる子供たちを育て、豊かな学校、そして社会をつくっていくと信じている。

3　研究の方針

(1)　各専門委員会を中心に、研究主題に関わる実践研究を深める。
(2)　総会や講演会を通して、理論研究を深める。
(3)　各支部活動を通して、地域に根ざした実践の情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。
(4)　各種全国規模の大会との協力を通して、全国での情報交換を行うとともに、会報や研究集録を通して、県内への情報提供を行う。

Ⅱ　活動状況

1　支部長・専門委員長・理事等合同研究協議会

○日　時　平成30年５月８日(火)
　　15時～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容　支部活動、役員選出・承認、総会議案等の審議

2　定期総会並びに講演会

○日　時　平成30年５月16日(水)
　　13時50分～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容　(1)　定期総会
　　(2)　講演会
演題「新学習指導要領における特別活動の展開」
講師　文部科学省初等中等教育局教育課程課
　　教科調査官
　　国立教育政策研究所教育課程
　　研究センター教育課程調査官
　　安部　恭子　氏

3　地区別研究協議会

○期　日　平成30年６月～平成31年２月まで
○実　施　各地区

4　役員研究協議会

⑴　第１回役員研究協議会
○日　時　平成30年５月29日㈫
15時～16時30分
○会　場　さいたま市民会館おおみや
○内　容　平成30年度の専門委員会等の研究・運営計画について

⑵　第２回役員研究協議会
○日　時　平成31年３月１日㈮
15時～16時30分
○会　場　さいたま市民会館うらわ
○内　容　平成30年度の専門委員会等のまとめ及び次年度の事業計画について

5　専門委員研究協議会

⑴　第１回専門委員研究協議会
○日　時　平成30年６月６日㈬
13時15分～16時30分
○会　場　鴻巣市文化センター　クレアこうのす
○内　容　研究主題についての共通理解と各専門委員会の研究の視点の確認

⑵　第２回専門委員研究協議会
○日　時　平成30年９月５日㈬
13時15分～16時30分
○会　場　埼玉県県民活動総合センター
○内　容　研究主題に沿った実践の構想レポート検討

⑶　第３回専門委員研究協議会
○日　時　平成31年１月16日㈬
13時15分～16時30分
○会　場　鴻巣市文化センター　クレアこうのす
○内　容　実践レポートを基にした研究のまとめ

6　第23回夏季研究協議会

⑴　日　時　平成30年８月７日㈫
９時40分～16時30分
⑵　会　場　さいたま市民会館おおみや
⑶　内　容
①講演
演題　「これからの学校教育と特別活動」
講師　共栄大学　教授　濱本　一　氏
②実践提案
分科会Ａ
【小学校低・中学年　学級活動⑴⑶】
○提案者　蕨市立北小学校
教諭　浅賀　智幸　先生
さいたま市立三室小学校
教諭　齋藤麻衣子　先生
○指導者　久喜市立鷲宮小学校
校長　江森　浩　先生
分科会Ｂ
【小学校低・中学年　学級活動⑴⑶】
○提案者　川島町立つばさ南小学校
教諭　笠原　大輔　先生
羽生市立羽生北小学校
教諭　石原　良介　先生
○指導者　春日部市立桜川小学校
校長　中島　剛　先生
分科会Ｃ
【小学校高学年　学級活動⑴⑶】
○提案者　神川町立丹荘小学校
教諭　辻村　洋志　先生
川口市立青木中央小学校
教諭　品田　隆　先生
○指導者　さいたま市立太田小学校
校長　笠原　実　先生
分科会Ｄ
【中学校　学級活動⑴】
○提案者　上里町立上里中学校
教諭　藤舘　奈美　先生
さいたま市立上大久保中学校
教諭　玉城　伸　先生
○指導者　坂戸市立若宮中学校
教頭　金子　雅彦　先生

7　研究集録第58集　発刊

8　広報活動

会報「特活」第126・127・128号発刊

9　退職記念講演会

○日　時　平成31年１月19日㈯
○会　場　川口総合文化センター　リリア
○講　演
演題「特別活動と私」
東松山市立松山第一小学校　校長
本会常任顧問　稲垣　孝章　先生
久喜市立桜田小学校　校長
本会常任顧問　渋谷　修造　先生

羽生市立新郷第一小学校　校長
本会常任顧問　泰居　克明　先生
狭山市立入間野小学校　校長
本会副会長　小俣惠美子　先生

10　平成29・30年度研究委嘱校研究発表会

○期　日　平成30年11月22日㈭
○会　場　春日部市立武里西小学校
○内　容
「互いのよさを認め合い、
よりよい人間関係を築く児童の育成」
～児童の主体的な実践を通して～

Ⅲ　研究内容

1　定期総会・講演会

〔演題〕「新学習指導要領における
特別活動の展開」
〔講師〕　文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官
国立教育政策研究所教育課程
研究センター教育課程調査官
安部　恭子　氏
〔内容〕
○新学習指導要領準拠版「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（教師用リーフレット）」（小学校編の活用について）
○特別活動における学習指導要領改訂のポイント
・特別活動において育成すべき資質・能力の視点
「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」
・各活動・学校行事の目標
・小学校学級活動(3)　の新設
・各教科等との往還
○教育活動全体で行うキャリア教育の中核としての役割を果たす特別活動
○学級活動における自発的、自治的活動を中心とした学級経営の充実
○学級活動の特質を踏まえた指導の充実
・学級活動(1)：集団としての合意形成
・学級活動(2)(3)：一人一人の意思決定　等

2　第23回夏季研究協議会

(1)　講演より
〔演題〕　「これからの学校教育と特別活動」
〔講師〕　共栄大学　教授　濱本　一　氏
〔内容〕
○子供たちにとっての学校とは
・「安心」「安全」な場所、成長を実感できる場所、自立を促す場所である。
○子供たちの現実は
・いじめの主たる要因は学業不振と人間関係に起因している。授業改善はもとより、共に認め合い、学び合える集団づくりが学力向上の鍵である。それを担っているのが特別活動である。
○新学習指導要領について
・「特別活動を通して、子供をどう具体的に育てたいのか」を明確にし、子供たちが自分の考えをもち、これからの時代を担う人財として育てていかなければならない。　等
(2)　分科会より
提案者の発表をもとに研究協議を行った。以下は提案者が実践した学級活動の議題と題材である。
○議題
「Ｚさんをサクラさくメンバーに迎える会をしよう」
「41子（よいこ）『じゅう実の秋』集会をしよう」
「ミニ運動会をしよう」
「先生のお子さんの誕生を祝う会をしよう」
「三年一組一学期お疲れ様会をしよう」
○題材
「みんなのためのお仕事パワーアップ作戦」
「よりよい家庭学習をしよう」
「好きなことやがんばっていることを通して、パワーアップしよう」

12　進路指導・キャリア教育

埼玉県進路指導・キャリア教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

学習指導要領の柱の一つとして、生徒の社会性や豊かな人間性をはぐくむため、学校における体験活動の機会を確保し、充実を図ることが求められている。また、埼玉県５か年計画、安心・成長・自立自尊の埼玉へ（平成24～28年）に基づく、第Ⅰ期埼玉県教育振興基本計画の中の基本目標１「子どもを鍛え次代を担う人材を育成する」の主な取組に、「発達の段階に応じたキャリア教育の推進」が挙げられている。加えて、昨年度からの埼玉県５か年計画：第２期：（平成29～33年）希望・活躍・うるおいの埼玉に基づき、その中の分野別施策の「３・人材の活躍を支える分野、⑴一人一人が人財として輝ける子供を育てる、ア・確かな学力と自立する力の育成」における主な取組の中で、「小・中・高等学校におけるキャリア教育の充実」「障害のある子供たちの自立と社会参加を目指したキャリア教育・職業教育の充実」が挙げられている。

本研究会では、キャリア教育を「社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度等を育て、学校の学びと社会（職業）の接続を円滑に行うための教育」と捉え、小学校からのキャリア発達の段階に応じた学級活動や体験学習を充実させることを念頭においている。このようなキャリア教育の視点に立ち、発達の段階に応じたキャリア教育を充実させ、自己理解を深めさせ、生徒の職業的発達（キャリア発達）を促す進路指導・キャリア教育の在り方の研究実践を進めた。

⑴　研究組織

専門委員会の中に研究推進委員会を組織し、下部組織として、専門委員を第一部会（主に東・南部＜さいたま市を含む＞地区）：第１学年（学級活動・道徳）二部会（主に西部地区）：第２学年（学級活動・道徳）第三部会（主に北部地区）：第３学年（学級活動・道徳）小学校部会（全県）：低学年・中学年・高学年（学級活動・道徳）の４部会に分け、原則として地区ごとの部会に所属する。

⑵　25地区進路指導・キャリア教育研究協議会の実施と協力

県内を25地区に分け、小学校・中学校・高等学校の連携を図り、地区ごとに中学校で研究授業を行い、研究協議をとおして、進路指導・キャリア教育の研究推進を図った。25地区の研究協議会を活性化し、実践内容をまとめ、全県に配付し成果を共有した。

⑶　副読本『中学生活と進路』（実業之日本社）埼玉県版の改訂

副読本の県版部分を学年ごとに作成し、キャリア教育の新しい視点で３年間を見通し、埼玉県として指導内容を精選し、指導案を考えるとともに使える資料を掲載するよう作成・編集を行った。

⑷　関東甲信越地区進路指導研究協議会への提案

第44回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会神奈川大会

第３分科会：特別活動（進路相談を含む）

幸手市立西中学校：加藤　真一　教諭

⑸　第67回進路指導・キャリア教育研究協議全国大会への参加

第３分科会「中学校における進学・就職への指導・助言の在り方」

三芳町立三芳中学校：町田　　雅　教諭

第７分科会（小学校）「小学校におけるキャリア教育の計画と実践」

富士見市立ふじみ野小学校：堀川　博基　校長

Ⅱ　活動状況

５月13㈰　第１回　代表者会議

・新年度組織、活動方針について

・第１回総会及び理事・専門委員合同研修会について

６月７日㈭

第１回総会及び理事・専門委員合同研修会

・事業報告、決算報告、役員の承認

・事業計画、予算案、専門委員会の報告

・25地区進路指導・キャリア教育研究委嘱校交付式・前年度委嘱校研究発表

・講演会

演題　「進路指導・キャリア教育の現状と課題」

講師　埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　田邊　　玲　先生

７月15日㈰　第２回　代表者会議

・第２回理事・専門委員合同研修会について

・全中進の発表の向けて

・関ブロ神奈川大会について

７月26日㈭・27日㈮

第67回進路指導・キャリア教育研究協議会全国大会

国立オリンピック記念青少年総合センター
・記念講演
・分科会、全体会
８月２日㈭
第２回理事・専門委員合同研修会
・第２回専門委員会
・関ブロ神奈川大会の案内
・講演会
演題「新学習指導要領をふまえた教育実践の展望と可能性」
講師　愛知教育大学　学校教育講座　講師
京免　徹雄　先生
10月14日㈰　第３回　代表者会議
・25地区研究協議会への派遣について
・関ブロ神奈川大会事前協議
11月８日㈭
第44回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会神奈川大会
・全体会、実践発表、分科会
第３分科会　「特別活動（進路相談を含む）」
提案者　幸手市立西中学校　　加藤　真一　先生
１月13日㈰　第４回　代表者会議
・第３回理事・専門委員合同研修会について
２月20日㈬
第３回理事・専門委員合同研修会
・研究会事業報告、25地区の実施報告
・関ブロ千葉大会に向けて
・講演会
演題「子どもたちが学び、思考することの意味や価値を理解させるキャリア教育」
講師　株式会社　キャリアリンク
代表取締役　若江　眞紀　先生
３月２日㈯　第５回　代表者会議
・平成31年度に向けて
・関ブロ千葉大会に向けて

Ⅲ　研究内容

25地区進路指導・キャリア教育研究協議会
活動報告

⑴　本年度の取組

①開催期日

平成30年９月25日㈬～平成31年１月30日㈬

②内容

それぞれのテーマに基づいた公開授業及び研究協議

⑵　研究協議等の状況

①参加者

～これまでの参加者の推移～

	小学校	中学校	高　校	その他	合　計
平成22年	244	950	48	27	1,269
平成23年	250	833	62	14	1,159
平成24年	257	622	89	75	1,043
平成25年	236	661	76	16	989
平成26年	265	788	57	100	1,210
平成27年	265	839	49	221	1,374
平成28年	245	770	73	132	1,220
平成29年	213	804	36	78	1,131
平成30年	139*	596*	22*	89*	856*

＊平成30年度は、１月22日㈫　現在（報告19校）

今年度は１月22日㈬現在で、まだ実施してない学校と報告書が届いていない学校が６校あるため、前年度との単純な比較はできないが、報告の出ている地区の今年度の研究協議会参加者数は合計846名で、参加者数は昨年とほぼ同数である。

以下は、報告書の出ている19会場について、まとめたものである。

小・中・高全て参加があった会場は17会場中10会場。小学校からの参加は現在のところ全会場で参加があり、参加者数も若干増加傾向である。高等学校の参加は10会場で、会場数、参加者数ともに減少が続いている。

１会場あたりの平均参加者は45名で、昨年同期とほぼ同じ状況である。

②公開授業について

全学年・全クラスを公開した学校が19校中４校、全学年を公開した学校が19校中８校と昨年よりかなり少なくなった。また、公開授業が行われたクラスは91クラスとなった。

授業内容は、学級活動・総合的な学習の時間を中心に行われ、各教科や道徳が７校で公開された。

今年度の特徴は、学級活動や総合的な学習の時間での板書や、ふり返りの方法をしっかりと計画している授業が目立った。また、教科化を目前にした「（特別の教科）道徳」の評価等に重点を置いた授業も見られたほか、上尾市立東中学校では、持続可能な社会の実現とそのために必要な力について、「グローバルシティズンシップ科（文科省/研究開発学校制度指定）」の授業が公開され

た。

特別支援学級の公開授業は、例年２クラス前後で、昨年度は６校９クラスと増えたが、今年度は現在のところ１クラスの公開にとどまっている。

～公開授業を行ったクラス数～

１月22日㈫現在

教科等	１年	２年	３年	特支	合計
総合的な学習の時間	21	13	4	0	38
特別活動・学級活動	7	12	13	0	32
道　徳	8	6	0	0	14
教　科	1	3	2	1	7
合　計	37	34	19	1	91

学級活動の内容は、昨年と同様に、課題解決に向けた主体的・協働的な学びの形態をとりながら、生徒一人一人に基礎的汎用的能力を身に付けさせようとする公開授業が多く行われた。

公開授業後の研究協議では、講演会や全体会、分科会が開催され、活発な意見交換が行われ、指導者の方からは貴重なご指導をいただくことができた。

⑶　研究協議会の課題等について

本研究協議会は、会場校だけでなく、地区内の小中学校における進路指導・キャリア教育の連携や研修を深める貴重な機会になっている。

キャリア教育について研究を進める学校も増え、キャリア教育的な視点に立った道徳や教科の授業の実施も定着してきているようである。また、小中連携をキャリア教育という視点から捉えようとする取組もかなり増えてきた。

今後も子供たちのキャリア発達を促したり支えたりするための取組が、各地区で工夫されていくことを期待したい。

Ⅳ　第44回関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会　神奈川大会への提案

第３分科会　「特別活動（進路相談を含む）」

テーマ：「一人一人の自己実現を目指し、自己決定を促すキャリア教育の実践」

指導助言者：埼玉県教育局東部教育事務所
指導主事　竹内　徳望　先生

提案者：幸手市立西中学校
教諭　加藤　真一　先生

１　はじめに

本校は10年前に、学校の荒れを経験し、学校を変えたいという教員側の強い意志で、学びの共同体の理念に基づいて「一人残らず学びを保障する」ことを掲げ、学び合い学習の研究を進めてきた。それと同時に、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現するための「キャリア形成」の積み重ねを図ることで、社会的・職業的な自立に向けた自己実現を目指す態度を養うことに繋がると考え、特別活動を要として、体験的な実践を行ってきた。

２　本校の実践

⑴　１学年の実践

①ねらい

「20年後の自分を考えてみよう」という時間を通して、具体的な将来設計や進路計画を考えさせ、キャリアプランニング能力の育成を図る活動を行った。20年後の理想とする自分の姿を想定させ、職業に対しての夢や希望を共有し、より深く考えることをねらいとした。

②具体的な活動

事前に実施したアンケート調査によると、「スポーツ関連」の職業や、「ものをつくる仕事」を希望する生徒が多かった。また、なりたい職業は漠然と決まってはいるものの、具体的にこの先どのような計画や進路選択をするのがよいのか分からない生徒が多くいた。

その中で、「20年後の社会の変化」や「収入と生活」などのこれからの将来の展望を示す資料を提示し、AI（人工知能）などの技術革新によって、現在ある職業の50％消失するという予測があると伝え、そうした時代を生き抜くには、どのようなスキルや情報が必要となるかを考えさせた。また、「20年後にどんな仕事についているのか」、「家族構成や住んでいる場所はどうなっているか」、「自分の趣味や地域での活動」などを予想させ、考えを深めさせた。

③成果

「これから自分がやるべきこと」を見据えつつ、望ましい職業観・勤労観を身に付け、一般社会で生きていく上での将来設計や進路計画を想像させることができた。

⑵　２学年の実践

①ねらい

「いろいろな勉学の道」という活動を通して、上級学校調べを行い、各クラスや学年での情報共

有を行った。事前アンケートでは、153名中「県公立高校志望者」が99名、「私立高校希望者」が７名、未定者が46名という結果となった。未定者が学年の３分の１に上ったこともあり、上級学校を意識させ、情報を正確に収集し、自己決定させることをねらいとした。

②具体的な活動

学級班で、各学級に振り分けられた上級学校のパンフレットや様々な進路資料などを基にして調べ、各学校の特徴を簡潔に説明し、お互いに共有した。

各班からは、「進学率の高い理由は何か」や「この部活動が強いが、どの程度の成績なのか」など、活発に意見交換が行われ、具体的に興味のある部分の疑問の解消をすることができた。各班の発表後の後、自分の上級学校選択の基準を見つけ、これからの学校生活でどのようなことを意識して生活するかを記入させた。

③成果

勉強・学校行事・部活動など細かい部分で目標や具体的にやるべきことを考えることができた。

⑶　３学年の実践

①ねらい

部活動引退後の２学期以降は、受験生として日々の学習に取り組んでいくが、定期テストや実力テストなどに一喜一憂し、受験生としての長くて不安定な時期に対して、ストレスや不安な気持ちと向き合い、自分の気持ちをコントロールする術を身に付けさせることで、自分の志望校合格に向かって努力できる姿勢を身に付けることをねらいとした。

②具体的な実践

「自分の道を切り開こう」という活動を通して、受験期のストレスや不安と上手に向き合い、乗り切るための方策を考え、自分の目標達成のための宣言を作成する活動を行った。

９月初旬に実施したアンケート結果から、「受験に向けての悩みは何か」と尋ねたところ、「希望の高校のレベルに達していない」が63.4％、「勉強がはかどらない」が48.2％、「将来のことで悩む」が28.2％と上位にあがった。また、進路先を選ぶことにおいて重視することとして、「学力が自分に合っている」が70.3％と多く、自らの実力とその成果を意識するあまり、不安になることがわかった。

そこで、クラスで不安や悩みを共有し、クラス一丸となって、受験の壁を乗り越えるため、事前アンケートで挙げられた悩みや不安、学校生活で悩みを解決したことを提示し、実際に受験期の生活で生かせるもの、参考になるものを取り上げ、自らの現在の悩みや不安に対して、具体的にストレスを解消・緩和する方法を考えさせた。最後に、「これからの受験生としての宣言」を短冊型の画用紙に記入させた。

③成果

残り数か月の受験生としての期間をただ苦しいだけでなく、仲間も苦しい中で支えあえるクラス環境を作っていくことを考えさせることができた。

３　まとめ

キャリア教育の視点を取り入れた活動を多く実施することで、学校の荒れを解消し、県学力学習状況調査においても上昇傾向が見られ、質問紙において「身の回りの整理整頓」や「授業開始時刻を守る」ことなどの項目において、「よくできる」「だいたいできる」の項目が年々高くなってきている。キャリア教育の充実を図ることが、学校や生徒を生き生きとしたものに変えることを実感し、積み重ねていくことの大切さを痛感した。

Ⅴ　今後の課題

小学校からのキャリア発達の段階を意識した学級活動や体験学習を充実させることが急務と考える。このようなキャリア教育の視点に立ち、発達の段階に応じた指導法の工夫や自己理解を深めさせるための働きかけを行い、さらなるキャリア教育の発展につなげていきたい。

13 視 聴 覚 教 育

埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
・埼玉県学校視聴覚教育連盟
・埼玉県放送教育研究会
・埼玉県教育機器研究会

埼玉県学校視聴覚教育連盟

Ⅰ　研究主題と方針

国際化、情報化、少子高齢化など、社会が急激に変化する中、平成29年３月、新学習指導要領が告示された。各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令等の示すところに従い、人間として調和のとれた育成を目指し、心身の発達の段階や特性及び地域の実態を十分考慮して、主体的で深い学びの実現に向け、生きる力を育成することを目指している。

こうした中、各学校において、言語能力、情報活用能力及び、問題発見・解決能力の育成を進めるものとしている。特に、情報活用能力の育成に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークの環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実とともに、各種視聴覚教材や教育機器の適切な活用が不可欠である。

また、学習活動においては、「ア、情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動」や「イ、プログラミング教育を体験しながら論理的な思考力を身に付けるための学習活動」を推進することが求められている。

このような情報化社会の中で、今、学校では、「授業でのICT活用」、「教職員の指導力向上」、「情報モラル、情報セキュリティの重要性」、「プログラミング教育の推進」など、情報化に関わる教育課題が山積している。

これらのことから、本連盟では、教育メディアを積極的に活用した学習を研究し、展開することで、児童生徒に『自ら学ぶ力』と『主体的に問題を解決する力』を身に付け生きる力をつけることを方針とする。

また、【心豊かに、自ら学び、主体的に活動する力を育む教育メディアの活用を目ざして～楽しく学ぶ、進んで学ぶ、互いに学ぶ～】を本年度の研究主題とし、他の研究団体と連携し、各支部でも積極的に取り組むこととする。

Ⅱ　活動状況

１　役員

顧　　問　根岸　和幸
（本庄市立児玉小学校　再任用）
会　　長　桒原　伸行
（熊谷市立江南北小学校　校長）
副 会 長　中三川　勉
（越谷市立鷺後小学校　校長）
菅野　昌司
（所沢市立椿峰小学校　校長）
岡芹　純一
（本庄市立仁手小学校　校長）
吉田　和敬
（秩父市立吉田小学校　校長）
事務局長　松葉　友子
（熊谷市立江南北小学校　教頭）

２　主な活動

⑴　平成30年５月22日㈫
埼玉県県民活動総合センター
・埼玉県学校視聴覚教育連盟
理事研究協議会並びに総会
・埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
理事研究協議会

⑵　平成30年６月６日㈬
神奈川県相模原市相模女子大学
・関放協・関視連　第１回合同理事会

⑶　平成30年８月７日㈫
さいたま市浦和コミュニティーセンター
・第22回　埼玉県教育メディア活用研究大会
＜研究発表＞
「プログラミング的思考と情報モラルの育成」
熊谷市立妻沼小学校　塚越　康太郎　教諭

⑷　平成30年11月21日㈬
神奈川県相模原市相模女子大学
・関放協・関視連　第２回合同理事会

⑸　平成30年11月22日㈭
神奈川県相模原市相模女子大学　他
・関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会

「ＩＣＴを有効活用した授業実践」
総合的な学習の時間や算数科で、大型提示装置やSkype、コンピュータ等を活用した授業実践報告
熊谷市立熊谷南小学校　高橋　清憲　教諭

⑹　平成31年３月５日㈫
埼玉県県民活動総合センター
・埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会
理事研究協議会

Ⅲ　今後の課題

これまで以上にタブレットＰＣをはじめ多種多様なＩＣＴ機器、放送教材等の教育メディアを積極的に活用した学習を実践し、より効果的な活用法についての研究を深めていくことが求められている。しかし、学校・地域によってＩＣＴ機器の導入には差が大きい現状があるため、最先端機器の活用実践と併せて今学校にある機器を有効に活用した教育実践や工夫を研究することも必要になる。そうした実践内容・工夫点などを、互いに共有し合い、より質の高い指導方法を考え、児童生徒の学力向上に努めることが今後の課題である。

加えて、関東甲信越放送・視聴覚教育研究大会が2021年度に埼玉で行われるため早急に主開催地区を決めるなどの課題がある。

埼玉県放送教育研究会

Ⅰ　研究主題と主題設定の理由

１　研究主題

「だれもが考える力を育み　世界観をひろげる埼玉の放送教育」～ひろがる・つながる・深まる～

２　主題設定の理由

「放送番組を視聴することから子供の学びが始まる。番組を視聴している子供は、知識や経験を踏まえ、自分らしく考え、学んでいく。そこから学習がひろがっていく。」という認識のもと、本研究会では発足以来、子どもの内にわきあがる「学びたい」「分かりたい」「もっと知りたい」等を学習活動に活かす指導を実践し、放送番組を活用した子供の学び方、分かり方を中心に研究を重ねてきた。

今までの研究の成果をもとに、本研究会では2015年に冊子『なぜ教室には　テレビがあるのか！？　－学ぶ喜びのもてる放送教育－』を上梓した。冊子では、放送番組を活用した学習により、子供は自分らしく学ぶ喜びを味わうことができることを伝えた。

以上を踏まえ、本年度は研究主題を「だれもが考える力を育み　世界観をひろげる　埼玉の放送教育」～ひろがる　つながる　深まる～　とした。

放送番組を視聴すると、子供は皆、「分かった！」と言う。番組には分からせる力、働きがあるからであるが、この「分かった」は、一人一人異なっている。それは、一人一人の知識や経験、物事のとらえ方や考え方が個性的かつ多様であり、その子なりだからである。放送番組を使った学習では、子供の知識や経験等を関連付け、脳を活性化させていく。それが考える力の萌芽となる。活性化した脳（子供の頭の中の世界）では、色々な見方や考え方がひろがり、つながっていく。世界観（※知的・情意的な側面を含む、ものごとの見方やとらえ方）の深まりである。しかし、それは限界もある。さらに広げてくれるのは、他の子供である。一人一人の世界観を学習活動において出し合ったり、確かめたりすることによって、さらに自分の世界観が広がり、深まっていく。放送番組を活用した学習「放送教育」によって、考える力と子供の学びが豊かになり、人格の完成にもつながると考える。

本研究会では、そのような学びの実現を目指すとともに、さらなる放送教育の可能性を探るため、以下の事業を計画し、研究主題に基づき実践的な研究を進めていく。

⑴　日々の授業や研究活動（授業研究）を充実させ、研究主題に迫る放送活用を推進する。
・放送番組の視聴を通し、自分らしく考え、自分らしく表現している【ひろがる】
・放送番組と自分の知識や経験、友達の発言を関連付けて考えている　【つながる】
・学んだことを生かし、さらに深く考え、追究しようとしている　【深まる】

⑵　研究活動（授業研究等）の研究成果を広く発表していく。

⑶　ＮＨＫ杯全国中学校放送コンテストの県予選大会を通して、校内放送の普及・充実とその活用を図る。

⑷　公開授業研究会、埼玉県教育メディア活用研究大会を通して、放送活用の普及・充実を図る。

⑸　他の県内外の情報教育関係研究会と連携し、組織改革を推進する。

⑹　冊子『続　なぜ教室には　テレビがあるのか！？　－学ぶ喜びのもてる放送教育－』の編集検討をし、研究内容をより改善、深化させる。

Ⅱ　活動状況

1　役　員

会　　長　清水　　肇
（さいたま市立沼影小学校長）
副 会 長　山田　　茂
（川口市立八幡木中学校教頭）
石川　秀治
（さいたま市立浦和別所小学校教諭）
事務局長　四方　孝明
（八潮市立八條小学校教諭）
次　　長　関口麻理子
（新座市立八石小学校教諭）
武井　佑樹
（朝霞市立朝霞第十小学校教諭）

2　主な活動

⑴　定例会（毎月第３土曜日）
NHKさいたま放送局、さいたま教育会館
⑵　授業研究会および研究協議会
・第１回授業研究会　　武井　佑樹　教諭
７月13日㈮　朝霞市立朝霞第十小学校
（道徳：オンマイウェイ）
・第２回授業研究会　　三船　優人　教諭
11月15日㈭　さいたま市立大砂土東中学校
（道徳：ココロ部）
・第３回授業研究会　　大室　健司　講師
２月８日㈮　さいたま市立植竹小学校
⑶　埼玉県教育メディア研究活用大会
８月７日㈫　浦和コミュニティーセンター
テーマ「だれもが考える力を育む放送教育」
～特別の教科　道徳の実践より～
提案者　関口　麻理子　教諭
（新座市立八石小学校）
⑷　NHK杯全国中学校放送コンテスト
選考者　福田　珠美　教諭
（草加市立瀬崎中学校　教諭）
・６～７月埼玉県地区大会
・８月５日㈰6日㈪全国大会予選
⑸　放送教育研究会全国大会
・11月16日㈮、17日㈯
広島県広島市（川内幼稚園・川内小学校）
⑹　関東甲信越放送・視聴覚研究大会（神奈川大会）
・10月22日㈪　相模原市
⑺　特別研修会　８月25日㈯、26日㈰草津
⑻　視聴覚教育研究集録第44集刊行　３月

Ⅲ　研究成果（発表資料、指導案など）

1　メディア活用研究大会

⑴　提案内容
『だれもが考える力を育む放送教育』
～特別の教科　道徳の実践より～
提案者
新座市立八石小学校　　関口　麻理子　教諭
「主体的・対話的で深い学び」を実践していくに当たって、学級の信頼関係や人間関係が大切ですと必ずセットとして言われている。対話できない雰囲気の学級では実践しようとしてもうまくいかない。埼玉の放送教育の考えとしては、学びの雰囲気作りというのがあり、それは、児童がとにかく思っていること感じていることを発言したならば、教師はそれをすべて受け止めるという姿勢だ。それを続けていくと、児童が例え一言だったとしても自分の意見を大切にされたという学級内の必要性や存在意義を味わう経験をする。発言をすることに不安が少なくなっていき、誰もが発言できるクラスになる。集団としては、誰も友達の意見を馬鹿にしたり笑ったりすることはなく、みんな友達の意見に耳を傾ける。よく聞くようになったクラスの学ぶ雰囲気が醸成されていくのではないか。
⑵　研究協議・指導講評
①研究協議より
・年間どのくらいの時間を番組活用する計画か。→道徳の時数の三分の一程度を活用する。教科書で足りない徳目を補う目的もある。
・道徳以外の教科でも番組を活用しているのか。→理科､社会、総合、国語なども活用できる。

②指導講評より
・教科書の使用回数は現在は定まっていない。
・教科書の内容項目を入れ替えて行っていくとよい。ただし、毎回、番組を使えるというわけではない。
・発達の段階を考慮して活用する必要がある。
・番組を活用することは、どの児童生徒も内容に入り込みやすい。ゆえに、効果的に活用していける。

2　第１回授業研究会

(1)　研究授業

朝霞市立朝霞第十小学校　　武井　佑樹　教諭

①使用番組の説明

今回の主人公は、お笑い芸人の沢田純平さん。高月清司さんと「ジャウー」というコンビを組んでいる。沢田さんの夢は、テレビでひっぱりだこの人気芸人になって日本中の人を笑わせること。しかし、芸人になって11年、泣かず飛ばずの日々が続く中、年齢や周囲とのギャップに沢田さんの決意はゆらぎ始めている。今年を芸人として最後の年にすると覚悟した沢田さん。まずとりかかったのは、３ヶ月連続で行う単独ライブで、毎回新しいネタを披露すること。ネタ作りと稽古に奮闘し、ライブ本番をむかえる沢田さんの姿を追う。

②「意味場」→「空発問」による対話番組視聴

番組視聴をし、頭の中での視聴体験と自分の知識･経験から考えている状態【意味場（いみば）】を「何でもいいから言ってごらん」と【空発問（くうはつもん）】で発言させることにより、児童に世界観を広げさせる。

③構造的な板書

空発問によって発言された意見をすべて受けとめ、構造的に板書することで児童同士の思考の過程が広がるようにする。また、構造的に板書する。

④自分の立ち位置を示させることによる「評価」

板書には、様々な価値観や考え方が地図のように絡み合ってくる。終末に近づくにつれ、どの立ち位置から発言しているかに気付く。そこでネームプレートを思い思いの場所に貼らせることにより、全体の思いのベクトルが見えてくる。

3　第２回授業研究会

(1)　研究授業

さいたま市立大砂土東小学校　三船　優人　教諭

①単元名「キャプテンとしての責任と友情」

②教材名「最後のリレー」（NHK for school）

○教育番組（ココロ部）の動画には次のような特徴がある。

・動画により登場人物の様子や関係、状況が見て分かる。

・葛藤が起こりやすいような場面設定がされている。

・問題に対する答えは動画で出てくることはなく視聴した人がその場面の対応策（解決策）を考えるように構成されている。

・一つの価値観だけではなく、多様な価値観がその動画から考えられる。

(2)　研究協議・指導講評

☆成果

・児童が教育番組をしっかり視聴し、自分事として考えることができていた。

・児童が意欲的に挙手、発表した。

・児童同士が意見交流をしていた。

・教員が発問するだけでなく、児童同士で意見の交流を行っていた。

・児童がしっかり考え、自分の意見を持てていた。児童一人一人が自分なりの意見を持てていた。

・今日の学習を今後に生かせそうな感想を書いている児童が多数いた。

・映像を見て内容を理解するから、児童の思考のスタートラインを揃えられる。

○課題

・途中から、発表する児童が減ったり、個人間の対話になってしまったりした。

・児童全員の意見を把握できなかった。

・切り返しが甘かった。

・振り返りをしたら、それを共有する時間がもっとあったほうがよかった。

教育機器研究会　（休会中）

14　教育心理・教育相談

埼玉県教育心理・教育相談研究会

Ⅰ　研究主題

「通常の学級における発達障害児童生徒等の指導支援～社会性を育むスキル教育の実践と定着～」

Ⅱ　研究の概要

1　主題設定の理由

⑴　平成17年４月に発達障害者支援法が施行され、さらに、平成18年度から通級による指導の対象として新たにＬＤ、ＡＤＨＤが加わったことにより、ＬＤ、ＡＤＨＤ、自閉症に対する発達障害・情緒障害通級指導教室の新設や増設が県内で進んでいる。このような状況のもと、発達障害のある児童生徒が、通常の学級に籍を置き学校生活を送るケースも増えてきた。

一方、指導支援する教職員にあっては、このような障害のある児童生徒に対する理解が十分とはいかず、「どのような学級経営を行ったらよいのか」、「児童生徒を支援する関係機関や支援員との連携協力のあり方について」などの課題が生じている。これらの課題に対して、本研究会としてどのように取組を進めたらよいか協議を重ね、活動方針を固めるとともに必要な資料収集や事例研修会を実施することになった。

⑵　本専門委員会では、本会の研究テーマに関わり掲示用資料集（ＣＤ版）の普及を行ってきた。平成26年度には活用資料集を完成させ、ＣＤ版とセットで普及活動を行ってきた。平成28年度には、活用パンフレットを配付し、教育相談の発展に力を注いできた。

昨今の大幅な教職員の世代交代の中、教育相談主任の役割や教育相談室運営について知りたいというニーズが高くなってきた。この現状を踏まえ、教育相談主任の役割や教育相談室運営についての冊子を作成することになり、今年度完成を目指す。

2　研究方針

⑴　通常の学級等において、発達障害を有する児童生徒をどう理解し、指導支援していくか、先行事例に学び、研究を深め、実践事例等を広める。

⑵　社会性を育むスキル教育の実践と定着を図るため、各地区の事例や情報に基づいた研究を進める。

⑶　定例の理事会・専門委員会において、教育心理・教育相談の課題等について研究協議を行う。

3　研究計画

⑴　夏季研修会

県内の地域（南部、西部、北部、東部、さいたま市の５地区）ごとに、講演会、ワークショップを実施し、発達障害の理解や教育相談的手法、考え方を活かした指導・援助の方法を身に付け、実践に役立てる。

⑵　教育心理・教育相談講演会

教育心理及び学校教育相談等で活躍している専門家の講演会を通して、教師が、いじめの背景や具体的な対処法などを学び、望ましい人間関係や心を育む教育について理解を深め、実践に役立てる。

⑶　理事研究協議会

本研究会の運営について協議するとともに、国や県内の動向を知り、各地域における学校の実態に応じた研究のあり方を検討する。また、有効な手立てや情報を各地域に持ち帰り、研究活動の啓発及び各学校に活かせる取組を行う。

⑷　専門委員会

教育相談主任の役割や教育相談室運営に関わる情報を収集し、専門委員の気付きを共有し、それらを起点にして広く学校現場に還元できる提案ができるよう検討する。

Ⅲ　活動状況

1　総会及び第１回理事研究協議会

⑴　期　日　平成30年６月８日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・平成29年度事業報告
・平成29年度決算報告及び監査報告
・平成30年度役員承認
・新役員紹介及びあいさつ
・平成30年度活動計画
　本年度の基本方針
　夏季研修会、講演会、理事会等の計画、専門委員会活動計画
・平成30年度予算案
・夏季研修会について
・地区別協議

・役員打合せ

2　平成30年度役員

会　長　髙橋　光代（川口市立元郷小学校　校長）
副会長　髙村　美惠（川口市立戸塚南小学校　校長）
　　大木　　剛（東秩父村立東秩父中学校　校長）
　　宇野　聡規（熊谷市立荒川中学校　校長）
　　鈴木　恵子（越谷市立大袋東小学校　校長）
　　飯島　政範（さいたま市立日進小学校　校長）
監　事　新井　　恵（川口市立前川小学校　校長）
　　山根　　明（草加市立小山小学校　校長）
代表幹事
南　部　加藤　吉宏（草加市立栄中学校　教諭）
西　部　井上　和美（日高市立武蔵台中学校　教諭）
北　部　渡辺　智彦（寄居町立鉢形小学校　教諭）
東　部　小沢　範子（越谷市立蒲生南小学校　主幹教諭）
さいたま　内山　一幸（さいたま市立宮原小学校　教頭）
事務局　増田　真二（川口市立元郷小学校　主幹教諭）
幹　事　角田　和美（蕨市立南小学校　教頭）
　　千島　元代（坂戸市立南小学校　教諭）
　　渡邊　由佳（坂戸市立坂戸小学校　教諭）
　　神田めぐみ（東秩父村立東秩父中学校　養護教諭）
　　関根　正雄（深谷市立上柴西小学校　校長）
　　福島　宏之（熊谷市立秦小学校　校長）
　　井上　恭子（本庄市立秋平小学校　教頭）
　　笹岡　宏之（深谷市立本郷小学校　教諭）
　　福島　陽子（越谷市立北中学校　養護教諭）
　　横田奈緒美（春日部市立豊春小学校　教諭）
　　大野　里佳（さいたま市立大宮東中学校　教諭）
理　事　　各地区研究会から選出された 49 名
専門委員　各地区から選出された 19 名

3　夏季研修会

⑴　南部地区
①期　日　平成30年８月９日㈭
②会　場　埼玉県県民活動総合センター
③内　容
ア　講演会『社会性を高めるための、非認知能力の重要性』
講　師　立教大学　現代心理学部
教授　大石　幸二　氏
イ　ワークショップ
・ソーシャルスキルトレーニングの実践・教材体験
・医療機関との連携～教育相談やコーディネーターの役割について～
・エンカウンター～人間関係づくり～

⑵　西部地区
①期　日　平成30年７月31日㈫
②会　場　フレサよしみ
③内　容
ア　講演会『発達障害の理解をより深めるために』
講　師　光の家療育センター　施設長
小児科専門医・子どもの心専門医
鈴木　郁子　氏
イ　ワークショップ
・ソーシャルスキルトレーニング
・発達に課題のある子供たちの特徴とその支援
・不適応に陥っている子への支援

⑶　北部地区
①期　日　平成30年７月27日㈮
②会　場　深谷市立川本公民館
③内　容
ア　講演会『子供のやる気を引き出す教育相談』
講　師　開善塾教育研究所
所長　藤崎　郁子　氏
イ　ワークショップ
・「学校こわい」
～発達障害の子供たちが見ている景色～
・子供の理解を深めるための「セルフエスティームとアセスメント」

⑷　東部地区
①期　日　平成30年８月７日㈫
②会　場　文教大学
③内　容
ア　講演会『教師の自己理解を深める教育相談』
講　師　文教大学　教育学部
教授　会沢　信彦　氏
イ　ワークショップ
・新学習指導要領と教育相談の役割
～教師の自己理解を深める教育相談～
・脳の成長に応じた子供への対応
・児童生徒の理解と支援に生かすWISC-Ⅳの検査結果

⑸　さいたま市
①期　日　平成30年８月２日㈭
②会　場　さいたま市立教育研究所
③内　容
ア　講演会『通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒への具体的な対応』
講　師　埼玉大学　教育学部
教授　櫻井　康博　氏

4　夏季研修会でのアンケート結果

県内５地区において、夏季休業中に教育心理・教育相談に関する研修会を実施している。

⑴　地区別参加者数　【人】

	南	西	北	東	合計
人数	91	112	110	65	378

⑵　性別　【人】

	南	西	北	東	合計
男性	11	20	14	8	53
女性	80	92	96	57	325

⑶　勤務所属　【人】

	南	西	北	東	合計
小	64	81	75	38	258
中	27	31	34	27	119
その他	0	0	1	0	1

⑷　年代

	20 代	30 代	40 代	50 代
割合（%）	18	18	21	43

⑸　参加回数

	初めて	２回目	３回目	４回以上
割合（%）	62	20	7	11

⑹　校務分掌

	教心・教相	生徒指導	その他
割合（%）	62	3	35

⑺　参加理由

項　目	午前	午後
	割合（%）	割合（%）
児童生徒について理解を深めたい	21	21
学級経営に活かしたい	8	13
配慮を必要とする児童生徒の指導	21	36
専門家の話が聞きたい	35	14
教育相談的手法を身に付けたい	13	14
その他	2	2

⑻　ワークショップの感想

項　目	割合（%）
とても参考になった	82
参考になった	18
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0

⑼　講演会の感想

項　目	割合（%）
とても参考になった	61
参考になった	36
あまり参考にならなかった	3
参考にならなかった	0

⑽　今後希望する演習等（複数回答）

項　目	割合（%）
グループエンカウンター	20
エゴグラム	9
自律訓練法	14
ロールプレイング	7
カウンセリング技法	29
グループワーク	8
ソーシャルスキルトレーニング	34
人間関係づくり	24
学校教育相談の進め方	40

※アンケート集計は、さいたま市を除く。

5　第２回理事研究協議会

⑴　期　日　平成30年11月９日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・専門委員会活動報告
・夏季研修会報告
・冬季講演会について
・研究集録について
・夏期研修会諸経費について
・地区別協議
・役員打合せ

6　冬季講演会

⑴　期　日　平成30年11月９日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　講　師　所沢市立泉小学校
発達障害・情緒障害通級指導教室
教諭　坂本　條樹　氏

⑷　演　題『教育相談者が知っておきたい、WISC-Ⅳの見立てと支援方法』

7　第３回理事研究協議会

⑴　期　日　平成31年２月８日㈮

⑵　会　場　埼玉県県民活動総合センター

⑶　内　容

・平成30年度事業報告
・平成30年度専門委員会報告
・平成30年度会計報告
・平成31年度事業計画

・平成31年度専門委員会計画
・平成31年度役員推薦について
・研究集録について
・地区別協議
・役員打合せ

Ⅳ　専門委員会の活動

専門委員会では、平成23年度から「社会性をはぐくむスキル教育」の実践と定着を図ることを目指し、掲示用の資料作成に取り組んだ。その資料は、平成26年度からＣＤ資料として配付販売され、平成28年度からは、その活用パンフレットも配付されるに至り、県内で教育相談の発展に寄与することができた。

昨年度からは、教育界の世代交代の中、教育相談主任としての役割と教育相談室運営などのニーズが高い現状を踏まえ、オリエンテーション版として、その指針となる趣旨の配付物を作成することとなった。

昨年度は一年目として、専門委員のメンバーが資料提供と情報提供を相互に行う中で、配付に向けての準備を進めた。そして今年度、完成･配付することができた。

１　第１回専門委員会

①期　日　平成30年６月８日㈮
②内　容
・昨年度の活動内容確認と今年度の計画立案
・今年度の活動内容確認

２　第２回専門委員会

①期　日　平成30年11月９日㈮
②内　容
・教育相談主任としての役割と教育相談室運営についての情報交換
・冊子発行のための準備

３　第３回専門委員会

①期　日　平成31年２月８日㈮
②内　容
・今年度の反省と次年度の確認

Ⅴ　今後の活動

夏季のワークショップや講演会等を通して発達障害を有する児童生徒への指導支援の重要性が認識されるとともに、具体的に学んだことを生かし、効果的な指導が実施されるようになっている。

教職員アンケートの結果や課題を検討する中で、「発達障害」「いじめ」「不登校」等への継続的な対応から、保護者とのコンサルテーション、教職員の世代交代に関わること、校内教育相談体制全般に関わること、その他多くの話題が報告された。どれも学校現場からの切実な背景が込められていた。

研修会への参加回数から見てもわかるとおり、教育心理・教育相談に本格的に関わることが初めてである教職員がかなり多くなってきている。

本年度配付した「教育相談主任としての役割と教育相談室運営」は、教育相談の実践に不安を抱える教職員への一助となるものと考えている。

本研究会での活動が、本県の教育心理・教育相談分野の発展に寄与できるように研究を重ねていく。

15 特別支援教育

埼玉県特別支援教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえ、自立と社会参加につながる指導･支援の充実を求めて」

2　研究活動方針

特別支援教育が新たにスタートして12年目を迎え、特別支援教育の推進は、特別支援学級・通級指導教室・特別支援学校ではもちろんのこと、幼稚園、小・中学校、高等学校の全ての学校において、教育実践の重要な柱となってきている。この間、障害者の権利に関する条約が批准されるとともに、障害者差別解消法が施行され、共生社会の実現に向け、インクルーシブ教育システム構築の動きが加速している。各学校においては必要な幼児児童生徒に合理的配慮の提供が求められるとともに、ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善の取組が進められている。

また、小・中学校の新学習指導要領の総則においては、特別支援学級や通級による指導における個別の指導計画等の全員作成、各教科等における学習上の困難に応じた指導の工夫が規定された。

これらのことを踏まえ、私たちはより高い専門性を身に付けるとともに、子供たちが志をもち夢と自信に満ちて社会で活躍できるよう、自立に向けた指導･支援を推進する必要がある。本研究会は、これらの特別支援教育推進に係る諸課題解決に向け、学校及び教職員が抱える今日的課題を踏まえて研究を推進する。そして、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育の一層の充実を目指して、教職員の指導力の向上と本県特別支援教育の振興に寄与する。

結びに、2019年10月17･18日には、全特連全国大会埼玉大会を本県にて開催する。本研究会が70年にわたり積み重ねてきた特別支援教育に関する知見を活かすとともに、未来社会を拓く特別支援教育の在り方を提案･協議できる大会となるよう諸準備を進める。

Ⅱ　活動状況

1　研究組織

本研究会は、小学校･中学校の特別支援学級を母体とする本部と障害種･学校別の3つの部会（難聴･言語、発達･情緒、特別支援学校）とで構成されている。

2　本部事業

⑴　平成30年度総会

活動状況及び研究活動方針や事業計画を審議した。また、全特連全国大会埼玉大会実行委員会を実施した。

期　　日　平成30年６月８日㈮　参加者　92名
会　　場　埼大附属特別支援教育臨床研究センター
協議事項　事業報告、事業計画、新役員選出、等

⑵　第58回埼玉県特別支援教育研究協議会

毎年夏に開催する重要な事業であり、次年度の全特連全国大会のプレ大会として実施した。

午前の特別講演では、文教大学 教授 成田氏より、子供の脳の発達を踏まえた、適切な時期や関わり方等について貴重な示唆をいただいた。午後の分科会では、実践に基づく提案がなされ、熱心な協議が展開された。指導助言者として大学機関等の研究者を迎え、専門的な見地から特別支援教育における的確な御指導と貴重な情報を提供いただいた。また、新たに「障害者スポーツ/健康・安全教育」のテーマを加え、教育現場で特別支援教育の推進を目指す観点から、幼稚園・保育所、高等学校、通常の学級に関する分科会を設定した。

期　　日　平成30年８月２日㈭　参加者 711名
会　　場　草加市文化会館、草加市立栄小学校
内　　容　全体会（講演会）、分科会
全 体 会　特別講演会
テ ー マ　「脳科学で読み解く：ペアレンティングで変わる発達障害」
講　　師　文教大学　　教授　成田　奈緒子　氏（小児科医）
分 科 会　61ページの一覧で報告する

⑶　第26回特別支援教育実践研究協議会

今年度は、３つの分科会を設定し、実践事例を持ち寄り、充実した協議会を開催することができた。

期　　日　平成30年８月24日㈮　参加者 86名
会　　場　川越南文化会館

⑷　第６回埼玉県特別支援教育みらいセミナー

長期研修派遣教員が学んだ研究や教育実践に触れ、新たな特別支援教育の方向性を学ぶ機会として開催した。　　平成30年12月８日㈯

⑸　第48回埼玉県特別支援教育研究発表大会

特別支援教育にかかわる実践研究の成果を公募し、その中から、創意工夫あふれる優れた研究実践を紹介し、特別な支援を必要とする児童生徒への教育の充実・発展を目指している。今回は、小学校におけるICT教材を活用した自立活動の実践、中学校におけるペアレントトレーニングの実践、県立特別支援学校の作業学習の授業づくりについての研究の

第58回埼玉県特別支援教育研究協議会　分科会一覧

分科会No	分科会名(上段)とテーマ（下段）	討議の柱	指導助言者（敬称略）			提案者			司会者			分科会No
1	学校経営 共生社会の実現を目指した学校経営	○教職員の資質向上・人材育成 ○インクルーシブ教育システムを推進する学校経営	埼玉大学 草加市立青柳小学校	教授 前校長	櫻井　康博 益岡　和正	川口市立上青木小学校 上尾市立中央小学校	校長 校長	櫻井　秀子 三角　正敏	川越市立牛子小学校 上尾市立東小学校	校長 校長	須田　亮 浅沼　正義	1
2	特別支援教育コーディネーターの役割とセンター的機能 校内資源や地域ネットワークを生かした支援と連携	○合理的配慮・合意形成にかかる支援の在り方 ○特別支援学校のセンター的機能の充実	埼玉大学 県立秩父特別支援学校	教授 教頭	尾﨑　啓子 西　聡	県立騎西特別支援学校 川越市立古谷小学校	教諭 教諭	高野　幸恵 嘉島　理恵	県立騎西特別支援学校 川越市立南古谷小学校	教諭 教諭	田沢　さやか 五十嵐　美樹	2
3	幼児期の特別支援教育と幼保小の連携 幼稚園や保育所における一人一人のニーズに応じた早期支援と就学支援	○早期からの就学支援の在り方 ○保護者への支援と関係機関との連携の在り方	発達支援教室ピリーブ 文教大学 草加市教育委員会子ども教育連携推進室	代表 講師 室長	加藤　博之 嶋田　弘之	草加市児童発達支援センターあおば学園 学校法人横山学園新田幼稚園	保育士主査 前園長	中村　耕一郎 柴　多美世	草加市児童発達支援センターあおば学園 県立草加かがやき特別支援学校	保育士主任 教諭	花岡　美香 浜田　正子	3
4	各教科等を合わせた指導①（日常生活の指導・生活単元学習） 一人一人の意欲や生活する力を育む日常生活の指導・生活単元学習	○基本的生活習慣の確立に向けた指導 ○地域や学校の特色を生かした学習展開の工夫	聖学院大学 県立上尾かしの木特別支援学校	教授 校長	金谷　京子 小佐野　雅子	県立草加かがやき特別支援学校 富士見市立諏訪小学校	教諭 教諭	岩見　早希子 小林　秀人	県立川口特別支援学校 富士見市立鶴瀬小学校	教諭 教諭	鳥塚　健太 三井　信子	4
5	各教科等を合わせた指導②（作業学習） 一人一人の自立する力、働く力を育む作業学習	○卒業後の職業生活につながる指導 ○地域や学校の特色を生かした作業学習	文教大学 県立三郷特別支援学校	教授 校長	小野里　美帆 羽山　史明	越谷市立西中学校 さいたま市立ひまわり特別支援学校	教諭 教諭	太田　和樹 日下部　瞳	越谷市立大相模中学校 県立川越特別支援学校	教諭 教諭	中根　慧 佐藤　久美子	5
6	教科別の指導①（小学校段階） 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○資質・能力をバランスよく育成する指導 ○ＩＣＴを有効に活用した指導	聖学院大学 さいたま市教育委員会	特任教授 指導主事	齋藤　一雄 米沢谷　将	県立大宮北特別支援学校 寄居町立寄居小学校	教諭 教諭	飯塚　瑠美 朝比奈　貢	県立日高特別支援学校 寄居町立桜沢小学校	教諭 教諭	長谷川　清 柴宮　順子	6
7	教科別の指導②（中学校段階） 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○資質・能力をバランスよく育成する指導 ○ＩＣＴを有効に活用した指導	星美学園短期大学 熊谷市立熊谷東中学校	准教授 校長	遠藤　愛 原口　政明	春日部市立武里中学校 県立毛呂山特別支援学校	教諭 教諭	石川　大樹 長塚　朋美	吉川市立美南小学校 県立秩父特別支援学校	教諭 教諭	宮本　絵美 小澤　典子	7
8	自立活動 一人一人の教育的ニーズに応じ、豊かな生活を支援する自立活動	○きめ細かな実態把握・評価に基づく指導計画 ○困難さの背景に着目した指導	埼玉純真短期大学 県立草加かがやき特別支援学校	教授 校長	伊藤　道雄 細谷　忠司	県立川口特別支援学校 さいたま市立仲本小学校	教諭 教諭	師岡　優太 成田　佳織	県立和光南特別支援学校 さいたま市立与野本町小学校	教諭 教諭	親﨑　惇司 森泉　清一	8
9	通常の学級における児童生徒の支援と授業改善（小・中学校） UDの視点を取り入れた発達障害のある児童生徒への指導と授業づくり	○合理的配慮に対応した学習環境整備と指導 ○すべての児童生徒に分かりやすい授業の工夫	埼玉大学 さいたま市教育委員会	教授 指導主事	長江　清和 稲吉　勝	深谷市立常盤小学校 川口市立里中学校	教諭 教諭	明智　千穂 関口　希依	戸田市立笹目小学校 桶川市立桶川東小学校	教諭 教諭	黒﨑　正彦 金風　祐士	9
10	高等学校における特別支援教育 高等学校における特別支援教育の推進	○合理的配慮への対応とニーズに応じた指導 ○高等学校における通級による指導	星美学園短期大学 県教育局県立学校部特別支援教育課	専任講師 指導主事	太田　研 新井　由美子	県立けやき特別支援学校伊奈分校 埼玉県立新座高等学校	教諭 教諭	石本　直巳 グラス　万里子	県立入間わかくさ高等特別支援学校 県立特別支援学校さいたま桜高等学園	教諭 教諭	春木　美紀 相川　賢樹	10
11	通級による指導（発達障害・情緒障害） 通級指導教室における発達障害・情緒障害のある児童生徒への指導	○主体的に学ぶ意欲を伸長する指導 ○在籍校・保護者・関係機関との連携の在り方	埼玉大学 伊奈町教育委員会学校教育課	准教授 指導主事	名越　斉子 安藤　咲恵	久喜市立本町小学校 越谷市立光陽中学校	教諭 教諭	金子　洋子 塚越　美和子	所沢市立泉小学校 所沢市立中央中学校	教諭 教諭	坂本　條樹 渡部　奈央	11
12	難聴・言語障害のある児童生徒への指導 難聴・言語障害のある児童生徒への指導	○専門性を生かした指導 ○在籍校・関係機関との連携の在り方	淑徳大学 県立総合教育センター	特任教授 主任指導主事	鈴木　克俊 原田　篤	寄居町立寄居小学校 川口市立幸町小学校	教諭 教諭 教諭	齊藤　緑 磯貝　美貴 鎌田　敏弘	所沢市立三ヶ島小学校 久喜市立青葉小学校	教諭 教諭	川口　亜希子 佐藤　文代	12
13	自閉症スペクトラムの児童生徒への指導 知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒への指導	○自閉症スペクトラムの特性を生かした指導・支援の工夫 ○一人一人のニーズに応じた指導計画の作成	埼玉大学 県立総合教育センター	准教授 指導主事兼所員	山中　冴子 栃金　聡	県立越谷西特別支援学校 さいたま市立与野西中学校	教諭 教諭	高久　聖也 寺田　理衣	県立越谷西特別支援学校 さいたま市立土呂中学校	教諭 教諭	近藤　新也 田口　隆子	13
14	重度・重複障害のある児童生徒の指導 重度・重複障害のある児童生徒の理解と支援及び医療との連携	○障害の特性等に応じた指導上の配慮の充実 ○保護者・医療機関等との連携の在り方	埼玉大学 県立越谷特別支援学校	教授 校長	細渕　富夫 小池　浩次	県立熊谷特別支援学校 県立蓮田特別支援学校	教諭 教諭	丹羽　史和 小林　知美	県立熊谷特別支援学校 県立蓮田特別支援学校	教諭 教諭	新井　幸子 植村　勇	14
15	キャリア教育 社会に開かれた教育課程の編成とキャリア教育	○卒業後を見据えた一貫した指導・連携の在り方 ○働く意欲を育むキャリア教育	東松山障害者就労支援センター 県教育局県立学校部特別支援教育課	代表理事 副参事兼副課長	若尾　勝己 八木　秀一郎	県立入間わかくさ高等特別支援学校 加須市立加須小学校	教諭 教諭	杉田　由美 大出　美砂	県立大宮北特別支援学校さいたま西分校 加須市立花崎北小学校	教諭 教諭	江袋　明 吉田　高志	15
16	交流及び共同学習 豊かな関わり合いの中で共に学び合う交流及び共同学習	○豊かな心を育む交流及び共同学習 ○異校種間における交流及び共同学習	東京家政大学 県教育局県立学校部特別支援教育課	教授 指導主事	半澤　嘉博 坂口　勝信	県立三郷特別支援学校 寄居町立男衾中学校	教諭 教諭	渡邉　美香 川音　順子 小関　紀美	県立三郷特別支援学校 熊谷市立熊谷西小学校	教諭 教諭	伊賀　北斗 杉浦　里奈	16
17	健康・安全教育、障害者スポーツ 生きる力を育む健康・安全教育と障害者スポーツの推進・余暇活動の充実	○障害特性に応じた防災・安全教育の在り方 ○健やかな心と体を育む指導の工夫	埼玉県障害者スポーツ協会 県立本庄特別支援学校	副会長 校長	重田　博 山本　達也	県立大宮北特別支援学校 県立特別支援学校嵐保己一学園	教諭 教諭	奥原　美緒 松本　一輝	県立浦和特別支援学校 県立特別支援学校嵐保己一学園	教諭 教諭 教諭	氣仙　大次郎 林　伸一 内藤　靖	17
18	特別支援学級での授業づくり入門 特別支援学級における授業づくりと学級経営	○一人一人の教育的ニーズに応じた指導の工夫 ○特別の教育課程の編成と学級経営の在り方	埼玉大学教育学部附属特別支援教育臨床研究センター 埼玉大学教育学部附属特別支援学校	専門相談員 副校長	高田　豊 神田　佳明	戸田市立第一小学校 越谷市立大袋小学校	教諭 教諭	仲尾次　明美 石川　有希	戸田市立第一小学校 越谷市立大沢小学校	教諭 教諭	井上　博之 海老沼　幸子	18

成果が発表された。

期　　日　平成31年１月25日㈮

会　　場　埼大附属特別支援教育臨床研究センター

⑹　提案者等の推薦

第57回全日本特別支援教育研究連盟全国大会名古屋大会

期　　日　平成30年10月25日㈭～26日㈮

第17分科会「障害者スポーツ」

提 案 者　松本　一輝

（県立特別支援学校塙保己一学園）

第52回関東甲信越地区特別支援教育研究協議会

期　　日　平成30年８月６日㈪

第７分科会「教科・領域を合わせた指導（生活単元学習）」

提 案 者　堀川　大介（熊谷市立江南南小学校　教諭）

司 会 者　柳澤　真美（埼大附属特別支援学校　教諭）

第13分科会「キャリア教育・職業教育」

提 案 者　鳥海真由美（熊谷市立富士見中学校　教諭）

司 会 者　加藤　和子（埼大附属特別支援学校　教諭）

⑺　研究委嘱

①戸田市立笹目小学校　［委嘱年度29・30年度］
「ユニバーサルデザインと学校づくり」

②戸田市立喜沢小学校　［委嘱年度29・30年度］
「個が生きる集団活動を通して、心豊かに生きる児童の育成」

③久喜市立青毛小学校　［委嘱年度30・31年度］
「コミュニティスクールを基盤としたインクルーシブ教育システムの構築～ユニバーサルデザイン化した授業の工夫と教育支援体制の創造～

④熊谷市立富士見中学校　［委嘱年度30・31年度］
「中学校通級指導教室における生徒一人一人の夢の実現に向けたキャリア発達を促す取組～通級卒業生から学ぶ自分らしい生き方～」

⑤川越市立川越小学校　［委嘱年度30・31年度]
「豊かなかかわり合いの中で今と未来に生きる～教科等横断的な資質・能力を育成する～」

３　難聴・言語障害教育研究部会

⑴　研修の概要

「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方を求めて」を研修テーマにして、全体研修会（２回）、グループ別研修会、役員研修会を行った。

埼玉県・さいたま市の64校130名の担当者にとって本研究部会は貴重な研修の場であり、難聴・言語障害に関する専門性向上の一助となった。

⑵　具体的な研修内容

第１回　全体研修会
期　日　平成30年４月24日㈫
会　場　さいたま市立大宮南小学校

〔全体協議〕平成30年度研修計画立案及び役員選出

〔講演会〕テーマ「特別支援教育の現状と課題」

講　師　県教育局県立学校部特別支援教育課
指導主事　金子　美里　先生

埼玉県の特別支援教育の充実に向けての今年度の動向及び難聴・言語障害通級指導教室の役割についてお話をいただいた。

第２回　グループ別研修会
期　日　平成30年６月12日㈫
会　場　蕨市立北小学校

【グループ別研修のテーマ】

①構音グループ「構音指導」（基礎・応用）
講師（基礎）西田　立郎　先生
講師（応用）髙橋　明子　先生

②吃音グループ「川越小学校研究発表」「実践紹介」

③難聴グループ「難聴指導の実践事例・報告」

④教室経営グループ「教室経営の実態」

第３回　全体研修会
期　日　平成30年10月30日㈫
会　場　埼玉県立小児医療センター

小児医療センター所属の言語聴覚士の講師より、ご講義いただき、医療現場と教育現場の連携の充実を図ることができた。

【講義】

「口唇口蓋裂のお子さんの医療的ケアと指導について」
講　師　清水　加奈子　先生、石田　隼一郎　先生

「言語（話す･聞く）に課題のある子の支援について」
講　師　遠藤　俊介　先生

役員研修会
期　日　平成31年２月15日㈮
会　場　上尾市立芝川小学校

【講義】「幼児のことばの相談・療育と就学相談
～保健、医療、福祉から教育への連携～」
講　師　埼玉県言語聴覚士会会長　春日部市障がい支援課　ことばの教室
田尻　恵美子　先生

【全体協議】①今年度の事業報告、会計報告
②今年度の各グループ別研修内容の報告
③新年度の役員について

４　発達・情緒障害教育研究部会

⑴　研究部研修テーマ

「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援のあり方」

⑵　研修実施報告

様々な分野で活躍する支援者からの発表・講演を聞き、特別支援教育の今日的課題について研鑽を深める。

【第１回研究協議会】

期　日　平成30年11月９日㈮
会　場　所沢市立並木小学校　　参加者 59名
全体会

演　題「高等学校における通級による指導の実際」
発表者　県立新座高等学校　教諭　グラス　万里子
県立特別支援学校さいたま桜高等学園
教諭　相川　賢樹

平成30年４月より学校教育法施行規則が改正され（第140条）、高等学校においても通級による指導が制度化された。埼玉県内では，モデル事業として４校が指定され、すでに高等学校における通級による指導が実施されている。

今回の研究協議会では、その一つである県立新座高等学校とその連携特別支援学校である県立さいたま桜高等学園の実践について発表をいただいた。

前半は、県立新座高等学校において、実際に通級による指導を実践されているグラス万里子先生より、具体的な指導内容について説明をうかがった。

新座高等学校では、通級指導教室設置以前より行われていた「キャリアサポート」が母体となっており、そこで長年実績を積まれた担当の先生が、その経験を生かして通級指導を行っているとのことであった。キャリアサポートの基本概念としては、通常の一斉授業の中で困難さを抱えている生徒が、授業だけではカバーしきれない進路に関する課題について支援を行う、というスタンスで実施されてきた。特に、全校生徒を対象とした「一次支援」、集団内での個別支援を必要とする生徒を対象とした「二次支援」、そして個別のキャリアサポートの必要性が高まった生徒を対象とした「三次支援」までをも想定している点が画期的である。

後半は、連携特別支援学校に指定されているさいたま桜高等学園の相川賢樹先生より、高等学校通級の現状と課題についてお話をうかがった。

義務教育段階である小中学校の通級指導とは、根本的に違う点が、様々な場面で見られる。小中学校では、入級判断は市教委や就学支援委員会が原則行うのに対し、高校では校内委員会や学年会においてそれが決定される。また、現時点では担当者は非専任で、対象生徒も自校生徒のみである。教育課程の位置付けに関しては、一部教育課程内で実施され単位化している学校もあるが、多くは課外活動として位置付けられている。新座高等学校の活動内容は、主に「自己理解とコミュニケーション」「人間関係の形成とセルフコントロール」「進路実現」などである。将来的に単位化も検討している。

現時点における課題は、入級判断が各高校に任されていることから、多様な生徒が在籍し、今後、通級本来の指導ではなく、生活単元学習のような内容になってしまう可能性も考えられるとのことである。

【第２回研究協議会】
期　日　平成31年３月５日㈫
会　場　埼玉県県民活動総合センター　参加者 70名
講演会「発達や愛着に課題のある児童生徒の入院による療養援助の実際」
－児童・思春期の精神疾患への心理支援－
埼玉県立精神医療センター　臨床心理士　土屋　初希

近年、発達障害に加え、幼少期の愛着形成に課題を抱える児童生徒への支援に注目が集まっている。最近の研究により、幼少期の虐待等が原因で脳内に明らかな変性が起こることもよく知られるようになった。そうした発達期における非定型的な脳機能の変化は、思春期を迎えるにあたり様々な精神疾患のリスク要因となることも分かってきた。そうした児童生徒への入院による療養支援を行ってこられた土屋先生より、児童・思春期に精神疾患を発症した子供への対応の実際をお話しいただき、特別支援教育担当者が教員として心理的援助をする際の留意点や勘所を実技・演習を通してご指導いただいた。

５　特別支援学校部会（９つの研究部会）

各研究テーマのもと実技研修も交え、取り組んでいる。
（各部会の研究内容:本会発行の会報51号を参照）
［国語］「生活を豊かにする国語の指導」
［算数・数学］「新学習指導要領に基づいた指導法について」
［日常生活の指導］「一人一人の意欲や生活する力を育む日常生活の指導」
［生活単元学習］「一人一人の意欲や生活する力を育む生活単元学習～地域や学校の特色を生かした学習展開の工夫～」
［作業学習］「生徒の実態に即した作業学習」
［自立活動］「個の障害特性・ニーズを踏まえた自立活動の充実」～新学習指導要領を踏まえた実践と基本的な考え方～
［体育］「よりよい授業づくりを目指して」～子どもたちの達成感を大切にし、次の活動意欲を育む体育指導の工夫～
［音楽］「豊かな表現力を育てる音楽教育」～児童生徒一人一人の力を高め、互いに学び合える授業の工夫～
［図工・美術］「一人一人が主体的に楽しめる図工・美術」

６　今後の課題

全ての教育機関において「特別支援教育」の必要性が叫ばれ、インクルーシブ教育システムの構築が課題となっている。本会の研究協議会の参加者は、幼・小・中・高の園校種、特別支援学級、特別支援学校、通常の学級の教員や管理職まで幅広い。今後とも教育現場でのニーズに最も応えられる団体として、国や県の動向、他県の状況等を把握しながら、更に研究を推進していきたい。

16 学 校 図 書 館 教 育

埼玉県学校図書館協議会

Ⅰ　研究主題

「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造」
～主体的・対話的で、深い学びを支える
学校図書館教育～

Ⅱ　主題設定の理由・方針

現行学習指導要領の、「生きる力」の育成をめざし、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むことを維持したうえで、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成するのが、新学習指導要領改訂の基本的な考え方である。

また、情報を正確に理解し適切に表現する力の育成や学習の基盤としての各教科等における言語活動の充実を謳っている。その中でも、読書活動は、児童生徒の知的活動を増進し、豊かな心と確かな学びを育むとともに、人間形成・情操や情報活用能力を養う上で重要である。全教育活動を通し、児童生徒の望ましい読書習慣や図書館等を活用する学習習慣をつけるため、学校図書館を計画的に利用して、多様でしかも創意工夫した学習指導の展開を図ることが必要である。

そこで、本年度は、学習指導要領の趣旨に基づき、主体的・協働的な深い学びを支える学校図書館の研究を最重要課題に設定し、研究大会や読書感想文コンクールをはじめとする諸事業の一層の充実を図ることとした。

1　活動方針

⑴　管理運営：学習・情報センターとしての学校図書館の充実
①学校図書館全体計画
②年間経営計画
③小中・地域連携全体計画の見直し

⑵　利用指導：学び方を学ぶ情報活用能力を育成する指導の在り方
①学び方指導計画、情報メディアを活用する学び方体系表
②利用指導年間指導計画の見直し
③学校図書館活用事例を付記した各教科等年間指導計画例の提案

⑶　読書指導：生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導の在り方
①読書指導の全体計画体系表
②読書指導年間指導計画
③小中連携の系統表

⑷　地域連携：学校、家庭、地域社会等の連携による読書活動の推進の在り方
①学校・家庭・地域等（図書館ボランティア等）の連携の体系表
②家庭教育との連携
③公立図書館等との連携推進

2　各部の事業概要

⑴　事務局……事業の計画・実施・評価、各会議の開催手続、年度資料ファイル管理、一般会計、会計監査等

⑵　総務部……読書感想文コンクール、読書感想画コンクールの企画・運営、表彰式の企画・運営

⑶　研究部……活動方針と努力点の計画・実施、研究員協議会、研究大会、授業研究会の企画・運営・管理・記録、研究刊行物の再編集

⑷　情報部……広報誌のための基礎資料収集と速報版の発行

⑸　出版部……研究集録・感想文集「真珠」の編集・発行、刊行物の企画・運営・管理等

3　活動状況

５月９日㈬　第１回本部役員研修会
会　場：朝霞市コミュニティーセンター
６月１日㈮　新旧役員研修会（総会）・理事会
本部役員会・第１回研究員研究協議会
会　場：越谷市中央市民会館
７月６日㈮　第２回研究員研究協議会
会　場：越谷市中央市民会館
７月27日㈮　埼玉県学校図書館研究大会
会　場：越谷市北部市民会館
共　催：埼玉県図書館協会
８月８日㈬　全国学校図書館研究大会
～10日㈮　富山・高岡大会へ参加
会　場：富山県民会館
ウイング・ウイング高岡

11月20日㈫　第64回読書感想文コンクール
県中央審査会
会　場：さいたま市立海老沼小学校
12月５日㈬　授業研究会（小学校）及び
第２回本部役員研修会
会　場：鴻巣市立赤見台第二小学校
指導者：東京学芸大学
非常勤講師　福田　孝子　氏
授業者：分須美智子　教諭
内　容：作品の世界を深く味わおう
～宮沢賢治の作品を紹介する～
１月15日㈫　第30回読書感想画コンクール
県中央審査会
会　場：さいたま市立海老沼小学校
来　賓：毎日新聞さいたま支局
支局長　松下　英志　氏
さいたま市教育委員会
指導主事　小川　直生　氏
さいたま市立与野西中学校
校長　中川　昇次　氏
１月30日㈬　第３回研究員研究協議会
会　場：越谷市中央市民会館
２月15日㈮　読書感想文・感想画コンクール表彰式及び第２回理事会
会　場：越谷市北部市民会館
３月９日㈯　第２回本部役員会
会　場：朝霞市民会館
☆　研究集録　発行
☆　感想文・感想画集「真珠」発行
☆　広報誌「埼玉ＳＬＡ」発行

Ⅲ　本年度の主な研究内容

１　埼玉県学校図書館研究大会

平成30年７月27日㈮越谷市北部市民会館にて、埼玉県学校図書館協議会・埼玉県図書館協議会の共催による「埼玉県学校図書館研究大会」を、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会の後援を受け開催した。

当日は、「豊かな心と学びを育む学校図書館の創造」をテーマに、午前に講演を１本、午後は全体講義を１本と４分科会に分かれての研究会を行った。小・中・高校の司書教諭や学校図書館・公立図書館の関係者が多数参加し、有意義な大会となった。

＜講演会＞

「ボランティアによる図書館活動報告」
講師　公益社団法人シャンティ
国際ボランティア会広報課長　鈴木　晶子　氏

海外で育ち、日本で生活する中で、文化の違いを感じて苦悩することも多かった。祖母の家が被災し、その生活が激変していくのを目の当たりにする中で、いつしか海外の災害支援を自分の仕事にしようと決意する。

2011年に起きた東日本大震災では、気仙沼で避難所を回りながら支援を模索した。避難所での「子供たちの心を心配する声」や「一人になれる場所を望む声」を耳にし、移動図書館の取組を始めた。「立ち読み、お茶飲み、お楽しみ」をスローガンに、６年ほど活動を続け、昨年６月までに約６万人の利用があった。

カンボジアやミャンマーでは難民キャンプでの支援を行っている。カンボジアの難民キャンプは、まるで「餓鬼草子」のような状況であった。そこで、「子供たちが笑顔になれるよう、人間らしくいられるよう活動しよう」と本に触れる機会を作る活動を始めた。「読み聞かせをする」と言うと大勢の人達が集まってくる。子供たちは読み聞かせをしてもらったことがない。ボランティアが愛情を届けることにした。シャンティが目指す「共に生き、共に学ぶ」活動の一つである。

ミャンマーでは、図書館に大人の足も向くようにするとともに、学校に行っていない子供たちの受け入れ場所とした。７カ所の難民キャンプの21館の図書館へ、日本の絵本を届ける活動をシャンティが行っている。

＜全体講義＞

「児童生徒の学びを支える学校図書館」
講師　東京学芸大学附属世田谷中学校
司書　村上　恭子　氏

図書館の蔵書収集に関する基本方針は、「①読み継がれてきた本　②中学生にとって旬の本　③授業に役立つ本　④あらゆる世界への入り口となるような魅力ある本」である。本校の図書館は、多様な蔵書を揃え、生徒の個人的な読書の場として、また、様々な教科の学びの場としても活用されている。

学校図書館を授業で活用することの利点は次のとおりである。①多様な資料（書籍・新聞・有料データベース・ホームページ等）にアクセスできる環境の中で、教科として必要な知識の定着を図るとともに、学び方・学ぶ力を身に付けることができる。②与えられた課題であっても、多様な資料の存在が、一人一人の学習意欲を刺激する。つまり、普段読まれない本が手に取られる。③学校図書館を学び合いの広場にすることで、言語力・思考力・表現力を培いながら情報活用能力を高め、将来的には高度情報化社会を生き抜くた

めの力を身に付けることができる。

情報活用能力の育成を可視化するため「図書館学びんぐマップ」を作成し、国語・社会・音楽・家庭科・保健体育科の教諭と連携し、探求学習を推進している。

＜分科会＞

分科会Ａ（管理運営）　「学校図書館の運営と充実」

提案発表者

本庄市立金屋小学校　　小沼　美紀　教諭
越谷市立富士中学校　　櫻井　亜莉沙　教諭

小沼教諭は、学校図書館の概要や具体的な取組、地域との連携について発表した。６月、１冊につき一つの折り紙のあじさいを掲示する「あじさいリーディング」を行った。11月には、「ビンゴ読書」「読書貯金」を企画し、目標達成者に読書賞を贈った。委員会では、お薦めの本の紹介を行い、地域との連携では、市立図書館による移動図書館、図書ボランティアによる読み聞かせなどを企画した。

櫻井教諭は、「何ができるか？司書教諭」と題して、13年間の学校図書館の運営について、「管理運営」「読書指導」「利用指導」をステップアップとして捉え、発表した。司書教諭が、学校図書館の運営にどのように携われるかを、環境を整える部分、読書推進に関わる部分、学校図書館全体を活用して情報活用能力を高めていく部分で模索し、実践してきた。魅力ある学校図書館づくりに励んでいる。

分科会Ｂ（利用指導）

「学校図書館を活用した情報活用能力の育成」

提案発表者

川越市立名細小学校　　小林　直子　教諭
越谷市立大相模中学校　　中井　美穂　教諭

小林教諭は、学校図書館の現状、課題、取組について発表した。学校図書館を利活用するうえで、一人一人の教員の学校図書館に対する認識が課題であること等を挙げ、実際の活動を紹介した。年間指導計画の作成、利活用に有効な資料の購入、人との連携、市立図書館との連携、授業での実践等、司書教諭としても、１人の担任としても情報活用の力の育成に努めた。

中井教諭は、３学年で取り組んだ利用指導の授業実践「修学旅行に向けた調べ学習」「情報の扱い方について考える授業」について発表した。「何で調べるのが一番目的に合っているのか」を考えさせたり、「著作権」について考えさせたりして、情報リテラシーへの意識を高めた。

分科会Ｃ（読書指導）

「生きる力と豊かな心を育む読書活動の指導」

提案発表者

川越市立高階北小学校　　冨澤　浩子　教諭
さいたま市立川通中学校　　塚本　直子　教諭

冨澤教諭は、魅力的な読書指導の実践について学校での取組を発表した。学校図書館を楽しいと思えるような場所にするため教員・児童の協力を得て活動している。読書郵便・読書ビンゴ・読書パズルなどは、教師の意識によって取り組み方に差が出るので、その差をなくす方法を模索している。

塚本教諭は、５年間の川通中学校での活動を発表した。「読書数にこだわらない良質な読書」を目標にしてきた。年度当初のオリエンテーションで「ごはんの本」「おやつの本」を使って分類の説明を行っている。小学生への読み聞かせや本の帯による紹介カードづくりなど、委員会活動も充実し、利用者の中に笑顔が見られることに喜びを感じている。

分科会Ｄ（地域連携）

「連携による読書活動の推進の在り方」

提案発表者

三郷市立彦郷小学校　　八代　徳子　教諭
春日部市教育委員会社会教育課図書館担当
齊藤　知子　氏

八代教諭は、公共図書館との連携と地域・家庭との連携について発表した。団体貸出、小学３年生対象のブックトーク、「子ども司書」養成講座、らんどせるブックよもよも、読書のまち三郷推進資料「言葉の力」の授業活用を、公立図書館との間で行っている。地域・家庭との連携では、読み聞かせボランティア・人形劇やお話会・家読・家読俳句・学校間の本の紹介等を行っている。

齊藤氏は、学校図書館と春日部市社会教育課図書館担当との連携について発表した。小学校には学校図書館支援員（学校司書）を配置し、中学校には社会教育課の司書職員が訪問支援を行っている。学校図書館支援員に対し、年４回程度の全体研修を実施し、個別相談に応じている。中学校では、担当教諭と連携し、学校図書館利用拡大や生徒の読書意欲向上のための支援を実施している。

２　授業研究会（小学校）

期　日：12月５日㈬
会　場：鴻巣市立赤見台第二小学校
内　容：作品の世界を深く味わおう
～宮沢賢治の作品を紹介する～

授業者：司書教諭　　分須　美智子　教諭
指導者：東京学芸大学
非常勤講師　福田　孝子　氏

3　第64回読書感想文コンクール県中央審査会

期　日：11月20日㈫
会　場：さいたま市立海老沼小学校
最優秀賞受賞者
≪読書感想文≫
◎課題読書
小低
久喜市立菖蒲小学校　２年　角田　彩萌
作品名　ともだちっていいな
小中
越谷市立桜井小学校　４年　嶋﨑　采音
作品名　わたしたちの通学路
小高
春日部市立備後小学校　６年　田村　優衣
作品名　思いやりに重ねて大切なこと
中学校
越谷市立富士中学校　３年　西牧　祐美
作品名　次世代へ受け継ぐべきもの
◎自由読書
小低
さいたま市立常盤小学校　１年　鈴木　康介
作品名　たいせつなたからもの
小中
草加市立谷塚小学校　３年　石黒　琉翔
作品名　学校へ通うことの意味
小高
越谷市立越ケ谷小学校　５年　岡安　麗菜
作品名　エール
中学校
越谷市立大相模中学校　３年　中野　希保
作品名　心の中の図書館

4　第30回読書感想画コンクール県中央審査会

期　日：１月15日㈫
会　場：さいたま市立海老沼小学校
最優秀賞受賞者
≪読書感想画≫
◎指定読書
小低
さいたま市立沼影小学校　２年　東　奏怜
小高
春日部市立南桜井小学校　６年　野口　優里奈
中学校
私立大妻嵐山中学校　２年　本郷　紗羽
◎自由読書
小低
さいたま市立沼影小学校　３年　牧野　成桐
小高
さいたま市立沼影小学校　６年　佐々木　美緒
中学校
上里町立上里北中学校　２年　中藤　愛乃

Ⅳ　成果と今後の活動

夏季休業中の研究大会には多数の参加者があり、「主体的・対話的で深い学び」に果たす学校図書館と読書活動の役割について多様な視点から学ぶことができた。

また、２月に感想文・感想画コンクールの表彰式と理事会を開催し、１年間のまとめと次年度に向けての準備を行うことができた。

平成35年（2023年）の関東地区大会に向けての研究の推進と各部の活動のさらなる改善が今後の課題である。役員・研究員のネットワーク化も、引き続き、工夫改善の余地がある。

来年度も、各地区理事や研究員と綿密に連携し、学校図書館教育の充実をなお一層図っていきたい。

17　中学校技術・家庭科教育

埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会

Ⅰ　はじめに

技術・家庭科のねらいの具現化に向け、題材計画の検討および題材開発の検討を行い、実践研究を進め、その研究成果を県内各中学校の技術・家庭科の教育活動に広げ、生かす取組を行ってきた。また、全国研究大会と７ブロックの研究大会を中心とする教科の研究と、生徒の学習成果の発表の場として設定されている「創造ものづくり教育フェア」の開催・運営を活動の両輪として教育実践を進める形が全国的な動きとなっているなか、本県でも同様に運営と広報の体制を整備し、フェア関係事業の拡張を意識した取組を行っている。

Ⅱ　研究主題

本県研究テーマ
「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する学習指導の研究～新学習指導要領に基づいた題材計画の検討～」

本年度は、新学習指導要領の移行期間という特性を踏まえて、これまで関ブロ大会等で積み重ねてきた研究を生かしつつ、新たに「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する学習指導の研究～新学習指導要領に基づいた題材計画の検討～」というテーマを設定して研究を進めることにした。

Ⅲ　本年度の研究内容・活動状況

１　研究方針・研究体制

⑴　県内を11支部に分け、各支部より専門委員を選出し、指導内容等による分科会を配置し、研究について情報交換を行いながら、研究発表を行う体制を作る。

⑵　専門委員会の活動を中核とし、各支部でリーダーシップをとった技術・家庭科教育の充実を図る。

⑶　これまでの研究成果と課題を基に、現行学習指導要領から新学習指導要領への移行に向けて題材計画・配列の検討など準備を中心に行った。

⑷　現行学習指導要領の趣旨の具現化につながるよう、各支部で授業研究会等を推進する。

⑸　各校の技術・家庭科の授業実践に生かせる資料を可能な限り検討及び作成・収集する。

⑹　平成27年度より継続して実施してきた研究の成果をまとめた。

また、９部会（①材料と加工の技術部会、②生物育成の技術部会、③エネルギー変換の技術部会、④情報の技術部会、⑤家族・家庭生活部会、⑥衣食住の生活１（食生活）部会、⑦衣食住の生活２（衣・住生活）部会、⑧消費生活・環境部会）ごとに、新学習指導要領の読み込み及び分析を行い、それに見合った年間指導計画及び題材計画を作成し、その中で授業実践や、授業提案を行いながら、研究を進めるとともにそれぞれの部員の指導力向上を図った。

また、ものづくりフェア部会を別に設け、フェア運営の充実を図った。

２　研究経過・活動の概要

⑴　専門委員会

①第１回専門委員会
６月22日㈮　県民活動総合センター
○平成29年度　活動報告
○平成30年度　研究概要の説明・周知
○研究の検討及び進め方について

②第２回専門委員会
８月22日㈬　県民活動総合センター
○全体会（今後の研究の見通しについて）
○各分科会の研究協議
（今後の研究の方向性・実践予定の検討）
○群馬大学教育学部より指導者の方の講演

③第３回専門委員会
12月11日㈫　県民活動総合センター
○全体会（確認事項及び事務連絡）
○各分科会の研究協議
（研究集録の確認・今後の研究について）

④教員研究発表会
２月22日㈮　県民活動総合センター
○各分科会で工夫し創造する能力を意図的に育む授業を軸に検討した年間指導計画及び評価計画による授業研究成果の検証について発表（全体提案及び９分科会）
○文部科学省教科調査官（技術分野）講演
埼玉県教育局指導主事（家庭分野）講演

⑵　支部長研修会

①支部代表者会
５月15日㈫　県民活動総合センター

○理事会・総会

②支部長研修会

９月19日㈬　県民活動総合センター

○２学期以降の諸事業運営検討

○関ブロ長野大会に向けた準備

○ＳＡＩＴＡＭＡ創造ものづくり教育フェア運営について

③支部長研修会

３月７日㈭　県民活動総合センター

○平成30年度事業報告

○平成30年度会計報告・監査報告

○平成31年度事業計画

⑶　ＳＡＩＴＡＭＡ創造ものづくり教育フェア

11月９日㈮　県民活動総合センター

11月14日㈬　イオンモール与野

＜後援＞埼玉県教育委員会　さいたま市教育委員会
川越市教育委員会　越谷市教育委員会
川口市教育委員会

＜趣旨・目的＞

○ものづくりの発表を通して，生徒が知識や技術を習得・活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。

○技術・家庭科で習得した知識や技術を生かし、生徒がつくる喜びや仲間と共同して競技をする喜びを味わう機会とする。また、発表の場を通して、他校生徒との交流を図り、併わせて知識や技能の向上を図る。

○「ロボットコンテスト部門」、めざせ!「木工の技」チャンピオン部門、「豊かな生活を創るアイデアバックコンクール部門」「あなたのためのお弁当コンクール部門」「生徒作品コンクール部門」共に、第19回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する大会を兼ねるものとする。上記の第19回全国中学生創造ものづくり教育フェアの埼玉県代表生徒・作品を選出する５部門と「生徒研究発表会部門」の計６つの部門からなる大会運営を実施した。県研究会のＷｅｂページや県専門委員会でのＰＲ等の広報活動を行った。今後とも各部門での多くの参加者･出品数となるように研究会としても検討していきたい。

①生徒研究発表部門

身近な問題や、タイムリーな話題となっている事柄を研究テーマに設定し、担当の技術・家庭科教師による指導の下で各支部代表生徒による研究発表会が行われた。生徒が日々直面している生活の中から、疑問に思っている事柄の解明や生活する上での工夫等が多く取り上げられた。発表の仕方についても自信をもってはっきりとした口調で話し、実物の提示や実演など研究内容が聞き手に分かりやすく伝わるよう各自で工夫を凝らし、しっかりと準備をしてこの会に臨んだ様子がうかがえた。聞き手も立派な態度で各研究について聞き入っていた。

＜講評＞

県教育局市町村支援部義務教育指導課
主任指導主事　酒井　一昭　先生

②埼玉ロボットコンテスト部門

全国大会へつながるルールと、県内のローカルルールを合わせて毎年８種類以上の競技が行われる。

トーナメント部門　県民活動総合センター会場

Ａ　ワン・ツー・チャンス

Ｂ　あっち行けポイ

Ｃ　ロボット・オリエンテーリング

Ｄ　コンピュータ制御プログラミング

Ｅ　ロボサッカー

全国部門　イオンモール与野会場

Ｆ　全国基礎部門　「Basic DIVISION 2018」

Ｇ　全国活用部門　「Pile up a block」

Ｈ　全国応用部門　「復興への願い」

Ｉ　全国動画作品部門

Ｆ・Ｇ・Ｈの各部門については部門ごとに３チームが、関東甲信越地区新潟大会への代表としてそれぞれ出場することになった。

勝利至上主義に走らず、互いのよさやアイディアを評価し合おう。」というスローガンを掲げ、勝敗にこだわらず、お互いのアイデアを認め、学びあいの場となるよう配慮している。

また、今年度から、技術・家庭科の取組について地域や家庭だけでなく、社会にも理解が広がるように、商業施設をお借りしての公開予選の形式で開催した。参観していただいた一般の方からの評判も上々であった。

＜審査員＞

埼玉県総合教育センター
指導主事　山本　智広　先生

埼玉大学　准教授　荻窪　光慈　先生

春日部市立春日部中学校
教頭　西村　稔　先生

③めざせ！「木工の技」チャンピオン部門

授業で習得した知識や技能を活用して、材料等の制約条件の中で作品を考え、構想図を基に製作した作品を募集したが応募がなかった。現行の学習指導要領において実践していくことは難しく、どのような形で募集を募るのか見当をしていく必要がある。

④生活を豊かにするアイデアバックコンクール部門

これまで生徒が身に付けてきた知識と技術を生かして製作した作品とレポートをもとに審査を行い、関東甲信越地区新潟大会への代表選考が行われた。上位２作品を選出し、関東甲信越大会へエントリーした。

⑤あなたのためのお弁当コンテスト部門

食材や献立を、お弁当を作る対象に合わせて思いやり、工夫して調理に当たるコンテストとなる。全国大会と同様に実際に調理を行い、審査を実施した。最優秀作品は全国大会へエントリーした。

＜審査員④⑤＞

県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　佐藤　朋子　先生

東松山市立市の川小学校

校長　田中　恵子　先生

⑥生徒作品コンクール部門

全県から作品を募集し、県の研究会で全て審査し、県代表の選出を行っている。技術分野と家庭分野で授業内製作作品（Ⅰ部門）、自主製作作品（Ⅱ部門）、家庭分野より合計５点を選出し、全国大会へエントリーした。提出される作品の質が年々低下しており、どのように質と量を高めていくかは今後の課題である。

＜審査員＞

県教育局市町村支援部義務教育指導課

主任指導主事　酒井　一昭　先生

県教育局市町村支援部義務教育指導課

指導主事　佐藤　朋子　先生

東松山市立市の川小学校

校長　田中　恵子　先生

ものづくりフェア全般において、商業施設にて公開を行ったことで、技術・家庭科という教科の取組について、広く社会に伝えることができた。次年度以降も、ロボットコンテストの予選と取組の成果の展示という形を継続させていきたい。

⑷　第18回全国中学生創造ものづくり教育フェア
関東甲信越地区大会新潟大会

12月２日(日)

会場：長岡シティプラザ　アオーレ長岡

＜趣旨・目的＞

○ものづくりの発表を通して，生徒が知識や技術を習得・活用することにより、ものをつくることの喜びを味わう機会とする。

○関東・甲信越地区におけるロボットコンテスト、アイディアバッグコンクールの全国中学生創造ものづくり教育フェア出場者を決める予選を開催する。

ロボットコンテスト、アイディアバッグコンクールの運営の補助を行った。昨年度の埼玉大会の公開の仕方に影響を受け、大会の見せ方に変化が見られた。

(5) 第19回全国中学生創造ものづくり教育フェア
1月26日(土)・27日(日)
第一会場　葛飾区水元総合スポーツセンター
生徒作品コンクール他
第二会場　女子栄養大学駒込キャンパス
あなたのためのお弁当コンテスト

各都道府県の大会からブロック大会を経て、全国大会に至る一連の流れの最高位となるフェアの全国大会が東京都内二会場にて開催された。盛大に技術・家庭科の学習成果の発表ができた。

(6) 埼玉県発明創意くふう展
10月28日(土)10月29日(日)
さいたま新都心ビジネス交流プラザ

本年度も各地区より集まった作品を公開し、本研究会としては、埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会長賞を８名に授与する形で携わった。

Ⅳ　成果と今後の課題

今年度は、ものづくりフェアを商業施設で初開催した。このことで、社会に広く伝えられるフェアの在り方について新たな課題が見つかった。

研究に関しては、専門委員会の部会において、次年度以降の新学習指導要領の移行期間に向けた準備を県全体で進めることができた。

今後は、新学習指導要領の改訂に向けて実践事例等を多く発信するとともに、教科の活動の社会への発信も大切に取り組んでいきたい。

18　小学校家庭科教育

埼玉県小学校家庭科教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

1　研究主題

「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育」
－衣生活に関心をもち、学び合う中で身に付けた知識及び技能を活用して主体的に生活を工夫する児童の育成－

2　方針

本研究会は、昭和58年度に「第１回関東ブロック大会」、昭和63年度に「第25回全国大会、第６回関東ブロック大会」、平成11年度に「第17回関東ブロック大会」、平成24年度に「第29回関東ブロック大会」を開催した。その成果は、年度を追って充実、発展しつつ今日に受け継がれている。

今年度の研究を推進するに当たり、昨年度までの本研究会の研究成果と課題を踏まえながら、豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育を目指し、さいたま市を研究指定地区とし研究を推進することとした。

具体的には、さいたま市の家庭科教育研究会を核とし、授業研究を中心とした実践的な研究を展開していく。

3　研究主題について（埼玉県研究主題）

⑴　児童の実態と課題

児童の実態としては、「家庭科が好きですか」の問いに肯定的な児童は約９割だが、ミシン縫いなどの経験は少ない。５年生の初めは家庭科に対する関心が非常に高いが、時間が経つと意欲がやや低下し、自信ももてなくなる傾向があり、指導に工夫が必要であることが分かる。

「衣生活」の製作の部分では、製作キットを使用し、切り取り線が描かれている部分を切り、出来上がり線が描かれているところを縫えば完成という授業が展開されている学校も多い。５，６年生の担任が男性教諭であることが多いという実態の中で、指導すべき「ゆとりやぬいしろの大切さ」を理解させながら、「こういう物を作りたい」という児童の思いに応え、主体的に学習に取り組める授業を如何に展開していくかが課題である。

⑵　家庭科で育みたい児童の姿

本研究では、衣生活に関心をもち、学び合う中で身に付けた知識及び技能を活用して、主体的に生活を工夫する児童の育成を目指している。毎日の生活の中で、目的に合った服装を自分で選択することができる児童、１枚の布から入れたいものに合う大きさを考え、工夫して製作できる児童を目指している。その学習の過程で、既習の知識や技能を活用して思考力、判断力、表現力等を働かせ、主体的に学びに向かう児童を育みたい。

⑶　新学習指導要領を見据えた授業改善

新学習指導要領では、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ、生活の中の様々な問題から課題を設定し、その解決方法を考え、計画を立てて実践し、評価・改善する中で、思考・判断・表現することで、家庭科で目指す資質・能力を育成することが求められている。衣生活においては健康・快適・安全などの見方・考え方を働かせ、衣服の着用、手入れの大切さ、目的や季節に合わせた着方などにおいて衣生活文化の大切さに気付くこと、また製作においては、布の特徴を生かして生活を豊かにするものを製作することや「ゆとり」の必要性を理解させることが求められている。本研究では、１枚の布地から入れたいものに合ったバッグの大きさを考えることで、縫いしろやゆとりの必要性について実感を伴って理解させ、それを自分の製作に生かすことをねらいとした。その際、児童の理解を深め、一人一人の思いに対応する教師の指導の手助けとなる方法としてICTの有効な活用を研究した。

⑷　研究主題の設定

上記の内容を踏まえ、研究主題を「豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育－衣生活に関心をもち、学び合う中で身に付けた知識及び技能を活用して主体的に生活を工夫する児童の育成－」と設定する。「５年間を見通して題材の関連を重視した指導計画」「主体的・対話的で深い学びを実現する指導方法の工夫」「個を伸ばし、児童が成長を実感できるようにする評価の工夫」「家庭・地域や中学校との連携」の４つの視点で研究を進め、目指す児童像の実現を図る。

Ⅱ　研究概要について

1　研究の方法

(1)　研究の基本的な考え方

研究主題及び副主題に迫る実践的な研究をする。

(2)　研究組織

2　研究の内容

＜目指す児童像＞

○日常生活に必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けている子

○日常生活の課題を見出し、身に付けた知識・技能を活用して解決する子

○家族や地域と関わりながら、よりよい生活を主体的に工夫し実践しようとする子

＜研究の視点＞

視点１　５年間を見通して題材の関連を重視した指導計画

新学習指導要領実施に向けて、確かな学力・豊かな心・健やかな体・豊かな関わり合いの４つの観点を踏まえ、指導計画を立案した。その中でも、確かな学力の観点で、「さいたま市小・中一貫教育」の視点から、小・中学校の内容の系統性をより重視し、小学校の学習を踏まえ、中学校で指導する「知識及び技能」が確実に定着できるよう配慮した。また、年間指導計画作成においては、児童の発達の段階や活動内容の経験を把握し、段階的・系統的に配列を工夫し、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力が育めるように工夫した。

視点２　主体的・対話的で深い学びを実現する指導方法の工夫

児童一人一人が題材を通して見通しをもち、主体的に活動できるよう学習過程や導入の工夫を行った。内容B(4)「衣服の着用と手入れ」や(5)「生活を豊かにするための布を用いた製作」では、実物を用いての活動やICTを活用しての授業展開が取り入れやすく、体験的な活動を行いながらも時間を有効に使い効果的な学習を展開するために検討を重ねた。また、題材を通して深い学びの実現に向けた主体的・対話的な活動を計画的に配列することで重点的に指導できると考え、活動の配列を見直し実践した。

視点３　個を伸ばし、児童が成長を実感できるようにする評価の工夫

児童が知識及び技能を習得し、学習や身近な生活で活用していくためには、教師が家庭科学習の題材の系統性を理解し、それぞれの題材で何を学び、何を理解し、どのような力を身に付けるべきか十分に把握して指導に臨むことが必要である。また、適切な評価・支援によって、児童自身が知識や技能を習得できたことを実感し、どの場面で活用できそうか、見通しがもてるようになることも大切である。指導に当たっては、評価計画を基に観点毎に評価するとともに、学習中や学習後の児童の心情や考察したこともできる限り把握し、次時以降の学習指導や支援に生かす形成的評価を行っていくことを大切にした。

視点４　家庭・地域や中学校との連携

家庭科の学習を充実させ、児童の学習意欲を高めるため、保護者や学生ボランティアのサポートを受けた授業や中学校教諭とのティームティーチングによる授業、地域の特色を生かした授業を行った。さ

らに、家庭科だよりなどの手紙や作品の展示で家庭科の学習内容を伝えたり、家庭実践に向けての働きかけを行ったりと連携を図った。

3　研究の成果と課題

＜研究の成果＞

○中学校の学習のどこにつながるかを意識して、実践的・体験的な学習を計画的に繰り返し取り入れることで、児童の自信につながった。ミシンがない家庭が多くなった現状の中でも、技能に対する自信をもち、自分や家族のために物を作りたいという思いを維持させることができた。

○他教科との関連を一覧に示したことで、どの教科で学習する内容とどこで関連させれば効果的かを教師が考えやすくなった。

○小・中の系統性を重視し、５年間の指導内容を整理したことで、学習に見通しをもつことができ、初めて家庭科をもつ教師も新設の内容や配慮事項を確認することができるようになった。

○主体的・対話的で深い学びを実現するため、問題解決の見通しをもたせたり、導入を工夫したりすることで、教師が意識して学習を組み立てることができ、児童の学習意欲の喚起につながった。

○日常生活から課題を見つけ解決するために、ICTを効果的に活用することで、児童の意欲につながるとともに、児童の思いを大切にする教師の手助けをすることができた。

○指導に生かす評価を工夫したことで、一人一人の思いや願いを理解しながら、学習の過程を評価し、適切な指導につなげことができた。

○目的や天候を考えて服を選ぶ学習を効果的に行うことで、自分で服を選びその理由を考えられる児童が多くなった。

＜研究の課題＞

○「家庭科は好きですか」という問いに肯定的に答えた児童は約９割と多いものの、ミシン縫いなどの経験は少ない。５年生の初めは家庭科に対する関心が非常に高いものの、いざ学習を始めてみるとできないこともあり自信がもてなくなったり、学習が終わって時間の経過とともに意欲が低下したりする傾向が見られる。これらの課題を解決するために、意欲面でも技能面でも、様々な視点から児童の高い学習意欲を維持し、自信をもたせるための方法を研究してきた。これをより多くの教師に広め、実践してもらうこと、さらに継続してもらうことが今後の課題である。

Ⅲ　平成 30 年度埼玉県小学校家庭科教育研究会の活動

1　平成30年度　研究組織

相　談　役	染谷和美（東部）	
会　　長	田中恵子（西部）	
所属研究部	副会長（部長）	監事（副部長）
研　修　部	池田智恵子（西部）	井上　千春（南部）
調査研究部	長島　淑子（さいたま）	片山　広美（さいたま）
広　報　部	榊原　久子（東部）	棚村かおり（北部）
庶務会計部	小峯由起子（東部）	山本　司子（北部）
専門委員会	茂呂　尚美（南部）	鈴木　美幸（東部） 影山　葉子（南部）
	幹事 横家知世　渡邊はるか　吉田みゆき	

地区理事　62名

（常任理事24名含　常任理事は研究部に所属する）

専門委員　14名

研　修　部　部長：池田智恵子

・研修会の計画及び運営

・児童研究発表会の計画及び運営

・研究集録の編集及び発行

調査研究部　部長：長島　淑子

・全国調査への協力

広　報　部　部長：榊原　久子

・小家研会報の作成

庶務会計部　部長：小峯由起子

・文書作成及び発送

・総会、常任理事会、研修会等の要項作成

専門委員会　部長：茂呂　尚美

・学習指導の実践に関する研究

2　研究会活動状況

⑴　平成30年度役員研修会及び講演会

平成30年６月15日㈮

＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校

①役員研修会

・平成29年度事業報告

・４部会・専門委員会の活動報告

・平成29年度決算報告・監査報告

・役員の補充・新役員の承認

・平成30年度事業計画、平成30年度予算案

・４部会・専門委員会の活動計画

・全小家研の入会について

・研究指定地区の研究の概要

②講演会

講師　埼玉県教育局市町村支援部義務教育
指導課　指導主事　　佐藤　朋子　先生

演題「これからの家庭科教育について」

〈内容〉
新学習指導要領で期待される学び
○育成すべき資質・能力を育むための授業改善のポイント
①課題の設定と見直し
・問題状況に対する違和感
・理想状況に対する憧れ
→身に迫った切実感のある課題の設定
・学習過程の見通し
・学習の到達点の見通し
②音声言語で学び合う
・どのような情報をもっているか
・どのような処理を期待するか
・どのような成果を願うか
→よく考える（熟考）の時間が大切
③文字言語で振り返る
・事実の確認「まとめ」
・関係性や一般化の生成
・自己変容への気付き
○小学校家庭科　改訂のポイント
①目標の改善
②内容の改善
③指導計画の作成と内容の取扱い
④授業改善
⑤移行期間中の実践
○平成30年度　県の取組等
①埼玉県小学校教育課程編成要領
②平成30年度埼玉県指導の重点・努力点から
③主体的・対話的で深い学びの実現６則

⑵　夏季研修会
平成30年８月９日㈭
＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校
①全体会
・発明創意くふう展について
・家庭科教育研究協議会について
・児童研究発表会について
・地区別授業研究会の計画について
・４部会の活動
②平成30年度地区別授業研究会実施発表会
③講演会
講師　東京学芸大学
特任教授　森田　みゆき　先生
演題　「最近の洗濯事情の動向」
（台風のため中止）

⑶　第49回埼玉県小学校家庭科教育研究協議会
平成30年10月５日㈮
＜会場＞　さいたま市立常盤北小学校
①研究授業並びに研究協議会
・題材名「いつでも・どこでも、快適衣生活！」
５年１組授業者　小林　亮博　教諭
・題材名「一枚の布からつくろうマイバッグ！
～ICTを活用して～」
６年１組授業者　荒谷　健太　教諭
②記念講演
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
筒井　恭子　先生
演題「新学習指導要領における家庭科の学習指導」
③研究集録第49集の発行
平成２年度から研究指定地区研究の成果のまとめと埼玉県小学校家庭科研究会の組織・活動状況の２部構成で編集している。

⑷　地区別授業研究会（４地区）
①北部・秩父地区
平成30年11月20日㈫
皆野町立三沢小学校
②南部・北足立南部地区
平成30年11月２日㈮
志木市立宗岡第二小学校
③西部・比企地区
平成31年１月17日㈭
東松山市立松山第二小学校
④東部・埼葛地区
平成31年１月25日㈮
八潮市立潮止小学校

⑸　埼玉県発明創意くふう展
平成30年10月27日㈯～10月28日㈰
＜会場＞　新都心ビジネス交流プラザ

⑹　平成30年度児童研究発表会
平成30年11月１日㈭
＜会場＞　埼玉県県民活動総合センター
指導者　埼玉県立総合教育センター
指導主事　飯塚　正美　先生

⑺　第３回役員研修会
平成31年２月13日㈬
＜会場＞　埼玉大学教育学部附属小学校
・平成30年度の反省と次年度の展望
・会報38号の配布

19　生活科・総合的な学習の時間教育

埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会

Ⅰ　研究主題と方針

「思考力・表現力・判断力を高める支援の工夫」

＜方針①＞　授業研究会の開催

本年度は、久喜市立砂原小学校、川口市立本町小学校、入間市立仏子小学校、熊谷市立成田小学校で研究を深めることを目的に授業研究会を開催する。

＜方針②＞　指導法の研究と指導事例集の刊行

「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の三つの視点を掲げ、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に指導法の研究を行う。

Ⅱ　活動状況

1　活動内容

⑴　事務局幹事打合せ会
- ○期日　平成30年４月５日㈭
- ○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
- ○内容　常任理事会の原案作成
  各地区理事の調査用紙発送
  講演会の講師の依頼

⑵　常任理事会
- ○期日　平成30年５月16日㈬
- ○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
- ○内容　平成29年度決算報告
  平成30年度の役員案
  平成30年度事業計画及び予算案審議
  各地区理事の確認
  専門部の決定

⑶　講演会及び総会
- ○期日　平成30年６月22日㈮
- ○会場　さいたま市民会館おおみや
- ○内容
  - ①総会　常任理事の決定
    専門部組織決定
    平成30年度の事業計画及び日程
    平成30年度の予算案の決定
  - ②講演会
    演題「新学習指導要領における生活・総合的な学習の時間」～主体的、対話的で深い学びの実現に向けて～
    講演　文部科学省初等中等教育局教育課程課
    教科調査官　渋谷　一典　氏

⑷　第1回指導法研究委員会
- ○期日　平成30年６月29日（金）
- ○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
- ○内容　委員の委嘱
  研究の進め方

⑸　生活科・総合的な学習の時間研究発表会
- ○期日　平成30年８月３日㈮
- ○会場　さいたま市民会館おおみや
- ○内容　研究発表及び協議

⑹　第２回指導法研究委員会
- ○期日　平成30年８月17日㈮
- ○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
- ○内容　指導方法の研究

⑺　授業委嘱校研究発表会
- ○期日　平成30年９月20日㈭
- ○会場　久喜市立砂原小学校
- ○内容　詳細はⅣを参照（P.77）

⑻　第３回指導法研究委員会
- ○期日　平成30年10月24日㈬
- ○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
- ○内容　指導方法の研究

⑼　授業委嘱校研究発表会
- ○期日　平成30年11月16日㈮
- ○会場　川口市立本町小学校
- ○内容　詳細はⅣを参照（P.78）

⑽　授業委嘱校研究発表会
- ○期日　平成30年11月20日㈫
- ○会場　入間市立仏子小学校
- ○内容　詳細はⅣを参照（P.78）

⑾　授業委嘱校研究発表会
- ○期日　平成31年１月18日㈮
- ○会場　熊谷市立成田小学校
- ○内容　詳細はⅣを参照（P.79）

⑿　理事研修会
- ○期日　平成31年２月15日㈮
- ○会場　埼玉大学教育学部附属小学校
- ○内容　実践報告及び講演
  - ①生活科「幼稚園から小学校への学びの連続性を探る」
    実践報告：埼玉大学教育学部附属幼稚園教諭
    平柳　　舞　氏・岩﨑万見子　氏
  - ②総合的な学習の時間
    実践報告：川口市立本町小学校教諭
    吉田　　豪　氏
    指導者　：文教大学教育学部教授
    小幡　　肇　氏

2　運営組織

本研究会の事業は、４つの専門部会において、具体的に進められている。それぞれ、各地区理事が所属

し、生活科・総合的な学習の時間教育の発展に大きな役割を果たしている。

⑴　総務部

○地区活動全体の総轄

・総会・理事会・講演会の計画及び実施

・通知文書の発送・受理

・予算案・決算書の作成

⑵　研修部

○生活科・総合的な学習の時間研修に関する総轄

・研究発表会の計画及び実施

・授業研究会の計画及び実施

⑶　編集部

○研究会編集物に関する総轄

・研究集録の作成

⑷　指導法研究部

○生活科・総合的な学習の時間教育の指導法に関する総轄

・指導法の研究

・研究成果の編集

Ⅲ　研究内容

1　生活科・総合的な学習の時間指導法研究委員会

生活科・総合的な学習の時間の授業における指導方法の研究と各単元における指導の在り方について研究し、学習指導に役立てることを目的とする。

研究の視点として、「構造的な板書」「発話分析」「思考ツールの活用」の３つの視点を基に、生活科・総合的な学習の時間の事例を基に研究を深めた。

その成果物として「生活科・総合的な学習の時間指導事例集　第27集」を発行した。

2　生活科・総合的な学習の時間研究発表会

○期日　　平成30年８月３日㈮

○会場　　さいたま市民会館おおみや

○内容

⑴　実践発表

①蕨市立塚越小学校　　教諭　渡部　景子　氏

テーマ「友達と関わりながら主体的に学ぶ児童を育てる生活科の学習指導～生活科における単元構成の工夫を通して～」

②皆野町立国神小学校　　教諭　福井　康太　氏

テーマ「地域の方と米作り体験を通して－思考ツールを活用した探究活動の充実－」

③三芳町立三芳中学校　　教諭　町田　　雅　氏

テーマ「郷土と三芳町を愛する～地域での体験活動を基に､生徒のつぶやきから話題を明確にし､主体的な活動を促す発問の工夫～」

⑵　指導講評

共栄大学教育学部　　教授　若手三喜雄　氏

3　生活科・総合的な学習の時間教育編集委員会

総会における講演の要旨、研究発表会の発表の要旨、役員一覧、生活科・総合的な学習の時間指導事例集、研究組織一覧、支部だより、事業報告などを主な内容として編集した。

○研究刊行物　「生活・総合」　第29号

Ⅳ　授業研究委嘱校の発表概要

本年度は、久喜市立砂原小学校、川口市立本町小学校、入間市立仏子小学校、熊谷市立成田小学校の４校に授業研究の委嘱をした。それぞれの公開授業等の概要について紹介する。

久喜市立砂原小学校

１　日　時　平成30年９月20日㈭

２　授　業　総合的な学習の時間　第６学年

３　単元名「鷲宮の魅力再発見」

４　授業者　林　大輔

５　授業の概要

本単元では、子供たちにとって馴染みのある鷲宮を題材として取り上げ、子供たちが地元に誇りと愛着をもつことをねらいとしている。子供たちは生まれ育ってきた鷲宮に馴染みがあるが、地域のことを自分事として捉えることができていない。地元のよさを感じ、自分たちの町に誇りをもち、地域のために何かしようと行動できるようになってほしいと考え、本単元を計画した。そこで、「自分たちにとって鷲宮とは」という問いを投げかけ、自分と地域のことを振り返らせる中で、自分たちとのつながりを考えさせた。すると、地域のよさを見付け、発信したいという考えが子供たちからでてきた。自分たちで地域のことを調べ、地域の住民と触れ合い、自分で取材先を探し、新たな問いを見付けていった。その過程で知らず知らずのうちに地域のことを深く知り、地域の商工業や行事に関わる人々の存在や想いなどに気付くことができた。

本時では、課題を「調べた魅力の何を一番伝えたいのか」という課題で、グループごとに自分たちが調べてきた様々な魅力の中から、何を伝えなくてはいけないのか、様々な情報の中から選択し、人々の想いや自分たちの願いに焦点化させ、今後の見通しをもつよう話合いを行った。

６　授業を振り返って

本時では導入で事前にクラス全員の考えを一覧表にまとめ配付し、友達の考えを把握させてから授業に入った。そのことにより、他の人の考えを知り、新たな気付きが生まれた。また、グループの話合いでは、付箋とピラミッドチャートを用いて思考の可視化、操作化を行うことにより、焦点化する際に効果的だった。また、付箋を使うことで似た意見を整理することができ、作業をすることにより、自然に会話をし、話合いが生まれていた。また、全体で共通点に気付かせるためにコンセプトマップで関連付けたことにより、皆の意思の共通化を図ることがで

きていた。しかし、ピラミッドチャートで焦点化する際に個人の付箋の精選や理由の明確化が必要であると感じた。時間がかかり、焦点化しきれていないグループもあった。

7　指導講評

栗橋町立栗橋西小学校　　教頭　田上　智明　氏

地域に愛着を持たせる授業を展開することが良い。６年生で今まで学習してきたことを基にして、さらに地域の魅力を再発見させ、気付かせ、誇りや愛着をもたせていくことは大切。多くの体験活動を基にした考え一覧表は、子供たちの前時の振り返りを一覧にすることにより、他の人の考えに気付かせることができた。さらに教師も評価や意図的指名に活用することができていた。また、授業の流れが個人→グループ→学級全体→個人と展開されており、学びを深める際には最適であった。思考ツールに子供たちが慣れており、付箋の操作化がよくできていた。思考ツールは、可視化する道具（手段）であり、目的になってはいけない。ツールをうまく組み合わせていくと効果的である。そして、最後に十分に振り返りを行い、自己を見つめ直し、何を学んだのか考えさせることが重要である。

川口市立本町小学校

1　日　時　平成30年11月16日㈮

2　授　業　⑴　生活科　第２学年

⑵　総合的な学習の時間　第５学年

3　単元名　⑴「あそんで　ためして　くふうして

～動くおもちゃを作ろう～　」

⑵「みんなで守ろう！わたしたちの地球」

4　授業者

⑴　宮城　　瞳

⑵　吉田　　豪

5　授業の概要

⑴　第２学年１組

前時までに、自分でパワーアップしてきたおもちゃを使って、１年生との交流会を実施することを計画した。自分や友達の思いを共有したり、深めたりするために付箋を活用した。

⑵　第５学年１組

地球温暖化対策を広めるオープンスクールの計画をする中で、たくさんの人を招くために、効果的な宣伝方法を話し合った。相手意識をもつために視点チャート等の思考ツールを活用した。

6　授業を振り返って

⑴　第２学年１組

自分で作ってきたおもちゃを活用して、１年生との交流会の進め方を考えた。特別活動的な流れにならないように配慮をしてきたが、「ペアとの遊び」という思考の流れが強くなってしまった。しかし、付箋を活用しながら友達の思いを知り、自分の思いと重ねたり、比べたりしながら１年生との交流会へと思いを高めることができた。

⑵　第５学年１組

司会・板書も児童が行い、主体的に話し合うことができた。また、宣伝方法を考えるために児童自身が思考ツールを選択し、活用したことで、相手意識をもったり、目的意識をもったりすることができた。しかし、宣伝をするために必要な時間を考えることができなかった。効果を考えるだけでなく、実現性も考えて話し合うことが課題となった。

7　指導講評

⑴　川口市立領家小学校

前校長　佐藤　利幸　先生

話合い活動が１時間頭の中だけで考えることは難しい。実際にやらせてみるのもよい。付箋を使うことの必然性をもつこと。思考の可視化をすることで気付きの自覚化を促すことができる。

児童の思いや願いを実現させるため、本質を大切にし、学習内容の改善（「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」を大切に）・充実を図ることが大切である。

⑵　文教大学教育学部　　教授　小幡　　肇　先生

教師が板書をすることで、児童の話合いを整理し、話合いの方向性を見出させることができる。また、板書をしている間により熟考を生む。ゆったりと行うことが大切である。ノートに書く時間は自分と向き合う時間になる。

児童が主体的に活動するためには、感動場面をつくり、その感動を伝えたいという動機や一生懸命に調べた内容を伝えたいという動機が必要である。

入間市立仏子小学校

1　日　時　平成30年11月20日㈫

2　授　業　生活科　第１学年

3　単元名「つくろう あそぼう～あきパーティーをひらこう～」

4　授業者　榎本　千裕

5　授業の概要

本単元は、以下の３点をねらいとしている。①秋になった校庭で繰り返し遊んだり、秋の自然物を探したりしながら、四季の変化に気付くことができるようにする。②秋の木の実や落ち葉などの自然物や身近にあるものを利用して、遊びに使う物をつくったり、遊び方を工夫したりしながら、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。③相手を考えて、おもちゃやルールを工夫したり、遊び方を伝えたりしながら、他人と関わることのよさや楽しさを感じ、自分自身の成長に気付くことができるようにする。前時までに個人で秋のおもちゃを作る活動、

グループでおもちゃを作り遊びを工夫する活動、隣のクラスを招いた秋パーティーを行ってきている。本時では、秋パーティーに６年生と２年生を招待するための作戦を考えた。１年生と２・６年生の違いや、お客さんが増えることを考えて作戦を立てることで、ねらいの③に迫りたいと考えた。

6　授業を振り返って

７月に若手先生に御指導いただいてから、生活科では、「今日は何をする？」と子供と話し合うことから授業を始めるように心がけている。子供たちは最初は戸惑っていたが、繰り返していくうちに「次はこれをやってみたい。」「今日できなかった○○を今度もう一度やりたい。」など、主体的に学習する姿勢が身に付いてきたと感じる。本時でも、課題やめあてを子供たちと話し合いながら決めたことで、子供たちが意欲的に学習に取り組むことができた。また、毎時間「よかったこと・気付いたこと」「もっとこうしたい」の２点をグループで話し合う活動を繰り返してきたことで、本時もスムーズに話し合いを進めることができた。

7　指導講評

共栄大学教育学部　　教授　若手三喜雄　先生

前時までに同学年で秋パーティーを行っていたこともあり、子供たちが本時で何を学ぶのかをしっかり掴み主体的に活動できていた。課題を明確にすることで、グループの話合いが円滑に進んでいた。深い学びにしていくには、これからの生活科では文字や言葉にする活動が重要である。

遊びを創り出すには、おもちゃそのものの工夫と遊び方(ルール)の工夫の２つがある。今回は、遊び方(ルール)を工夫することに時間をかけたが、１年生の段階では、おもちゃそのものを工夫する時間をもっと増やしたい。秋の自然のものに触れながら「秋らしさ」を追求する時間を増やせると、新しいおもちゃを創り出すことができるかもしれない。また、１年生では、教師がまとめを板書することも必要。まとめは学習内容そのもののまとめだけでなく、「みんなで話し合うと、たくさんアイディアが生まれるね。」など、学び方のまとめでもよい。今日の授業で良かったことを全体でまとめてから、振り返りを書かせると、より深く活動を振り返ることができる。

熊谷市立成田小学校

1　日　時　平成31年１月18日㈮

2　授　業　総合的な学習の時間　第６学年

3　単元名「身近にある環境問題について考えよう」

4　授業者　石井　竜司

5　授業の概要

本単元は、学習指導要領における、現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題から設定した単元である。現代社会の諸課題は、そのいずれもが持続可能な社会の実現に関わる課題であり、現代社会に生きる全ての人が、これらの課題を自分の事として考え、よりよい解決に向けて行動することが望まれている。

本単元では、地球温暖化問題に焦点を絞り、自分たちにどんな影響があるのか考えさせる。そうすることで、より環境問題を身近に感じ、地球温暖化を解決するために自分にもできることがあることに気付き、具体的な対応策を考えさせ、実践できるようにしていきたい。

6　授業を振り返って

子供たち自身への地球温暖化の影響を考えるきっかけとして、教師による海面上昇の実験をした。水の張った水槽の中にレンガを入れ、そこに紙で作った家、車の模型、小さな人形を置いた。Ａの水槽には直接氷を入れて溶かし、Ｂの水槽には、水槽の外に氷を置き、とけた氷がといを通して流れ込むようにした。多くの子供たちが両方の水槽が海面上昇すると答えたが、実際にはＢの水槽だけが上昇し、レンガに乗っている模型が濡れたことにより水没の原因を理解した。さらに、温暖化は、自分たちにも影響があることを知るきっかけになっていた。

ウェビングマップの作成では、個人→グループ→全体の順で考えさせた。友達同士で対話しながら自分の考えをより深めることにつながった。また、海抜の分かる地図を資料として子供たちに提示し、日本にも大きな影響があることに気付くなど、自分たちの考えを広げることができた。しかし、個人で考える時間が短かったこともあり、下位層の児童はグループでの発言が少なかった。

7　指導講評

深谷市立八基小学校　　教頭　境野　　仁　先生

課題設定については、「教師からの意図的な働き掛け」「直接体験をする活動（教室の外に出る活動）」が重要である。そこで、子供が関心をもった環境問題を、はじめは地球規模で考え、だんだんと身近なところから行動できる児童の育成を目指す。つまり、単元のゴールは子供が実践する姿である。

本時の課題は、子供たちによるテーマの設定である。地球温暖化を身近なものにするために、海面上昇の実験を見せたのはよかった。ウェビングマップは、考えを広げる思考ツールとして有効であるが、出てきた考えをさらにカテゴリー分けすることで、子供たちも課題の設定がしやすくなる。また、課題設定の前に教師の働き掛けにより多くの疑問をもたせることが大切である。総合的な学習の時間の中で、重要となる「主体的な活動」「対話的な活動」を仕向ける仕掛けを今後も考えていって欲しい。

環境問題については、「Think Glovally,Act Locally.」の視点を大切にするとよい。

20　本校の研究の取り組みについて

埼玉大学教育学部附属小学校

Ⅰ　本校の研究概要

1　研究主題

「学びの本質」を育む授業の創造
～ともに広げ、ともにしぼる思考力～

2　研究主題について

(1)　「学びの本質」とは

本研究における「学びの本質」とは、「全教科・健康教育等に共通した学力であり、これを本校では、「マスターキー」と呼んでいる。

このマスターキーは、21世紀の「グローバル化社会」において、児童が正解の見えづらい問題に相対したとき、それに対応し、最善解を導いていくことができ、生きて働く力となっていくと考える。

そこで、目指す児童の具体的な姿を以下に示す。

(2)　「学びの本質」が育まれた児童の姿

> 問題解決の過程で、自ら多様な考えを生み出したり、自ら明確な根拠をもって考えを絞り込んだりしている姿

児童は、学習活動の中で、問題解決に向けて、自分なりに考えを生み出したり、考えを絞り込んだりしている。本研究では、この問題解決の過程において、考えを生み出す際には、見通しや既習経験を焦点化したり、複数の考えを関連付けたりしながら、多様な考えを生み出せるようにしていく。また、考えを絞り込む際には、生み出された多様な考えを比べたり、整理したり、選んだりすることで、考えを再構成することができるようにしていく。そして、問題解決が図られた先には、さらに追求すべき新たな問題に向けた取組が始まるようにしていく。

(3)　研究の視点

現代の情報化社会では、欲しい情報が容易にかつ大量に入手できる。しかし、情報は自分自身の考えの基にはなるが、自分の考えそのものではない。入手した情報を踏まえて、自分の考えを生み出さなければならないし、その考えに根拠をもてるようにしなければならない。問題解決の過程で考えてみると、一つの答えに直ちにたどりつくことは稀である。自分の考えを複数出した後、考えを絞って一つの答えに達するのである。本校では、このように思考する力を「水平思考力」、「垂直思考力」と呼び、「全教科・健康教育等に共通の学力」ととらえる。そして、本年度は、この二つのマスターキーをよりよく働かせるために、「協働的思考力」に視点を当てて、研究を推進してきた。「協働的思考力」とは、「他者を理解し、人と関わり合う力」と捉えていて、「水平思考力」「垂直思考力」を、よりよく働かせることができるための「潤滑油」のような役割を果たすものとして取り入れ、実践を基に検証している。なお、本研究はベネッセコーポレーションと連携しながら検証を進めているところである。

①「水平思考力」

児童が課題の解決に向けて考える際、自分の考えを増やしたり、広げたりできるようにしたい。つまり、多様な観点で、複数の考えを生み出す力が必要である。この力が「水平思考力」である。

②「垂直思考力」

児童が課題に対する答えを導く際、明確な根拠をもって自分の考えを絞り込んでいけるようにしたい。そのためには、課題に対する自分の考えを再構成する力が必要である。この力が「垂直思考力」である。

③「協働的思考力」

「協働的思考力」とは、「他者を理解し、人と関わり合う力」と捉えている。そして、「水平思考力」「垂直思考力」を、よりよく働かせることができるための「潤滑油」のような役割を果たすものとして、本年度より実践に取り入れている。また、協働的思考力を発揮している姿として、「①他者と関わろうとする」「②他者の考えに気付く」ことと捉えた。「①他者と関わろうとする」思考を促すために、「②他者の考えに気付く」ために、どのような教師の働きかけが効果的であるか、実践を通して、検証を進めている。

3　研究の内容（これまでの研究成果）

(1)　思考スキル及び手立ての確立及び評価規準の設定

児童がマスターキーを身に付け、活用できるようになるためには、スキルを身に付ける必要がある。そして、そのスキルは複数存在し、それらを教材や学習場面に応じ、関連させることで、児童がマスターキーを身に付け、活用できるようになるのである。

「水平思考力」におけるスキルとして「発想する」「連想する」を、「垂直思考力」におけるスキルとして「分類・整理する」「分析比較する」「取捨選択する」を位置付け、各思考スキルを身に付けるための手立てを明確にし、日々の授業実践に取り

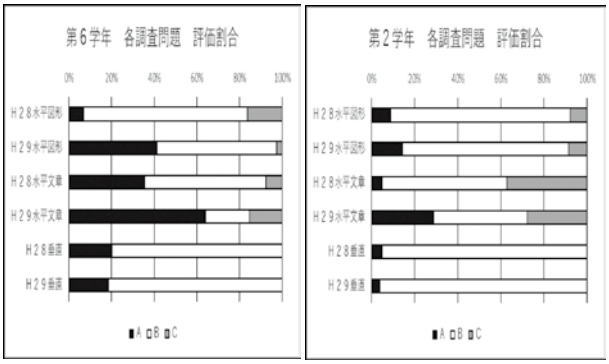
組んだ。

また、児童がマスターキーを身に付けたのか、手立ては有効に働いたのかを検証するために、思考スキルごとに発達の段階に応じた評価規準を設定した。評価規準の設定に当たっては、各教員のマスターキーに関わる実践を集約し、思考スキルごとに、共通している児童の姿を探っていくことで、全教科・健康教育等に共通の規準を設定できるようにした。

⑵　本校独自の調査問題の作成・分析

児童の思考力、判断力、表現力の現状をとらえるため、平成28年度末に、調査問題の刷新を図り、児童の「水平思考力」「垂直思考力」及び、思考スキルについて正確に見取ることができるようにした。

「水平思考力」調査問題では、考えを広げていく内容とし、回答数（量）と観点数（質）を分析した。「垂直思考力」調査問題では、理由を説明する内容とし、回答を「分類・整理」、「分析比較」、「取捨選択」などの観点に照らして分析した。以下に、２年間同じ問題に取り組んだ平成29年度第２学年と第６学年について、「水平思考力」、「垂直思考力」の評価割合の変容を示す。



なお、本調査は児童の思考力、判断力、表現力の現状をとらえるものである。そのため、実施後の答え合わせ等は行っておらず、児童は何を書けば正答かを把握していない状況であるため、実施回数が増えても、正答が増えるとは限らない。

Ⅱ　活動内容

１　第86回小学校教育研究協議会について

⑴　期　日　平成30年10月16日㈫、17日㈬

⑵　会　場　埼玉大学教育学部附属小学校

⑶　主　題　「学びの本質」を育む授業の創造
～ともに広げ、ともにしぼる思考力～

⑷　趣　旨

教科または自身の研究テーマに基づいて公開授業を行い、研究協議を通して小学校教育の充実を図る。

⑸　後　援

埼玉県教育委員会　　さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会　埼玉県公立小学校校長会

⑹　公開授業　全18学級　35授業提案

⑺　分科会

本年度は、継続研究７年次として個人分科会を設定した。研究テーマに対して、具体的な方策を考え、授業を通して提案し、研究協議を行った。

◎教科の研究主題
①提案者　②公開授業　③指導者　④司会者

【国語科】

◎課題解決に機能する言語能力を育成する指導の工夫

①松下洋介　②６年「私はこう読む　賢治の世界」
①吉野竜一　②２年「つなげて話そう　２年２組
ひみつ道具コンテスト」
３年「わたしの　ぼくの　プレゼンテーションデビュー」
①笠原雅広　②１年「くらべてよもう　じどう車くらべ」
５年「物語の妙　～椋鳩十作品～」
③埼玉大学：山本　良・戸田　功
県教育局：淺井大貴
④白岡･菁莪小　福岡拓弥　さいたま･中尾小　泉　正人
川越･川越小　川畑那由昂

【社会科】

◎社会がわかり、社会にかかわる児童を育てる社会科授業の指導の工夫

①矢島弘一　②３年「さいたま市のうつりかわり」
①岩田信之　②４年「世界とつながるまち」
①及川恒平　②５年「物流ジャパン」
③埼玉大学：桐谷正信・大澤利彦
県教育局：重岡勝之
④深谷･幡羅小　村知直人　ときがわ･萩ヶ丘小　田畑昭彦

【算数科】

◎問題を見いだし、数学的な表現を用いて伝え合う児童を育てる指導

①神谷直典　②６年「資料の活用」
①関口泰広　②３年「重さ(量の単位のしくみ)」
５年「百分率とグラフ」
①藤田明人　②２年「せいりのしかた」
４年「整理のしかた」
③埼玉大学：二宮裕之、松嵜昭雄
県教育局：志村憲一
④三郷･高洲東小　池島裕貴　狭山･南小　町田　伸
戸田･美谷本小　菊地奈津子

【理科】

◎自然事象を通して、科学を語る児童を育てる指導の工夫

①塩盛秀雄　②５年「電流がうみ出す力」
６年「電気と私たちのくらし」
①肥田幸則　②３年「物と重さ」
４年「雨水の行方と地面の様子」
③埼玉大学：小倉　康　県教育局：関根　努
④さいたま･大谷口小　小川卓也
羽生･羽生南小　斉藤貴司

【生活科】

◎学びを自らの生活に生かす生活科の学習指導

①若村健一　②２年「すてきなニュースを伝え合おう」
①横田典久　②１年「つくって　あそんで　たのしもう」
２年「やさいよ　大きくなあれ」
③埼玉大学：宇佐見香代　県教育局：小峰　元
④宮代･笠原小　松本美紀　行田･南河原小　川野　華

【音楽科】

◎感性を働かせ、主体的・創造的に音楽を伝えようとする児童を育てる指導の工夫

①波多江慶太　②４年「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」
①納見　　梢　②２年「ひょうしをかんじてリズムをうとう」
５年「和音の美しさを味わおう」
①三橋　博道　②３年「せんりつのとくちょうをかんじとろう」
③埼玉大学：伊藤誠　県教育局：齋藤直美
④川口･里小　横山雄貴　川越･今成小　松岡訓史

【図画工作科】

◎表現と鑑賞を相互に関連させ、思考力，判断力，表現力を高める指導の工夫

①廣田和人　②４年「ミラーでミラれる　すてきな世界」
①坂井貴文　②３年「大きな　大きな　友だち」
５年「おもしろ　絵巻」
①安藤健太　②１年「カラフルに　いこう！」
③埼玉大学：吉岡正人、横尾哲生
県教育局：中　和馬
④さいたま･神田小　勝俣寿子
上尾･富士見小　横山沙織
寄居･男衾小　和田志織

【家庭科】

◎よりよい生活を目指して、課題を解決しようとする児童を育む指導の工夫

①横家　知世　②５年「買い物名人になろう」
①渡邊はるか　②６年「1食分の食事　ランチを作ろう」
③埼玉大学：重川純子　県教育局：佐藤　朋子
④草加･花栗南小　田中　萌　久喜･栗橋南小　渡部菜摘

【体育科】

◎「わかる」と「できる」をつなぐ思考力，判断力，表現力を高め、運動への自信をもてる指導の工夫

①森田　哲史　②１年「跳の運動遊び・投の運動遊び」
①首藤祐太朗　②２年「ボール運び鬼」
６年「フラッグフットボール」
①浅間　聖也　②４年「跳び箱運動」
③埼玉大学：有川秀之、石川泰成
県教育局：佐藤泰弘
④川口･並木小　諏訪真宣　熊谷･奈良小　関谷　淳
さいたま･芝川小　吉岡正憲

【健康教育】

◎学びをつなぎ、ひろげて健康課題を解決することができる児童を育てる指導の工夫

①石山結加里　②４年「おいしいね！埼玉県」
③埼玉大学：七木田文彦　県教育局：長岡　剛
④さいたま･大宮南小　高垣朋香

２　校内授業研究会について

個人の研究主題を基に、授業を通して検証を試み、全員で研究協議を行った。研究会には、文部科学省及び埼玉大学から指導者を招聘した。本年度は、各教科で授業研究会を９回実施した。

①教科等(学年)　②授業者　③研究主題　④指導者

⑴　平成30年６月21日㈭
①特別の教科　道徳（５年）　②関口泰広
③本校の指導法改善に関わる授業研究
④文部科学省・浅見哲也

⑵　平成30年６月25日㈪
①音楽科（４年）　②波多江慶太
③音楽を共有し、感性を豊かに働かせる指導の工夫
④埼玉大学・鈴木静哉

⑶　平成30年６月28日㈭
①算数科（４年）　②藤田明人
③多面的に分析できる児童の育成
④埼玉大学・二宮裕之

⑷　平成30年７月５日㈭
①生活科（２年）　②横田典久
③伝え合い交流する活動の充実を図り、気付きの質を高める指導の工夫
④埼玉大学・宇佐見香代

⑸　平成30年７月９日㈪
①図画工作科（１年）　②安藤健太
③児童が試行錯誤し、思考力，判断力，表現力等を高める指導の工夫
④埼玉大学・横尾哲生

⑹　平成30年11月８日㈭
①音楽科（３年）　②三橋博道
③音楽的な根拠に基づいて思考、判断し表現する児童を育てる指導の工夫
④埼玉大学・鈴木静哉

⑺　平成30年11月12日㈪
①体育科（１年）　②森田哲史
③「わかる（知識）」と「できる（技能）」をつなぐ思考力，判断力，表現力等を高める指導の工夫
④埼玉大学・石川泰成

⑻　平成31年２月４日㈪
①国語科（５年）　②笠原雅広
③国語の学びを価値付ける児童を育成する指導の工夫
④埼玉大学・本橋幸康

⑼　平成31年２月７日㈭
①社会科（４年）　②矢島弘一
③「社会がわかる」児童を育成する指導の工夫
④埼玉大学・桐谷正信

３　第２回公開授業研究会について

⑴　期　日　平成31年１月26日㈯
⑵　会　場　埼玉大学教育学部附属小学校
⑶　趣　旨
教科または自身の研究テーマに基づいて公開授業を行い、研究協議を通して小学校教育の充実を図る。
⑸　後　援
埼玉県教育委員会　　さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会　埼玉県公立小学校校長会
⑹　公開授業　14学級　24授業提案

①提案者　②公開授業　③指導者（講演・演習等）

【国語科】
①松下洋介　②４年「調べたことをほうこくしよう」
①吉野竜一　②２年「つなげる楽しさを味わおう」
①笠原雅広　②５年「語り合おう　物語」
③文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
菊池　英慈

【社会科】
①岩田信之　②４年「受けつがれる秩父夜祭」
①及川恒平　②６年「憲法とわたしたちのくらし」
③文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
小倉　勝登

【算数科】
①神谷直典　②１年「かたち　づくり」
①関口泰広　②５年「四角形と三角形の面積」
①藤田明人　②４年「簡単な場合についての割合」
③文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
笠井　健一

【理科】
①塩盛秀雄　②６年「水溶液の性質」
①肥田幸則　②３年「磁石の性質」
③文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究
センター学力調査官　有本　　淳

【生活科】
①若村健一　②１年「もうすぐ２ねんせい」
①横田典久　②２年「自分たんけんから未来の自分へ」
③共栄大学教育学部教授　若手三喜雄

【音楽科】
①波多江慶太　②４年「楽しい音楽会」
①納見　　梢　②５年「日本と世界の音楽に親しもう」
①三橋　博道　②３年「音を合わせて楽しもう」
③文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
志民　一成

【図画工作科】
①廣田和人　②４年「紙コップで　クルクルげきじょう」
①坂井貴文　②３年「ようきの中の小さな世界」
①安藤健太　②１年「できたらいいな、こんなこと」
③文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
岡田　京子

【家庭科】
①横家　知世　②５年「ポカポカ快適なくらし」
①渡邊はるか　②５年「ポカポカ快適なくらし」
③埼玉大学教育学部教授（本校校長）　川端　博子

【体育科】
①森田　哲史　②３年「投の運動」
①首藤祐太朗　②３年「ハンドボール」
①浅間　聖也　②４年「幅跳び」
③日本体育大学体育学部教授　白旗　和也

【健康教育】
①石山結加里　②５年「日本の食」
③埼玉大学教育学部准教授　上園竜之介
上越教育大学大学院教授　野口　孝則

Ⅲ　今後について

今年度は、第86回小学校教育研究協議会や校内授業研究会、第２回公開授業研究会において、継続研究７年目としての学校研究主題を具現化した授業を提案することができた。「協働的思考力」に視点を当て、どのように教師が働きかけることがより効果的となるか、部会での検証を進めている。新学習指導要領移行期１年目を迎え、汎用的な資質・能力の育成は、今日の教育界において、重要な内容の一つである。

本校としても、来年度の８年次に引き続きマスターキーの育成を研究の柱としていく。そして、今後も授業時における児童の姿で研究の成果を示せるように研究及び授業をより充実させていく。

21　埼玉大学教育学部附属中学校

Ⅰ　研究主題と方針

1　主題

「新学習指導要領に基づく学習指導法の改善
－教科等の特質に応じた「見方・考え方」を
働かせた学習指導の工夫－」

2　方針

新たに学習指導要領が公示された中で、学校教育には，子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。新学習指導要領改訂の経緯や基本方針・要点を踏まえ、これまでの研究の成果と課題を生かしながら、新学習指導要領に基づく学習指導法の改善を進めていく。

＜研究の方向性＞

学習指導要領の構造化された今回の改訂で、「見方・考え方」が改めて明示され，資質・能力が一貫して捉えやすくなり、各教科等の役割が鮮明になったことを踏まえ、各教科等の特質を生かした「見方・考え方」を働かせた授業について研究する。研究の視点としては次の２つを挙げ、授業実践を行った。

＜視点Ⅰ＞

教科等における、単元・題材、指導計画、本時の「見方・考え方」とは何かを明らかにする。

＜視点Ⅱ＞

資質・能力を育成するために「見方・考え方」を働かせるとは、どのような手立てによるのかなどについて明らかにする。

Ⅱ　活動状況および研究内容

1　平成30年度中学校教育研究協議会

⑴　発表主題

「新学習指導要領に基づく学習指導法の改善
－教科等の特質に応じた「見方・考え方」を
働かせた学習指導の工夫－」

⑵　主催　埼玉大学教育学部附属中学校

⑶　後援　埼玉県教育委員会･さいたま市教育委員会
埼玉県連合教育研究会
埼玉県中学校長会･さいたま市中学校長会
埼玉県市町村教育委員会連合会

⑷　期日　平成30年５月29日㈫・30日㈬

⑸　内容

【国語科】

研究主題「生活に生きて働く国語の能力を育成する授業の創造～生徒の主体性と言語能力に資する指導と評価」

指導者　埼玉県教育局　橋爪　優　先生
埼玉大学　本橋　幸康　先生

司会者　川越市立南古谷中学校　大池　芳明　先生

本年度は以下の３つについて研究・実践を行った。

⑴　生徒の思考を可視化するための方法

特に「読むこと」の言語活動中に、生徒がどのように読んでいるのかが見えにくいという課題があった。そのため、考えを形成する過程をワークシートに記録させる方法を試みた。

⑵　成長を実感できる振り返り

手立てが必要な生徒に対して、自己の学びを振り返る手立てが十分に講じられていないという課題があった。そのため、単元全体の言語活動の見通しと活動上の留意点を示した単元計画表を用いて、意図的に振り返りの機会を設ける方法を試みた。

⑶　身に付けた力を評価するためのペーパーテスト

言語活動を通して身に付けた力を適切に測ることができるペーパーテストの作成ができているかという課題があった。そのため、ペーパーテストの課題と採点基準の工夫改善を試みた。

成果としては、⑴生徒が根拠をもって考えを表し，整理しながら思考することができたこと、⑵生徒が「何を振り返ればよいのか」を意識し、記述内容に変容が見られたこと、⑶生徒一人一人の授業における思考・判断・表現について確認することができたことである。課題は、表出のさせ方をさらに見直していく必要があることである。今後、さらに研究を進めていく所存である。

【社会科】

研究主題「公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科学習」

指導者　埼玉県教育局　重岡　勝之　先生
埼玉大学　谷　謙二　先生　清水　亮　先生
宮崎　文典　先生

司会者　戸田市立笹目中学校　小松　裕人　先生

本校社会科部では研究主題を受け、研究を深める具体的な手立てとして次の２つについて取り組んだ。

⑴　社会科における単元・題材、指導計画、本時の学習における「見方・考え方」について

⑵　資質・能力を育成するために「見方・考え方」を

働かせる手立てについて

今回社会科部では，中教審の審議のまとめより「見方・考え方」を働かせた学びから「資質・能力」の育成に向けた研究を進めていった。教科等共通の二つの研究の手立て⑴ にあたる部分では，１単位時間で考えるだけでなく単元など内容のまとまりの中で「見方・考え方」を働かせるよう工夫を行った。手立て⑵ にあたる部分では、社会科における視点を吟味していき、生徒が主体的に学習に向かうよう「問い」を工夫し、さらにその「問い」の解が深まるよう協働的な学びになるような学習形態の工夫を行った。これらを受け、第１学年歴史的分野「古代の日本～古墳や，副葬品は私たちに何を語っているのだろうか～」、第２学年地理的分野「日本の様々な地域～日本の地域的特色に基づいて，日本の地域区分を考えよう」、第３学年公民的分野「私たちと現代社会～生徒会会則はどのように決まり、どのように運用すべきだろう～」を題材に研究授業に取り組んだ。

【数学科】

研究主題「深い学びの実現を目指した数学学習指導
～数学的な見方・考え方を働かせて～」

指導者　埼玉県教育局　松永　哲　先生
埼玉大学　二宮　裕之　先生
司会者　戸田市立笹目中学校　矢作　浩章　先生

数学の授業において、「学びが深まった」様相はどのような状態なのか、また、「深い学び」を実現させるために，教師はどのような授業づくりが必要か、これらの課題に迫るために本主題を設定した。

研究を進めていく上での手立てとして、次の２つを柱とした。１つ目は、数学科における深い学びについてである。数学科における「深い学び」の捉え方や「深い学び」と「数学的な見方・考え方」との関連について整理した。また、「深い学び」の実現に向けた授業イメージから、数学的活動の充実が見込まれ、学びの深まりが位置付くと捉えた。２つ目は、「見方・考え方」を働かせる手立てについてである。先述の授業イメージを基に、数学的思考に基づくストラテジーを取り上げ、各学習過程に分類し、深い学びの具体的な手立てとして当てはめ表に整理した。授業計画の段階で明確に位置付けることで深い学びの実現に迫る学習展開が期待できると考え、授業実践を行った。

本研究を通して、「深い学び」の実現に向けた具体的方策について、学習過程のイメージにおける各段階の移行過程に着目し、その各段階において行われると予想される数学的な見方・考え方を分類・整理し、実践検討を行うことができた。

【理科】

研究主題「自然を主体的・科学的に探究する資質・能力の育成　－見方・考え方を働かせた学びへの改善－」

指導者　埼玉県教育局　鮫島　弘樹　先生
埼玉大学　小倉　康　先生
司会者　八潮市立八潮中学校　谷津　勇太　先生

生徒が身に付けるべき「資質・能力」を埋め込んだ単元デザインについて研究し、「見方・考え方」をよりよく働かせた授業展開を試みた。手立てとして、『①単元・題材、指導計画、本時の授業における「見方・考え方」を明示した授業実践』、『②「見方・考え方」をよりよく働かせるための手立て（学習過程・集団の規模等）の提案』を設定した。また、理科の資質・能力および見方・考え方の具体を整理した。

手立て②では、学習が「日常や社会」から入り、「日常や社会」に出て行く問題解決の流れのなかで常に子どもが「日常や社会」に立ち返りながら、他者と共に自分なりの考えを再構成していくことで、素朴な見方や考え方を科学的な見方や考え方に自ら変容させていく。このような「日常や社会」と関連付けた文脈のある授業展開を積み重ねていくことによって、子供が理科を学ぶことの有用感を感じながら、主体的に学んでいくことができると考えた。

研究協議会における実践としては、第１学年は「植物の特徴と分類」、第２学年は「炭素の燃焼」、第３学年は「生物の数量的な関係」を題材とし授業提案を行った。

【音楽科】

研究主題「表現と鑑賞の関連を図り、思考力、判断力、表現力等をより効果的に育成する学習指導法の工夫」

指導者　県教育局　齋藤　直美　先生
埼玉大学　伊藤　誠　先生
司会者　八潮市立八潮中学校　針ヶ谷亜紀子　先生

本年度は以下の２つについて研究・実践を行った。

⑴ 思考力、判断力、表現力等を一層具体的にし、学習指導案においては、教師の指導と生徒の思考の流れとの関係が分かるようにすることで、より効果的な生徒の思考力、判断力、表現力等の高まりを目指した授業の在り方について研究する。

⑵ 音楽科における思考力、判断力、表現力等を育成する主体的・創造的な学習を実現する指導と評価の工夫について研究する。

成果として、題材ごとに生徒が身に付ける思考力、判断力、表現力等を具体化したこと、また、「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」の相互関連を図った題材設定は、生徒の思考力、判断力、表現力等をより効果的に育成される様子が見られた。題材の終末におい

て、どのような活動でそのような考えになったかを問うことで、生徒自身が自覚することができたことなどが挙げられる。

課題としては、思考力、判断力、表現力等を育成する指導過程において、「何を根拠に育成されたことが言えるのか」という指導と評価について、協働的な学びにおける言葉、音、音楽など、記述以外の要素も含めたより客観的で信頼のおけるものにしていく必要がある。これらの成果と課題を踏まえ、今後も研究を進めていきたい。

【美術科】

研究主題「表現と鑑賞を一体化させながら
資質・能力を育成する学習指導の工夫」

指導者　埼玉県教育局　中　和馬　先生
埼玉大学　小澤　基弘　先生
司会者　埼玉大学教育学部附属小学校
坂井　貴文　先生

研究に当たっては、造形的な見方・考え方を働かせている場面を一連の流れと考え、活動内容ごとに分け、ワークシートの工夫などで生徒の活動を見取ることができるようにし、造形的な見方・考え方が明確になるように研究を進めた。

また、「思考力、判断力、表現力等」は「発想や構想に関する資質・能力」と「鑑賞に関する資質・能力」双方で育成される資質・能力であるため、授業改善の工夫として、表現による発想や構想の場面と、鑑賞の場面を相互に関連させ、活動の中で一体化を目指して研究を行った。

研究における成果として、「造形的な見方・考え方」の基本となる造形的な視点を明確にすることができ、他教科や学校行事、日常生活の中で、様々な視点から自分の中に新しい価値をつくり出すことができる生徒を育成することができた。

【保健体育科】

研究主題「主体的な学びを育む保健体育の学習」

指導者　埼玉県教育局　金杉　博美　先生
埼玉大学　石川　泰成　先生
司会者　埼玉大学附属小学校　森田　哲史　先生

本校保健体育科では、研究主題を「主体的な学びを育む保健体育の学習～体育の見方・考え方を働かせた学習指導の工夫～」とし、各教科の「見方・考え方」をどのように働かせることで，資質・能力の育成につなげるのかを明らかにした授業改善について考え、次の２点について研究した。１点目は、生徒に身に付けさせたい資質・能力を働かせる場面を位置付けた単元計画を作成した。また、各単元や題材において「見方・考え方」を働かせながら育みたい資質・能力を生徒に伝え、生徒が目的をもって取り組むことができる学習場面の設定と学習活動の工夫を行った。２点目は、他者との関わりを通して「思考し判断したこと」を「表現させる（他者に伝える）」ことを意図的に組み込んだ学習活動の工夫を行った。成果としては、多様な関わりを持たせながら「見方・考え方」を働かせることにより、思考力・判断力をより活発に働かせ、安心して自分の意見を伝える力（表現）の育成に有効であるとわかった。今後は、「知識や技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう人間性」の３つの資質・能力をバランスよく身に付けさせる学習活動の工夫を行っていく。

【技術・家庭科】

研究主題「社会で生きる資質・能力を育成する学習指導～「見方・考え方」を働かせ豊かにする学習指導を通して～」

指導者　埼玉県教育局　酒井　一昭　先生
佐藤　朋子　先生
埼玉大学
山本　利一　先生・荻窪　光慈　先生
河村　美穂　先生
司会者　秩父市立秩父第一中学校　根岸　秀和　先生
さいたま市立与野南中学校
宇塚　亜衣　先生

技術・家庭科では、「社会を生きる資質・能力」の育成のためには、「見方・考え方を働かせ、豊かにする学習指導」を実施することが必要であると考えた。そこで新学習指導要領も見据えて、「見方・考え方」について題材を通して働かせるための指導計画の工夫と、授業場面における「見方・考え方」の働かせ方の工夫について、各分野で研究し実践を行った。また、生徒が「見方・考え方」を働かせ、よりよい解や新しい価値を見いだし自らの「見方・考え方」が豊かになっていることを自覚できるよう振り返りやワークシートを工夫し活用させた。

次年度以降の研究では、新学習指導要領の移行期間に入るため、新学習指導要領実施のために「見方・考え方」をより豊かに働かせる学習指導について深めるとともに、学習指導の改善の手法である「主体的・対話的で深い学び」についての研究を深め、資質・能力の確実な育成に繋がる研究を進めていく。

【英語科】

研究主題「コミュニケーションの質の向上を図る
学習指導の工夫」

指導者　埼玉大学　及川　賢　先生
埼玉県教育局　矢口　岳人　先生
司会者　越谷市立栄進中学校　村上　尊　先生

英語科では、前年度に引き続き学校研究主題から、「コミュニケーションの質の向上」に関する研究を基盤として、学習指導をより効果的にするための指導法の工夫改善について、実践研究を進めた。

具体的には、生徒のコミュニケーションの質の向上を図る指導の手立てとして、「コミュニケーションの相手を尊重し、伝え合い、わかり合うことを大切にする場面の設定」と「情報や自分の考えなどを形成するとともに、必要に応じて、整理、再構築する場面の設定」という２つの視点から研究主題に迫った。前者については、「協働的な形成的評価」や「教師による評価」、「スパイラル的な形成的評価」を柱とし、後者については、「双方向のコミュニケーションの大切さ」や「より即興性のある実際のコミュニケーションに近い場面設定」を柱として研究を進めた。

研究の成果として、学習到達目標を設定し、適切な振り返りの場面を設定することにより、生徒が意識的に発した英語を振り返ったり、聞き取った内容をもとに英語での問答を行ったりなど、即興性のある「やり取り」の質の向上に結びついた。今後の課題として、話す内容の質の向上やそれを見取るための評価規準（基準）の適切な設定方法および生徒中心の授業設計について、さらに、研究を進めていきたい。

【学校保健】

研究主題　「心豊かな人間性を育むため指導の工夫」

指導者　埼玉大学准教授　七木田文彦　先生
　　埼玉県教育局　芦川　恵美　先生
司会者　川口市立高等学校　三橋　絵美　先生

平成30年度は、新学習指導要領に基づく学習指導法の改善－教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた学習指導の工夫－であった。養護教諭が行う学校保健から考える「見方・考え方」を示すに当たり、養護教諭の役割や保健室の機能を整理した。保健体育分野の保健を基にし、『健康』というキーワードを軸とし、教科にとどまらず特別活動、学校生活、委員会活動等の関わり合いの中で、しなやかで柔軟性をもった考え方の広がりにより、よりよい自分へとつながり、充実感や満足感となり、心身の『健康』という土台が太くなっていくと考え様々な取組を行った。学校保健では、この積み重ねが、「見方・考え方」を働かせていくことにつながっていくと考える。

１　具体的な研究・授業内容

⑴　１年生に「３分間呼吸法」の実践､体験後の感想その後の継続のための保健委員会を通した活動

⑵　各学年の教育メンタルトレーニング講座の開設

⑶　ピア活動を取り入れた保健委員活動

２　特別活動『健康』とは何かを考える授業

単に病気でないことやケガがないということではなく、個人による健康観、社会と健康のつながり等の学習を行った。

２　平成30年度の研究概要

⑴　研究主題

「「主体的・対話的で深い学び」の実現による資質・能力の育成～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の在り方～」

⑵　研究主題について

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編の改訂の経緯において「資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を高める授業改善の取組を活性化していくことが必要」と述べられている。学習の質を高めるためには、授業改善の取組を行うことすなわち「主体的・対話的で深い学び」を推進することが今の学校教育に求められていると考えている。

⑶　研究の内容

○新中学校学習指導要領解説総則編や各教科解説より、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について述べられている。それらを拠り所として具体的な授業改善に取り組む。

○各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた指導計画の作成と授業実践を踏まえて「主体的・対話的で深い学び」とは何か各教科等で示していくとともに、単元・題材を見通して、意図的・計画的に指導計画を作成する。これらを受け、以下の３つの手立てをもとに研究を進める。

・手立てⅠ：単元・題材計画の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれの視点を位置付け、意図的・計画的に見通しをもって授業実践を行う。

・手立てⅡ：生徒に単元・題材の学びの見通しをもたせ授業に取り組ませる。

・手立てⅢ：生徒が単元・題材を通して学びを振り返る活動を行う。

⑷　研究経過

①研究全体会

全教員で研究内容について議論を重ね、共通理解を図った。年間で５回実施し、研究の基礎理論、研究主題の設定、研究推進の実務について検討した。

②研究情報の収集

国立大学附属学校等の研究発表や「教育展望セミナー」などへの参加を通して、研究情報を集めた。

③夏季教員研修会（講演会）　平成30年８月20日㈪
　講師　東洋大学教授　後藤　顕一　先生

④校内授業研究会

第１回　理科　伊藤　悠昭　平成30年７月６日㈮
第２回　保体　小澤　幸康　平成30年12月６日㈭
第３回　美術　吉田　真梨　平成31年２月14日㈭

平成30年度

研究集録

Ⅱ　全国・関東地区教育研究発表大会
埼玉大会の報告

【全国大会】

1　第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会
埼玉大会 ……90

【関東地区大会】

2　第63回関東中学校保健体育研究大会
埼玉大会 ……91

3　第42回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会
埼玉大会 ……92

第56回全国小学校社会科研究協議会研究大会
埼玉大会

1　研究主題

「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」

2　期　　日　平成30年10月25日㈭ 26日㈮

3　会　　場　川口市総合文化センターリリア
川口市立本町小学校
川口市立戸塚北小学校
川口市立鳩ヶ谷小学校

4　大会概要

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能の進化などにより、子供たちの将来は、予測困難な時代になると言われている。また、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（平成28年９月）において、「人の役に立ちたい」と考える子供の割合は増加傾向にあるものの、「自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながる」という意識は他国と比べて相対的に低いことが指摘されている。

これらのことついて、本会では、自分のもっている資質・能力を、よりよい社会の形成に主体的に生かしていくことのできる人材の育成が重要であると受け止めた。そこで、そのような人材の育成を社会科教育のゴールとして見据え、小学校段階から着実に育成していくことが課題であると捉えた。単に社会的事実を断片的に蓄積した知識ではなく、社会的事象の見方・考え方を働かせて知識を関連付け、社会的事象の特色や意味などを理解し、他の学習場面でも活用できる知識となるよう、「わかる」の質を高めていく必要がある。そして、日々の授業で、学んだことを生かして学習問題を解決したり、社会にかかわろうとしたりする子供を、鍛え育てる授業を実践し、将来、よりよい社会の形成者として社会に参画できる人材の育成につなげるため、研究主題「社会がわかり、社会にかかわる子供を育てる社会科学習」を設定し、研究成果を発表した。

第１日目は、川口市総合文化センターリリアで全体会を開催した。全体指導者に文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　小倉勝登　先生をお招きして、大会提案への指導講評をいただいた。また、記念講演として、「授業の見方～社会科の授業をどう見るか～」を演題に、国士舘大学体育学部こどもスポーツ教育学科教授　澤井陽介　先生にお話しいただいた。

第２日目は、各校副主題の下、全学級での公開授業（社会科・生活科）を行い、会場校全体会（会場校提案・指導講評）、学年別授業研究会、課題別研究会を開催した。第１会場校：本町小学校では、「社会的事象の見方・考え方を働かせた思考力の育成」として27授業を、第２会場校：戸塚北小学校では、「自ら問いをもち、学び合う授業を通して」として22授業を、第３会場校：鳩ケ谷小学校では、「社会とのつながりを考え続ける児童の育成」として24授業、計73授業を公開した。そして、第１会場校指導者：総合初等教育研究所参与　北俊夫先生、第２会場校指導者：國學院大學教授　安野功先生、第３会場校指導者：埼玉大学教授　桐谷正信先生をお招きし、御指導いただいた。学年別授業研究会では県内から学年指導者を迎えて学年部会12提案で研究協議した。学年別課題研究会では、全国から31提案、県内から17提案の計48提案を行った。

全国各地から、２日間で延べ1,500名を超える参会者の皆様にお越しいただいた。埼玉県の小学校社会科教育として、最新の研究を発信することができた。

【全体会次第】

○挨拶	全小社研会長	吉村　　潔
	埼玉大会実行委員長	笹原　秀之
○祝辞	文科省教科調査官	小倉　勝登　様
	県教育局市町村支援部長	松本　　浩　様
	さいたま市教育委員会教育長	細田眞由美　様
	川口市長	奥ノ木信夫　様
○会務報告	全小社研事務局長	西脇　裕高
○感謝状贈呈	前全小社研会長	月岡　正明　様
○大会主題提案	埼玉大会研究主任	吉井　大輔
○指導講評	文部科学省教科調査官	小倉　勝登　様
○記念講演	国士舘大学教授	澤井　陽介　様
○次期大会提案	岐阜県小社研会長	鵜飼　高男　様
・パイプオルガン歓迎･歓送演奏		小島弥寧子　様

5　成果と課題

研究の成果としては、３つの視点「問い（焦点化する指導）」「学び合い（広げ深める指導）」「振り返り（学びを自覚化させる指導）」を基に、問題解決的な学習過程の充実を図ることができた。柔軟な学習過程の中で、学んだことを活用して問題を解決する授業が実践できた。また、会場校３校がそれぞれの副主題を、新学習指導要領の内容で具現化する授業を提案できた。

課題としては、「社会にかかわる授業」の実践を更に具現化していくこと、研究内容を県内に広めていくこと、研究推進を継続していくことが挙げられる。

第63回関東中学校保健体育研究大会 埼玉大会

1　研究主題

「主体的に運動に取り組み、健康の保持増進や体力の向上を図り、生涯にわたって明るく豊かな生活を営む態度を身に付けた生徒の育成」

2　期　　日　平成30年10月26日㈮

3　会　　場　新座市立石神小学校
新座市立第六中学校

4　大会の概要

本大会は「生徒が自ら学び、自ら考える力など『生きる力』の育成や、中学校における今日的課題の解決に向けて研究協議し、中学校保健体育指導者の資質向上を図るとともに、中学校保健体育の充実・発展に資する。」という趣旨のもと、上記研究主題を掲げ、実施された。

開会式では、関東中学校体育連盟新宮領毅会長のあいさつに始まり、昨年度までそれぞれの役職で関東中学校体育連盟の充実・発展のためにご尽力をいただき、多大な功績を残された先生方に、功労者表彰として表彰状と記念品が贈呈された。

【公開授業】

新座市立第六中学校において、元長晴樹教諭・三浦拓也教諭の３年生による「ソフトボール」、村上一博教諭・榎本孝弘教諭の２年生による「跳び箱運動」、山中あずさ教諭の１年生による「保健」の公開授業が行われた。

「ソフトボール」の授業では「チームの課題解決に向けた、自己の考えを仲間に伝え解決するチームの話合いに貢献する」ことをねらいとし、生徒同士の声かけやアドバイスが各チームから数多く出される学習を展開していた。

「跳び箱運動」の授業では、「課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選ぶ」ことをねらいとし、工夫された場や練習方法を活用し、生徒の活動量の多い学習が展開された。

「保健」の授業では、「心の健康について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組む」「心の健康について、健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり選んだりするなどして、それらを説明する」ことをねらいとし、生徒一人一人がしっかり考え、発言する学習が展開された。

参会者の方からは、積極的な生徒の学習態度や、生徒の技能の高さと授業者の先生方の指導力に多くの称賛をいただいた。

【分科会】

午後からは、分科会が、８分科会に分かれて行われた。研究項目ごとの分科会では、各都県の代表発表者２名が研究発表を行った。

発表ごとに質疑応答を行い、最後に研究発表について研究協議を行う形式で進められた。

参加者の授業での取組や悩み等の情報交換を交え、活発で中身の濃い協議が展開された。

分科会と研究項目については、下表のとおりである。

分科会	研究項目
第1分科会	総則の体育
第2分科会	体つくり運動
第3分科会	基礎基本の定着
第4分科会	指導法の工夫・改善
第5分科会	体育理論・保健
第6分科会	評価の工夫・改善
第7分科会	運動部活動
第8分科会	運営上の課題

5　成果と課題

本大会は、２つの柱である公開授業、分科会が充実した内容で円滑に実施され大きな成果を上げたことは、本大会の趣旨、研究主題の具現化に十分に資するものであったと確信している。

参加者は、日々の保健体育指導や部活動指導の中で抱えている諸問題を解決する上で、参考となる多くの示唆を持ち帰ることができたと思う。

保健体育教師の指導者としての資質の向上、保健体育、部活動の充実・発展に大きく貢献できた研究協議会となった。

2019年に本県にて開催される、全国学校体育研究大会向けて、今回の成果と課題を生かして、来たる大会に万全を期して臨んでいきたい。

第58回全国学校体育研究大会　埼玉大会
《 大会主題 》
「新学習指導要領を踏まえた体育・保年体育学習の具現化に向けて」
～生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続できる資質・能力を育成するために～
期日　2019年10月31日（木）～11月１日（金）
会場　大宮ソニックシティ　大ホール【全体会】
各校開園・学校（幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）【分科会】

第 42 回関東甲信地区 中学校英語教育研究協議会　　埼玉大会

1　研究主題

『21世紀を逞しく生き抜く日本人の育成を目指した英語教育』

～コミュニケーションを大切にする生徒の育成～

2　期　日　平成30年11月16日㈮

3　会　場　鴻巣市文化センター（クレアこうのす）
桶川市立桶川西中学校
北本市立北本中学校
鴻巣市立吹上北中学校

4　大会の概要

午前中は、鴻巣市文化センターで開会行事に引き続き、埼玉大学教育学部教授　及川　賢先生をお招きし、「小・中学校のおける英語指導のこれから」を演題に、新学習指導要領を踏まえた英語教育のこれからについて、実践を交えながらわかりやすくご講演いただいた。

午後は、３つの分科会に分かれ、授業提案、実践提案および研究協議が行われた。各分科会において、県内外の先生方に提案していただいた。その後、提案に対し指導者より貴重なご指導をいただき、今後の英語教育について活発な研究協議となった。

【分科会概要】

○第１分科会　「統合的な言語活動を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成」

①授業提案

・『統合的な言語活動を通した表現力の育成』
埼玉県桶川市立桶川西中学校
佐々木有美子　教諭

②県内提案

・『地域共通の「プロジェクト」成功に向けたバックワード・デザインと相手を意識した場面設定』
埼玉県美里町立美里中学校　　岸本　えみ　教諭

③県外提案

・『統合的な言語活動によって発信力を高め 相互交流を楽しむ生徒の育成を目指して』
東京都葛飾区立四ツ木中学校
前田　宏美　主任教諭

・『基礎的・基本的内容の定着を図り，表現力を育む指導の工夫』
山梨県南アルプス市立若草中学校
中村　大介　教諭

○第２分科会　「学習形態などの工夫を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成」

①授業提案

・『学習形態などの工夫を通したコミュニケーションを大切にする生徒の育成』
埼玉県北本市立北本中学校　玉神　順哉　教諭

②県内提案

・『ROUND SYSTEM を通したコミュニケーション能力の育成』
埼玉県熊谷市立玉井中学校　落合　千裕　教諭

③県外提案

・『生徒の発信する力を育む指導の工夫』
茨城県神栖市立波崎第二中学校
大槻　敏之　教諭

・『英語話者とのコミュニケーションを目指した英語教育』
群馬県長野原町立西中学校　　箱田　　樹　教諭

・『様々な学習形態でコミュニケーション活動を大切にする生徒の育成』
栃木県那須塩原市立西那須野中学校
藤田理一郎　教諭

○第３分科会　「小・中・高の連携・接続を目指したコミュニケーションを大切にする生徒の育成」

①授業提案

・『小・中英語の滑らかな接続を意識した入門期（１年１学期）の授業改善』
埼玉県鴻巣市立吹上北中学校
髙橋　朋子　教諭

・『コミュニケーション活動を大切にした5領域の学習』
埼玉県鴻巣市立下忍小学校　　細田　英里　教諭

②県内提案

・『英語が使える日本人の育成を目指した授業の創造』
埼玉郡宮代町立東小学校　　三浦　洋介　教諭

③県外提案

・『CAN-DO リストを活かした段階的な取り組み』
千葉県茂原市立冨士見中学校
鈴木　沙織　教諭

・『小中のつながりを意識した指導・評価の工夫改善』
神奈川県横須賀市常葉中学校
若林　完樹　総括教諭

・『教科等横断的に単元を構想し、４技能を関連させて、思考力・判断力・表現力等を伴った書く力を高めていく英語学習』
長野県長野市立若穂中学校　　内田　昌宏　教諭

5　成果と課題

どの分科会においても、活発な協議が行われた。新学習指導要領への移行期間に当たり、指導者の先生からは、ますますの小・中学校における「英語教育」を軸とした連携の大切さや授業改善・研究の取組の重要性についても、豊富な経験をもとに貴重なご示唆をいただいた。

今後も、本大会の成果と課題を踏まえ、更なる研究を深めていく。

平成30年度

研究集録

Ⅲ　地域教育研究団体の研究

1　さいたま市教育研究会 …… 94
2　草加市教育研究会 …… 96
3　新座市教育連合会 …… 98
4　伊奈町教育研究会 …… 100
5　飯能市教育研究会 …… 102
6　日高市教育研究会 …… 104
7　越生班教育研究会 …… 106
8　玉川班教育研究会 …… 108
9　川島教育研究会 …… 110
10　秩父教育研究会 …… 112
11　児玉郡本庄市教育研究会 …… 114
12　熊谷市教育研究会 …… 116
13　加須市教育研究会 …… 118
14　春日部市教育研究会 …… 120
15　八潮市教育研究会 …… 122
16　宮代町教育研究会 …… 124

1　さいたま市教育研究会

Ⅰ　さいたま市教育研究会の概要

1　会員と専門部

さいたま市教育研究会は、「さいたま市各学校の教育指導の充実、教職員の資質の向上に寄与し、さいたま市の教育振興に期する」ことを目的に、小学校104校、中学校58校、特別支援学校３校、私立学校１校、計166校、会員数は約5,500人の研究会である。

本会では、「授業研究会、講演会、実技講習会の開催」「教育に関する視察、調査、研究」「その他必要と認めた事項」の３つの活動を目的とし、22の各専門部が研究テーマを設定し、計画に沿った活動を展開している。後述するが、「その他必要と認めたもの」の中には、コンクールや展覧会といったものだけでなく、児童生徒の学習を取り入れた活動を展開したり、行政機関との連携を図った活動を展開したりしている専門部もある。

Ⅱ　主な活動

・評議員研修会及び総会（５月）
・運営員会　年４回（５月、７月、12月、３月）
・専門部長会議　年３回（６月、７月、２月）
・全体研修会・教育講演会（８月）
・教育研究会研修大会（11月）

Ⅲ　特色ある活動

1　さいたま市教育研究会研修大会

さいたま市では、市内一斉に教職員が希望する教科等について研修する「研修大会」を開催している。今年度は、22部会で実施された。参加者は、約4,400名（参加率81.4％）であった。なお、開催された研修会は、以下のとおりである。

（※参加者数は役員・会場校教職員を除いている。）

⑴　公開授業の会場数は、次のとおりである。

国語（５会場　小３・中２）　社会（６会場　小４・中２）　算数・数学（12会場　小９・中３）　理科（６会場　小３・中３）　生活（２会場　小２）　音楽（２会場　小１・中１）　図工・美術（２会場　小１・中１）　技術・家庭（２会場　中２）　英語（５会場　小２・中３）　保健体育（８会場　小４・中４）　道徳（１会場　中１）　特別活動（２会場　小１・中１）　総合的な学習の時間（１会場　小１）　情報教育　（３会場　小３）高校会場（４会場）

⑵　講演・講習会の会場数は、次のとおりである。

書写（実技研修５会場）　図工・美術（実技研修２会場）　家庭科（指導法研修１会場）　特別支援（指導法研修３会場）　学校図書館（講演１会場）　教育心理（講演１会場）　学校保健（講演１会場）　学校事務（講演１会場）　学校食育（講演１会場）

※図工・美術は、研究授業❷＋講習❷＝４会場

2　高校の授業公開

さいたま市は、市立高等学校４校が設置されている。昨年度までは、小・中学校教職員による研修大会であったが、今年度より、小・中・高の「12年間の連続性」を踏まえ、市立高校が授業を公開するとともに、高等学校教職員が小・中学校の授業参観を行い、相互理解を図れる大会へと改善を図った。次世代型授業としてタブレットを活用し、授業公開をした市立高校の影響もあり、高等学校の授業を参観した小・中学校の教職員は約150名、小・中学校の授業を参加した高等学校の教職員は約８名であった。

高等学校の授業公開による本研究会への参加は、今年度に入ってから進めた事業であり、すでに年間計画が作成されており、当日は小・中学校が研修大会、高等学校が職員会議という状況のため、高等学校の教職員が校外に出にくい状況にあった。このことについて、来年度は高等学校も小・中・特別支援学校会場に参加できるように調整するなどの改善策が打ち出されており、相互の連携・協力を深める方向に進展していくことを期待できる。

3　大学生の授業研究会への参加

さいたま市立教育研究所で将来教員を志望している大学生を対象に「さいたま市教員養成あすなろプロジェクト」「さいたま市夢講座」を開講している。この講座に登録している大学生が研修大会の研究授業を参観することができるようにした。大学生には、この機会を通して学校現場での授業の実際や教員の研修姿勢を実感することにより、教師という職業についての理解をより深め、将来、学校現場で活躍してくれることを期待している。

実際に大学生を受け入れた会場等からのアンケートでは、参加する姿勢についても高評価であり、課題はないとの回答があった。この結果から、来年度も大学生の受け入れを継続することが決まった。

4　教育長メッセージ

全体研修会・教育講演会は、夏季休業中に実施している講演会で、例年1,000人以上の教職員が参加している。今年度は、講演会前の全体研修会の一部に「教育長メッセージ」の時間を設定し、直接、教育長から本市の教職員に期待することなどを具体的な資料を基に話を伺った。参加者からは、「なかなか教育長から直接話を聞くことがないので新鮮だった…」「文章では読んでいても実際に聞いてみると言葉以上に思いが伝わってくる…」といった感想が寄せられた。

5　政令指定都市としての研究協議会等の参加

さいたま市は、政令指定都市であるため、政令指定都市や大都市を対象にした研究会にも所属し、研究発表も行っている。

このような状況を踏まえ、政令指定都市等の研究発表を行う部会については特別予算措置を行っている。

6　特色ある研究部の活動紹介

22の研究部がそれぞれ研究テーマの下、研究活動に取り組んでいます。その中で、４つの部を紹介する。

⑴　算数・数学部

冬季休業中に小学６年生を対象に算数チャレンジカップ、中学２年生を対象に数学チャレンジカップを開催している。参加児童生徒は、市内各小・中学校から推薦された者が集まり、担当教師が行う授業や課題解決を行っている。中学校のチャレンジカップでは、市立高等学校の理数科の生徒による授業も実施している。

⑵　特別活動部

夏季休業中、小学校の児童会代表を集め『小学校児童会フォーラム』を開催し、代表委員等の委員会活動を一層充実させるための話合い活動を行っている。同時に引率の教師には、話合い活動を進める工夫を学ぶ切っ掛けにしてもらうようにした。

⑶　生活科部

保幼小連携を意識し、市幼児政策課と共催で保育園等、幼稚園、小学校、行政の４者で指導者を招き、「幼児期の終わりまでに育てたい姿を踏まえた授業（保育）づくり」をテーマにそれぞれが研究を深め、よりよい教育活動（施策）を展開できるようにしている。

⑷　情報教育部

今年度で18回目を迎えるＩＣＴメディア作品コンクールを開催し、小・中・高の児童生徒の作品を募集している。今年度は、約2,500点の作品が寄せられた。本研究会では、新学習指導要領に示されていたプログラミングについても意識しており、小学校段階からのプログラミングに重点を置いている。今年度は、人工知能に近づく作品が小学生から出品された。

Ⅳ　今後の活動について

平成31年度の活動については、今年度の専門部長の反省と意見、会員からのアンケート結果を踏まえた活動方針に基づいて活動を推進していく。また、2020年度には、設立20周年を迎える。このことから、「日本一の教育都市」を目指すさいたま市の研究会として、政令指定都市に止まらず全国へ活動を発信するなど、節目にふさわしい活動の実現に向けた準備も並行して進めていく予定である。

２　草加市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、草加市立小学校21校、中学校11校の教職員で組織し、教職員相互の職務の向上と親睦を図り草加市教育の振興を期することを目的として活動している。

Ⅱ　本会の概要

１　役員
　会長１名　副会長１名　校長代表２名
　研究部会代表２名　幹事２名　監事２名
２　総会員数　1,009名
３　会計（平成30年度予算）
　会　費　1,017,000円　助成金　　0円
　負担金　　567,108円　繰越金　489,090円
４　研究部会　30部会
５　重点目標　幼保小中を一貫した教育を目指し、指導力の向上を図る

Ⅲ　本年度の活動概要

１　全体活動
⑴　総会・研究発表会（５月）草加市文化会館
⑵　教育講演会　　（１月）草加市立中央公民館
「資質・能力の育成と地域の教育資源の活用」
講師　上智大学人間開発学部教授
奈須　正裕　氏

２　各研究部の活動概要
⑴　国語科研究部
・中学校授業研究会・連絡協議会（10月）
・小学校授業研究会・連絡協議会（２月）
⑵　書写研究部
・硬筆中央展開催地区協議会（６月）
・連絡協議会・市内硬筆展審査会（６月）
・硬筆中央展（６月）
・市内書きぞめ審査会（１月）
・市内書きぞめ展（１月）
⑶　社会科研究部
・連絡協議会（４月）
・小学校授業研究会・連絡協議会（11月）
・連絡協議会（１月）
⑷　算数・数学科研究部
・中学校授業研究会（11月）
・小学校授業研究会・連絡協議会（１月）
⑸　理科研究部
・連絡協議会（６月）
・連絡協議会・実技講習会（９月）
・小学校授業研究会・連絡協議会（10月）
⑹　生活科研究部
・連絡協議会（11月）
・連絡協議会（２月）
⑺　総合的な学習の時間研究部
・連絡協議会（11月）
⑻　外国語活動研究部
・連絡協議会（11月）
⑼　音楽科研究部
・小・中学校音楽祭打合会（４月）
・小学校授業研究会・連絡協議会（７月）
・小・中学校音楽祭打合会（10月）
・小・中学校音楽祭（11月）
・県小・中学校音楽会南部南地区大会（11月）
・県小・中学校音楽会中央大会（11月）
・中学校授業研究会・連絡協議会（２月）
⑽　図工・美術科研究部
・小学校授業研究会・連絡協議会（11月）
・市内児童生徒美術展（２月）
⑾　保健体育科研究部
・連絡協議会（４月）
・連絡協議会（５月）
・連絡協議会（８月）
・連絡協議会（９月）
・中学校授業研究会（10月）
・小学校授業研究会（11月）
・中学校授業研究会（11月）
・中学校授業研究会（11月）
・小学校授業研究会（11月）
・連絡協議会（１月）
・連絡協議会（２月）
⑿　技術・家庭科研究部
・実技研修会・連絡協議会（８月）
・発明創意くふう展審査会・連絡協議会（９月）
・中学校授業研究会・連絡協議会（２月）
⒀　家庭科研究部
・小学校授業研究会（６月）
・実技研修会（７月）
・連絡協議会（９月）

・連絡協議会（２月）

⑭　英語科研究部
・連絡協議会（７月）
・連絡協議会（９月）
・英語弁論大会（10月）
・中学校授業研究会（11月）
・連絡協議会（２月）

⑮　道徳研究部
・小学校授業研究会（11月）
・連絡協議会（２月）

⑯　特活研究部
・小学校授業研究会（11月）
・連絡協議会（２月）

⑰　情報・視聴覚研究部
・ICT 研修会（11月）
・連絡協議会（２月）

⑱　学校図書館教育研究部
・連絡協議会（６月）
・読書感想文市内審査会（９月）
・小学校授業研究会（11月）
・連絡協議会（２月）

⑲　養護教諭研究部
・連絡協議会（６月）
・連絡協議会（７月）
・連絡協議会（９月）
・連絡協議会（10月）
・連絡協議会（12月）
・連絡協議会（１月）
・連絡協議会（２月）
・連絡協議会（３月）

⑳　教育心理・教育相談研究部
・連絡協議会（２月）

㉑　給食研究部
・小学校授業研究会（10月）
・学校給食展（２月）
・連絡協議会（２月）

㉒　教育課程研究部
・連絡協議会（11月）
・連絡協議会（２月）

㉓　進路指導研究部
・連絡協議会（７月）
・中学校授業研究会（９月）
・連絡協議会（２月）

㉔　安全教育研究部
・連絡協議会（７月）
・講演会・連絡協議会（10月）
・連絡協議会（２月）

㉕　特別支援教育研究部
・小学校水泳実技研修会（６月）
・中学校学習交流会（７月）
・県特別支援教育研究大会（８月）
・小学校授業研究会（10月）
・中学校授業研究会（12月）
・合同発表会・卒業生を送る会（２月）

㉖人権教育研究部
・小学校授業研究会（11月）

㉗　学校事務研究部
・連絡協議会（５月）
・連絡協議会（６月）
・連絡協議会（７月）
・連絡協議会（９月）
・連絡協議会（10月）
・連絡協議会（11月）
・連絡協議会（12月）
・連絡協議会（１月）
・連絡協議会（２月）
・研究発表会・連絡協議会（３月）

㉘　保健主事研究部
・連絡協議会（６月）
・夏期研修会（８月）
・連絡協議会（１月）

㉙　学校栄養士研究部
・連絡協議会（５月）
・連絡協議会（６月）
・連絡協議会（７月）
・連絡協議会（８月）
・連絡協議会（９月）
・連絡協議会（10月）
・連絡協議会（11月）
・連絡協議会（12月）
・連絡協議会（１月）
・連絡協議会（２月）
・連絡協議会（３月）

㉚　生徒指導研究部
・連絡協議会（６月）
・臨時連絡協議会（10月）
・連絡協議会（11月）
・連絡協議会（２月）

Ⅳ　おわりに

教職員の指導力を向上させ、「生きる力を共に教え育てる草加の教育」を実現するため、本会は今後も活動を一層充実させていく。

３　新座市教育連合会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、新座市立小・中学校23校の教職員で組織され、24の研究部会で活動している。

Ⅱ　活動概要

各研究部では、教職員の資質・指導力の向上や教育課題を解決することを目的に、授業研究、学校における教育実践の情報交換、実技研修等の事業を実施している。また、市内全教職員を対象とした講演会を年１回実施している。

Ⅲ　主な事業

1　各研究部の活動

⑴　国語研究部

①　研修テーマ

指導力の向上を目指して　～言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり～

②　活動内容　　・授業研究会

⑵　書写研究部

①　研修テーマ

指導力の向上を目指して　～実技指導と作品の評価の工夫改善～

②　活動内容

・実技研修会・硬筆展、書きぞめ展の審査会

⑶　社会科研究部

①　研修テーマ

基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得とそれらを活用して考える授業展開の工夫改善

～理解していること・できることをどう使うか～

②　活動内容　　・授業研究

⑷　算数・数学研究部

①　研修テーマ

思考力・判断力・表現力を身に付ける授業の創造　～数学的活動をとおして～

②　活動内容　　・授業研究

⑸　理科研究部

①　研修テーマ

科学的に探求する能力をはぐくむ理科教育の推進　～主体的・対話的で深い学びのための指導方法の工夫～

②　活動内容　　・授業研究

⑹　生活科研究部

①　研修テーマ

児童の思いや願いを生かし、主体的・対話的で深い学びの授業の展開

②　活動内容　　・授業研究

⑺　音楽研究部

①　研修テーマ

音楽好きな子どもを育てよう　～主体的・対話的な音楽活動の工夫～

②　活動内容

・新座市小中学校音楽会　・授業研究

⑻　図画工作・美術科研究部

①　研修テーマ

児童生徒一人一人が進んで活動し、それぞれのよさや可能性をのばす表現活動・鑑賞の研究～より豊かな授業の創造と深い学びの探求～

②　活動内容　　・実技研修　・授業研究

⑼　保健体育研究部

①　研修テーマ

児童生徒一人一人を確実に伸ばす保健体育指導の実践

②　活動内容

・授業研究　・テーマに基づく研究協議

⑽　技術・家庭科研究部

①　研修テーマ

小学校：豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育　～身に付けた知識及び技術を活用して生活を工夫する児童の育成～

中学校：未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する学習の研究～新学習指導要領を意識した題材計画の検討～

②　活動内容　　・授業研究

⑾　英語研究部

①　研修テーマ

・主体的、対話的で深い学びをとおし、コミュニケーション能力を育成する授業を創造する。

・ティームティーチングを効果的に進め、指導と評価の工夫改善を図る。

②　活動内容

・英語弁論暗唱大会　・授業研究

⑿　道徳科研究部

①　研修テーマ

物事を多面的・多角的に考え、道徳的諸価値の理解及び生き方についての考えを深める道徳の時間の工夫

② 活動内容　・授業研究

⒀ 特別活動研究部

① 研修テーマ

様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、集団や自己の課題を解決することをとおして、資質・能力を育成する指導の在り方

② 活動内容　・授業研究

⒁ 総合的な学習の時間研究部

① 研修テーマ

小中７年間を見通した、学校の創意工夫を生かす探求活動の展開

② 活動内容　・授業研究

⒂ 英会話研究部

① 研修テーマ

・見通しと振り返りを意識し、コミュニケーション能力の素地を育成する授業を創造する

・担任をT1とする単独授業及びティームティーチングを進め指導と評価の工夫改善を図る

② 活動内容　・授業研究

⒃ 生徒指導研究部

① 研修テーマ

社会的に自立する児童生徒の育成を目指して

～小・中学校の連携を推進し、９年間を見通した指導を実践する～

② 活動内容

・小中学校連携推進事業

・生徒指導に関する情報交換

⒄ 学校教育相談研究部

① 研修テーマ

心豊かな児童生徒の育成を目指して～配慮を要する児童生徒の理解と、深い信頼関係に基づく指導、援助の在り方～

② 活動内容

・情報交換および研究協議

⒅ 進路指導研究部

① 研修テーマ

自らの生き方を考え、主体的に進路を選択できる進路指導の充実とキャリア教育の推進

② 活動内容

・保護者対象の進路合同説明会

・中学校区におけるふれあい講演会

⒆ 学校人権教育研究部

① 研修テーマ

人権に関する正しい理解を深め、人権感覚を身に付け、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒の育成を目指して

② 活動内容　・授業研究

⒇ 特別支援教育研究部

① 研修テーマ

児童生徒が主体的・自発的に活動する力を育成する

② 活動内容

・中学校特別支援学級の合同宿泊学習

・小学校特別支援学級の合同学習発表会

・授業研究

・小中学校特別支援学級合同作品展

㉑ 学校図書館研究部

① 研修テーマ

魅力ある学校図書館づくりに向けて　～学習センターとしての機能を授業に生かす～

② 活動内容　・授業研究

㉒ 栄養教諭・学校栄養職員研究部

① 研修テーマ

・食は命を守る　食は命をはぐくむ

② 活動内容　・講義　・実技研修

㉓ 養護教員研究部

① 研修テーマ

保健室の均てん化を目指して

② 活動内容　・講演　・実技研修

㉔ 学校事務職員研究部

① 研修テーマ

新しい時代に対応した学校事務の在り方

② 活動内容　・実務研修　・講演

２　教職員全体研修会

⑴ 日時：平成30年８月29日㈬

⑵ 場所：新座市民会館大ホール

⑶ 講師：文部科学省高等教育局専門教育課

専門官　大根田　頼尚　氏

⑷ 演題：「埼玉県の教育に期待する」

⑸ 内容

講師が平成27年から３年間、埼玉県教育委員会に出向している際に普及・改善を主導した「埼玉県学力・学習状況調査」に関して、実施の目的や結果の分析・活用について説明があった。また県及び国の「学力学習状況調査」の結果をどのように活用し、新しい学習指導要領等の理念を実現するための方策を考えていけばよいかについても具体的に話された。

４　伊奈町教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、伊奈町立小学校４校、中学校３校、埼玉県立伊奈学園中学校、私立国際学院中学校に在籍する教職員を会員として組織されている教育研究会である。本会では、会員の主体的研究によって、教育全般の振興を図るとともに、会員相互の理解を深め、資質の向上をめざし、伊奈町生涯学習社会の構築、教育・文化の向上発展に貢献することを目的としている。

上記の目的を達成するために、以下の事業を行う。

・教育課程および指導法の研修
・各教科領域の研修・研究・調査
・研究発表会・講演会・展覧会・音楽会・講習会等
・その他目的達成に必要な事業

Ⅱ　基本理念

「人は　人によりて　人となる
～教師がしっかり教え、子供はきちんと学ぶ～」

Ⅲ　本会の組織

１　役員

・会長１名　・副会長２名　・参与１名　・監事２名
・評議員18名　・幹事２名

２　組織

・本会に教科等研究部をおき、会員はいずれかの研究部に所属するものとする。
・各研究部は、小・中学校各教科領域等の主任及び部員、並びに希望する会員をもって構成する。
・小・中学校の校長および教頭は、研究部の顧問として指導・助言に当たる。

３　研究部

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷算数・数学　⑸理科　⑹生活・総合的な学習の時間　⑺音楽　⑻図工・美術　⑼技術家庭　⑽保健体育　⑾英語　⑿道徳　⒀特別活動　⒁学校保健養護教諭・保健主事　⒂学校事務　⒃視聴覚　⒄特別支援教育　⒅図書館　⒆給食　⒇教育相談

Ⅳ　主な事業

⑴　国語科研究部

「伝え合う力を高める授業の工夫」

・授業研究会

⑵　書写研究部

「学習意欲を高める効果的な書写指導」

・硬筆実技講習会・書写主任会（地区展打合せ）
・伊奈地区硬筆展準備（搬入・審査・展示）
・伊奈地区硬筆展（受付）
・主任会（地区展搬出・反省会・県展搬入準備）
・県展(搬入・審査、搬出)
・書きぞめ実技講習会・主任会（地区展打合せ）
・伊奈地区書きぞめ展準備（搬入・審査・展示）
・伊奈地区書きぞめ展（受付）
・主任会
・県展（搬入・審査、搬出）

⑶　社会科研究部

「生きる力をはぐくむ指導の工夫」

・授業研究会

⑷　算数・数学科研究部

「個に応じた指導を充実させ、児童生徒の数学的な思考力・表現力を高める指導の工夫」

・授業研究会

⑸　理科研究部

「児童生徒の思考力・表現力を高める理科教育」

・科学教育振興展覧会
・授業研究会、反省会

⑹　生活・総合的な学習の時間研究部

「児童生徒の思いやりや願いを大切にして、自ら学ぶ力をはぐくむ学習活動の展開」

・授業研究会、研究授業

⑺　音楽科研究部

「児童生徒が主体的に活動する授業展開の工夫」

・伊奈町小・中学校音楽会
・南部・北部地区音楽会（小針北小・小針中参加）
・授業研究会

⑻　図工・美術科研究部

「一人一人のよさを生かす表現や鑑賞ができるような指導計画の作成とその授業実践」

・身体障害者福祉のための児童生徒美術展（出品・審査）
・郷土を描く児童生徒美術展（出品・審査）
・埼玉県小中学校児童生徒美術展（出品・審査）
・授業研究会

⑼　技術・家庭科研究部
「新しい時代を切り拓く豊かな心と実践力を育てる技術・家庭科教育」
・授業研究会
⑽　保健体育科研究部
「運動の知識・技能を高める体育授業
～分かった・できたを実感させる～」
・授業研究会
⑾　英語科研究部
「コミュニケーション能力をはぐくむ授業の工夫」
・桶川・伊奈中学校英語弁論暗唱大会代表者会議
・桶川・伊奈中学校英語弁論暗唱大会
・授業研究会
⑿　道徳研究部
「児童生徒が道徳的価値の自覚を深める指導法の工夫・評価」
・授業研究会
・研究協議
⒀　特別活動研究部
「望ましい集団生活を通して、児童生徒一人一人の個性の伸長を図り、自主的実践的な態度の育成を重視した指導方法の工夫」
・授業研究会・研究協議
⒁　学校保健
養護教諭研究部
「養護教諭の疑問を生かしたよりよい保健室経営を目指して」
・研究の推進（健康診断の反省）（就学時健診の反省）
・次年度の研究
保健主事研究部
「生きる力を育む健康教育の実践」
・研究のまとめ
⒂　学校事務研究部
「学校の課題解決を目指す実践の研究」
・事例検証
・実務研修
・人事異動について
・一年間の反省
⒃　視聴覚研究部
「視聴覚機器の効果的な活用の研究
～コンピュータの電子機器の効果的な活用～」
⒄　特別支援教育研究部
「特別支援教育の充実を目指して～交流教育の工夫～」
・伊奈町特別支援学級交流会（７校交流会）
・実践研究会
・町文化祭合同作品展
・伊奈町特別支援学級交流会
・伊奈町小学校４校合同校外学習
⒅　図書館研究部
「児童生徒の読書活動を推進する指導法の研究」
・部会（読書感想文審査）
・文集製本
・賞状配付
⒆　給食研究部
「豊かで望ましい食習慣を好ましい人間関係を育てる給食指導、食育」
・研究授業
⒇　教育相談研究部
「豊かな心を育てる学校教育相談活動推進を目指して」
・県教育心理・教育相談研究会
・第１回理事研究協議会　参加
・夏季カウンセリング研修会参加
・理事研究協議会　参加

Ⅴ　おわりに

今年度も、各研究部の部長が中心となり、事業計画を立案し、滞りなく活動を推進することができた。

来年度も、新学習指導要領の全面実施に向けての教育活動が展開されるよう、本研究会が推進役となって学校間相互の連携、会員の資質向上に努めるとともに、業務改善を鑑みながら、本町の教育の充実に寄与していきたい。

５　飯能市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、飯能市立小・中学校22校の教職員で組織し、26の研究部をもって活動している。

Ⅱ　活動概要

各部会は、研修会や授業研究会、講演会をとおして、指導力の向上を目指している。

1　本部の活動

⑴　理事会（４月・５月・９月・11月・２月）

⑵　総会・教育講演会（５月）

演題「教育のユニバーサルデザイン」～子どもたち全員を大事にする学校づくり～

講師　星槎大学大学院教育実践研究科
准教授　阿部　利彦　氏

⑶　評議員会（４月・３月）

⑷　部長会（４月・１月）

⑸　教科・教科外合同主任研修会（４月）

⑹　合同研究発表会（10月）

・飯能第二小学校
研究主題「目を輝かせて進んで運動に取り組む児童の育成」

・美杉台小学校
研究主題「よりよく伸びようとする児童の育成」

・名栗小学校
研究主題「主体的に学び、共に高め合う児童の育成」

・吾野中学校
研究主題「学びに向かう力を持つ生徒の育成」

2　各研究部の活動

⑴　国語

・主任研修会（２月）
・授業研究会（６月・11月）
授業者　藤岡　規恵　教諭（美杉台中）
授業者　中村　健吾　教諭（原市場中）

⑵　書写

・主任研修会（５月・６月・11月・１月）
・市内硬筆展搬入・審査・搬出（６月）
市民活動センター
・実技講習会（11月）
指導者　元聖望学園中学高等学校
教諭　平山　範明　先生
・市内書きぞめ展搬入・審査・搬出（１月）
飯能第一小学校

⑶　社会

・授業研究会（10月）
授業者　馬場　梢吾　教諭（美杉台中）
指導者　元全国中学校社会科教育研究会
会長　赤坂　寅夫　先生
・小中学校児童生徒社会科研究展（９月）
飯能市立博物館

⑷　算数・数学

・授業研究会（12月）
授業者　大澤　章孝　教諭（飯能一中）
指導者　飯能市教育委員会
指導主事　内野　正勝　先生
・飯能・日高・入間市三市合同研修会（１月）
入間市立藤沢南小学校

⑸　理科

・主任研修会（７月）
・飯能市科学展搬入・審査・搬出（８月）
加治小学校

⑹　生活

・主任研修会（10月）

⑺　音楽

・主任研修会（９月・11月・１月）
・指導者講習会（10月）
指導者　音楽の授業をつくる会
代表　粟飯原　喜男　先生
・飯能市仲よし音楽会（11月）
飯能市市民会館
指導者　日高市立高根小学校
校長　吉原　敦子　先生

⑻　図工・美術

・主任研修会（12月）
・郷土を描く美術展（10月）
・身障者福祉のための美術展（７月）
・飯能児童生徒美術展搬入・審査・搬出（１月）
市民活動センター

⑼　家庭

・主任研修会（７月・８月・10月）
発明創意くふう展入間地区展出品のための作品審査

⑽　技術家庭

・主任研修会（９月）

・発明創意くふう展　飯能第一中学校（９月）

⑾　保健体育

・主任研修会（６月）

・実技講習会（10月）

指導者　駿河台大学　　松尾　勝博　先生

⑿　英語

・主任研修会（６月・12月）

・授業研究会（12月）

授業者　杤木　弘文　教諭（原市場中）

指導者　飯能市教育委員会

指導主事　　佐野　芳美　先生

・飯能日高英語弁論大会（10月）

聖望学園中学校

・指導力向上研修会（８月）

⒀　道徳

・授業研究会（９月・10月）

授業者　原田　亜希子　教諭（西川小）

指導者　精明小学校

校長　　小野　加津美　先生

授業者　森　生郎　教諭（飯能西中）

指導者　原市場中学校

校長　　渡部　毅　先生

⒁　特別活動

・主任研修会（２月）

・生徒会交流会（８月）　　飯能西中学校

⒂　教育相談

・県教育心理教育相談研究会西部地区「夏季研修会」（７月）　　フレサよしみ

・学校教育相談講座（６月・10月・１月）

講　師　飯能市教育センター

スーパーバイザー　美和　健太郎　先生

⒃　学校保健

・主任研修会（８月・12月・２月）

・指導者講習会（８月）

「飯能市の郷土料理について」

指導者　　武末　亮一　先生

⒄　学校図書館

・主任研修会（８月・10月・２月）

・指導者講習会（８月）

指導者　飯能市立図書館　　岸　広至　先生

・読書感想文コンクール審査　市立図書館

⒅　視聴覚・情報教育

・主任研修会（８月・２月）

・情報教育成果発表会（２月）

富士見地区行政センター

⒆　生徒指導

・主任研修会（２月）

・飯能まつりパトロール（７月・11月）

⒇　学校食育

・主任研修会（７月・２月）

(21)　安全教育

・主任研修会（２月）

(22)　学校事務

・主任研修会（５月）

・指導者講習会（12月）

指導者　西部教育事務所総務給与担当課長

(23)　人権教育

・授業研究会（10月）

授業者　髙橋　康平　教諭（加治中）

指導者　大川学園高等学校

教頭　　岡部　一宏　先生

(24)　進路指導

・主任研修会（７月）

・飯能市高等学校説明会（７月）　市民会館

・25地区進路指導・キャリア教育研究協議会

公開授業　名栗中学校（12月）

指導者　飯能市教育センター

副所長　　小久保　静治　先生

(25)　学校栄養

・主任研修会（２月）

・指導者講習会（６月・10月）

精明地区行政センター

双柳地区行政センター

(26)　特別支援教育

・主任研修会（８月・２月）

児童生徒の将来の就労支援に関する講演会

講師　就労支援事業所「はつらつ作業所」

高橋　堅助　氏

・県特別支援教育課市町村教委訪問公開授業

加治東小学校

・手作り作品展（２月）　　市民活動センター

・学習発表会（２月）　　富士見地区行政センター

・入間特研授業研究会（１月）

授業者　八木　大介　教諭（原市場中）

指導者　川越市立特別支援学校

校長　　阿部　和彦　先生

Ⅲ　終わりに

本年度も、各研究部で授業研究会や指導者講習会、講演会等を開き、充実した研究を実施することができた。また、新学習指導要領の実施に向けて、一部の研究部で組織を変える取組を行った。

さらに、来年度は小学校が統廃合し中学校との施設隣接型小中一貫校になる対応を行った。

６　日高市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、日高市立小中学校12校に在籍する教職員を会員として組織されている教育研究会である。平成30年度の本研究会テーマ「しなやかに　たくましく　未来を拓く日高っ子の育成を目指して」のもと、研修会や授業研究会を行っている。

Ⅱ　本会の組織

１　役員

会長１名　副会長３名　常任理事２名
理事若干名　会計１名　評議員各校１名
研究部長（各研究部長１名）　監事３名

２　研究部

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷算数・数学
⑸理科　⑹生活科・総合　⑺音楽
⑻図工・美術　⑼家庭　⑽技術・家庭
⑾体育　⑿英語　⒀道徳　⒁特別活動
⒂特別支援教育　⒃教育相談
⒄学校保健　⒅学校図書館
⒆視聴覚・情報教育　⒇生徒指導
(21)学校食育　(22)安全教育　(23)事務
(24)人権教育　(25)進路指導　(26)学校運営　(27)学校経営

Ⅲ　主な事業

１　本部関係

・主任部員研修会（４月）
・理事会（４月・５月・10月・１月・３月）
・定期総会（５月）
・評議員会（４月・２月）
・研究発表会（11月）
・会報の発行（年２回）

２　各研究部の活動

⑴　国語

「国語を適切に表現し理解する能力を育成する伝え合う力を高める授業の工夫、思考力や創造力を養い、言語感覚を豊かにする授業を創造する。」

・授業研究会（11月）

⑵　書写

「児童生徒が生き生きと取り組む書写指導の工夫」

・主任部員研修会（５月）
・硬筆展審査（６月）
・実技講習会（11月）
・書きぞめ展審査（１月）

⑶　社会

「基礎的・基本的な知識、概念や技能の確実な定着と、それらを活用して考え、説明したりする授業展開の工夫」

・授業研究会（２月）

⑷　算数・数学

「主体的・対話的で深い学びの確立を目指して」

・授業研究会（11月）

⑸　理科

「一人一人の児童生徒が目的意識をもち、自然を主体的に探究する活動を行う授業の展開」

・主任研修会（６月・９月）
・授業研究会
・科学展（９月）

⑹　生活科・総合

「児童生徒の思いや願いを生かし、気付き伝え合い、交流する授業展開の工夫」

「体験活動を適切に位置付けた横断的・総合的な学習の計画や探究的な学習を生かした授業展開の工夫」

・主任部員研修会（８月）
・授業研究会

⑺　音楽

「表現する喜びを心から味わい、音楽とかかわる子どもの育成」

・主任研修会（７月・10月・１月）
・授業研究会（10月）
・なかよし音楽会（10月）

⑻　図工・美術

「一人一人の思いを大切にし、つくる喜びを体感できる造形活動の充実」

・主任研修会（６月・１月）
・美術展（１月）

⑼　家庭

「児童のよさや可能性を生かす学習指導と評価の工夫」

・主任研修会（８月９月）
・授業研究会
・発明創意くふう展（10月）

⑽　技術・家庭

「分かって（知識・理解）できて（技能）持ち帰る

（創造）授業の実践」
・主任研修会（９月）
・指導者講習会（７月）

⑾　体育
「児童生徒一人一人を伸ばす学習指導の工夫～小中連携を通して～」
・主任研修会（５月・11月・１月）
・授業研究会（11月）
・なかよし運動会（10月）

⑿　英語
「学習指導計画を明確にし、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図る授業の創造」
・主任研修会（６月・７月）
・授業研究会（11月）

⒀　道徳
「教科化に向けた授業の改善工夫」
・授業研究会（10月）
・教科化に向けた研修会

⒁　特別活動
「よりよい人間関係を築く学級活動の推進」
・主任研修会（７月・11月）
・授業研究会（11月）

⒂　特別支援教育
「生きる力を育て、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導、支援の在り方を求めて（インクルーシブ教育システムの構築を目指して）」
・主任研修会（５月・６月・８月・１月・３月）
・授業研究会（11月）
・主任部員研修会（７月）
・視察見学（８月）
・小学校合同遠足（６月）
・中学校合同遠足（６月）
・中学校校外学習（10月）
・小学校合同交流会（11月）
・小中合同学習発表会（２月）

⒃　教育相談
「特別な配慮を要する児童生徒への支援（対応）について」
・主任研修会（２月）
・指導者講習会

⒄　学校保健
「健康に関する今日的課題への取組」
・主任部員研修会（11月・２月）
・視察見学（８月）

⒅　学校図書館
「豊かな心と確かな学びを育む学校図書館の創造」
・主任研修会（６月・９月）

⒆　視聴覚・情報教育
「自ら学び主体的に活動する力を育む教育メディアの活用をめざして」
・主任研修会（７月）
・授業研究会

⒇　生徒指導
「社会総がかりでの生徒指導の推進・生徒指導の力量の向上」
・主任研修会（５月・６月・11月・２月）

(21)　学校食育
「様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する習得をめざす」
・主任研修会（６月・11月・２月）

(22)　安全教育
「情報交換を通して安全教育の充実と推進」
・主任研修会（２月）
・授業研究会（11月）

(23)　事務
「学校事務の共同実施内容の検討」
・主任研修会（６月・12月・２月）
・指導者講習会（８月）

(24)　人権教育
「人権問題を正しく理解するために必要なものの見方や考え方、人権を尊重する豊かな心を育成し、様々な人権問題に気付き、それを解決していこうとする日高っ子の育成を図る」
・主任研修会（５月）
・授業研究会（11月）

(25)　進路指導
「自分の適性を見つめ、人生を豊かにしていくためのキャリア教育の推進」
・主任研修会（８月）

7　越生班教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、越生町及び毛呂山町の小・中学校９校の教職員で組織する29の教科・領域等部会をもって組織する。

Ⅱ　活動概要

各部会は、主任研修会や授業研究会を通して、教職員の指導力向上を目指している。

⑴　国語

<国語指導におけるアクティブ・ラーニング>

①　入間地区国語科学力調査報告会（８月）

②　主任研修会（２月）

⑵　書写

<整字意識を高める指導法の研究>

①　班硬筆審査会・主任研修会（６月）

②　主任研修会・班硬筆巡回展準備（６月）

③　班書きぞめ審査会・主任研修会（１月）

⑶　社会

<児童生徒が主体的に取り組む授業展開を工夫するには>

①　主任研修会（６月）

⑷　算数・数学

<児童生徒の実態に即した適切な指導評価計画を作成し児童生徒一人一人を伸ばす授業の工夫>

①　入間地区算数科学力調査報告会（８月）

⑸　理科

<児童生徒の実態に即した適切な指導評価計画を作成し児童生徒一人一人を伸ばす授業>

①　主任研修会・班理科展準備会（６月）

②　班理科展準備・主任研修会（９月）

③　授業研究会（11月）

授業者　川角小学校　　大谷　智昭　教諭

指導者　越生町教育委員会

指導主事　　関口　学　氏

⑹　生活・総合的な学習

<地域の特性と子供の思い願いを生かした授業展開の工夫>

①　主任研修会（２月）

⑺　音楽

<音楽性を培い豊かな感性を高め、思考判断し表現する>

①　主任研修会（８月）

②　実技研修会・主任研修会（９月）

授業者　光山小学校　　田爪　麻里子　教諭

指導者　日高市立高根小学校長

吉原　敦子　氏

③　主任研修会・班音楽会準備（11月）

④　班音楽会・主任研修会（11月）

指導者　元坂戸市教育センター所長

宇佐美　美巳子　氏

⑤　主任研修会（２月）

⑻　図工・美術

<一人一人のよさや可能性を十分に生かし、作り出す喜びを味わわせ豊かな情操を養う>

①　主任研修会（11月）

②　班美術展審査・主任研修会（１月）

⑼　小学校体育

<各指導内容をバランスよく指導・評価し運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫>

①　授業研究会・主任研修会（11月）

授業者　越生小学校　　原　健史　教諭

指導者　坂戸市立片柳小学校長

大川　泰弘　氏

⑽　中学校体育

<生徒一人一人に応じた指導内容の工夫>

①　授業研究会・主任研修会（１月）

授業者　川角中学校　　森谷　賢一　教諭

降旗　晴子　教諭

指導者　川角小学校　教頭　小熊　三矢子　氏

⑾　小学校家庭

<未来を創り出す豊かな心と確かな実践力を育む家庭科教育>

①　主任研修会（７月）

②　班発明創意くふう展審査・主任研修会（９月）

⑿　中学校技術・家庭

<生活や技術の見方・考え方を働かせ、工夫し創造する力を育成する学習指導の工夫>

①　主任研修会（８月）

⒀　小学校外国語活動

<外国語活動完全実施に向けた計画・準備>

①　授業研究会（２月）

授業者　川角小学校　　吉川　大胤　教諭

指導者　鶴ヶ島市教育センター所長

峯岸　博美　氏

⑭　中学校英語

<四技能バランスのとれた指導と評価の工夫>

①　主任研修会（８月）

②　鶴ヶ島・越生班合同弁論大会（９月）

指導者　鶴ヶ島市教育センター所長

峯岸　博美　氏

③　授業研究会・主任研修会（11月）

授業者　毛呂山町立毛呂山中学校

吉橋　あゆみ　教諭

⑮　道徳

<教科化を踏まえて、道徳的な実践力を高めるための授業の工夫改善>

①　主任研修会（５月）

②　入間地区夏季研修会（８月）

⑯　視聴覚

<授業に生かすプログラミング教育>

①　主任研修会（２月）

⑰　図書館

<図書館利用の活性化を目指して>

①　班読書感想文審査会・主任研修会（９月）

②　読書感想文作成・主任研修会（２月）

⑱　特別支援教育

<一人一人の特別なニーズに応じた適切な就学支援の充実>

①　主任研修会（６月）

②　主任研修会（８月）

③　主任研修会（９月）

④　班合同遠足（10月）埼玉県こども自然動物公園

⑲　特別活動

<様々な集団活動に自主的実践的に取り組み集団や自己の課題を解決することを通して資質能力を育成する>

①　主任研修会（４月）

②　入間地区夏季研修会（７月）

⑳　進路指導・キャリア教育

<キャリア教育に関する小中連携について>

①　主任研修会（５月）

②　主任研修会（６月）

③　三校合同学校説明会・主任研修会（７月）

㉑　生徒指導

<積極的な行動連携に基づく生徒指導体制の充実>

①　主任研修会（６月）

②　主任研修会（１月）

㉒　保健

<成長曲線・肥満曲線の活用～地域医療機関との連携～>

①　講演会・主任研修会（７月）

講師　埼玉医科大学小児科教授　菊池　透　氏

②　主任研修会（11月）

③　主任研修会（２月）

㉓　事務研究

<事務の能率化について>

①　主任研修会（６月）

②　事例研修会・主任研修会（８月）

指導者　西部教育事務所　総務・給与担当

萩原　三奈　氏　山﨑　理咲子　氏

③　主任研修会（12月）

④　主任研修会（３月）

㉔　食育

<望ましい食習慣の形成と食事内容の充実を図る>

①　主任研修会（８月）

㉕　人権教育

<人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒の育成>

①　授業研究会・主任研修会

授業者　越生小学校　　小林　さおり　教諭

指導者　狭山市立堀兼小学校長

千装　雅志　氏

㉖　安全教育

<安全意識を高め、自ら判断し、主体的な行動がとれる児童生徒の育成>

①　スクールガード講習・主任研修会（８月）

㉗　教務

<新学習指導要領実施に向けた創意のある教育課程の編成と実施>

①　主任研修会（２月）

㉘　保健主事

<学校保健推進を図るための組織的な活動の充実>

②　主任研修会（２月）

㉙　教育心理・教育相談

<日常の教育活動に計画的に教育相談を取り入れる>

①　主任研修会（８月）

②　主任研修会（２月）

Ⅲ　おわりに

今後も本教育研究会は、越生町・毛呂山町の連携を図りながら、会員一人一人の指導力の向上を目指すとともに、子供たちのための教育研究を推進していきたい。

8　玉川班教育研究会

Ⅰ　はじめに

本教育研究会は、埼玉県比企郡玉川班教育研究会と称し、事務局を会長在任校におく。

本会は、教育の振興と会員の資質の向上に努め、併せて相互の親睦を図ることを目的とする。

この目的を達成するため、次の事業を行う。

1　教育に関する研究調査
2　研究会、講演会、研究発表会、展覧会、体育大会、音楽会等の開催
3　会員の学術文化に関する研究助成
4　その他本会の目的を達成するために必要な事業

Ⅱ　本教育研究会の組織

1　組織

本会は、ときがわ町、鳩山町の小中学校の教職員を会員として組織する。

次の研究部をおく。

⑴主幹･教務　⑵学校事務　⑶国語　⑷書写　⑸社会　⑹算数･数学　⑺理科　⑻生活　⑼音楽　⑽図工･美術　⑾保健体育　⑿英語　⒀道徳　⒁特別活動　⒂教育心理･教育相談　⒃特別支援教育　⒄保健主事　⒅養護　⒆視聴覚･情報教育　⒇技術・家庭　(21)家庭　(22)図書　(23)学校食育　(24)安全教育　(25)人権教育　(26)進路指導･キャリア教育　(27)生徒指導　(28)環境教育　(29)国際理解教育･外国語活動　(30)総合的な学習の時間　(31)校長　(32)教頭

2　役員

会長１名、副会長２名、理事若干名、監事３名、幹事若干名

3　会議

本会の会議は、総会及び全員協議会並びに理事会、各研究部会とする。

Ⅲ　本年度の主な事業

1　本部の活動

・教科等主任研修会　４月11日㈬
・新旧理事会　５月８日㈫
・第１回理事会　７月12日㈭
・講演会（全員研修会）　８月24日㈮

演題

「段階的な性教育で子どもたちの生きる力をはぐくむ」～包括的性教育とは～

講師　埼玉医科大学社会医学助教　高橋　幸子　氏

・第２回理事研修会　１月10日㈭
・第３回理事研修会　３月５日㈫

2　各教科等研究部の活動

⑴　主幹･教務

・研究協議会　12月12日㈬

⑵　学校事務

・研修・研究協議会　８月30日㈭
　１月16日㈬

⑶　国語

・研究協議会　１月31日㈭

⑷　書写

・研究協議会　５月29日㈫・10月30日㈫
・比企地区硬筆展審査会及び研修会
・比企地区書きぞめ展作品搬入審査搬出

⑸　社会

・講演会・研究協議会　２月14日㈭

⑹　算数・数学

・授業研究会　10月24日㈬

⑺　理科

・研究協議会　９月11日㈫
・児童生徒理科研究発表会　12月４日㈫

⑻　生活

・研究協議会　11月16日㈮

⑼　音楽

・研究協議会　９月７日㈮・10月24日㈬
　10月25日㈭・１月29日㈫
・玉川班音楽祭　10月25日㈭

⑽　図工・美術

・研究協議会　12月11日㈫

⑾　保健体育

・研究協議会　６月８日㈮・２月20日㈬

⑿　英語
・研究協議会　２月14日㈭
⒀　道徳
・研究協議会　２月13日㈬
⒁　特別活動
・授業研究会　２月13日㈬
⒂　教育心理・教育相談
・研究協議会　11月29日㈭
⒃　特別支援教育
・研究協議会　９月28日㈮・２月15日㈮
・交流遠足　11月１日㈭
⒄　保健主事
・研究協議会　12月４日㈫
⒅　養護
・研究協議会　７月10日㈫・２月12日㈫
⒆　視聴覚・情報教育
・研究協議会　２月22日㈮
⒇　技術・家庭
・研究協議会　２月22日㈮
(21)　家庭
・研究協議会　２月１日㈮
(22)　学校図書館教育
・読感想文審査会　10月２日㈫
(23)　学校食育
・研究協議会　２月12日㈫
(24)　安全教育
・研究協議会　２月15日㈮
(25)　人権教育
・授業研究会　10月４日㈭
(26)　進路指導・キャリア教育
・研究協議会　２月８日㈮
(27)　生徒指導
・研究協議会　２月５日㈫
(28)　環境教育
・研究協議会　２月５日㈫
(29)　国際理解教育・外国語活動
・研究協議会　１月25日㈮
(30)　総合的な学習の時間
・研究協議会　２月８日㈮

Ⅳ　成果と課題

各研究部で、児童生徒による研究発表会や音楽会、体育大会及び展覧会、また、授業研究会や外部指導者を招いての研修、研修映像の視聴等、工夫された活動をすることができた。

外部指導者を招いての研修では、担当主任だけでなく、各学校でその研修に興味がある教員も参加できるものがあり、弾力的な運用ができた。

研修映像の視聴を行った部会では、「各学校にもどって活用できるもの」を念頭に置き、短時間で視聴できるものを精選していた。

今後の課題としては、小規模校などを考慮して、主任会等の日程調整をもう一度確認することが挙げられる。

９　川島教育研究会

Ⅰ　はじめに

本教育研究会は、埼玉県比企郡川島教育研究会といい、事務局を会長所在の学校に置く。

本会は、川島町内の小中学校に籍を置く教職員会員となって組織されている教育研究団体である。

学校数は、小学校４校、中学校２校の計６校、教職員会員数は118名である。

本会は、班内における教職員が主体となり、教育の振興と会員の資質向上に努め、併せて相互の親睦を図ること目的とする。

この会は、上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

１　研究会、発表会、講演会等の開催
２　教育に関する調査研究
３　会員の学術文化に関する研究の助成
４　レクリエーションの開催
５　その他目的達成に必要な事項

Ⅱ　本教育研究会の組織

１　役員

会長１名、副会長１名、理事18名、常任理事６名、代表理事６名、監事２名、幹事若干名、研究部長（研究部に置く）

２　会員

正会員（町内勤務の現職教職員）賛助会員（この会の趣旨に賛同する個人または団体

３　会議

会議を分けて、総会、理事会、常任理事会、代表理事会、研究部会とする。

総会は、年１回会長が招集する。但し、必要に応じて臨時に招集することができる。また、常任理事会をもってこれに代えることができる。

４　研究部

本会は、次の研究部をおく。

⑴国語　⑵書写
⑶社会　⑷算数・数学
⑸理科　⑹生活
⑺音楽　⑻図工・美術
⑼家庭・技術　⑽体育
⑾外国語活動・英語　⑿特別の教科道徳
⒀特別活動　⒁特別支援教育
⒂教育心理・教育相談　⒃視聴覚・情報教育
⒄図書館教育　⒅養護
⒆給食・食育　⒇安全教育
㉑保健主事　㉒生徒指導
㉓人権教育　㉔進路指導・キャリア教育
㉕学校事務　㉖教務主任会
㉗国際理解教育　㉘環境教育
㉙総合的な学習の時間

各研究部は、部の事業を執行するための部長及び副部長を置く。部長及び副部長は、主任会で選出し、各校は、研究部ごとに主任を置く。

Ⅲ　本年度の主な事業

１　本部の活動

・教科等主任研修会　４月11日㈬
・総会　５月10日㈭
・教育講演会　８月22日㈬
　演題　「大空小のインクルーシブ教育を理解するために」
　講師　長江　清和　先生
・理事研修会　３月８日㈮
・会計監査　３月18日㈪

２　各教科等研究部の活動

⑴　国語
・授業研究会　つばさ北小　10月11日㈭
　つばさ南小　11月６日㈫

⑵　書写
・主任研修会
　４月11日㈬・５月23日㈬・６月14日㈭
・比企地区硬筆展審査会及び研修会
　６月15日㈮
・比企地区書きぞめ展作品搬入、審査、搬出
　１月18日㈮・１月21日㈪

⑶　社会
・授業研究会　伊草小　11月１日㈭

⑷　算数・数学
・数学科授業研究会　西中　９月19日㈬
・数学科授業研究会　川島中　９月21日㈮

⑸　理科
・主任研修会　４月11日㈬・７月11日㈬
　・11月16日㈮

・科学教育振興展比企地区展準備審査会
９月28日㈮
・授業研究会　つばさ北小　11月28日㈬
・川島班児童生徒理科研究発表会　12月７日㈮
・埼玉県理科教育発表会比企地区発表会
１月16日㈬

⑹　生活
・主任研修会　４月11日㈬

⑺　音楽
・授業研究会　中山小　２月15日㈮

⑻　図工・美術
・主任研修会　４月11日㈬・11月28日㈬
・身体障害者福祉のための美術展比企地区展作品搬入、審査　８月３日㈮
・郷土を描く児童生徒美術展比企地区展作品搬入、審査　10月５日㈮
・埼玉県小中学校児童生徒美術展比企地区展作品搬入、審査、会場受付、搬出
１月25日㈮・１月28日㈪
・埼玉県小中学校児童生徒美術展県中央展作品搬入、展示、搬出（２月）

⑼　家庭・技術
・主任研修会　４月11日㈬
・比企地区児童生徒研究発表会・発明創意くふう展
９月12日㈬
・県小学校家庭科児童研究発表会　11月１日㈭

⑽　体育
・授業研究会　中山小　10月19日㈮

⑾　外国語活動・英語
・英語授業研究会　西中　７月13日㈮
・英語科授業研究会　川島中　10月９日㈫
・外国語授業研究会　つばさ南小　10月25日㈭

⑿　特別の教科　道徳
・授業研究会　川島中　11月20日㈫

⒀　特別活動
・授業研究会　川島中　10月19日㈮

⒁　特別支援教育
・主任研修会
４月11日㈬・４月27日㈮・９月26日㈬
・川島班交流学習会　６月15日㈮
・授業研究会　中山小　９月27日㈭
・町特別支援学級合同遠足　11月13日㈫

⒂　教育心理・教育相談
・主任研修会　４月11日㈬

⒃　視聴覚・情報教育
・授業研究会　伊草小　９月26日㈬
・授業研究会　中山小　２月５日㈫

⒄　学校図書館教育
・主任研修会　４月11日㈬・９月27日㈭

⒅　養護
・主任研修会　４月11日㈬・７月10日㈫
・12月11日㈫・３月７日㈭

⒆　給食・食育
・主任研修会　４月11日㈬

⒇　安全教育
・主任研修会　４月11日㈬

(21)　保健主事
・主任研修会　４月11日㈬・２月27日㈬

(22)　生徒指導
・主任研修会　４月11日㈬・12月６日㈭

(23)　人権教育
・主任研修会　４月11日㈬・５月18日㈮

(24)　進路指導・キャリア教育
・主任研修会　４月11日㈬

(25)　学校事務
・主任研修会　４月11日㈬・２月28日㈭

(26)　教務主任
・主任研修会　４月11日㈬・６月13日㈬
・11月29日㈭・２月

(27)　国際理解教育
・主任研修会　４月11日㈬

(28)　環境教育
・主任研修会　４月11日㈬

(29)　総合的な学習の時間
・主任研修会　４月11日㈬

Ⅳ　今後の課題

授業研究会を通して授業改善を図ることを中核に据え、各研究部で積極的に授業研究会を実施した。また、実技研修会、講演会等を開き、全てを児童生徒へ還元することを念頭においた取組ができた。

その結果、町内全体での研修意欲が高まった。主体的に個人や団体での研究もなされたことは、その現れと捉えることができる。

今後はハード面での各校への助成を可能な限り行うことでさらなる教職員研修の充実と資質向上を目指し、児童生徒の学力向上、豊かな心の育成につなげていきたい。

10　秩父教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、秩父教育研究会と称し、事務局を会長所属の学校に置く。

本会は、秩父市、横瀬町、小鹿野町、皆野町、長瀞町１市４町の小･中学校の教職員をもって組織されている教育研究団体である。教職員の資質向上と地域教育の振興に寄与することを目的としている。

学校数は、小学校23校、中学校12校の計35校、教職員会員数は647名である。

本会は、上記の目的を達成するために、教育関係機関並びに諸団体と連携し、次の事業を行う。

1　教育に関する研究会･講習会･発表会･展覧会等の開催
2　教育に関する研究調査
3　教育に関する実践的研究の委嘱
4　教育に関する図書雑誌の編集刊行斡旋
5　その他、教育に必要な事項

Ⅱ　本教育研究会の組織

1　役員

会長１名、副会長２名、理事（代議員）各校１名、監事３名、幹事若干名

2　任務

本会の役員の任務は次のとおりとする。

⑴　会長は本会を代表し、会務を掌理し各種会議を招集し、その議長となる。

⑵　副会長は会長を助け、会長に事故あるときはその職務を代理する。

⑶　理事は理事会を組織し、本会事業の企画運営に関して審議し、会務の執行にあたる。また、代議員として学校を代表し総会に出席する。

⑷　監事は、本会の会計を監査する。

⑸　幹事は、会長の命を受け、本会の庶務会計にあたる。

3　任期

役員の任期は２カ年とする。但し、再任を妨げない。補欠役員の任期は前任者の残任期間とする。

4　会議

毎年１回総会を開催し、会務の報告、会長･副会長･監事の選出、予算決算、その他重要事項につき審議決定する。会長が必要と認めた場合または会員の３分の１以上の要求がある場合は、臨時に総会を開くことができる。総会は代議員による総会とする。各種会議の議決は、出席人数の過半数の賛成を必要とする。

5　経費

本会の経費は、会費及び補助金、その他をもってこれにあてる。会費は、１人年額1,000円とし、６月に全額納入する。

補助金は、秩父郡市内各市町より500円×学級数分をいただいている。

6　研究部

研究部は次のとおりとする。

⑴国語　⑵社会　⑶算数･数学　⑷理科
⑸生活　⑹音楽　⑺図工･美術　⑻保健体育
⑼技術･家庭　⑽家庭　⑾外国語　⑿書写
⒀生徒指導　⒁総合的な学習の時間
⒂教育心理･教育相談　⒃学校図書館教育
⒄放送･視聴覚教育　⒅特別支援教育
⒆学校経営　⒇学校事務　(21)特別活動
(22)道徳教育　(23)学校給食
(24)進路指導･キャリア教育
(25)養護　(26)人権教育　(27)教務
(28)安全教育

各研究部には部長･副部長を置く。部長は本採者から選出する。役員の任期は１カ年とする。

但し、再任を妨げない。また、部長は次年度第１回の研究部会を主催する。

Ⅲ　本年度の主な事業

1　事務局主催の活動

⑴　第１回理事研修会　（４月）
⑵　総会　（５月）
⑶　第１回研究部（教科外）研修会　（５月）
⑷　第１回研究部（教科）研修会　（６月）
⑸　第２回理事研修会　（７月）
⑹　教育講演会　（８月）

講師　東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会文化・教育委員会委員長
青柳　正規　氏

演題「地方再生と文化」

⑺　第３回理事研修会　（２月）

2　各研究部主催の活動

⑴　国語

講演会　（11月）

講師　大澤　聡　先生

⑵ 社会

秩父地区社会科展覧会　(10月)

授業研究会　（１月）

授業者　江尻　貴光　教諭

⑶ 算数・数学

授業研究会　（２月）

「分数のわり算とかけ算」

授業者　古林　周　教諭

⑷ 理科

科学教育振興展覧会　(10月)

理科研究発表会　（１月）

⑸ 生活

実技研修会　（７月）「町たんけん」

講師　江本　泰幸　先生

⑹ 音楽

授業研究会　（２月）「日本の伝統音楽」

授業者　小林　いづみ　教諭

実技研修会　(11月)

講師　眞鍋　淳一　先生

⑺ 図工・美術

造形教育実技研修会　（７月）

講師　福嶋　淳　先生

⑻ 保健体育

小学校授業研究会　(10月)

中学校授業研究会　(11月)

⑼ 技術家庭

実技研修会　（８月）

発明創意くふう展及び研究発表会　（９月）

授業研究会　(11月)

⑽ 家庭

実技研修会　（８月）

授業研究会　(11月)

授業者　木村　千代　教諭

⑾ 外国語

授業研究会　(12月)

授業者　久下　智　教諭

⑿ 書写

秩父地区硬筆展覧会　（６月）

秩父地区書きぞめ展覧会　（１月）

⒀ 生徒指導

研修会　（６月）

⒁ 総合的な学習の時間

研修会　（１月）「年間指導計画検討」

⒂ 教育心理・教育相談

講演会　（２月）

⒃ 学校図書館教育

読書感想文審査会　（９月）

⒄ 放送・視聴覚教育

研究協議会　（１月）

⒅ 特別支援教育

担任者研修会　(12月，１月)

⒆ 学校経営

視察研修・講演会　(11月)

講師　アズコムデータセキュリティ

社長　飯塚　雅之　氏

⒇ 学校事務

講演会　（８月）「税制改革に係る研修」

講師　税理士　堀口　美奈夫　氏

(21) 特別活動

授業研究会　(10月)

研修会　（１月）

講師　加藤　和子　先生

(22) 道徳教育

授業研修会　(11月)

授業者　小林　佳史　教諭

(23) 学校給食

実技研修会　（８月）　「パン作り体験」

(24) 進路指導・キャリア教育

授業研究会　(11月)

授業者　市川　佑希　教諭

授業者　笠原　勇人　教諭

(25) 養護

講演会　（７月）「発達障害についての理解」

講師　高田　忠一　先生

講演会　(12月)「成長期のからだの変化」

講師　上木　朋子　先生

(26) 人権教育

研修会　（６月）

(27) 教務

研修会　（６月）

(28) 安全教育

研修会　（６月）

11　児玉郡本庄市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、児玉郡・本庄市内の小中学校32校、30の教科等研究会をもって組織する。

Ⅱ　活動概要

各研究会は、授業研究会や講演会を通して、指導力の向上を目指している。

⑴　国語教育研究会
①授業研究会 上里町立七本木小学校　11月12日㈪
授業者　上里町立七本木小学校　教諭　山﨑　樹彦
指導者　文教大学教育学部学校教育課程国語専修
教授　萩原　敏行　氏
②文集「こだま」第26号作成

⑵　書写教育研究会
①第57回硬筆展地区審査会　6月12日㈫
②実技研修会　8月1日㈬
「新聞紙で甲骨文字を書こう」
講師 児玉白楊高等学校　教諭　桑原　佳乃　氏
③第72回児玉郡本庄市書きぞめ展覧会
1月12日㈯・13日㈰

⑶　社会科教育研究会
①授業研究会 上里町立上里中学校　10月30日㈫
授業者　上里町立上里中学校　教諭　岩田　哲哉
指導者　北部教育事務所指導主事　篠田かなえ　氏
②北部ブロック授業研究会
本庄市立本庄西中学校　12月11日㈫
指導者　北部教育事務所指導主事　篠田かなえ　氏
本庄市教育委員会指導主事　市川　宝生　氏

⑷　算数・数学教育研究会
①授業研究会　本庄市立本庄南中学校　10月19日㈮
授業者　本庄市立本庄南中学校　教諭　磐上　渉
指導者　北部教育事務所指導主事　染谷　明信　氏
②授業研究会　神川町立渡瀬小学校　11月30日㈮
授業者　神川町立渡瀬小学校　教諭　出浦　翔
指導者　北部教育事務所指導主事　染谷　明信　氏

⑸　理科教育研究会
①科学展地区展　10月6日㈯　本庄市立本庄南小学校
②授業研究会 小学校10月30日㈫・中学校11月15日㈭
小学校：授業者　上里町立賀美小学校
教諭　松井　裕太
指導者　北部教育事務所指導主事　大澤　正樹　氏
中学校：授業者 本庄市立児玉中学校
教諭　柳　慎也
指導者　北部教育事務所指導主事　大澤　正樹　氏

⑹　音楽教育研究会
①埼玉県小・中学校音楽会北部西地区音楽会
本庄市民文化会館　11月7日㈬
指導者　戸田市立芦原小学校
校長　藤川　英子　氏

⑺　図工・美術教育研究会
①夏季実技研修会　本庄市立北泉小学校
8月10日㈮
指導者　本庄市立北泉小学校
校長　岡村　和美　氏
②研究発表会　本庄市立児玉中学校　11月7日㈬
発表者　本庄市立児玉中学校　教諭　三宅　光起
指導者　北部教育事務所主任指導主事
木村　浩　氏

⑻　保健体育教育研究会
①小学校体育実技講習会　6月4日㈪　8月1日㈬
②小学校体育授業研究会　11月8日㈭
③小学校体育研究協議会　10月23日㈫　11月27日㈫
④中学校体育授業研究会　10月18日㈭
⑤中学校体育研究協議会　11月30日㈮
⑥女子体育実技講習会　8月1日㈬

⑼　技術・家庭科教育研究会
授業研究会　美里町立美里中学校　10月23日㈫
上里町立上里中学校　10月10日㈬
本庄市立旭小学校　10月23日㈫
指導者　本庄市教育委員会指導主事
山﨑　育樹　氏
深谷市立川本中学校教頭　田野智恵子　氏
東松山市立市の川小学校長　田中　恵子　氏

⑽　生活科・総合的な学習の時間研究会
授業研究会　上里町立神保原小学校　10月31日㈬
授業者　上里町立神保原小学校　教諭　安澤　徳之
指導者　深谷市立八基小学校　教頭　境野　仁　氏

⑾　外国語活動・英語教育研究会
①授業研究会　本庄市立本庄南中学校　6月5日㈫
授業者　同校　教諭　大山　秀貴
指導者　美里町教育委員会指導主事　高橋　洋　氏
②関東甲信地区中学校英語教育研究協議会
11月16日㈮
発表者　美里町立美里中学校　教諭　岸本　えみ

⑿　道徳教育研究会
①道徳教育講演会授業研究会　8月17日㈮
講師　文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官　浅見　哲也　氏
演題「学習指導要領の趣旨を踏まえた道徳科の指導と評価の在り方」

⒀　特別活動教育研究会
①講演会　7月30日㈪
会場　上里町男女共同参画推進センター
講師　熊谷市立市田小学校教頭　船田真由美　氏

演題「望ましい人間関係を育てる特別活動
～熊谷市立久下小学校の実践から～」

⑭ 生徒指導教育研究会
講演会　本庄市児玉文化会館　　８月24日㈮
講師　埼玉県警察サイバー犯罪対策課
大谷　仁　氏
演題「インターネットセキュリティ
～サイバー犯罪に遭わないために～」

⑮ 教育相談教育研究会
講演会　深谷市川本公民館　　７月27日㈮
講師　開善塾教育相談研究所所長　藤崎　育子　氏
演題　「子供のやる気を引き出す教育相談」

⑯ 進路指導・キャリア教育研究会
①授業研究会　美里町立東児玉小学校　11月６日㈫
授業者　美里町立東児玉小学校　教諭　村田　敏明
指導者　北部教育事務所指導主事　大澤　正樹　氏
②授業研究会　本庄市立本庄南中学校　１月25日㈮
授業者　本庄市立本庄南中学校1･2学年全クラス
指導者　北部教育事務所指導主事　大澤　正樹　氏

⑰ 学校視聴覚・情報教育研究会
①パソコン研修会　　８月22日㈬
指導者　ITチャレンジの会　　山内　淳子　氏
②授業研究会 本庄市立本庄東小学校　12月４日㈫
授業者　本庄市立本庄東小学校　教諭　新井　卓也
指導者　本庄市教育委員会指導主事
山﨑　育樹　氏

⑱ 学校図書館教育研究会
①授業研究会　美里町立大沢小学校　　11月16日㈮
授業者　美里町立大沢小学校　　教諭　倉林　理恵
指導者　上里町立上里東小学校長　　福島　彰　氏
②読書感想文集　第49号

⑲ 学校緑化教育研究会
現地研修会　県立児玉白楊高等学校　10月19日㈮
講師：児玉白楊高等学校環境デザイン科
教諭　茂木　和也　氏
内容：参加各校の緑化計画の資料の交換
パンジーの種まき・鉢上げ・管理について

⑳ 学校食育研究会
①総会・研修会　　６月14日㈭
講師 県教育局保健体育課学校給食担当
長岡　剛　氏
②調理実習研修会　　８月３日㈮
講師　管理栄養士　　長谷川典夫　氏

㉑ 保健主事教育研究会
①研修会　神川町多目的交流施設　　８月１日㈬
講師　神川町役場防災環境課　　吉田　拓二　氏
演題　「町の防災から、子供の防災を考える」
②研修会　秩父市立秩父第一中学校　　11月27日㈫
埼玉県小中学校食育指導力向上授業研究協議会

㉒ 養護教諭研究会
①第２回（夏季）研修会　　８月３日㈮
講師　埼玉大学教育学部教授　　関　由起子　氏
演題「安心・安全・快適な処置を目指して」
②第３回研修会及び研修発表会　　12月18日㈫
指導者　北部教育事務所指導主事　鎌田　聖治　氏

㉓ 学校安全教育研究会
研修会　埼玉ひびきの農業協同組合本店
７月31日㈫
講師 埼玉便教会 世話人　　村田　陽　氏
演題「学校における防災教育について」

㉔ 特別支援教育研究会
①夏季研修会　　７月30日㈪
講師　東京福祉大学教授　　立松　英子　氏
演題「特別支援学級における効果的な教材・教具の
活用について」
②児玉郡本庄市特別支援教育児童生徒作品展
本庄市児玉総合文化会館　　12月１日㈯・２日㈰

㉕ 学校事務研究会
①研修会　　６月１日㈮
上里町男女共同参画推進センター
講師　警察本部サイバーセキュリティ犯罪対策課
演題　「情報セキュリティ講演」
②研究発表会　上里町男女共同参画推進センター「ユ
ニバーサルデザイン」本庄C班
12月７日㈮

㉖ 人権教育研究会
①講演会　　１月30日㈬
講師　　中島　潤　氏
②授業研究会　　11月22日㈭
授業者　教諭　髙石　敦子、茂木　淳、諏訪　智子
指導者　北部教育事務所指導主事　阿左見直昭　氏

㉗ 主幹教諭・教務主任研究会
①第１回研修会（講演会）　　８月23日㈭
「学校組織と主幹教諭・教務主任の役割」
講師　北部教育事務所副所長　　吉田　賢司　氏
②第２回研修会（研究校視察）　　11月28日㈬
「考え、話し合い、学び合う学習」
会場　本庄市立児玉小学校

㉘ 学校栄養教諭研究会
①栄養教諭研究会　　７月26日㈭
場所　本庄上里学校給食センター
内容　給食時間指導の媒体作成

㉙ 環境教育研究会
①環境教育研修会夏季研修会　　７月31日㈫
場所　県立児玉白楊高等学校
講師　県立児玉白楊高等学校　教諭
茂木　和也　氏
内容　環境（地質等）の講義とコケ玉作成

㉚ 国際理解教育研究会
①研修会　　８月22日㈬
上里町男女共同参画推進センター
指導者　美里町教育委員会指導主事　高橋　洋　氏
②授業研究会　上里町立長幡小学校　　10月31日㈬
授業者　上里町立長幡小学校　教諭　　土井　翔太
指導者　北部教育事務所指導主事　小久保俊之　氏

12　熊谷市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、熊谷市立小学校29校、中学校16校及び県立熊谷特別支援学校に在籍する教職員1,013名を会員として組織されている教育研究団体である。

本会は、学校教育各般の研究により、会員の資質の向上を図り、熊谷市の学校教育の振興を図ることを目的とする。この目的を達成するために次の事業を行う。

・教育文化講演会、学習指導研究協議会、学習指導研究会、講演会の開催
・各種展覧会、音楽会、英語弁論大会（中学校）、陸上フェスティバル（小学校）等の開催
・調査研究　　・機関誌の発行
・関係官庁への意見具申
・その他目的達成のために必要な事業

Ⅱ　本会の組織

1　本会の研究組織

⑴　校長部　⑵　教頭部　⑶　教務主任部
⑷　学校事務部
⑸　教科研究部

国語、書写、社会、算数･数学、理科、生活、音楽、図工･美術、体育･保健体育、家庭、技術家庭（技）、技術家庭（家）、英語･外国語活動、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、進路指導・キャリア教育、学校食育、安全教育、生徒指導、人権教育、特別支援教育、学校教育相談、情報教育、学校図書館、養護、保健主事、環境教育、国際理解教育

2　組織活動の基本的事項

⑴　各研究部は、本年度の研究課題を決め、計画的に推進する。課題設定に当たっては、各校の課題にも配慮する。
⑵　各校においては、主任を中心に課題の研究推進に当たる。

3　研究部会

⑴　各部に部長１名、副部長１名を置く。
⑵　各部の事業は次のとおりである。
・学習指導研究協議会　・実技研修会、その他
⑶　各部の事業については、年度当初に原案をつくり、理事会で調整する。

4　常任委員会

⑴　各部に常任委員会を置く。常任委員はブロック毎に小･中各１名を選出し組織する。
⑵　部長、副部長は常任委員を兼ねることができる。
⑶　事業計画及び運営の原案作成に当たる。

5　全体研修会

全会員を対象とした研修会は次のとおりとする。

⑴　学習指導研究協議会

会員の実践的指導力の向上を目指して行う。

年１回日時を定め、教科等研究部で公開授業及び研究協議等を行う。

⑵　教育文化講演会

会員の知見を広め、専門性を深め、資質の向上を目的として、年１回全員参加で行う。演題及び講師は、理事会の意見を参考に会長が決定する。

6　会報

・会員に有益な教育情報を提供するため、年２回発行する。

7　研究要録

・１年間の実績を集約するとともに、会員の優れた研究を発表する機会を提供するとともに、本会の発展を図るために発行する。

Ⅲ　本年度の基本方針等

1　基本方針

⑴　「熊谷教育」の発展のため、会員の意見を尊重しながら、教育研究活動の充実・改善に努める。
⑵　会員一人一人の研究意欲を高め資質の向上を図るため、全員が参加する全体研修会を実施する。
⑶　研究部は、日常の指導実践や長期を見通した研究課題を設定し、その解決を図るため、質の高い教育研究活動を行う。
⑷　生命の尊重、人権意識や防災意識の高揚を図り、道徳教育・人権教育・防災教育の推進を図る。
⑸　「学力日本一」を目指し、くまなびスクール、くまがやラグビー・オリパラプロジェクト、ラウンド制の授業、道徳の「見える化」、運動量を増やし、汗をかかせる体育授業等を通して、“知・徳・体”のバランスのとれた学力向上を図る。

2　実施事業

⑴　研究課題に基づく調査研究活動の実施
⑵　研究要録・会報の発行
⑶　研究論文の募集・学習指導研究協議会での授業者の公募
⑷　研究会・講演会・実技研修会等の実施
⑸　音楽会・競技会等の実施

⑹ 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間及び外国語活動（小）の研究推進
⑺ 全員参加による学習指導研究協議会の実施
⑻ 各学校における各教科等の研究への協力

Ⅳ 本会の主な事業

1 本部の活動
・主任研修会（５月） ・研究部長会（５月）
・理事研修会（５月、12月、３月）
・総会［代議員制］（５月）
・教育文化講演会（７月）
・会報（25号、26号）発行
・小学校陸上フェスティバル
・中学校音楽会（11月） ・小学校音楽会（11月）
・学習指導研究協議会（11月）
・研究要録（３月）発行
・研究費、補助費等の配付 ・会計監査

2 各研究部会の活動
⑴ 教務主任部会
⑵ 学校事務部会
⑶ 教科等研究部会
①国語部会
・主任研修会 ・文集審査会
・学習指導研究協議会
②書写部会
・主任研修会 ・硬筆展 ・書きぞめ展
③社会科部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
④算数部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑤数学部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑥理科部会
・主任研修会 ・科学展 ・学習指導研究協議会
⑦生活部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑧音楽部会
・主任研修会 ・音楽会 ・学習指導研究協議会
⑨図工・美術部会
・主任研修会 ・美術展 ・学習指導研究協議会
⑩体育部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑪保健体育部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑫家庭科部会
・主任研修会 ・実技研修会
・発明創意くふう展 ・学習指導研究協議会
⑬技術家庭（技）部会
・主任研修会 ・実技研修会
・発明創意くふう展 ・学習指導研究協議会
⑭技術家庭（家）部会
・主任研修会 ・実技研修会
・発明創意くふう展 ・学習指導研究協議会
⑮英語部会
・主任研修会 ・英語弁論大会
・学習指導研究協議会
⑯外国語活動部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑰道徳部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑱特別活動部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑲総合的な学習の時間部会
・主任研修会 ・学習指導研究協議会
⑳進路指導・キャリア教育部会
・主任研修会 ・研究協議会
㉑ 学校食育部会
・主任研修会 ・給食週間
㉒ 安全教育部会
・主任研修会
㉓ 生徒指導部会
・主任研修会 ・教育相談合同研修会
㉔ 人権教育部会
・主任研修会
㉕ 特別支援教育部会
・主任研修会 ・小・中交流会
・夢いっぱいアート展 ・学習指導研究協議会
㉖ 学校教育相談部会
・主任研修会 ・生徒指導合同研修会
㉗ 情報教育部会
・主任研修会 ・コンピュータ作品展
㉘ 学校図書館部会
・主任研修会 読書感想文審査会
㉙ 養護部会
・主任研修会 ・保健主事部会との合同研修会
㉚ 保健主事部会
・主任研修会 ・養護部会との合同研修会
㉛ 環境教育部会
・主任研修会 ・講演会
㉜ 国際理解教育部会
・主任研修会

Ⅴ 今後の課題

今後も「学力日本一」を目指す熊谷教育の推進に当たり、各部を中心に事業の運営、研究推進、授業研究会等積極的に行っていく。

13　加須市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、公立の幼・小・中学校43校（園）の教職員665名を会員として組織された教育研究団体である。

本会は、公立幼稚園・小中学校の学校教育の振興を図るとともに、相互の連携を密にし、職能の向上を図ることを目的とする。「確かな学力の定着・向上と豊かな人間性を育む学びの過程の工夫改善」を研究テーマに設定し、次の事業を行う。

1　会員の研修のための講演会、講習会
2　発表会、研修会、視察調査等
3　幼児、児童生徒の発表会、展覧会、競技会等
4　会員や公立幼稚園・小中学校の研究助成
5　各種教育関係団体、機関との連絡・提携
6　その他必要事項

Ⅱ　本会の組織

1　役員

会長１名　副会長４名　監事３名
理事（各校長30名・幼稚園１名・教頭５名・研究部６名・事務１名）　幹事２名

2　研究組織

会議は総会・理事会とする。
研究部の組織は次のとおりとする。
⑴国語教育　⑵書写教育　⑶社会科教育　⑷算数・数学教育　⑸理科教育　⑹生活科･総合的な学習の時間　⑺音楽教育　⑻図画工作･美術教育　⑼家庭科･技術家庭科教育　⑽体育･保健体育教育　⑾外国語活動･外国語教育　⑿道徳教育　⒀特別活動　⒁生徒指導　⒂進路指導･キャリア教育　⒃教育心理･教育相談　⒄安全・防災教育　⒅学校食育　⒆学校図書館教育　⒇人権教育　(21)特別支援教育　(22)国際理解教育　(23)視聴覚・情報教育　(24)環境教育　(25)福祉教育　(26)幼児教育　(27)教務主任　(28)保健主事　(29)養護教員　(30)学校事務

3　本会の会計（平成30年度）

・会費　　798,000円
・助成金　　450,000円

Ⅲ　本会の主な事業

1　本部の活動

⑴　各教科等主任研究協議会　（年２～３回）
⑵　教科等部長会　（年１回）
⑶　理事会　（年２回）
⑷　全員協議会・講演会　５月９日㈬
演題「誰もが最期まで、人生の主人公であり続けるために」
講師　大起エンゼルヘルプ取締役
注文をまちがえる料理店理事長
和田　行男　氏
⑸　教育講演会　７月23日㈪
演題「いま改めて発達障害をとらえ直す」
講師　福島県立医科大学教授
横山　浩之　氏
⑹　研究発表会
・加須市立花崎北小学校　10月２日㈫
学習指導の改善
・加須市立騎西中学校　10月26日㈮
学習指導の改善
・加須市立志多見小学校　10月30日㈫
道徳教育
・加須市立昭和中学校　11月７日㈬
学習指導の改善
・加須市立大利根東小学校　11月８日㈭
道徳教育
⑺　会計監査会　２月15日㈮

2　各教科等主任研究協議会の活動

⑴　国語教育研究部
・主任研究協議会　（４月・８月）
⑵　書写教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・市内硬筆審査会　（６月）
・書きぞめ実技研修会　（11月）
・市内書きぞめ審査会　（１月）
⑶　社会科教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・現地研修会　（８月）
・授業研究会　（10月）
・社会科作品展　（12月）
⑷　算数・数学教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・授業研究会　（11月）
⑸　理科教育研究部
・主任研究協議会　（４月）

・現地研修会　（８月）
・授業研究会　（11月）

⑹　生活科・総合的な学習の時間研究部
・主任研究協議会　（４月・７月）

⑺　音楽教育研究部
・主任研究協議会　（４月・９月・２月）
・市内音楽会運営委員会　（６・９月）
・市内小中学校音楽会　（10月）

⑻　図画工作・美術教育研究部
・主任研究協議会　（４月・７月・９月）
・身障展審査会　（８月）
・郷土美展審査会　（10月）

⑼　家庭科・技術家庭科教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・授業研究会　（10月）

⑽　体育・保健体育教育研究部
・主任研究協議会　（４月・９月）
・体育実技伝達講習会　（８月）
・市内小学校陸上競技会　（10月）

⑾　外国語活動・外国語教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・授業研究会　（10月）

⑿　道徳教育研究部
・主任研究協議会　（４月・７月）

⒀　特別活動研究部
・主任研究協議会　（４月・８月）
・授業研究会　（11月）

⒁　生徒指導研究部
・主任研究協議会　（４月･５月･10月）

⒂　進路指導・キャリア教育研究部
・主任研究協議会　（４月・１月）

⒃　教育心理・教育相談研究部
・主任研究協議会　（４月・２月）

⒄　安全・防災教育研究部
・主任研究協議会　（４月・１月）

⒅　学校食育研究部
・主任研究協議会　（４月・１月）

⒆　学校図書館教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・読書感想文審査会　（９月）

⒇　人権教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・現地研修会　（８月）
・人権教育研究集会　（10月）

(21)　特別支援教育研究部
・主任研究協議会　（４月・６月）

(22)　国際理解教育研究部
・主任研究協議会　（４月・８月）

(23)　視聴覚・情報教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・実技研修会　（８月）

(24)　環境教育研究部
・主任研究協議会　（４月・７月）

(25)　福祉教育研究部
・主任研究協議会　（４月）
・講演会　（８月）

(26)　幼児教育研究部
・主任研究協議会　（４月・８月）

(27)　教務主任研究部
・主任研究協議会　（４月・１月）

(28)　保健主事研究部
・主任研究協議会　（４月・６月）

(29)　養護教員研究部
・主任研究協議会　（４月・11月・１月）

(30)　学校事務研究部
・主任研究協議会　（４月・６月・８月）

Ⅳ　おわりに

本研究会では「確かな学力の定着・向上と豊かな人間性を育む学びの過程の工夫改善」の具現化を目指し、各部が創意工夫した取組を実践してきた。

今後も、本市の地域性や特長を生かした組織的・計画的な研究活動を推進し、教職員の指導力向上に努めていく。

14　春日部市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、市内の小学校24校、中学校13校、計37校に在職する教職員1,012名を会員とし、28の研究部を組織し活動している。各研究部は、授業研究会や主任会・講演会を通して、指導力の向上を目指している。

Ⅱ　本会の組織

1　本会の研究組織は、次のとおりとする。

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷算数・数学
⑸理科　⑹生活　⑺音楽　⑻図工・美術
⑼保健体育　⑽家庭　⑾技術・家庭
⑿小学校英語・英語　⒀道徳　⒁特別活動
⒂総合的な活動の時間　⒃特別支援教育
⒄学校保健　⒅学校安全　⒆教育相談
⒇情報教育　(21)学校都図書館　(22)生徒指導
(23)進路指導・キャリア教育　(24)人権教育
(25)学校運営　(26)養護　(27)学校給食・栄養士
(28)学校事務

各研究部会には、部の事業を執行するための部長及び副部長を置く。部長及び副部長は、主任会で選出し、各校は、研究部ごとに主任を置く。

役員の任期は１年とする。

2　本会に次の役員を置く。

会長１名、副会長３名、理事・評議員各校１名ずつ
監事３名、幹事３名、研究部

Ⅲ　本年度の主な事業

1　本部の活動

各教科等主任研究協議会（４月）
理事・評議員会（５月、２月）
総会・全体研修会（５月）、部長会（６月、12月）

2　各部会の活動内容

⑴　国語科教育
・主任研究協議会　４月13日㈮　中野小学校
・授業研究会　10月31日㈬　飯沼中学校
授業者　中村　和巳　教諭

⑵　書写教育
・主任研究協議会　４月13日㈮　５月14日㈪
11月28日㈬　緑小学校
・市内硬筆展覧会　６月16日㈯・17日㈰
・埼葛毛筆実技研修会　10月24日㈬　緑小学校
・市内書きぞめ展覧会　１月19日㈯・20日㈰

⑶　社会教育
・授業研究会　11月13日㈫　桜川小学校
授業者　上野　咲希　教諭
・授業研究会　２月１日㈮　葛飾中学校
授業者　谷藤　彰　教諭

⑷　算数・数学科教育
・主任研究協議会　４月13日㈮　宝珠花小学校
２月　谷原中学校
・授業研究会　10月24日㈬　中野中学校
授業者　千代　浩二　教諭
・授業研究会　11月28日㈬　宝珠花小学校
授業者　平井　明子　教諭

⑸　理科教育
・主任研究協議会　４月13日㈮　飯沼中学校
７月11日㈬　南桜井小学校
・中学校実験実技研修会　８月３日㈮　東中学校
・小学校実験実技研修会
８月28日㈫　市教育センター
・科学教育振興展覧会春日部班展覧会
９月29日㈯・30㈰　ふれあいキューブ
・授業研究会　飯沼中学校
授業者　鵜野　美穂　教諭

⑹　生活科教育
・主任研究協議会　４月13日㈮　豊春小学校
８月29日㈬　豊春小学校
・授業研究会　11月２日㈮　川辺小学校
授業者　平井　莉恵　教諭

⑺　音楽科教育
・主任研究協議会　４月13日㈮　武里小学校
９月７日㈮　武里小学校
・小・中学校音楽会　11月１日㈭
春日部市民文化会館大ホール
・授業研究会　２月７日㈭　立野小学校
授業者　和久由紀恵　教諭

⑻　図工・美術科教育
・埼玉県造形大会教育研究大会への参加
８月８日㈬　授業研究会
８月９日㈭　創造体験研修会
蓮田市文化会館ハストピア及び
総合市民体育館パルシー
・授業研究ｶ会　10月３日㈬　宮川小学校
授業者　川田　庸子　教諭
・市内図工美術作品展
12月１日㈯・２日㈰　ふれあいキューブ

⑼　保健体育科教育
・主任研究協議会　４月13日㈮　上沖小学校
・小学校授業研究会
10月23日㈫　内牧小　授業者　森山　晴光　教諭

11月９日㈮　川辺小　授業者　小林　儀之　教諭
・中学校授業研究会
11月７日㈬　豊野中　授業者　加庭　綾子　教諭
10月９日㈫　谷原中　授業者　清水　優斗　教諭

⑽　家庭科教育
・主任研究協議会　４月13日㈮　２月８日㈮
立野小学校
・実技研修会　８月８日㈬　緑小学校
・発明創意くふう展及び児童生徒研究発表会
・授業研究会　12月７日㈮　武里南小学校
授業者　石沢　麻永　教諭

⑾　技術・家庭科教育
・市教研主任研究協議会　４月13日㈮　豊野小学校
・実技研修会　８月10日㈮　東中学校
・発明創意くふう展市内展
９月19日㈬　葛飾中学校
南埼玉支部展　10月５日㈮　春日部工業高校

⑿　小学校英語教育・英語科教育
・授業研究会
12月７日㈮　授業者　竹前真莉菜　教諭　藤塚小
10月19日㈮　授業者　尾堤　直美　教諭　豊野中
・市内英語弁論大会　９月７日㈮　市教育センター

⒀　道徳教育
・市教研主任研究協議会　４月13日㈮　正善小学校
・授業研究会　11月30日㈮　藤塚小学校
授業者　矢部　由希子　教諭

⒁　特別活動
・主任研究協議会　４月13日㈮　桜川小学校
・授業研究会　10月４日㈭　東中学校
授業者　安部　直道　教諭
11月２日㈮　粕壁小学校
授業者　小山　有紀子　教諭

⒂　総合的な主学習の時間
・主任研究協議会
４月13日㈮　７月６日㈮　八木崎小学校
・授業研究会　１月23日㈬　備後小学校
授業者　桜本　航輔　教諭

⒃　学校保健教育
・主任研究協議会　小渕小学校
・学校保健研究協議会　１月15日㈫　小渕小学校
実践発表　発表者　宮川小　川田　康子　教諭
藤塚小　金子　恵　教諭
豊野中　小泉　典　教諭

⒄　学校安全教育
・主任研究協議会　４月18日㈬　宮川小学校
・授業研究会　12月11日㈫　幸松小学校
授業者　瀬田　直大　教諭

⒅　特別支援教育
・主任研究協議会　４月18日㈬　豊春小学校
２月20日㈬　豊春小学校

⒆　学校教育相談
・主任研究協議会　４月18日㈬　富多小学校
・研究協議会事例発表　11月15日㈭　富多小学校
武里小学校　大森　浩　教諭
大増中学校　大澤　遥　教諭

⒇　情報教育
・主任研究協議会　４月18日㈬　藤塚小学校
・授業研究会　12月14日㈮　桜川小学校
授業者　竹下　透　教諭

(21)　学校図書館教育
・主任研究協議会　４月18日㈬　川辺小学校
９月18日㈫　東中学校
・研究協議事例発表　１月25日㈮　市教育センター
発表校　宮川小学校　豊春中学校

(22)　生徒指導
・主任研究協議会　４月18日㈬　武里南小学校
・ブロック別交流会

(23)　進路指導・キャリア教育
・主任研究協議会　４月18日㈬　立野小学校
・授業研究会　11月30日㈮　豊野中学校
25地区進路指導・キャリア教育研究協議会

(24)　人権教育
・主任研究協議会　４月18日㈬　備後小学校
・授業研究会　１月31日㈭　武里西小学校
授業者　小田　裕子　教諭

(25)　学校運営
・主任研究協議会　４月18日㈬　内牧小学校
２月28日㈭　春日部市教育センター

(26)　養　護
・主任研究協議会　４月18日㈬　牛島小学校
年間７回（６・７・11・12・１・２・３月）実施
・夏季研修会　８月23日㈭　春日部市教育センター

(27)　学校給食・栄養士
・主任研究協議会　４月18日㈬
２月19日㈫　粕壁小学校
・授業研究会　12月６日㈭　上沖小学校
授業者　川田　亜紀　教諭

(28)　学校事務
・主任研究協議会　４月18日㈬　豊野小学校
・全体研修会　７月11日㈬　12月18日㈫
２月15日㈮　庄和総合支所
春日部市視聴覚センター

Ⅳ　終わりに

本研究会では、「学力の向上」を目指し、「学び合い」の活動を通して、思考力・表現する力の育成を進めている。今後も春日部市の教育の充実と発展のために力を尽くす。

15　八潮市教育研究会

Ⅰ　はじめに

本会は、八潮市の小学校10校、中学校５校、計15校の教職員521名を会員として組織されている教育研究団体である。

本会は、八潮市立小・中学校教育の振興を図ることを目的とし、次の事業を行っている。

1　教育に関する研究調査
2　市内各校及び教育関係機関との連絡提携
3　展覧会、音楽会、科学展等の開催
4　教職員の研修（小中一貫教育の推進）
5　その他目的達成のために必要な事項

Ⅱ　組織及び運営

1　役員

会長（１名）、副会長（２名）、理事（若干名）、監事（３名）、幹事（若干名）、評議員（会長、副会長、幹事）

2　会費

年額　1,500円（教員）、1,240円（事務職員）

3　会議

総会…本会の最高決議機関で年１回開催する。
　　役員の承認、予算・決算の審議等を審議。
評議員会…会長が招集し､会務の企画･運営等を審議。
理事会…会長が招集し、会務の執行等を審議。

4　研究部会

本会には、次の研究部会を開く。各部会の構成は、各校の主任をもってする。

⑴国語　⑵書写　⑶社会　⑷算数・数学
⑸理科　⑹生活　⑺音楽　⑻図工・美術
⑼体育　⑽英語　⑾技術・家庭
⑿家庭　⒀道徳　⒁総合的な学習の時間
⒂特別活動　⒃教育心理・教育相談
⒄視聴覚・放送　⒅学校図書館教育
⒆生徒指導　⒇学校安全教育
(21)特別支援教育　(22)進路指導・キャリア教育
(23)養護　(24)事務　(25)学校保健（保健主事）
(26)人権教育　(27)学校食育　(28)教務主任

各研究部会には、部の事業を執行するための部長（１名）、副部長（２名）、書記（１名）を置く。

部長、副部長、書記は、教科等主任研究協議会（年１回）で選出する。

各研究部会は､年２回の研究協議会（うち１回は授業研究会）を開催する。

部会運営費は、各10,000円とする。

Ⅲ　主な事業

1　本部の活動

・主任研究協議会、評議員会、新旧理事会（４月）
・総会・研究協議会及び講演会（５月）
・中学生英語弁論大会、市内科学展（９月）
・市内音楽会（10月）・市内作品展（各校で実施）
・評議員会、なかよし学習発表会（２月）
・会計監査（３月）

2　各研究部の研究主題

⑴　国語
「言語能力を育成し、表現力を高める国語指導」
４月　研究協議会　11月　授業研究会

⑵　書写
「字形を正しく認識させ､表現力を高める書写指導」
４月　研究協議会　６月　硬筆審査会
１月　書きぞめ審査会

⑶　社会
「児童生徒が主体的に学ぶ授業展開の工夫」
４月　研究協議会　11月　授業研究会

⑷　算数・数学
「数学的な見方や考え方のよさを味わわせる授業展開の工夫」
４月　研究協議会　11月　授業研究会

⑸　理科
「学びに向かう資質能力を育成する授業の工夫」
４月　研究協議会　９月　市内科学展
11月　授業研究会

⑹　生活
「気付きの質を高める授業の工夫」
４月　研究協議会　１月　授業研究会

⑺　音楽
「児童生徒が感性を高め、思考・判断し、表現する学習指導の工夫」
４月　研究協議会　10月　市内音楽会
12月　授業研究会

⑻　図工・美術
「小中一貫教育を踏まえた系統性のある題材開発と指導法の研究」
４月　研究協議会　11月　実技研修会

⑼ 体育
「各指導内容をバランスよく指導・評価し、運動の特性や魅力を味わわせる授業の工夫」
４月　研究協議会　10月　授業研究会
※ 小中一貫教育「まなび部会」を兼ねる。

⑽ 英語
「小中高の連携を通したコミュニケーション能力の育成」
４月　研究協議会
９月　中学生英語弁論大会　11月　授業研究会

⑾ 技術・家庭
「次代を担い、社会を生き抜く力を育む学習指導の研究」
４月　研究協議会　９月　発明創意くふう展審査会
12月　授業研究会

⑿ 家庭
「自分の生活を見つめ家庭生活をよりよくしようと工夫し、実践する児童の育成」
４月　研究協議会　９月　授業研究会
９月　発明創意くふう展審査会

⒀ 道徳
「道徳科における学習指導の工夫」
４月　研究協議会　11月　授業研究会

⒁ 総合的な学習の時間
「小中一貫教育における系統的な指導方法の工夫と改善」
４月　研究協議会　11月　授業研究会

⒂ 特別活動
「個を生かし、集団を育てる特別活動の在り方」
４月　研究協議会　７月　授業研究会

⒃ 教育心理・教育相談
「児童生徒が抱える悩みや不安などを解消するための本人・保護者へのよりよい支援の方法」
４月　研究協議会　11月　研究協議会

⒄ 視聴覚・放送
「授業における視聴覚教材の有効な活用方法の研究」
４月　研究協議会　２月　授業研究会

⒅ 学校図書館教育
「学習・情報センターとしての学校図書館の運営と公立図書館との連携」
４月　研究協議会　９月　読書感想文審査

⒆ 生徒指導
「心豊かな児童生徒を目指す」
４月　研究協議会
※　小中一貫教育「こころ部会」を兼ねる。
いじめ防止授業実施（全小中学校）。

⒇ 学校安全教育
「危険を予測し、自ら回避できる児童生徒の育成」
４月　研究協議会　７月　スケアードストレート参観　１月　授業研究会

(21) 特別支援教育
「一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する」
４月　研究協議会　12月　なかよし作品展
２月　なかよし学習発表会
※ 小中一貫教育「しえん部会」を兼ねる。

(22) 進路指導・キャリア教育
「小中一貫教育を通して、主体的に生きる力を育てるキャリア教育の推進」
４月　研究協議会　11月　授業研究会

(23) 養護
「心も体も健康な児童生徒の育成をめざした健康教育」
４月・６月・８月・12月・２月　研究協議会
１月　保健主事・養護教諭合同研修会

(24) 事務
「事務処理の効率化」
４月・11月　研究協議会

(25) 学校保健（保健主事）
「健康教育の充実に向けて」
４月研究協議会
１月保健主事・養護教諭合同研修会

(26) 人権教育
「自他の心や体を大切にし、いじめや差別をなくす人権教育」
４月　研究協議会　12月　授業研究会

(27) 学校食育
「楽しく安全な給食指導」　４月　研究協議会
※ 市教委主催の給食委員会を兼ねる。

(28) 教務主任
「小中一貫教育の推進を図る教育課程の工夫」
４月　研究協議会
※ 小中一貫教育「計画部会」を兼ねる。

Ⅳ　おわりに

テーマ「学力・体力の向上と豊かな心を育成する小中一貫教育の推進」の取組は13年目を迎えた。

〈成果〉
・八潮スタンダードの導入による授業改善
・不登校児童生徒数、非行問題行動の減少
・新体力テスト結果の向上

〈課題〉
・小中一貫教育（施設分離型）の限界への挑戦
・教育効果を保持しながらの教職員の負担軽減策

16　宮代町教育研究会

Ⅰ　はじめに

本研究会は、宮代町立小・中学校７校の教職員で組織する32の専門部会をもって活動している。

Ⅱ　研究概要

各専門部会は、授業研究会や研究協議会、講演会、各種展覧会等をとおして、指導力の向上を目指している。

1　国語部会
活動主題「言語活動の充実を図り、言語能力を身に付けさせる指導の工夫」
授業研究会　百間中学校　11月29日㈭
授業者　百間中学校　遠藤　充　教諭
指導者　東小学校　校長　八重樫　元　先生

2　書写部会
活動主題「実生活に生かせる書写指導の工夫」
・町内硬筆展　進修館　６月16日㈯　17日㈰
・書きぞめ実技研修会 須賀中学校　11月15日㈭
・町内書きぞめ展　須賀小学校
１月19日㈯　20日㈰

3　社会部会
活動主題「基礎的・基本的知識の定着と資料活用能力の向上を図る授業の展開」
授業研究会　笠原小学校　11月21日㈬
授業者　笠原小学校　須賀　敦　教諭
指導者　宮代町教育委員会指導主事
平原　隆範　先生

4　算数・数学部会
活動主題「算数・数学的活動の充実と学ぶことの楽しさや充実感ある学習展開の工夫」
研究協議会　百間中学校　11月29日㈭

5　理科部会
活動主題「自ら課題を見つけ、主体的に学習活動に取り組む児童生徒の育成」
・町小・中学校科学教育振興展覧会　須賀小学校
９月８日㈯　９日㈰
・授業研究会　百間小学校　11月12日㈪
授業者　百間小学校　三枝　英彰　教諭
指導者　宮代町教育委員会主幹兼指導主事
塚越　健一　先生

6　音楽部会
活動主題「児童生徒の感性を高め、自ら学び表現を工夫する学習指導の充実」
町小・中学校音楽会　笠原小学校　11月６日㈫
指導者　元久喜市立栗橋南小学校
校長　大場　千代美　先生

7　図工・美術部会
活動主題「つくり出す喜びを十分に味わうようにすることができる指導と評価の工夫」
・町児童生徒美術展　進修館
12月１日㈯　２日㈰
・授業研究会　百間中学校　２月12日㈫
授業者　百間中学校　石川　清子　教諭
指導者　日本体育大学教授　奥村　高明　先生

8　保健体育部会
活動主題「運動の特性にふれる魅力や楽しさを味わわせ、体力と運動の技能を高める指導法の工夫」
・小学校陸上大会　ぐるる宮代　５月23日㈬
・小体連白岡支部保健体育研究協議会
東小学校　10月24日㈬
授業者　東小学校　増田　隆太　教諭
指導者　伊奈町立小針北小学校
教頭　水落　美佳子　先生
・体力向上授業研究会 笠原小学校　11月７日㈬
授業者　笠原小学校　武藤　伸幸　教諭
指導者　百間小学校　校長　山口　隆夫　先生

9　技術・家庭部会
活動主題「生徒のよさや可能性を生かす指導と評価の工夫～充実した言語活動を目指して～」
・授業研究会　百間中学校　６月12日㈫
授業者　百間中学校　山﨑　元美　教諭
指導者　百間中学校　教頭　内山　真二　先生
・生徒発明創意くふう展及び研究発表会
白岡市保健福祉総合センター　９月19日㈬

10　小学校家庭部会
活動主題「個に応じた指導と評価を工夫し、実践的な態度の育成を図る」
町内発明創意くふう展審査
笠原小学校　９月７日㈮

11　生活部会
活動主題「地域や児童の実態を生かし、体験を重視するとともに、主体的･対話的で深い学びを実現する授業の創造」
授業研究会　笠原小学校　11月22日㈭
授業者　笠原小学校　松本　美紀　教諭
指導者　久喜市立栗橋西小学校
教頭　田上　智明　先生

12　英語部会
活動主題「コミュニケーション能力の育成を図る指導法の工夫」
授業研究会　須賀小学校　11月15日㈭
授業者　須賀小学校　松本　千秋　教諭
指導者　志木市立宗岡第三小学校
校長　福沢　仁恵　先生

13　道徳部会
活動主題「教科化を踏まえた道徳の時間を要とした全教育活動を通して行う道徳授業の充実」
授業研究会　須賀中学校　10月23日㈫
授業者　須賀中学校　古関　孝史　教諭
指導者　宮代町教育委員会非常勤指導主事

毛塚　悟　先生

14　特別活動部会
活動主題「児童生徒が生き生きとする特別活動のあり方」
研究協議会　東小学校　１月31日㈭

15　総合的な学習の時間部会
活動主題「各学校の特色を生かし、発達の段階と児童生徒の実態を考慮した学習活動の工夫と改善」
授業研究会　須賀小学校　１月23日㈬
授業者　須賀小学校　関根　希　教諭
指導者　宮代町教育委員会主幹兼指導主事
塚越　健一　先生

16　特別支援教育部会
活動主題「児童一人一人の障害の状態に応じた指導の工夫」
・交流遠足　東武動物公園　10月５日㈮
・なかよし作品展　進修館
12月３日㈪～11日㈫
・なかよし交流会　笠原小学校　12月11日㈫
・卒業を祝う会　進修館　２月18日㈪

17　小学校外国語活動部会
活動主題「外国語にふれたり、外国語によるコミュニケーションを体験したりすることを通して、コミュニケーション能力の素地を創造する」
授業研究会　須賀小学校　11月15日㈭
授業者　須賀小学校　松本　千秋　教諭
指導者　志木市立宗岡第三小学校
校長　福沢　仁恵　先生

18　教育心理相談部会
活動主題「日常的な教育相談活動の活性化」
研究協議会　百間中学校　11月12日㈪

19　情報・視聴覚教育部会
活動主題「心を育て、学ぶ喜びを味わわせる教育機器の効果的な活用」
研究協議会　前原中学校　12月14日㈮

20　学校図書館部会
活動主題「学校図書館を活用した学習活動の工夫」
研究協議会　東小学校　10月４日㈭

21　生徒指導部会
活動主題「積極的な生徒指導の推進」
杉戸町宮代町学校警察連絡協議会
杉戸町立杉戸中学校　７月５日㈭
12月６日㈭　２月19日㈫

22　進路指導・キャリア教育部会
活動主題「一人一人の個性を生かし、伸ばす進路指導・キャリア教育」
研究協議会　百間小学校　２月６日㈬

23　安全教育部会
活動主題「学校や家庭・地域の実態に即した指導計画の作成と組織的な安全教育の推進」
研究協議会　須賀小学校　12月11日㈫

24　食育・学校給食部会
活動主題「学校や家庭・地域の実態に即した望ましい食習慣の形成と食事環境の充実」
研究協議会　　キッコーマンもの知りしょうゆ館
８月６日㈪

25　人権教育部会
活動主題「人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、人権問題を解決しようとする児童生徒の育成」
研究協議会　百間小学校　１月31日㈭

26　環境教育部会
活動主題「環境の保全に向けて、主体的に行動できる実践的な態度や資質・能力の育成を図る」
研究協議会　笠原小学校　８月１日㈬
指導者　埼玉県環境アドバイザー
八木橋　孝雄　先生

27　国際理解教育部会
活動主題「国際社会の一員として、外国の言語や文化に対する興味・関心を高める国際理解教育の推進」
島村盛助を顕彰する英語発表会
前原中学校　10月４日㈭
須賀小学校　10月９日㈫
東小学校　11月12日㈪

28　ボランティア・福祉教育部会
活動主題「地域社会との連携を通しての福祉教育の推進」
研究協議会　百間小学校　２月７日㈭

29　学校保健部会
活動主題「家庭・地域社会と連携した保健活動の推進」
研究協議会　東小学校　２月13日㈬

30　養護教員部会
活動主題「『危機管理体制の見直し』　～状況に応じた救急セットの整備～」
研究協議会　宮代町役場　８月24日㈮

31　学校事務部会
活動主題「実務研修を通しての学校事務職員の資質向上」
研究協議会　宮代町役場　７月24日㈫
指導者　東部教育事務所総務給与担当
関根　弘樹　様
三ヶ尻　悠人　様

32　主幹教諭・教務主任部会
活動主題「児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、新学習指導要領の実施に向けた教育課程の確実な編制」
研究協議会　百間小学校　１月24日㈭

Ⅲ　全体研修会

日時　８月24日㈮
場所　日本工業大学学友館
講演「不登校の理解と支援の視点」
講師　埼玉県立大学・大学院教授　東　宏行　先生

Ⅳ　終わりに

本研究会の研究テーマは、「学ぶ喜びを味わわせ、生きる力と絆をはぐくむ教育活動の展開」である。今後も子供一人一人のよさや生きる力を伸ばすために教職員の指導力の向上を推進していく。

平成30年度

研究論文集

Ⅰ　平成30年度研究論文応募者等一覧 …… 128

Ⅱ　2019年度研究論文募集要領 …… 129

＜　入　選　＞

1　児童の学びが持続し、生きて働く「言葉の力」を獲得するための国語単元の展開
～効果的な「カリキュラム・マネジメント」と「試行錯誤」過程の導入を図ることで～【国　語】…… 130
新座市立大和田小学校　代表　主幹教諭　石川　　周
教諭　野末　　淳
教諭　山田　将司
教諭　白田　　惟

＜　佳　作　＞

1　自己肯定感と集団意識の改善を目指した体育授業　半年間の実践記録
～基礎の定着と学び合いの充実を両輪として～【体　育】…… 136
さいたま市立西浦和小学校　教諭　中村　直紀

平成 30 年度研究論文応募者等一覧

Ⅰ　入賞者

1　入　選

No.	氏　名	所　属　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	石川　　周 野末　　淳 山田　将司 白田　　惟	新座市立大和田小学校	主幹教諭・ 教諭	国　語	グループ
		児童の学びが持続し、生きて働く「言葉の力」を獲得するための国語単元の展開 ～効果的な「カリキュラム・マネジメント」と「試行錯誤」過程の導入を図ることで～			

2　佳　作

No.	氏　名	所　蔵　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	中村　直紀	さいたま市立西浦和小学校	教　諭	体　育	個　人
		自己肯定感と集団意識の改善を目指した体育授業　半年間の実践記録 ～基礎の定着と学び合いの充実を両輪として～			

Ⅱ　応募者

No.	氏　名	所　属　校　名	職　名	教科等	形　態
		研究テーマ			
1	昆　　昇平	八潮市立大曽根小学校	教　諭	体　育	個　人
		学級の溢れだす「絆」を目指した５年生跳び箱運動の実践 ～技能向上と主体的・対話的な授業を目指して～			
2	菊池　健一	さいたま市立海老沼小学校	教　諭	ＮＩＥ	個　人
		児童の授業意欲を高め、確かな学力の育成を目指す NIE 実践 ～小学校６学年での実践～			
3	金澤　麻美	入間市立金子小学校	養護教諭	学校保健・健康教育	個　人
		学校歯科医と家庭と連携し、学校で取り組んだ歯科保健教育 ～楽しく学び 8020 運動を目指して～			
4	細谷　光子	三郷市立瑞穂中学校	養護教諭	学校保健・健康教育	個　人
		心の健康を育む保健指導の工夫 ～ストレスに対する自己コントロール能力を高めるための集団指導を通して～			
5	城内　君枝	ときがわ町立明覚小学校	教　諭	国　語	個　人
		自ら学習に取り組む児童の育成～漢字学習の取組～			
6	吉福　　啓 元木　　廉 岩崎　浩美	草加市立川柳小学校	主幹教諭・ 教　諭	特別支援教育	グループ
		特別支援学級と児童発達支援センターの連携・教育実践 ～幼児・児童一人ひとりのコミュニケーション能力の向上と自己有用感の高まりを目指して～			

2019 年度研究論文募集要領

埼玉県連合教育研究会

2019 年度研究論文を下記の要領で募集いたします。何とぞ、奮ってご応募ください。

記

※ 各校一冊配付の「研究集録付研究論文集」に、昨年度の入賞論文を掲載しています。ホームページと共に参考にしてください。

1　目的

日々の教育実践の中から生まれた研究を会員の皆様から募集し、これを広く発表することによって本県教育の振興に資する。

2　募集内容

教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、進路指導・キャリア教育、視聴覚教育、教育心理・教育相談、特別支援教育、学校図書館教育等の児童生徒に直接かかわる実践的教育研究として、どのように計画し、仮説を立て実践し、さらに、その結果をどのように評価し、今後の教育実践にどう発展させるか等の研究であることとします。

3　応募資格

県内の公立小・中・特別支援学校に勤務する教員の個人及びグループ並びに学校としての研究である
こととします。

4　応募規程

原稿の書式は、Ａ４判縦長・横書き、横 24 字×縦 46 行×２段組でパソコンによる入力（Word）により、４～６枚以内（写真、図表を含む）とし、文体は常体（「である」体）で常用漢字・現代仮名遣いを原則とします。

また、研究論文には「表紙」を付け、その上に「応募票」を添付してください。

「表紙」には、①題名　②氏名（グループ代表者名）　③職名　④勤務校を記入してください。

5　応募票

「応募票」は、ホームページの各種提出書類の「研究論文応募票」からダウンロードしてください。

「応募票」の電子データを希望される方は、下記 E-mail で事務局までお申し出ください。

「応募票」は、「個人研究」・「グループ研究」・「学校研究」別に研究論文等に添付してください。

6　応募上の留意点

研究論文は、紙上未発表のものにかぎります。

研究論文原稿等は、返却しませんので、あらかじめご了承ください。

7　原稿等の提出

2019 年９月６日㈮必着

応募票及び研究論文原稿の提出については、下記事務局へ電子メールでの送信も併せてお願いします。

8　審査結果

審査結果は、2019 年 12 月下旬に各応募者に書面にて通知します。

9　表彰等

最優秀賞・入選・佳作等に選ばれた研究論文は、2019 年度「研究集録付研究論文集」及びホームページへの掲載を行い、入賞者には、本会評議員会（総会）後の研究論文入賞者表彰式にて表彰を行います。

なお、研究資料費として、入選論文には７万円（最優秀賞は 10 万円）、佳作論文には５万円、選外の応募者にも薄謝を進呈します。また、教職経験 10 年未満の方を対象に新人奨励賞（３万円）を設けています。

10　提出・問い合わせ先

〒 330-0804　さいたま市大宮区堀の内町１－ 99　さいたま市立大宮東中学校内
埼玉県連合教育研究会事務局　TEL　048-641-0808　FAX　048-645-1922
E-mail　saitamakenrengoukyouiku@jcom.home.ne.jp
ホームページ URL　https://sairenkyou.jp

児童の学びが持続し、生きて働く「言葉の力」を獲得するための国語単元の展開

～効果的な「カリキュラム・マネジメント」と「試行錯誤」過程の導入を図ることで～

グループ代表　新座市立大和田小学校　主幹教諭　石　川　　周

Ⅰ　問題の所在

⑴　言語活動の形骸化

文部科学省の報告によると、「『言語活動の充実に関する検証改善』の成果について」では、言語活動を通した学びについて、十分な成果を挙げている一方、以下のような課題が挙げられている。[1]

> ○課題としては、言語活動についての目的意識や、教科等の学習過程における位置付けが不明確であることや、指導計画等に効果的に位置付けられていないことにより生じている問題が指摘されている。（筆者波線）

上記より、児童にとっての「目的性」が重要しされず、「効果的」な学習になりきれていないことが指摘されている。

筆者自身もこれまで、児童に「言葉の力」を身に付けさせたい、と思うばかりに、児童にとっての「目的性」を疎かにし、言語活動自体を「目的化」してしまったことが多々あった。

その結果、言語活動は「手段」として機能せず、児童にとって、獲得感を伴った「言葉の力」の習得には結びつかなかった。当然ながら、他の学習や生活に生きて働く「言葉の力」にはなり得ていかなかった。

⑵　学校研究の課題から

本校では、平成27年度から３年間、国語科の研究委嘱を受け、「『単元を貫く言語活動』で創る主体的な学び」を主題として研究に取り組んできた。しかし、その過程でも、「言語活動の形骸化」という課題が挙がってきた。[2] 以下、具体的に述べる。

私たちは、単元の導入で、児童にとって、「目的性」が明確な言語活動を仕組み、学習に対する意欲を向上させようとしてきた。しかし、児童の学ぶ意欲は持続せず、「言葉の力」の定着に不十分な場合もあった。６年生の学年集団で協議する中で、学びが持続しにくい点が以下の２点に集約されると共有できた。[3]

> ①単元の導入時（１次）に、児童の意欲が喚起されても、２次の学習を突破していくための方法（武器）を持ち合わせていないため、自信をもちにくく、主体的になりにくい。
> ②たとえ、２次での学習方法（本校では入れ子構造やABワンセット方式等の方法を取り入れながら研究を進めてきた）を教師から提示しても、児童が受け身のままの姿勢から脱却していないため、獲得感はなく主体的になりにくい。（筆者波線）

以上から、主体的に学習を進めていくためには、児童の「目的性」に基づき、言語活動が効果的に機能する単元づくりの必要性を強く実感した。

Ⅱ　先行研究から（「学びの持続」に向けて）

「主体的になりにくい」という課題については前述したとおりである。以下、学びが持続する上で、重要となる「期待感」と「効力感」の醸成について、先行研究に触れながら述べていく。

⑴「期待感」が生まれる土壌

鹿毛（2013）は、「期待」について以下のように言及する。[4][5]

> 「主観的に認知された成功の見込み（確立）」を意味する。われわれの意欲は「できそうか」という認識（成功可能性の認知）に左右される。つまり、成功する見込み（「できそうだ」という認知）がなければ意欲は生じない。

> 「○○という（具体的な）行動ができるという見通し（自信）（中略）が強ければ強いほど、その行動に対して努力する。

上記より、人は過去の経験に規定された「できそうだ」という「期待」感から自信を生み、努力を継続していくというのである。本単元以前に、活用可能な「方法」を獲得しておくことができれば、本単元導入時でも、児童の「期待」感は高まり、主体的な学びにつながっていくととらえることができる指摘である。ここから、「期待感」を生み出すために、単元と単元を効果的に「つなげる」という発想が見えてくる。

⑵「効力感」が生まれる土壌

もう１点、鹿毛（2007,2013）は、「効力感」（「できるようになってきた」という自信）を実感することが主体的な学びにつながっていくと言及している。「効力感」を生み出すためには、「達成の保障」と「チャレンジの提供」が両立するような単元が望ましいと指摘している。つまり、チャレンジングな課題でありながら、着実に達成させていくような問題解決の「枠組み」により、「効力感」を実感できるというのである。

「効力感」については、ホワイトの言及を用いて以下のように説明している。[6][7]

> 評価情報のフィードバックによって、人は学習に対する充実感を感じることもある。できるようになったり、わかるようになったりしていくプロセスをより明確に実感できるためである。ホワイトは、環境とかかわる過程で感じるこのような充実感を「効力感」と呼んでいる。

> 学習に取り組むプロセスで技能が向上したり、理解が進んでいることを学習者自身が実感したりするプロセスこそが効力感の体験そのものだといえる。

「達成」を保障するためには、評価情報のフィードバックが有効であるという。例えば、交流による友達

からの指摘などもそうであろう。評価情報のフィードバックにより、「達成」となる指標が明らかになるためである。

ここから、「効力感」を生み出すためには、ただ、言語活動に取り組むのではなく、より「問題解決的」に、児童が問題解決に向かう単元づくりが求められる。自らの「問題」を強く意識しながら、解決過程で「試行錯誤」を重ね、それでも着実に「達成」を実感できるような、単元構想と実践の発想である。

Ⅲ　研究の仮説と手立て

先行研究を手がかりとして、以下のように仮説を立てた。

児童の「期待感」を高め、「効力感」を実感させることのできる単元を展開すれば、児童の学びは持続し、生きて働く「言葉の力」を獲得するであろう。

仮説を実証していくために、以下の手立てを講じることにした。

手立て①　「期待感」を生み出す効果的な「カリキュラム・マネジメント」
手立て②　「効力感」を実感させる「試行錯誤」過程の導入

Ⅳ　研究の内容

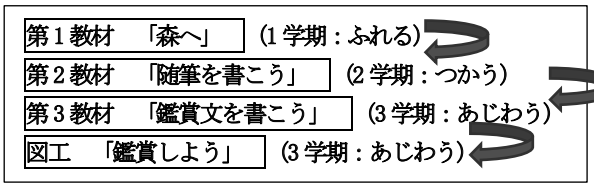
本研究は、平成29年度の６年生（３クラス120名）を対象として11月に実践した内容である。単元「みんなが読みたくなる随筆を書こう～卒業記念文集を私たちの手で～」（全７時間）の実践が中心となる。

⑴　手立て①「期待感」を生み出すために

本単元「随筆を書く」では、児童はなかなか書き出せないことが予想できた。それは、児童が「随筆」という文種に触れてきていないためである。もし、少しでも触れてきたならば、書くための「方法」として、武器になる。確かに、「随筆を書く」単元に入り、随筆という文種に触れることで、書き出せるようにはなるかもしれない。しかし、随筆を書いて磨き上げるには、児童にとってのステップが少し高いと思われた。過去に一度でも随筆に触れておくことで、「前に取り組んだことがある。これなら書けそうだ」という「期待」感が生まれ、ステップが低い状況で単元に入れるのでは、と考えた。

また、様々な学習に生きて働くようにカリキュラム・マネジメントすることで、本単元での実践が、次の実践の「期待感」となり、「言葉の力」の習得を確かなものへと積み上げることができるであろう、ととらえた。そこで、１年間の学習が効果的につながるようにカリキュラムを組み直した。資料１が１年間のカリキュラムをマネジメントしたものである。

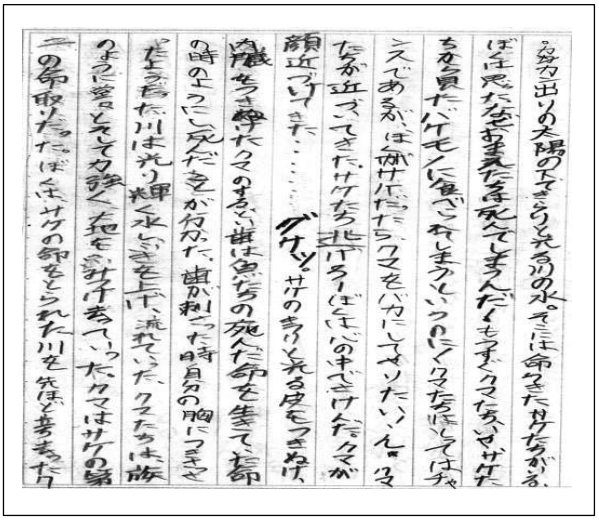
資料１　１年間の学習のつながり



第１教材「森へ」は、写真家の星野道夫さんが執筆した随筆である。通常、読み取りを主として扱われやすい教材である。しかし、私たちは、「随筆を書く」ための練習単元として扱い、思い切って本教材を、書く力を高めるための資料とした。

まず、星野さんの随筆の言葉の用い方を研究し、「文章のよさ」を共有し合った。次に、児童は、そうした言葉研究を生かし、星野さんが撮影した写真の鑑賞文を書いた（資料２）。

資料２　児童が書いた鑑賞文（第１教材「森へ」）

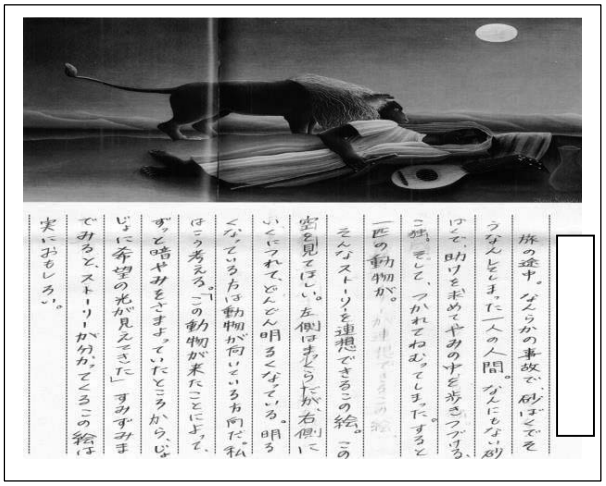


資料２を見ると、オノマトペ、体言止め、擬人法等の技法を駆使しながら書き上げていることがわかる（40％の児童が同程度の文章「量」と「質」で書き上げた）。

これらの「表現技法」を「方法」として獲得したことで、第２教材「随筆を書こう」の単元の導入においても「表現技法」を活用できていた児童が多数いた。つまり、武器としての「表現技法」を習得していたことで、学習への抵抗感を弱め、「これならできそうだ」という「期待感」が生まれていたということが伺えた。

また、本来なら、第2教材「随筆を書こう」は3学期の単元であるが、第1教材の学習とのつながりを重視し、2学期に配列した。そのため、こうした有機的なつながりが生まれ、効果的な「カリキュラム」となった。

資料３　児童が書いた鑑賞文（第３教材）

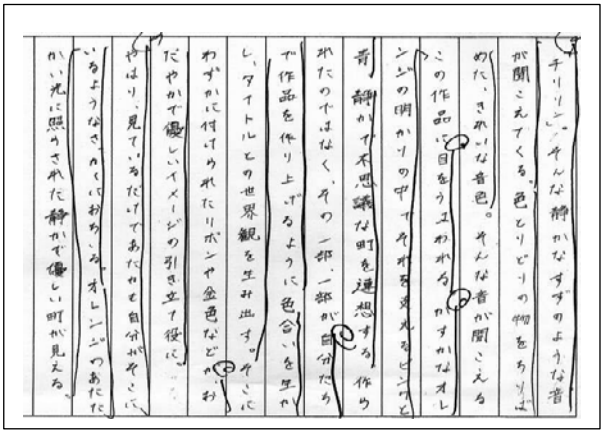


資料３を見て欲しい。これは、第３教材「鑑賞文を書こう」（本来、２学期の教材配列だが、効果的なカリキュラムになるよう、３学期の配列にした。）で、児童が書いた鑑賞文である。実は、２時間程度の指導でここまで書き上げることができた。しかも、90％以上の児童が、同程度の「質」の文章を書き上げた。下位の児童でも、表現技法を駆使しながら書いた鑑賞文は、半分以上の文章量であった。

ここからわかることは、第２教材で習得した「随筆」の書きぶりを生かし、随筆っぽい鑑賞文に転化させたという事実である。そこでは、「これならできそうだ」という期待感が十分に高まり、「これ（随筆の書きぶり）を使って（アレンジして）、書いてみよう」という域にまで達していると思われる。まさに、書き味わうレベルにまで到達している。その手応え感を、児童も教師も感じることができた。

「期待感」を生み出すことを意識しながら、カリキュラムマネジメントしたことで、成果となって表れたのである。

資料４　図工の時間に児童が書いた鑑賞文
（友達の作品鑑賞）



資料４は、第３教材の学習後に、書き方指導することなしで図工の時間に書き上げた鑑賞文である。

この実践からも、児童が生きて働く「言葉の力」を「獲得（習得→活用を通して）」したことが証明された。

このように、効果的な「カリキュラム・マネジメント」を通して、習得した内容が、次の実践の「期待感」を生み出す基となり、学習への抵抗を低め、主体的な学びを生み出していることが実証できた。また、前の実践での方法を用いるために、想定よりも少ない時数で、効果的な実践ができたことも成果であった。

⑵　手立て②「効力感」を実感させるために

以前の「随筆を書こう」の実践（平成 23 年度）では、以下の２点の要因から効力感を実感させられなかった。

ア）「構成」メモが書けても、「記述」へのステップが高く、児童は主体性を欠き、進んで書き広げられなかった。
イ）書くための手引きを多数示したが、児童にとって価値ある手引きになっておらず、児童が主体性を欠き、受け身の学習となってしまった。

そこで、本単元では、まず、以前の実践の課題解消を入り口にして、「効力感」の実感につなげたいと考えた。

まず、ア）の解決に向け、倉澤（1989）の指摘は大変参考になった。[8]「構造づけてから書くというのは、もっと上の段階（発達の段階）のことに属することであり、記述と構想と取材が一緒になって進んでいく、構造づけながら書いていくことが自然である」との倉澤の指摘から、思いきって構成メモをやめ、まず、「書いてみる」を優先した単元構想をとることにした。

これは、「構成」→「記述」のステップが高いため、「できるようになってきた」という「達成感」が得にくいためである。記述することを優先させた。

次に、イ）については、自作の「手引き」が効果的に機能せず、児童は「しっくり書けた」という「効力感」を実感できずにいた。達成を「保障」するための手引きとなり得ていなかった。また、教師の意図した方向に引っ張りがちな手引きとなっており、児童にとっての主体性を奪っていたととらえた。

そこで、課題解決のため、手引きを軽々に示すのではなく、児童の「期待」を高めながら、まず書いてみる。そして、交流等によってフィードバックすることで、「達成」の実感を保障することにした。本単元では、問題の「発見」と、「解決」を意図的に組み込み、「試行錯誤」過程となるように仕組んだ。そのことで、児童に「できるようになってきた」という効力感を味わわせたいと考えた。

資料５　「随筆を書こう」指導計画（全７時間）

時	学習活動
1	・モデル（随筆）を読み、文章のよさを指摘し合う。
①朝自習やチャレンジタイムの帯時間（15 分）を活用し随筆を書く。友達の文章を読み合う。	
2	・友達の書いた随筆を読み、感想を伝え合う。 ・学習計画を立てる。
②朝自習やチャレンジタイムの帯時間（15 分）を活用し随筆を書く。友達の文章を読み合う。	
3	・「表現」研究をする。←比喩、倒置、体言止め
4	・「書き終わり」研究をする。←【書き終わりパターン】「価値」づける（決意）、「見方」変える（でも）、「余韻」を残す、「オチ」をつける、「くり返す」
5	・「書き出し」研究をする。←【効果的な書き出し】「読み手の興味」を引き出す、「内容」につなげる、「書き終わり」につなげる
③朝自習やチャレンジタイムの帯時間（15 分）を活用し随筆を書く。友達の文章を読み合う。	
6	・自分の随筆を推敲する。
7	・清書する。　・単元を振り返る。

資料５の指導計画から、随筆を「読む」と「書く」を往還させながら進めてきたことがわかるだろう。授業以外の帯時間等を使って、随筆を書きため、友達の作品を読み合った後に、また随筆を書き続けることを繰り返した。このようにして、「読む」ことと「書く」ことを往還させたことが、「試行錯誤」過程となり、より「獲得感」の強い学習となった。そのことにより、

児童が「効力感」を実感することにつながった。

資料６は、１～６時間目までの児童の「楽しかった」度を数値化したものである。「効力感」は数値化しづらいが、資料６は、「効力感」を測るための一つの指標となり得る、ととらえている。

資料６　各時間の「楽しかった」度

第１時	第２時	第３時	第４時	第５時	第６時
3.5	4.2	3.7	3.8	3.8	4.1

（楽しかった度を５段階で自己評価させた学級の平均値）

これを見ると、大きく２つの事実がわかる。

１点目は、第２時「4.2」と第６時「4.1」の評価が高いということである。どちらも、「交流」を位置付けた時間であった。

第２時は、まだ、随筆の質的な部分を高める前に（書きぶりの研究の前に）取り組んだ交流の時間である。とにかく、いくつかのテーマの中から随筆を書きためて、１枚を選び、プラスの評価に限定して交流に取り組ませた（「おもしろさ」の交流）。

第６時は、文集に載せる作品を選び、「しっくりきていない」箇所を、交流によって磨き合う時間であった。

いずれの時間も、「交流」によって、児童の意欲が高まっていることがわかる。しかも、「楽しさ」に重点を置いた第２時の交流だけでなく、高め合う交流としての第６時も「楽しかった」度が高いということは、ただの楽しさだけでなく、児童にとっての「学び」が実感された時間となったことを物語っている。これこそ、まさに、「効力感」を実感した時間となっていると言ってよいだろう。交流という評価情報のフィードバックによって、効力感を実感できることが実証された。

２点目は、時間を追うごとに楽しかった度が向上している点を挙げることができる。この結果からも、学習が進むにつれて、児童の効力感が高まり、学びが持続したことで随筆を書き進めていけたことがわかる。

【1】友達の書いた随筆を読み合い、感想を伝え合おう（2／7）

資料７は、第１時に示した教師自作のモデル文である。この随筆からよさを指摘し合い、第２時までの間に、帯時間等を活用しながら、４枚程度、随筆を書きためた。第２時では、友達の書いた随筆を読み合いながら、全体でよさの共有を図った。資料８は、第２時の授業記録である。

資料７　教師自作のモデル文

「あぁ、つかれた。」まるでひざが笑っているよう。
小学校生活最後の「全校遠足」。今までと違うことがただ一つ。それは、「リーダー」であること。両手で一年生二人と手をつなぎ、先頭を歩きつつ二～五年生の安全を守る。約一時間三・五キロ。
「二列並びになって。」片方の一年生と手を離し、指と声で後ろに指示を出す。実際にはなかなか一列になってくれない。自分の指示の出し方が悪いのかな……。どうしたら言うことを聞いてくれるのだろう……。時々少し落ち込む。五年生の時まではただただ歩いていただけなのに。
よく考えてみると、去年までの六年生は本当にすごい。優しかったし、みんなを楽しませてくれた。こんなに大変だったんだ、最高学年って。でも、一年生とバイバイしたときの笑顔はやっぱりかわいかったな。思わず笑顔になれた。あっ、ぼくのひざと同じだ。

資料８　第２時の授業記録

T　どんなところがおもしろかった？
C：全体的におもしろかったけど、一番はじめの・・・
T　書き出し。
T　みんなが書いた随筆、小学校生活を振り返って書いている人もいました。卒業に向けて、記念文集にしてみたら・・？
C　いい。
C：もうちょっと書きたい。
T　文集を作るに当たって、随筆を知りました。今日は交流しました。最後は清書。この間をどういう風に進めていく？困っていること、ある？
C：書き出しとか、終わらせた方。友達に話す系か、敬語形式か。
T　書き出しって言っていたけど・・・おもしろい書き出ししている人、いました？
C　（O さんの・・・）
T　他に困っていること、学習してみたいことありますか？
C：N さんが言ったように字のきれいさ。
C：題名をどうやってつけるか。

児童は交流を通して、言葉の用い方の「おもしろさ」を実感できていた（資料６「楽しかった度」4.2 ポイント）。また、おもしろさを実感しながら、「より相手に伝わるように書くためにはどうしたらよいか」、という「問題」の発見（波線）が生まれた。つまり、「まず書く」→「おもしろい」過程が、「もっと書きたい」、「よりよく書きたい」という思考の流れを生んだのであろう。

【2】「書き終わり」研究をしよう（4／7）

児童は、前時までに、帯時間を活用しながら、数枚書きためてきた。友達と読み合い、感想を記述し合ってきた（ポジティブなフィードバックのみ）ことで、全員、随筆っぽい文章が出来上がってきた（文章量には差がある）。

教材研究の段階で、「随筆」という文種の守備範囲は広く、「随筆」が「随筆性」を帯びるのは、「書き終わり」に変化をつける、抽象度を上げる、等ととらえていた（つまり「書き終わり」が命）。

そこで、「随筆性」の高い書き終わりの児童作品を用いて、ブラインドにして示した（資料９）。

資料９　第４時の授業風景

複数の「書き終わり」パターン（資料５参照）を示し、様々に考えた後、実際に書かれた記述を提示すると、口々に驚きの声をあげていた。書き終わりのパターンごとに名前をつけることで、それぞれの「書き終わり」方のよさをとらえることにつながった。

資料 10　第４時の授業記録

T　この後、隠れているけど。
C：幼稚園だから、小学校のことが書かれていると思います。
C：N さんと似ていて・・・
T　（見せる）
T　今まで書いてきたことと反対になっている。どこからわかる？
C「でも」
T　名前をつけるとしたら？
C　逆接。
C　逆パターン。

「早く書きたい」というつぶやきも聞こえ始めた。振り返りにも、「書き終わりがおもしろい作品が随筆である」という認識が生まれていた。児童は、「書き終わり」方のそれぞれのよさがわかるようになってきていた。まさに効力感を実感し、実感したからこそ、「書きたい」につながったのだろう。

主体的に「書き終わり」を模索する中で、児童にとっての獲得感のある学習になっていた（ここから明らかに書き終わり方の質が向上した）。

【3】「書き出し」研究をしよう（5／7）

次時では、前時と同様の手法を用いて、「書き出し」を推測させた（資料 11）。すると、児童の考えは、３種類のパターンに分かれた。①読み手の興味を引くもの、②内容（中の文章）につながるもの、③「書き終わり」につながるもの、である。特に、③の考えが多かった（教師モデルにも影響を受けた）。

資料 11　第５時の授業風景

児童の振り返りにも、「次は、書き終わりを考えながら、書き出しを考えたい。」とあった。児童は、ただ、興味を引くだけの書き出しではなく、「書き出し」とは、全体を俯瞰し、位置付けるものだということをとらえていた。現に、その後の児童の作品は、「書き終わり」に変化を加え、「書き終わり」を意識した「書き出し」となる作品がほとんどを占めていた。

つまり、構成メモは用いなかったが、「書き終わり」研究、「書き出し」研究と進める学習活動により、結果的に児童の中に「構成意識」が芽生えることにつながっていたのである。

「書き終わり」研究後、「書き出し」研究へと向かう指導計画であった。逆の展開ならば、上記のような結果にはなり得ていなかったかもしれない。「書き終わり」のよさを実感すること（効力感の実感）を通して、「書き出し」が定まることを児童たちは認識していた。

【4】自分の随筆を「推敲」しよう（6／7）

「表現」、「書き終わり」、「書き出し」研究と、随筆の「質」を高める研究に取り組んだ後、自分の作品の「しっくり」きていない書きぶりを検討し合った。その際、有効に働いた手立てが、「交流モデル」の映像化である（アンケートより、82%の児童が有効であると回答した）。教師が出演し交流モデルを示したのだが、①話し言葉を文字化したこと、②話した言葉の意味を価値づけたことの２点において有効であった。

資料 12　交流モデルのシナリオ

教師 A：なんかさぁ、ここの書き終わりの部分がしっくりいってないんだよね・・・
教師 B：ん？どういうことかな？
教師 A：「書き終わり」がさぁ。なんていうかさぁ～。

教師 C：いったいこの随筆で何を一番に伝えたいの？

教師 A：そりゃ、音楽会を通して、苦手だった「音楽が好きになった」ということだよ。
教師 B：なるほど。だけど、少し長くない？－【削除の提案】
教師 C：たしかに。テンポが合わないね。
教師 B：じゃあ、短くするか。『音楽が好きになった。』にしたら。
教師 A：ん～。それもどうかな。
教師 C：『あっ』って音楽の楽しさに気付いたんだよね。
教師 A：そうそう。
教師 B：なるほどね。だったら『楽しそう。私も楽しい。こんなの初めてだ。なんだ、音楽って楽しかったんだ。』にしたらどうかな？－【書き換えの提案】
教師 A：おぉ～。いいね！

資料 12 を基にした交流の様子を以下に示す（資料 13）。

１つ目の波線では、相手の助言を受け入れながらも、まだしっくりきていないことが伺える。

２つ目の波線では、自分の書きぶりが伝わりづらいことやもう少し題名が分かりやすい方がよいことを自覚できている。交流によって、自分が「どこまでできている」のか、「どこからできていない」のかが、よくメタ認知できており、効力感を実感しながら交流が進められていることがよくわかる（資料６「楽しかった度」4.1 ポイント）。

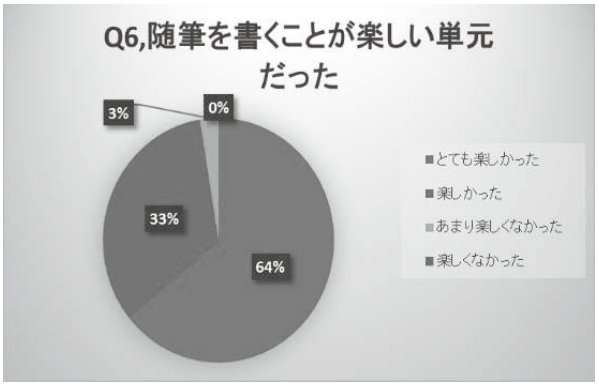
資料 13　第 6 時の授業記録

T：どこがしっくりいっていない？
C：題名がシンプルすぎて興味をもってもらえないのと、文章が長すぎて・・・。区切ってみたらわかりやすく伝えられると思うんだけど。
T：悩んでいるっていうＳさんにアドバイスをくれる人？
C：３行目「私は困っている、人生に」を倒置法にできると思う。
C：おかしくはないけど・・・そのあと・・・
C：「最初の宝物」の題名に悩んでいるって言っていて、途中で今の人生って書いていて・・・今と昔と比較して見たら
どうでしょう？
C：伝えたいことが具体的になっていないとわかりました。題名もわかりやすくなると思いました。

Ⅴ　結果と考察

実践後、「楽しかった」と回答した児童が、97%（6 学年 120 名）いた（資料 14）。つまり、ほとんどの児童が、随筆の学習を楽しいと感じており、「できるようになってきた」という手応え感、効力感を実感していることが実証されている。

資料 14　随筆の学習の効果

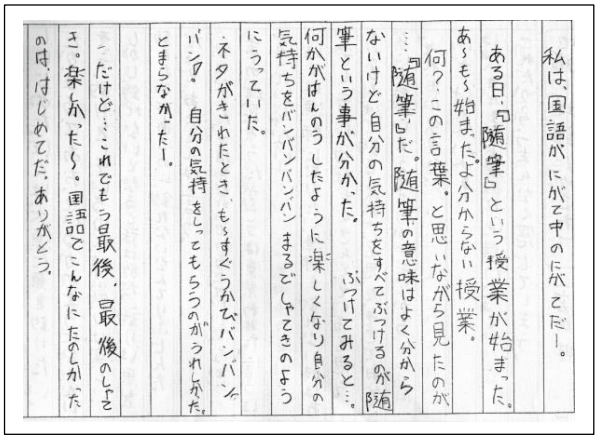


資料 15　理科の児童のノートより

「これは酸性だ。」
私は、色々な水溶液の正体を調べている。まず、青と赤色のリトマス紙を使い、水溶液が何性なのか調べた。青は・・。赤は・・。
　次に蒸発させた。青の水溶液が何かがわかった。前の授業ではわからなかったのに。この液体の正体がわかった。「水」。
心の中でガッツポーズ。青がわかったことで、次々にわかる。
さっきアルカリ性だったのが、たぶん「アンモニア水」か「石灰水」。
　この勉強で、一番達成感を味わうことができた。

また、他教科（理科）でも、随筆性を帯びた文章を書く児童が続出した。これこそまさに、生きて働く言葉の力が育成されたことを裏付けた例であろう（資料 15）。

資料 16　児童の書き上げた随筆の一例



資料 16 の随筆は、「できるようになってきた」という内容を表す、まさに、「効力感」をテーマにしたかのような随筆である。児童は、この随筆のように、ある瞬間から、「できるようになってきた」という手応え感をつかんだのだろう。それは同時に、ステージが上がり、意欲が高まった瞬間であったのだろう。意欲が高まることで、学びが持続していったととらえることができる。

本実践を通して、教材の配列を変えたり、練習単元を導入したりすること（カリキュラム･マネジメント）で、「これならできそうだ」という「期待感」を生み出すことができた。言い換えると、効果的にカリキュラムを仕組むことで、児童は、「学習方法」という武器をもって、学習に向かうことができ、ステップを低めることができた。

また、「問題」の「解決」過程（試行錯誤過程）を通して、児童は、「獲得感」を伴った効力感を実感することができ、学びが持続したことが本実践を通して実証できた。

今後は、「効力感」を実感する際の指標となるべく、検証方法を精緻化し、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、日々精進を重ねていきたい。

1　文部科学省　教育課程部会（2015, 3）『資料 6「言語活動の充実に関する検証改善」の成果について』
2　新座市立大和田小学校『平成 29 年度研究紀要』参照
3　入れ子構造とは、1 時間の学習時間の中で、前半に習得した学習方法を用いて後半に活用を図る学習の枠組みのこと。ＡＢワンセット方式とは、1 時間の学習時間で習得した学習方法を用いて、次の 1 時間の学習で活用を図る学習の枠組みのこと。（文部科学省前教科調査官の水戸部修治氏提唱）
4　鹿毛雅治『学習意欲の理論　動機づけの教育心理学』金子書房 ,2013,p.39
5　同上書 p.72
6　鹿毛雅治『子どもの姿に学ぶ教師－「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」－』教育出版 ,2007,pp.72-73
7　鹿毛雅治『学習意欲の理論　動機づけの教育心理学』金子書房 ,2013,p.252
8　倉澤栄吉『倉澤栄吉国語教育全集第 9 巻』角川書店 ,1989

自己肯定感と集団意識の改善を目指した体育授業半年間の実践記録

～基礎の定着と学び合いの充実を両輪として～

さいたま市立西浦和小学校　中　村　直　紀

Ⅰ　研究の動機

AIの進化、グローバル化、生産年齢人口の減少等を受け、社会は今後ますます予測困難なものになっていくといわれている。平成27年文部科学省提出資料には、「今後10～20年で、約47％の仕事が自動化する」「2011年に小学校に入学した子供の65％は、今存在していない職に就く」という、米国教授の予測も示された。このような状況を受け、平成32年度全面実施の新学習指導要領では、「生きる力」の理念をより具体化した「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の「資質・能力の３つの柱」が明記される。

私は、13年間の担任経験と10年間の体育主任経験を通し、「生きる力」すなわち「知・徳・体」は、よい体育授業を通して実現できると確信している。それは、体育が「知・徳・体」の「体」だけを意味するのではなく、よい体育授業の中には、運動の行い方や練習の仕方、運動の意義や価値についての「知」や、公正・公平・協力・責任・参画・共生等の「徳」が内包されているためである。よい体育授業を通し、児童の「知・徳・体」をバランスよく育んでいくことは、今後の体育科教育に求められる大きな責務となるだろう。また、よい体育授業を通し、「練習をしたら上手になった。」「自分は、やればできる。」「友達と協力したり、競い合ったり、応援し合ったりすることは楽しい。」といった経験を多く積み重ねることは、児童の自己肯定感や集団意識にも良い影響を与えるに違いない。そして、自己を信じ、他者と協力して課題を解決していく力は、予測困難な未来を、児童が自らの力で切り拓いていくために、必要不可欠なものとなるであろう。

以上の理由から、研究主題を設定し、数年間研究に励んでいる。

Ⅱ　研究主題

よい体育授業を通した体力向上と、
自己肯定感・集団意識の改善
―基礎の定着と学び合いの充実を両輪として―

「よい体育授業」の定義は、先行研究調査の結果、高橋健夫教授の「よい体育授業の基礎的条件（＝「学習従事時間の確保」「学習規律の確立」「明るく肯定的な関わり」）と内容的条件（＝「学習目標が明確」「教材教具が工夫」「学習方法のスタイルが多様」「教師の指導性が明確」）を参考とし、単元計画や毎時間の授業計画作成の際に意識した。「体力向上」は、体育授業に期待される責務であると同時に体育授業の絶対条件であると考え、主題に取り入れた。「自己肯定感と集団意識」は、先述のとおり、よい体育授業の実践によって実現可能であるとともに、今後の社会において必要不可欠な資質であると信じ、主題に取り入れた。

主題達成のための具体的方策として、「基礎の定着」と「意図的な学び合い」を両輪として、授業を計画し、実践している（詳細は「４仮説と手立て」に後述）。

Ⅲ　児童の実態

児童の自己肯定感と集団意識の実態を把握するため、アンケートを行った。アンケートは、さいたま市教育委員会作成の「心と生活のアンケート」を参考とした。自己肯定感については、「自分のことが好き」「自分にはよいところがいっぱいある」「頑張ろうと思えばいつでも頑張れる」「友達から頼りにされている」「やる気になれば大抵のことはできる」の５項目、集団意識については「友達は私の考えや意見をよく聞いてくれる」「友達は困ったら相談に乗ってくれる」「周りの人を信頼している」「クラスは明るくて楽しい」「信頼できる友達がいる」の５項目で調査をした。「はい」を４点、「どちらかといえばはい」を３点、「どちらかといえばいいえ」を２点、「いいえ」を１点として計算し、自己肯定感、集団意識ともに合計点を20点として平均点を算出し、実態を把握した。

４月（体育授業開始前）の、自己肯定感、集団意識の実態は下表のとおりであった。

自己肯定感	集団意識
13.40　／20	14.12　／20

アンケートは、体育単元の終了時（約１ヶ月毎）に毎回行い、その推移を追った。

また、体力の向上については、単元の開始時と終了時に、単元の主運動に関連した簡単な運動についての効果測定を行い、実態把握に努めた。また、「学びに向かう力」も体力の一側面と捉え、単元の開始時と終了時に「体育授業が好きか」と、「今回の単元で取り扱う運動が好きか」についても調査を行った。４月時点で「体育が好き」「どちらかといえば好き」な児童は、79％（26人／33人）であった。

Ⅳ　仮説と手立て

※領域や単元によって授業に取り入れられる手立てが異なる。それぞれの手立てをどの単元の学習において実施したかは、「５　授業実践⑴」の表参照。

仮説①単元に関わる基礎的な運動の内容や行い方を工夫し、効率良く行うことで、児童の体力が向上するだろう。

手立て⑴自校体操の検討、作成、実施
・平成29年度体力テストの結果により明らかになった、本校の体力的課題に正対した内容の運動を含む準備運動

手立て⑵運動のオノマトペの考案と指導

手立て⑶パワーアップタイムの内容精選と充実

手立て⑷ドリルゲームの内容精選と充実
・個人的技能の習熟、習得を目的とした簡単な記録達成型ゲーム

手立て⑸掲示物の工夫による運動のポイントの可視化

仮説②教師が時間・内容を考え、意図的に学び合いの時間を確保することで、児童の体力が向上するだろう。

手立て⑹各時間の、重点を絞った技能指導の実施・思考場面の設定

手立て⑺教師による「問い」が事前に印刷された問いかけ形式のワークシートの活用と、記述内容の伝え合い

手立て⑻技能の優れた児童による示範の演示
・見るポイントの指導
・教師による「つまずきの例」の演示

手立て⑼タブレットを用いた児童相互の撮影と伝え合い

手立て⑽等質ペアによるスモールステップ学習

手立て⑾集団達成型の授業展開
・個人種目を得点化し、学級全員の合計点を算出。学級全員が一丸となっての学級記録向上を目指す。

手立て⑿本時の課題に即し、話し合う内容を絞った作戦タイムと振り返りタイム

手立て⒀タスクゲームの内容精選と充実
・集団の技術的、戦略的能力の育成を目的とした、課題の明確なゲーム

手立て⒁得点シーン分析による、よい動きの発見

仮説③上記①②を達成した体育授業を通し、児童の体力が向上していくことを通して、児童の自己肯定感が高まると同時に、児童相互の人間関係や学級集団への帰属意識にも、良好な影響が見られるだろう。

手だて⒂児童同士の絆を深め、仲間意識を強める時間の確保
・円陣・ハイタッチ・グッジョブタイム

手立て⒃アンケートの活用と、効果測定による客観的評価

Ⅴ　授業実践

１　単元で取り入れた手立て一覧表

仮説①　基礎の充実に関して取り入れた手立て

月／単元／手立て	４月 バスケ	５月 走り 高跳び	６月 リレー	９月 走り 幅跳び	10月 跳び箱	11月 サッカー
⑴自校体操	○	○	○	○	○	○
⑵オノマトペ	○	○	○	○	○	○
⑶パワーアップ	○	○	○	○	○	○
⑷ドリル	○					○
⑸掲示物	○	○	○	○	○	○

仮説②　学び合いの充実に関して取り入れた手立て

月／単元／手立て	４月 バスケ	５月 走り 高跳び	６月 リレー	９月 走り 幅跳び	10月 跳び箱	11月 サッカー
⑹重点技能	○	○	○	○	○	○
⑺教師の問い	○				○	○
⑻児童示範	○	○	○	○	○	○
⑼タブレット		○		○	○	
⑽スモールステップ					○	
⑾集団達成		○	○	○		
⑿作戦／振り返り	○		○			○
⒀タスク	○					○
⒁得点シーン	○					○

2　各授業詳細

⑴　４月　バスケットボール

ア　基礎の定着

・毎時間の自校体操の実施

・ツーハンドシュートのオノマトペの考案と指導…「おにぎり（構え）、チョウチョ（フォロースルー）」

・パワーアップタイムの実施…音源に合わせ、ボールハンドリングやスロー、キャッチ、ドリブル等。

・ドリルゲームの精選と充実…「どんどんフリースロー（１分間で何度もシュートを打つ。シュートが入れば２点、バックボードに当たるだけでも１点）」と「ジグザグドリブルレース」

・掲示物の工夫…シュートのフォーム、攻めのポイント、守りのポイント、リーグ表

イ　学び合いの充実

・重点を絞った技能指導の実施と思考場面の設定

←児童の実態に即した課題の提示

・教師の「問い」が事前に印刷されたワークシート…例：「センターにいる仲間からゴール下でパスを受けるためには、どのように動けばよいでしょうか。」

・児童による示範の演示

・内容を絞った作戦タイムと振り返りタイム

・タスクゲームの精選と充実…ゴール下のスローインから始める、３ｖｓ２（攻撃側有利）のアウトナンバーゲーム

←ゲームの様子

・得点シーンの分析による、よい動き方の発見

⑵　５月　走り高跳び

ア　基礎の定着

・毎時間の自校体操の実施

・はさみ跳び（５歩助走）のオノマトペの考案と指導…「１，２，１，２，ブン！」

・パワーアップタイムの実施…「ミニハードル横跳び越し」「バスケゴールタッチ」「大縄８の字跳び」「足ジャンケン（滞空中は後出しあり）」のローテーション

・掲示物の工夫…はさみ跳びのフォーム、得点表

イ　学び合いの充実

・重点を絞った技能指導の実施と思考場面の設定

・児童による示範の演示

・タブレットを用いた撮影と伝え合い

←技能の優れた児童による示範

・集団達成型の授業展開…跳べた高さを得点化し、学級の合計点を算出。一丸となって学級全体での向上を目指す。

←合計点を計算中

⑶　６月　リレー

ア　基礎の定着

・毎時間の自校体操の実施

・バトンパスのオノマトペの考案と指導…「ゴー、はい、もらって、持ち替え」

←オノマトペを意識した、バトンパスの練習

・パワーアップタイムの実施…20mのサーキットランニング（大股走、スキップ走、けんけん走等

・掲示物の工夫…バトンパスの仕方、タイム表、得点表

イ　学び合いの充実

・重点を絞った技能指導の実施と思考場面の設定

・児童による示範の演示

・集団達成型の授業展開…全チームの合計タイムを算出。学級全体で一丸となってのタイム短縮を目指す。

・内容を絞った作戦タイムと振り返りタイム…走順や、走り出すタイミングについて

←レース前の作戦タイム

⑷　９月　走り幅跳び

ア　基礎の定着

・毎時間の自校体操の実施

←投フォーム

・かがみ跳びのオノマトペの考案と指導…「ダン（踏み切り）、く（空中姿勢）、ん（着地）」

・パワーアップタイムの実施…踏み切り板を使った力強い踏み切り練習、跳び箱の１段目を使った空中姿勢練習、ダンボールを用いた跳ぶ角度の練習

←空中姿勢の練習

・掲示物の工夫…かがみ跳びのフォーム、得点表

イ　学び合いの充実

・重点を絞った技能指導の実施と思考場面の設定

・児童による示範の演示

・タブレットを用いた撮影と伝え合い

・集団達成型の授業展開…跳べた距離を得点化し、学級の合計点を算出。一丸となって学級全体での向上を目指す。

⑸　10月　跳び箱

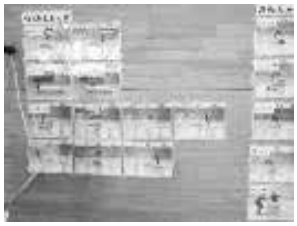
ア　基礎の定着

・毎時間の自校体操の実施

・開脚跳びのオノマトペの考案と指導…「ダン（踏み切り）、ふわ（第一空中局面）、とん（着手）、スタ（着地）」

・パワーアップタイムの実施…「ゆりかご」「うさぎ跳び」「壁倒立前転」「ステージへの跳び乗り／ステージからのゆりかご降り」のローテーション

・掲示物の工夫…技の連続写真



←跳び箱の掲示物

イ　学び合いの充実

・重点を絞った技能指導の実施と思考場面の設定

・教師の「問い」が事前に印刷されたワークシート…例：「開脚跳びと台上前転では、着手の位置がどう違いますか。」

・児童による示範の演示

←技能の優れた児童による示範

・タブレットを用いた撮影と伝え合い

←タブレットを活用し伝え合う様子

・等質ペアによるスモールステップ学習

←ペアでのスモールステップ学習

⑹　11月　サッカー

ア　基礎の定着

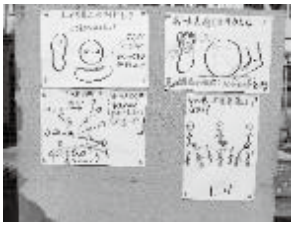
・毎時間の自校体操の実施

・インサイドキックのオノマトペの考案と指導…「真横（立ち位置）、ぐっと引く（足の引き）、内側コツン（インパクト）、フワッスタ（フォロースルー）」

・パワーアップタイムの実施…「ワンバウンドリフティング」「コート内入り混じりドリブル」

・ドリルゲームの精選と充実…「ボール出しサバイバル（１人１球ボールを保持。自分のボールを守りながら友達のボールを蹴り出す）」「ボール当てコーン倒し」

・掲示物の工夫…シュートのフォーム、ディフェンス／オフェンスの立ち位置



←サッカーの掲示物

イ　学び合いの充実

・重点を絞った技能指導の実施と思考場面の設定

←本時の課題に対する思考場面

・教師の「問い」が事前に印刷されたワークシート

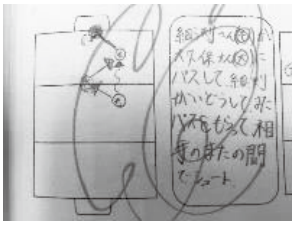
・児童による示範の演示

・内容を絞った作戦タイムと振り返りタイム

・タスクゲームの精選と充実…「川渡りドリブル（コートを縦に３分割。中央３分の１にのみディフェンスがいる。オフェンスは、ディフェンスをドリブルでかわし、シュートをねらう。）」「川渡りパス（同様に、中央３分の１にいるディフェンスをかわして、向こう側にいる仲間へパスを通す。）

←タスクゲームの様子

・得点シーンの分析による、よい動き方の発見

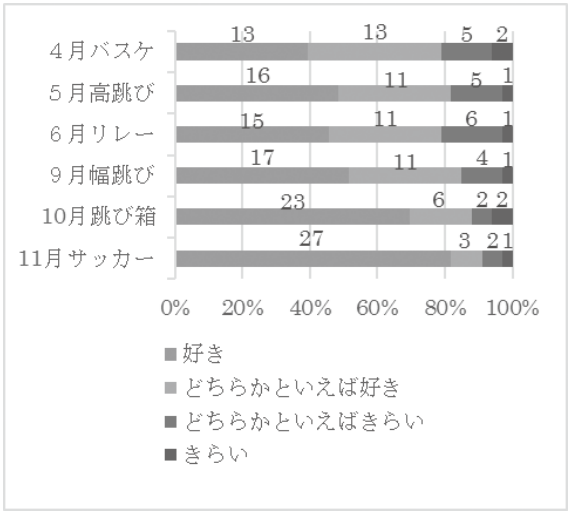


←得点シーンを分析するワークシート

Ⅵ　成果

１　体力の変容について

⑴　「体育の授業が好きか」の変容



⑵　各単元における効果測定の結果

※技能調査は、全て男女合計の平均値

①　４月　バスケットボール

調査項目	単元開始時→終了時
バスケットボールが好き／どちらかと言えば好き	72%→91%
１分間フリースロー	4.6本→5.8本
20m折り返しドリブル走	14.86秒→12.88秒

②　５月　走り高跳び

調査項目	単元開始時→終了時
走り高跳びが好き／どちらかと言えば好き	69%→88%
走り高跳びの記録	82.4cm→92.8cm

③　６月　リレー

調査項目	単元開始時→終了時
リレーが好き／どちらかと言えば好き	81%→96%
６チーム平均タイム	1分31秒→1分25秒

④　９月　走り幅跳び

調査項目	単元開始時→終了時
走り幅跳びが好き／どちらかと言えば好き	79%→91%
走り幅跳びの記録	298cm→318cm

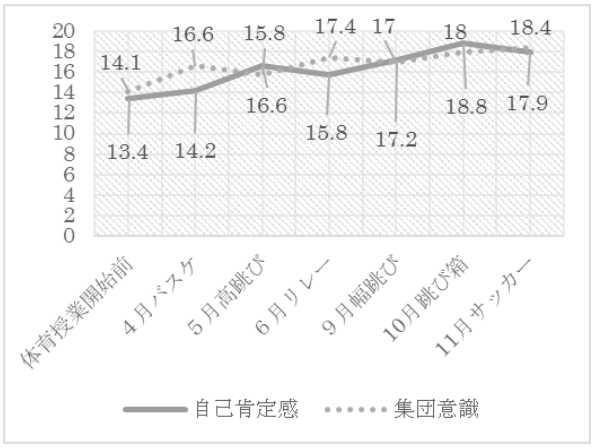
⑤　10月　跳び箱

調査項目	単元開始時→終了時
跳び箱が好き ／どちらかと言えば好き	74%→92%
６段で開脚跳びができる	28人→31人
６段で台上前転ができる	21人→29人
６段で頭はね跳びか 首はね跳びができる	2人→17人

⑥　11月　サッカー

調査項目	単元開始時→終了時
サッカーが好き ／どちらかと言えば好き	82%→96%
30秒間リフティング（バウンド可、落としても続きから再開）	9回→12回
20m折り返しドリブル走	15.9秒→14.34秒

２　自己肯定感と集団意識の変容について



３　成果のまとめ

○「体育が好き／どちらかと言えば好き」な児童が、４月から11月で79%から91%に向上した。また、その中でも「どちらかと言えば好き」の割合が減り（39%→9%）、「好き」の割合が大幅に増加（39%→82%）した。様々な手立てが効果的に作用し、児童の学びに向かう力の向上につながったといえる。

○全単元の学習前後において、「その単元の主運動が好き／どちらかと言えば好き」な児童数に増加がみられた。

○全単元の学習において、効果測定の結果、児童の体力に向上がみられた。

○４月からの半年間を通して、児童の自己肯定感、集団意識ともに、多少の増減を繰り返しながらも、高い水準へと収斂されていった。

Ⅶ　課題

●各調査項目や効果測定において、学級全体でみればいずれも改善・向上がみられたが、個人に目を向けると、伸び悩む児童もいた。個や小集団に応じた支援、声かけの仕方を研究していく必要がある。

●体力には向上がみられたものの、体力向上の効果測定方法については、今回行ったものが最適であったかどうか、さらに研究を深める余地がある。

●器械・陸上運動では自己肯定感が、ボール運動では集団意識が向上する傾向がみられた。今後は集団意識をさらに向上させる器械・陸上運動授業の在り方、自己肯定感をさらに高めるボール運動授業の在り方について、研究を深めていく。

●水泳学習（７月）と運動会練習（９月後半）は、学年での合同体育となったため、研究主題と関連付けて行うことができなかった。今後は自身の研究を学年、学校へと広げていき、学級の枠にとらわれない指導方法の確立を目指す。

●成果と課題を踏まえ、今後半年の研究、さらには次年度以降の研究につなげ、体力、自己肯定感、集団意識の改善に資するよい体育授業の姿を明らかにしていく。

Ⅷ　参考文献

１　文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説　体育編』東洋館出版社

２　文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説　体育編』文部科学省ホームページより

３　文部科学省（2010）『学校体育実技指導資料　第８集　ゲーム及びボール運動』東洋館出版社

４　文部科学省（2016）『学校体育実技指導資料第10　器械運動指導の手引き』

５　高橋健夫（2010）『新版　体育科教育学入門』大修館書店

６　高橋健夫（2003）『体育授業を観察評価する』大修館書店

７　岩田靖（2016）『ボール運動の教材を創る』大修館書店

８　池田延行編著（2015）『新しい走・跳・投の運動の授業づくり』大修館書店

平成30年度

記念講演会

「これからの学校教育について」

共栄大学教育学部　教授　濱　本　　一　氏

＜記念講演＞

「これからの学校教育について」

共栄大学教育学部　教授　濱　本　　一　氏

1　はじめに

皆さん、こんにちは。

今、鏑木会長様から、過分なるご紹介をいただきました濱本です。会長様とは、大変長いお付き合いで大変お世話になりました。また、本日は総会も成功裏に終わられまして、おめでとうございます。

私もこの研究会には、特別活動、算数数学部会にも入っており、若いときから本当に鍛えていただきました。行政に携わったときにも校長先生方に大変お世話になり助けていただきましたので、この会には大変感謝しております。今日は、大変お世話になった先生方のお顔を久しぶりに見られて、嬉しい限りです。

2　学校とは・・・

まず、皆さん、学校とは何ですか。保護者から聞かれたとき、「校長先生、学校とは何ですか。」と聞かれたら、どう答えますか。学校教育法第１条、学校とはでもいいですが。学校とはいったい何ですか。その点がぶれてしまうと、これは学校経営がすごく難しくなります。

校長先生方それぞれ、考えられていらっしゃると思いますが、私はこのように考えます。

①子供たちにとって「安心で安全な場所」、そして、次に②子供たちが「成長できる場所」です。それは、成績も学力もあるかもしれない。また、スポーツの得意な子はもっと得意になるかもしれない。とにかく、子供一人一人のよさや可能性を成長させる場所。そして、③子供一人一人が成長を実感し「自信をつけさせられる場所」。④最後は、校長先生の職務権限の１つに卒業認定があります。卒業させるということは、安心で安全な場所で子供たちが成長して、自信をつけて最後、社会に出て「自立」できるような子供の資質・能力を身に付けさせる場所が学校だと思います。そして、校長先生は自立というところまで考えていないといけないと思います。校長先生は最終の責任者ですから。

最近、大学で学生を教えていて、将来、教職を目指す学生を教えていて、改めて、学校とは、大学ですけど、「心づくりの場」だと思っています。先生になろうという学生が、例えば、授業中寝ているようでは駄目でしょう。また、言葉遣いとか、茶髪などどうでしょうか、将来、教職を目指す学生としての自覚、心構え、すなわち「心づくり」が大事だと痛感しています。心づくりをしないと、心ある先生にはならないと思っています。校長先生方はじめ先生方、子供たち、保護者に御迷惑をかけてしまう教員とならないように。

一方で校長先生は、ややもすると子供の方ばかり見てしまいますが、やはり、教職員を大切にしなければいけないと思います。直接、子供たちを教える、指導するのは教職員だからです。

教職員を大切にしている校長先生は、教職員一人一人が生き生きとした学校経営をしている。校長先生を中心として教職員に一体感がある。だから、教育というのは「心づくりの場」だと思います。そういう中で、教職員をどのように育てていくかというと先生方のよいところを見付けてあげて、子供と同じで、見付けて伸ばしてあげて自信をつけてあげることです。

どの先生も自分のよさを最大限出せるように、自分のよさや可能性を出させてあげることが大事です。そうすると自校での「働きがい、生きがい」を高めていき、よりよい学校経営となっていきます。

まさしく「教育は人なり」です。

一方、子供たちのよさや可能性を見いだし伸ばすために、県の学調（学習状況調査）をリニューアルしました。どういう形にするかと、県学調のリニューアルについて１年間以上検討しました。そこで、一番私が変えたかったことは、具体例として全国学テ（全国学力学習状況調査）で算数数学が悪かったので、算数数学の先生が、授業改善を日々やっているのになぜ上がらないのか、どうすればいいのかわからなくなってしまい頭を抱えていました。その状況、先生方が常にマイナス思考であったので、是非プラス思考にしたかったのです。ですから、子供のよさを伸ばしていこうと、埼玉県は。そこで、県学調は経年変化から、子供一人一人の伸びをみて、自信をつけさせることができるものにしようと。自信がついたら次は不得意なところを

相乗的に上げていこうというコンセプトです。

みなさん、県学調を子供たちのために活用していますか。さいたま市の先生方は市独自のものがありますが、どちらも願いは同じです。是非そういう見方で使ってほしいと思っています。

次に、「鳥の目」、「魚の目」、「虫の目」の見方です。

「鳥の目」、校長先生は教育がどういう方向に向かっていくのか、今後、未来を担う子供たちにどのような資質・能力を身に付けさせなくてはいけないのかなどを鳥が空高く飛んで先をみるように広い視野をもつという目です。

そして、「魚の目」、これは、魚というのは川や海の流れに沿って、その流れを読み泳いでいる。流れというのは、今の社会の流れ、流行、トレンディな視点をつかむことです。社会は、教育は今どんな流れなのか、何が重要なのか、これから何を進めなければならないか。例えば、プログラミング学習とか、今の求められている教育内容があります。それをどれだけ押さえて、具現化していくかです。

もう１つは、「虫の目」で、「虫」というのは、虫は地べたをはいつくばっています。つまり、現場意識をもつことです。例えば、教育委員会で現場意識がないと校長先生は困ってしまいます。学校現場を考えずに、ただ一方的な指示・命令では、ただ理不尽さとトップダウンだけが残ってしまい、「共助」の精神が薄れてしまう。学校は当然のこと行政を携わる方も常に現場意識をもちながら、「共助」で教育の充実を図ることが大切です。教育委員会は施策の実施などもありますが、お互いがそれぞれの立場などを理解しながら取り組むことによって、よりよい教育を、教育の質を高めることにつながります。

「虫の目」は現場意識であり、学校は「教育の最先端」です。現場が機能しなければ効果はないのです。学校は最前線ではありません、最先端です。

その「教育の最先端」の学校を支援できる地域との連携の仕組みとして、学校応援団を作りました。

学校応援団は、今後、国の動きとして、社会教育法が変わり、「地域学校協働活動」となっていきます。地域学校協働活動事業が動き出します、地域が学校を助けましょうと、埼玉県は学校応援団が担ってもらっていますが、地域学校協働活動は学校応援団を含めたくさんの支援活動を１つにまとめ、そして、校長先生から活動本部に具体的な支援の依頼をすれば、活動本部に登録している地域の関係者が学校に来て支援してもらえる仕組みが地域学校協働活動です。これは教育委員会が立ち上げることになり、１つの働き方改革につながるでしょう。

次に、新学習指導要領が告示されましたが、新学習指導要領のコンセプトは何でしょうか？

AIの時代とか、グローバル社会とか言われ、ニューヨーク大学の先生はこれからの子供たちの65％は違う職に就くだろうと、オックスフォード大学の先生は、後10年か20年したら今の仕事の半分以上はロボットがやると。これからは快適な時代になり、我々の老後は大丈夫です。すべてロボットが面倒を見てくれるかもしれません。今までの時代は、ロボットがやろうとすることを人間がやっていた。それをロボットが担うと間違いもない、人件費もかからない。これからはこれまで人間がやっていた仕事をロボットがやることになりますので、これからの子供たちはどんな職に就くのでしょうか。仕事に就ければいいが、本当に仕事があるのか。仕事に就けなければフリーターとかニートの子が増えることになるでしょう。職に就きたくても就けない。でも、生活のためにはお金が必要ですが職に就いてなければ収入はない、そこで手早くお金を手に入れるためにどうするか？万引きとかの犯罪です。

将来、そのような大人にならないよう、子供たちが社会的・職業的自立が図れるための資質・能力の育成を目指しているのが新学習指導要領だと私は思います。

だから３つの柱の最後が「学び続ける力」と「人間性」なっていると思います。どのようにこれから自分が生きていくのか、そのためにはどのように学び続けていけばいいのか、学び続ける力が求められ、また、社会や世界にどう貢献するのか、貢献力とかというものも求められている。だから、子供たちが将来への道、生き方を自分でしっかりと見付け、その実現に向けて努力する力を育成することが大切です。だからこそ、「キャリア教育」が総則で新たに示され、特別活動を中心に取り組むよう示されている。未来を担う子供たちのためにしっかりと「学び続ける力」と「人間性」を育成していきましょう。

３　今、教育課題は・・・？

今、現実の課題、先生方の年齢構成です。今、20代から30代の山と50代の山の二極化となっています。校長先生方、大変だと思います。片方はベテラン、片方は若手となっており、ミドルリーダーが少ない状況です。今後５年すると再任用があったとしても、この55歳から60歳代の山が全部退職されます。

ということは、この部分を賄うために教員を新採用するともっと若手が増えてくる。こういう状況です。

このような中、暴力行為が多い一番多い校種はどの校種でしょうか？

中学校は発生数は多いですが、今、増加傾向にある

のが小学校です。そして、この子たちが育って中学校に進みます。子供の暴力行為の要因として、家庭の状況もありますが、先生が若すぎて指導が十分にできないという面もあると思います。若い先生を見ていると力のある先生もいますが、教えるのではなく威圧で抑え込む先生もいます。心づくりをしていない、心づくりの指導力を伝えなければならない、誰が伝えるのかというとベテラン教師です。ベテラン教師が少なくなっているからこそ、これからは「チーム学校」として一体感をもった学校経営が必要でしょう。

次の不登校ですが、不登校児童生徒数は年々増加傾向にあります。小・中学校での不登校の要因を見てみると調査項目には小・中学校とも本人に係る要因について５つの項目があり、「学校における人間関係」、「非行」、「無気力」、「不安」、「その他」です。それぞれの項目で学校内での要因を見ると、どの項目も多いのが人間関係の問題で、いじめを除く友人関係をめぐる問題のパーセントが高い。次が学業の不振です。勉強がわからないから不登校になってしまうということです。もう１つは、小・中学校共に高いパーセントが家庭にかかわる要因です。ですので、小・中学校共、これからさらに家庭との連携をしていかないと難しい傾向にあります。

そこで、学校に係る大きな課題は、人間関係の問題、学業の不振、家庭との連携の３つです。学校における人間関係の問題が主な要因ですが、一方で教職員との人間関係をめぐる問題で不登校になる数値が小学校では高い状況があります。つまり、先生とうまくいかない、先生がうまく指導できないのかもしれない。これは由々しき問題で、他の先生だったらその子は不登校ではなかったかもしれない。先生によって子供が不登校になってしまうということになります。

中学校も同じです。人間関係をめぐる問題、学業の不振、そして家庭での問題です。今、学校は家庭との連携もしっかりとしなければいけないし、一方、学校だけで見てみると、人間関係づくりと学業をどのように高め、よりよくしていくかが喫緊の課題です。これらの不登校等のデータは県のホームページを見てもらえれば分かります。これが現実です、是非データを見て、自分の学校はどうなのかと課題を明確にし、その対策を立て取り組まなければいけません。目の前の子供たちは待ってくれませんから。

更に、教育課題として、新学習指導要領への円滑な完全実施、働き方改革、最後に教職員の不祥事根絶です。これらは大きな課題です。

今日は、主に新学習指導要領の円滑な実施についてお話ししたいと思います。校長先生、「社会に開かれた教育」とは何ですか。「カリキュラム･マネジメント」とは何ですか。「アクティブ･ラーニング」は何ですか。「主体的・対話的で深い学び」とは何ですかと先生方や保護者に聞かれたらどう答えますか。

では、「社会に開かれた教育課程」と「カリキュラム・マネジメント」、「主体的・対話的で深い学び」はどのように関わっているのでしょうか。これは「主体的・対話的で深い学び」から考えてみると分かりやすい。

子供たちに「生きる力」、そして「学び続ける力」、「学びに向かう力」と「人間性」をつけるために、子供たちが主体的に学ぶために、まず「主体的・対話的で深い学び」の授業改善をしてくださいということです。

では、「主体的・対話的で深い学び」をしましょう。小学校は１時間が 45 分間でその中で主体的・対話的で深い学びをしましょう。導入は５分間、実際は問題の意識付けをしたりして５分間以上使っていますが、次に自力解決、自分で考えないと話にならないですから、今まで以上に時間の確保は必要です。15 分間くらい自分で考え、自力解決する。理解の早い子は短い時間で大丈夫ですが、理解の遅い子もいますから、余裕ある時間をとる。そして、それぞれの自力解決ができたら、今度は対話的な学習になり、自分の考えや意見を述べ、どの子もわかるように意見が言えるようにしてあげると 25 分間から 30 分間は必要です。そして子供一人一人のしっかりした学習の定着を図るためには振り返りが欠かせないので 10 分間ぐらいは必要である。そして、まとめの時間と、全体を通して、45 分間には終わらない、できない。45 分間では難しい、ではどうするのか？です。

そこで、この１時間の授業を次の時間にも繰り越して、例えば、２時間扱いとしてみる。１時間目は対話的な学びまで、次の時間はそれをまとめて振り返り、みんなで深い学びにしていく形で、１時間扱いという局所的なものの見方ではなく、単元や領域で考えてみましょうということです。

単元或いは、領域で見れば主体的・対話的で深い学びをこういう形で組めます。時間に余裕が出れば先生も指導的な場面を入れられる。こういう計画を組んでいきましょう。単元が 10 時間扱いでしたら、10 時間の２コマをこのような計画でやる。また、例えばこの時間には地域の方の支援員に入ってもらうなどの単元や領域の計画を組み替える。すなわちカリキュラムを練り直しマネジメントをします。年間指導計画を変えます。計画を変えれば当然、指導と評価は一体ですから、評価をしなくてはいけない。そこには当然 PDCA が必要となり、今までどおりの PDCA ではありません。主体的・対話的で深い学びを充実させるた

めに、全体のカリキュラムを練り直す、授業や単元が終われば PDCA で評価をしなくてはいけない。だから、新たにカリキュラム・マネジメントで PDCA をしましょうということです。まず、主体的・対話的で深い学びでの授業改善が必要だから、カリキュラム・マネジメントをしなくてはいけない。

さらに、カリキュラムを変えれば、地域なり保護者に説明しなくてはいけない。本校は、主体的・対話的で深い学びの授業改善からカリキュラム・マネジメントし、また地域の教育力をお借りして、このような授業、教育活動をしますと説明責任を果たさなければならない。それが、「社会に開かれた教育課程」です。社会というか地域、保護者かも知れません。

新学習指導要領では、社会に開くという大きな枠で見て、次に新たな計画についてカリキュラム・マネジメント、そして、授業改善の主体的・対話的で深い学びに繋がっていく構成になっています。それを、校長先生方がしっかりと理解して新学習指導要領の総則を先生方に校内研修等で説明してあげてください。そうすれば、先生方一人一人がマネジメント力をつけなければいけないことがよく分かると思います。

また、いじめの認知件数ですが、いじめの要因も人間関係とか学業の不振などから生じることが少なくない。だからこそ、これからの校内研究のテーマは、まず学級づくり、すなわち人間関係づくり、それと子供主体の分かる授業への授業改善です。この二本立ての両輪でないといけないと思います。

そこで、授業改善の視点ですが、新学習指導要領が目指す「資質・能力」として「３つの柱」が示され、この３つの柱は学習指導要領改訂の方向性、具現化を表しています。

「何ができるようになるか」という視点を３つに捉え、第１を「知識・技能」、第２を「思考力・判断力・表現力等」、そして最終的には「学びに向かう力・人間性等」への育成です。これは、子供だけのことではなく我々もそうです。先生としての知識・技能、思考力・判断力・表現力などを常に学び続け、学び続ける力、人間性を高めなくてはいけません。そして、この３つの柱の根拠は学校教育法 30 条第２項の「学力の３要素」にあります。

日本の子供たちは記述問題を前向きに答えない。欧米の子供たちは、感性豊かで自分の気持ちをしっかりと書きますが、日本の子供たちは、正解が分からなければ書かない。分からなければ考えようとしない。間違えるのを拒む傾向にあります。だから、学力の３要素で「主体的に学習に取り組む態度」も学力の要素になりました。学校教育法第 30 条で情意面も学力の要素として法律で定められました。

この学力の３要素の法律の下、新学習指導要領の３つの柱ができ、これからの資質・能力として「学びに向かう力」とか「人間性」となっているわけです。

４　新学習指導要領でどう変わる？

「新学習指導要領でどう変わる？」について、今は移行措置期間ですが、新学習指導要領への全面実施に向けて各学校で提案していきましょう、打ち出しましょう。何を打ち出すかと言いますと、例えば、今年の校内研修は人間関係づくりと各教科等を通して１つの共通の研修テーマを決める。その共通のテーマが「教科等横断的な視点」です。

そして新学習指導要領の趣旨に沿った学習指導案を書いていく。そこで、学習指導案の書き方、様式を各学校で決めていく。具体的には学習指導案の項目の中に「主体的・対話的で深い学び」の項目を入れ、授業改善の意識化を図ることが大切です。今までの学習指導案のままでは意識が変わらないので、本校の学習指導案の形式を新たに定め、項目の１つに「主体的・対話的で深い学び」を入れ込み、先生方がどのように「主体的・対話的で深い学び」を捉えているのかを文字にして表わしていくことによって、先生方の考えが深まっていきます。

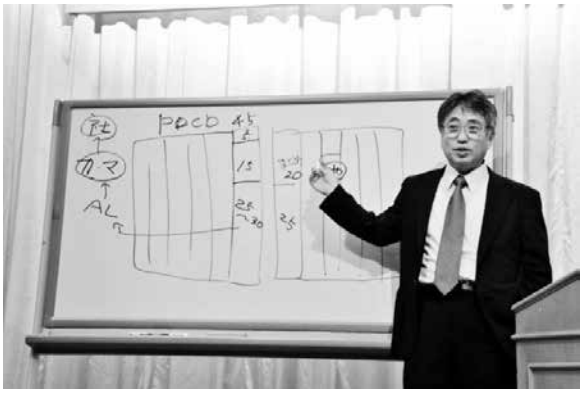
この授業の主体的な学びとは、また対話的な学びとはこのように捉える。深い学びを、このように捉えているという意識化をこの２～３年間位はやらないと先生方の意識は変わらない。それを具体的に指導してもらうには市町村の指導主事にお願いすればいい。そのために指導主事がいます。それを１つずつ積み上げて、この２年間の移行期間中に「主体的・対話的で深い学び」ということの意識を高めれば、新学習指導要領の円滑な実施はうまくいくのではないでしょうか。

もう１つ円滑な実施に向けて大切なことは、小中連携です。子供たちはどのような学びの連続性をもっているのかを踏まえて教育課程を編成していくことが大切です。子供たちはどこでつまずいたのか、これからどのような学習をしていくのかを小・中学校９年間を通して捉えていかないといけない。そのような指導過程の先に子供たちの「学びに向かう力」、「人間性」があるので、今、強く小中連携が求められています。

次に、教育課程の実施に工夫しいている例を挙げてみます。これは人材育成にもつながる話ですが。

日本海側の県で全国学力学習調査が躍進した県ですが、今、県教委も注目しています。この県では、ここ４～５年かけて、中学校の各学年が６クラスあったとしたら、例えば今まではそれぞれの学年で数学の先生

が１人いて、学校では数学の教員が３人でそれぞれ自分の学年を指導していたものを３人いたら中１･中２･中３の１組･２組があなた、中１・中２・中３の３組・４組があなた、中１・中２・中３の５組・６組があなたと学年を超えて担当をしている。教材研究は大変です。試験を作るのも大変ですが、３年間経ったら、この先生方は先を見通した指導、そして教科内での検討などを通して若手がベテラン教師から多くのことを学び、指導力が向上していった。その結果、子供たちは意欲的に、そして学力は上がり、更に「主体的・対話的で深い学び」の素地も学校として、共通指導の下に具現化できるようになってきている。このような発想ももたないといけないのではないでしょうか。



もう１つ、小学校は、何をやっているかというと、例えば６年生、１組・２組・３組あったら、通常は自分のクラスを受け持ちますが、例えば国語の指導を１組の先生は、１学期は１組、２学期は２組、３学期は３組と先生が学期ごとに変わっていく。これも大変で何が起こるかというと、２組の先生の授業は面白い、わかりやすいとか子供は言い出したりします。そのために、教科部会をしっかりとやってお互いに指導力を高めていくことが大切なことです。その時にベテランの先生が若手にこの題材の価値は○○○だから、このような発問をして、振り返りはこのようにするとよいなどを教え、若い先生が伸び、学校の教育力も向上しました。これが日本海側の県の取組です。この取組が４～５年経って、その成果がしっかりと出始めたわけです。校長先生方がこのようなアイデアを持って、先生方と一緒に取り組めれば、これほど強いものはないですし、子供のよりよい変容を見て、やっていて楽しいと思います。

次に、研究の方向性ですが、新学習指導要領のそれぞれの教科等の目標がありますが、はじめに何が書いてあるかというと、「見方・考え方を働かせ～」です。

すなわち、この「～の見方・考え方」が重要な視点であり、それを基にして研究をしていかなければいけないと思います。この視点で研究しながら、どんな力をつけるのかというと３つの柱のです。すなわち、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力と人間性です。全教科等で共通に示してあります。

この「～の見方・考え方」にしっかりと取り組んでいかないといけませんが、「～の見方・考え方」は今までもやっている。では、今後、どのように取り組むかというと「見方・考え方」を研究・実践しながら、３つの柱について、子供たちがその資質・能力を身に付けたかを確実に評価をしていくという形で、研究・実践を進めないと成果は上がらないと思います。

また､「カリキュラム･マネジメント」の視点での「教科等横断的な視点」はどのような意味なのか。校長先生方はどう答えますか。

各教科等の「～の見方・考え方」の視点で教科等を横断して、「見方・考え方」を共通にしましょうということです。例えば、論理的に物事を考える、筋道を立てて考えるなどはどの教科等にも繋がっていくように、どの教科等にもつながる視点を持ちましょうということです。そして、それを自校の研究テーマにして研究・実践をしていく、それが「学びに向かう力」につながっていきます。ある小学校でのテーマを「論理的なものの見方」とした場合、どの教科等でもその視点のテーマで取り組み、子供は１年生から６年生になったら論理的な思考力がしっかりと身に付いているようにしていくことが大切です。学校が一体となって、教科等を超えて、教科等横断的に取り組むことが肝要です。

教科等横断的というのは、「見方・考え方」の視点で本校では共通にこの視点で研究をしていこう、研究会ではこういう視点でやろうと。だから、このような視点で取り組んでいくということをしっかりと打ち出しましょう。今までどおりの考えや前例主義ではなく、一歩打ち出してみてください。色々なアイデアでこれはどうだろうと考えてみてください。そして、その研究・実践から更なる発見や課題が見出され、研究・実践が充実していくと思います。

特に、国が「教科等横断的」で取り組んでほしいことの１つに言語活動の充実があります。言語活動の充実には、まず自分の考えをもたせることであり、先ほど申し上げたとおり「主体的・対話的で深い学び」で自力解決の時間をしっかりと確保してあげなければならない。また、感想や気が付いたことなどを書かせるとき、与えられた行数に自分の考えを最後まで書かせることが大切です。小学校１年生が３行分であれば、６年生が８行分ならば最後の行まで書かせる指導が大切です。指導しないと、１行目だけに「楽しかった。面白かった。」でおしまい。これでは自分の考えを起

承転結など理論的に表現できず言語活動の充実になっていかない。最後まで書かせる指導をしなければ自分の考えはまとまらないし、論理的に考えることができない子供になってしまいます。相変わらず記述式問題で無回答が増えたままになるでしょう。自分の考えを持ち、表現できる子供を育てていきましょう。

最後に、小中連携ですがさいたま市も埼玉県も小中連携を進めています。教育課程上の小中連携でこれから何を重点化するかですが、教科では系統性などを踏まえて９年間を見越した教育課程を編成し取り組んでいます。

では、小・中学校のどの先生も９年間を見越して取り組めるものは何か。小学校の先生は全教科、中学校の先生は教科ごと、教員免許状にも関わり、この点が大きな文化の違いでもあります。そこで、小・中学校のどの先生も関わるものは、特別な教科道徳と特別活動の特に学級活動です。総則にあるように道徳教育は特別な教科道徳を要にして、そして、新たに記述されたキャリア教育は特別活動を要にして取り組んでいくように書かれており、小中連携の根底には、どの先生も取り組むべき道徳教育とキャリア教育が脈々と流れていかないといけないと思います。それが「学びに向かう力」、「人間性」につながっていくからです。

中学校の先生方は、小学校で道徳授業はどのように展開しているか知っていますか。小学校の先生は中学校でどのように道徳が展開されているか知っていますか。小学校での学級会を中学校の先生方知っていますかなど。

校長先生方は、小・中学校の総則に書いてある特別な教科道徳と学級活動、特別活動については、小・中学校を９年間の一連の流れと考え、しっかりと継続した実践をしていくことがこれからは求められます。

次に、ICT の活用について、タブレットが十分に用意されているところはいいですが無かったら何をやるかですが、これは学校図書館の充実です。学校図書館をどう充実させるか。例えば、図書館の分室として廊下に図書館をという発想もいいと思います。とにかく、本を読ませたり、本に触れさせたり、調べさせたりし、学校図書館を十分に機能させることが大切です。

校長先生として学校図書館をどのように機能を充実させるか、子供にとってより身近なものにするためにどうするかなどを、全教職員で、また、学校運営協議会等、子供たちも含めてもいいでしょうし、検討していくことが大切です。真に子供たちの図書館として機能させましょう。

５　人材育成をどうするか・・・？

校長先生方、若い先生ばかりに目が行ってませんか。若い先生が増えているので、どうしても若い先生を育成することに目がいってしまいます。十分に分かっていらっしゃると思いますが、若手を育成するには絶対にベテランの力が必要です。私も若手への指導は校長として言うべきことは言いましたが、できるだけベテランの先生の力を借りました。若手が困っているときや具体的に指導力を身に付けさせたいときに、常に何々先生に聞いてごらんと。そして、ベテランの先生にはあらかじめ、若手の先生が困っているので先生に指導してもらいなさいと言ったので、指導してほしいと伝えます。ベテランの先生は意気に感じて、若手の先生をよく指導してくれ、また若手も謙虚に聞き入れ、教師間に良好な人間関係ができ、共に成長していきました。校長として嬉しい限りでした。

私がいつも心がけてきた言葉が「～のおかげで」という謙虚で感謝の言葉です。アドバイスをもらって、うまくいったら、「先生のおかげでうまくできました、ありがとう。」と先生方に言ってました。この言葉でベテランも若手も、保護者や地域の方々とも良い人間関係が醸成できると思います。ちょっとした言葉が人間関係の絆づくりになります。

我々自身が、この「おかげで」を謙虚な気持ちで感謝を込めて日頃から使っていきたいものです。そうすることによって、教職員も子供たちも日頃から使うようになるはずです、「～のおかげで」と。

６　おわりに

最後に、学校は「心づくり」の場です。私は教諭のときに病気などで３人の教え子が亡くなりました。だからこそ、子供たちはかけがえのない存在であり、子供たちにとっての１日１日を大切にして子供一人一人に「心づくり」をしてあげないといけないと思っています。

校長先生方が、子供一人一人を、先生方一人一人を大事にして、人間味溢れる学校経営と充実した研究ができると素敵だと思います。是非、頑張ってください、大いに期待しています。

ご清聴、ありがとうございました。

平成30年度

○　埼玉県連合教育研究会

役　員　等　名　簿

平成30年度評議員会・全体研究協議会にて

平成30年度本部役員等

役職		氏名	勤務校	〒	勤務校所在地
会長		鏑木　隆	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99
副会長		島村　暁	さいたま市立片柳中学校	337-0033	さいたま市見沼区御蔵551
		森田直樹	上尾市立東中学校	362-0013	上尾市上尾村479
		児玉亮一	富士見市立西中学校	354-0018	富士見市西みずほ台3-14-6
		矢嶌　泰	小鹿野町立小鹿野小学校	368-0105	小鹿野町小鹿野2,678
		宗方健二	蓮田市立黒浜西中学校	349-0101	蓮田市黒浜3,862
事務局長		分須正明	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99
常任理事	さいたま	蓮見　哲	さいたま市立大谷場中学校	336-0016	さいたま市南区大谷場2-13-54
	南部	若林　茂	川口市立芝樋ノ爪小学校	333-0852	川口市芝樋ノ爪2-10-48
	南部	石﨑明子	草加市立清門小学校	340-0055	草加市清門3-37-1
	西部比企	鷲巣　亨	嵐山町立菅谷中学校	355-0221	嵐山町菅谷649
	西部入間	須田　亮	川越市立牛子小学校	350-0017	川越市牛子418
	北部秩父	黒田富衛	秩父市立原谷小学校	368-0005	秩父市大野原2,991
	北部児玉	福島　彰	上里町立上里東小学校	369-0306	上里町七本木1,573
	北部大里	清水　登	熊谷市立妻沼南小学校	360-0203	熊谷市弥藤吾704
	東部北埼	秋元伸浩	行田市立中央小学校	361-0052	行田市本丸7-20
	東部埼葛	瀬田　浩	宮代町立須賀中学校	345-0831	宮代町須賀1,426-1
理事	書写	小原　茂	入間市立上藤沢中学校	358-0013	入間市上藤沢146-2
	音楽	白井裕一	深谷市立常盤小学校	366-0034	深谷市常盤町58-2
	道徳	鴻野年伸	寄居町立寄居中学校	369-1202	寄居町桜沢2,000
	心理相談	髙橋光代	川口市立元郷小学校	332-0011	川口市元郷6-2-1
監事		辻口幸恵	富士見市立針ヶ谷小学校	354-0017	富士見市針ヶ谷2-38-1
		濵名博昭	本庄市立本庄東小学校	367-0022	本庄市日の出1-2-1
		窪田　忍	春日部市立宝珠花小学校	344-0102	春日部市西宝珠花593
編集委員長		長島庸夫	さいたま市立八王子中学校	338-0006	さいたま市中央区八王子4-2-1
編集委員		松下洋介	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
		三浦直行	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所4-2-5
		吉井一生	鴻巣市立下忍小学校	369-0112	鴻巣市鎌塚10
		石川和宏	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	331-0823	さいたま市北区日進町2-480
		小代美智子	さいたま市立大東小学校	330-0043	さいたま市浦和区大東3-14-1
		小坂浩士	さいたま市立常盤小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤9-30-9
		大島綾子	蕨市立東中学校	335-0002	蕨市塚越6-7-34
幹事		髙山裕子	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99
		五十嵐　淳	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99
		渡辺俊行	さいたま市立大宮東中学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町1-99

平成30年度教科等研究団体

No.	研究団体名	団体長名 事務局長名	団体長勤務校 事務局長勤務校	団体長勤務校〒 事務局長勤務校〒	団体長勤務校住所 事務局長勤務校住所
1	埼玉県国語教育研究会	武井　悟	さいたま市立仲町小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤8-18-4
		松下洋介	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
2	埼玉県書写教育研究会	小原　茂	入間市立上藤沢中学校	358-0013	入間市上藤沢146-2
		大澤美和子	加須市立大越小学校	347-0001	加須市大越2,115
3	埼玉県社会科教育研究会	笹原秀之	さいたま市立南浦和小学校	336-0022	さいたま市南区白幡1-1-20
		二瓶　剛	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所4-2-5
4	埼玉県算数数学教育研究会	向井邦明	熊谷市立熊谷東小学校	360-0031	熊谷市末広3-4-1
		神谷直典	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
5	埼玉県理科教育研究会	石田耕一	さいたま市立大宮東小学校	330-0804	さいたま市大宮区堀の内町3-145
		島田直也	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所4-2-5
6	埼玉県音楽教育連盟	白井裕一	深谷市立常盤小学校	366-0034	深谷市常盤町58-2
		波多江慶太	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
7	埼玉県美術教育連盟	加藤　修	鴻巣市立赤見台第二小学校	365-0064	鴻巣市赤見台2-6-1
		廣田和人	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
8	埼玉県保健体育研究会	関　克則	蕨市立南小学校	335-0003	蕨市南町1-36-6
		首藤祐太朗	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
9	埼玉県英語教育研究会	阿久津一浩	さいたま市立大成中学校	330-0852	さいたま市大宮区大成町2-379
		髙橋太一	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所4-2-5
10	埼玉県道徳教育研究会	鴻野年伸	寄居町立寄居中学校	369-1202	寄居町桜沢2,000
		関本由美	吉川市立関小学校	342-0054	吉川市吉川団地1-10
11	埼玉県特別活動研究会	熊谷茂樹	川口市立朝日東小学校	332-0001	川口市朝日5-15-1
		樋口成久	行田市立埼玉中学校	361-0025	行田市埼玉4,143-1
12	埼玉県進路指導・キャリア教育研究会	千代田　栄	富士見市立東中学校	354-0002	富士見市上南畑980
		近藤智英	富士見市立東中学校	354-0002	富士見市上南畑980
13	埼玉県学校視聴覚教育連絡協議会	清水　肇	さいたま市立沼影小学校	336-0027	さいたま市南区沼影2-8-36
		四方孝明	八潮市立八條小学校	340-0802	八潮市鶴ヶ曽根1
14	埼玉県教育心理・教育相談研究会	髙橋光代	川口市立元郷小学校	332-0011	川口市元郷6-2-1
		増田真二	川口市立元郷小学校	332-0011	川口市元郷6-2-1
15	埼玉県特別支援教育研究会	山田　明	熊谷市立市田小学校	360-0122	熊谷市小泉243-1
		加藤和子	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	331-0823	さいたま市北区日進町2-480
16	埼玉県学校図書館協議会	木村直美	朝霞市立朝霞第六小学校	351-0011	朝霞市本町1-25-1
		小日向輝代	越谷市立東中学校	343-0023	越谷市東越谷9-3,160
17	埼玉県中学校技術・家庭科教育研究会	松﨑和則	鴻巣市立鴻巣北中学校	365-0062	鴻巣市箕田4,280
		木村　僚	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所4-2-5
18	埼玉県小学校家庭科教育研究会	田中恵子	東松山市立市の川小学校	355-0006	東松山市市ノ川30
		横家知世	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
19	埼玉県生活科・総合的な学習の時間教育研究会	石橋桂子	春日部市立豊春小学校	344-0047	春日部市道順川戸37-1
		若村健一	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44

平成30年度地域教育研究団体

旧事務所	No.	地域団体名	団体長名 事務局長名	団体長勤務校 事務局長勤務校	団体長勤務校〒 事務局勤務校〒	団体長勤務校住所 事務局長勤務校住所
南部	1	埼玉大学教育学部附属小学校	川端　博子	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
			河野　裕一	埼玉大学教育学部附属小学校	330-0061	さいたま市浦和区常盤6-9-44
	2	埼玉大学教育学部附属中学校	道工　勇	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所4-2-5
			二瓶　剛	埼玉大学教育学部附属中学校	336-0021	さいたま市南区別所4-2-5
	3	さいたま市教育研究会	島村　暁	さいたま市立片柳中学校	337-0033	さいたま市見沼区御蔵551
			水村　亨	さいたま市立片柳中学校	337-0033	さいたま市見沼区御蔵551
	4	川口市教育研究会	若林　茂	川口市立芝樋ノ爪小学校	333-0852	川口市芝樋ノ爪2-10-48
			森山敏晴	川口市立木曽呂小学校	333-0831	川口市木曽呂382-2
	5	草加市教育研究会	石﨑明子	草加市立清門小学校	340-0055	草加市清門3-37-1
			春日和久	草加市立清門小学校	340-0055	草加市清門3-37-1
	6	蕨市教育研究会	岡部愼一	蕨市立第一中学校	335-0003	蕨市南町3-1-29
			山口　浩	蕨市立第一中学校	335-0003	蕨市南町3-1-29
	7	戸田市教育研究会	小髙美恵子	戸田市立戸田第二小学校	335-0014	戸田市喜沢南2-2-37
			山下理恵子	戸田市立喜沢小学校	335-0013	戸田市喜沢1-48-6
	8	志木市教育研究会	坂口栄二	志木市立志木小学校	353-0004	志木市本町1-10-1
			坂口栄二	志木市立志木小学校	353-0004	志木市本町1-10-1
	9	朝霞市教育研究会	谷井喜信	朝霞市立朝霞第七小学校	351-0036	朝霞市北原2-6-1
			木村直美	朝霞市立朝霞第六小学校	351-0011	朝霞市本町1-25-1
	10	新座市教育連合会	平岡健二	新座市立西堀小学校	352-0031	新座市西堀2-18-3
			坂口　智	新座市立石神小学校	352-0033	新座市石神1-10-20
	11	和光市教育研究会	來嶋実樹子	和光市立本町小学校	351-0114	和光市本町31-17
			永村英樹	和光市立本町小学校	351-0114	和光市本町31-17
北部	12	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	戸部秀之	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	331-0823	さいたま市北区日進町2-480
			神田佳明	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	331-0823	さいたま市北区日進町2-480
	13	鴻巣市教育研究会	田中　孝	鴻巣市立馬室小学校	365-0044	鴻巣市滝馬室555
			齊藤洋子	鴻巣市立馬室小学校	365-0044	鴻巣市滝馬室555
	14	北本市教育研究会	大塚　哲	北本市立東小学校	364-0013	北本市中丸6-65
			田野順子	北本市立東小学校	364-0013	北本市中丸6-65
	15	上尾市教育研究会	島田研吾	上尾市立西中学校	362-0047	上尾市今泉515
			齋藤　光	上尾市立西中学校	362-0047	上尾市今泉515
	16	桶川市教育研究会	森田　晋	桶川市立桶川西小学校	363-0025	桶川市下日出谷836-1
			田中幸子	桶川市立桶川西小学校	363-0025	桶川市下日出谷836-1
	17	伊奈町教育研究会	田口元信	伊奈町立小針北小学校	362-0812	伊奈町内宿台5-214-1
			小川　敬	伊奈町立小針北小学校	362-0812	伊奈町内宿台5-214-1
入間	18	川越市教育研究会	齊木眞一	川越市立東中学校	350-0022	川越市小中居278
			新井道央	川越市立東中学校	350-0022	川越市小中居278
	19	所沢市教育研究会	藤井宣文	所沢市立富岡小学校	359-0001	所沢市下富647-5
			日下宏之	所沢市立所沢小学校	359-1121	所沢市元町7-37
	20	飯能市教育研究会	山下眞一	飯能市立美杉台小学校	357-0041	飯能市美杉台1-29
			藤原正行	飯能市立飯能第一中学校	357-0021	飯能市双柳1-1
	21	日高市教育研究会	小坂井啓二	日高市立高萩北小学校	350-1203	日高市旭ヶ丘800
			小井川進二	日高市立高根中学校	350-1227	日高市女影1,180
	22	狭山市教育研究会	植松寿広	狭山市立入間川東小学校	350-1305	狭山市入間川2-7-23
			宇佐見昌義	狭山市立入間川東小学校	350-1305	狭山市入間川2-7-23
	23	入間市教育研究会	古川正斗志	入間市立金子中学校	358-0043	入間市西三ツ木187
			黒澤真一郎	入間市立金子中学校	358-0043	入間市西三ツ木187
	24	富士見市教育研究会	中島秀行	富士見市立本郷中学校	354-0011	富士見市水子539
			近藤泰弘	富士見市立本郷中学校	354-0011	富士見市水子539
	25	ふじみ野市教育研究会	佐藤公誠	ふじみ野市立西小学校	356-0005	ふじみ野市西2-10-25
			桑原　操	ふじみ野市立西小学校	356-0005	ふじみ野市西2-10-25
	26	坂戸市教育研究会	杉本竜之	坂戸市立坂戸中学校	350-0214	坂戸市千代田1-3-1
			浅海宏明	坂戸市立坂戸中学校	350-0214	坂戸市千代田1-3-1
	27	鶴ヶ島市教育研究会	諸井将博	鶴ヶ島市立杉下小学校	350-2202	鶴ヶ島市五味ヶ谷251
			荒幡光宏	鶴ヶ島市立杉下小学校	350-2202	鶴ヶ島市五味ヶ谷251
	28	越生班教育研究会	佐藤益弘	毛呂山町立光山小学校	350-0434	毛呂山町市場475
			本橋友見子	毛呂山町立光山小学校	350-0434	毛呂山町市場475

旧事務所	No.	地域団体名	団体長名 事務局長名	団体長勤務校 事務局長勤務校	団体長勤務校〒 事務局勤務校〒	団体長勤務校住所 事務局長勤務校住所
入間	29	三芳町 教育研究会	豊澤 一美 高橋 順	三芳町立三芳東中学校 三芳町立三芳小学校	354-0041 354-0044	三芳町藤久保 610-1 三芳町北永井 343
比企	30	東松山市 教育研究会	中島 豊吉 秋山 実	東松山市立青鳥小学校 東松山市立青鳥小学校	355-0072 355-0072	東松山市石橋 1,150-1 東松山市石橋 1,150-1
	31	小川班 教育研究会	杁田 和子 佐藤 英一	小川町立八和田小学校 小川町立八和田小学校	355-0312 355-0312	小川町上横田 527 小川町上横田 527
	32	菅谷班 教育研究会	鷲巣 亨 岩品 修	嵐山町立菅谷中学校 嵐山町立菅谷中学校	355-0221 355-0221	嵐山町菅谷 649 嵐山町菅谷 649
	33	玉川班 教育研究会	吉田 典夫 萩原 幹夫	ときがわ町立萩ヶ丘小学校 ときがわ町立萩ヶ丘小学校	355-0364 355-0364	ときがわ町西平 1,153 ときがわ町西平 1,153
	34	川島 教育研究会	忍田 壽生 若林 幸治	川島町立伊草小学校 川島町立伊草小学校	350-0158 350-0158	川島町伊草 238-1 川島町伊草 238-1
	35	吉見 教育研究会	吉澤 政宏 石井 英樹	吉見町立西が丘小学校 吉見町立西が丘小学校	355-0154 355-0154	吉見町南吉見 2,074-3 吉見町南吉見 2,074-3
秩父	36	秩父 教育研究会	黒田 富衛 新井 章弘	秩父市立原谷小学校 秩父市立原谷小学校	368-0005 368-0005	秩父市大野原 2,991 秩父市大野原 2,991
児玉	37	児玉郡本庄市 教育研究会	福島 彰 赤石 貴志	上里町立上里東小学校 上里町立上里東小学校	369-0306 369-0306	上里町七本木 1,573 上里町七本木 1,573
大里	38	熊谷市 教育研究会	清水 登 村越 亘	熊谷市立妻沼南小学校 熊谷市立妻沼南小学校	360-0203 360-0203	熊谷市弥藤吾 704 熊谷市弥藤吾 704
	39	深谷市 教育研究会	飯田 明 清水 聡	深谷市立明戸中学校 深谷市立明戸中学校	366-0016 366-0016	深谷市新井 18 深谷市新井 18
	40	寄居町 教育研究会	関根 努 関口 葉子	寄居町立用土小学校 寄居町立用土小学校	369-1201 369-1201	寄居町用土 2,859 寄居町用土 2,859
北埼	41	行田市 教育研究会	秋元 伸浩 川島 一伸	行田市立中央小学校 行田市立中央小学校	361-0052 361-0052	行田市本丸 7-20 行田市本丸 7-20
	42	加須市 教育研究会	岩崎 権威 市川 史朗	加須市立花崎北小学校 加須市立花崎北小学校	347-0016 347-0016	加須市花崎北 3-1 加須市花崎北 3-1
	43	羽生市 教育研究会	奥泉 雄一 田村 健一	羽生市立南中学校 羽生市立南中学校	348-0046 348-0046	羽生市中岩瀬 226 羽生市中岩瀬 226
埼葛	44	春日部市 教育研究会	栗栖 孝 松澤 規之	春日部市立藤塚小学校 春日部市立藤塚小学校	344-0011 344-0011	春日部市藤塚 82-2 春日部市藤塚 82-2
	45	越谷市 教育研究会	藤澤 由紀夫 鈴木 寛	越谷市立大沢小学校 越谷市立大沢小学校	343-0025 343-0025	越谷市大沢 2-13-21 越谷市大沢 2-13-21
	46	久喜市 教育研究会	針谷 重輝 佐藤 直子	久喜市立本町小学校 久喜市立本町小学校	346-0005 346-0005	久喜市本町 7-6-1 久喜市本町 7-6-1
	47	三郷市 教育研究会	小河 純 菊名 久子	三郷市立新和小学校 三郷市立新和小学校	341-0038 341-0038	三郷市中央 2-28-12 三郷市中央 2-28-12
	48	蓮田市 教育研究会	大澤 裕之 髙月 章浩	蓮田市立蓮田南小学校 蓮田市立蓮田南小学校	349-0111 349-0111	蓮田市東 6-9-11 蓮田市東 6-9-11
	49	幸手市 教育研究会	森 祥一 高村 真	幸手市立幸手小学校 幸手市立幸手小学校	340-0115 340-0115	幸手市中 3-11-41 幸手市中 3-11-41
	50	八潮市 教育研究会	會沢 実 佐々木 京子	八潮市立大瀬小学校 八潮市立大瀬小学校	340-0822 340-0822	八潮市大瀬 3-9-1 八潮市大瀬 3-9-1
	51	杉戸町 教育研究会	佐藤 茂 中村 浩二	杉戸町立高野台小学校 杉戸町立高野台小学校	345-0045 345-0045	杉戸町高野台西 5-16 杉戸町高野台西 5-16
	52	吉川市 教育研究会	田口 弘 吉田 健二	吉川市立南中学校 吉川市立南中学校	342-0041 342-0041	吉川市保 672 吉川市保 672
	53	松伏町 教育研究会	加納 敏幸 石川 昌保	松伏町立松伏小学校 松伏町立松伏小学校	343-0114 343-0114	松伏町ゆめみ野東 1-1-2 松伏町ゆめみ野東 1-1-2
	54	白岡市 教育研究会	吉野 高男 髙橋 浩行	白岡市立南中学校 白岡市立南中学校	349-0215 349-0215	白岡市千駄野 356-1 白岡市千駄野 356-1
	55	宮代町 教育研究会	八重樫 元 嶺 由美	宮代町立東小学校 宮代町立東小学校	345-0801 345-0801	宮代町百間 5-8-48 宮代町百間 5-8-48
入間地区 連合教育研究会			須田 亮 新家子 直之	川越市立牛子小学校 川越市立川越西小学校	350-0017 350-1176	川越市牛子 418 川越市川鶴 1-5
埼葛 連合教育研究会			瀬田 浩 丸子 武志	宮代町立須賀中学校 宮代町立須賀中学校	345-0831 345-0831	宮代町須賀 1,426-1 宮代町須賀 1,426-1

あ と が き

ここに、平成30年度埼玉県連合教育研究会の「研究集録付研究論文集」をまとめることができました。日頃の教育活動を礎とした研究の取組について、原稿をお寄せいただいた各教科等研究団体、並びに地域研究団体の皆様に、深く感謝申し上げます。おかげさまを持ちまして平成30年度の研究集録としてまとめることができました。

また、広く会員の皆様方に研究論文を募集いたしましたところ、今年度は８編、校種別では小学校５編、中学校１編、共同学校研究２編の研究論文を県下各地からお寄せいただきました。今年度は新学習指導要領への移行期にあたり、各学校での教育実践や研究に際しての課題設定につきましても、試行錯誤の年であったと思われます。

そのような中にあっても、鋭意応募された８編は、いずれも、多忙な日常の勤務の中にあっても課題意識をもって、その解決に向け真摯に取り組まれた教育実践を基とした論文であり、審査にあたり十分にその価値を読み取れるものでした。入選及び佳作それぞれの１編は、その中でも、教育実践としての魅力のみならず、先行研究等に基づく理論の構成や研究の進め方、各種データの見取りや処理の仕方、そこから導き出された考察・結果のまとめなど、教育研究としての価値について多くの委員が認めたところです。

本研究集録に付しました研究論文をお読みいただき、県内各会員の皆様の明日からの実践にお役たちいただければ幸いです。

改めまして、今回積極的に応募して頂いた先生方に深甚なる感謝を申し上げますとともに、願わくば次年度におきましても、これらの論文に触発され、確かな実践に裏打ちされた貴重な教育研究論文が幅広い年代の先生方から、また県内各地から結集されますことを期待しております。

編集委員長　長島　庸夫　さいたま市立八王子中学校校長

平成 30 年度　**埼玉県連合教育研究会「研究集録付研究論文集」**

平成 31 年 3 月 12 日　　印　刷
平成 31 年 3 月 12 日　　発　行

発　行　者　埼玉県連合教育研究会
　　会長　鏑　木　　隆
印　刷　所　関東図書株式会社
　　ＴＥＬ　048（862）2901